第3部

幌内７遺跡

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査要項と経緯

1．調査要項

遺 跡 名：幌内７遺跡（Ｊ－13－103）

所 在 地：北海道勇払郡厚真町字幌内 949-1･7

調査面積：952 ㎡

調査期間：(発掘)　平成 20 年 7 月 16 日 ～ 平成 20 年 10 月 31 日

　　(整理)　平成 20 年 11 月 1 日 ～ 平成 21 年 3 月 18 日

調査体制：第２部 厚幌１遺跡 第Ⅰ章 第１節１に同じ。

2．発掘調査までの経緯

幌内７遺跡は、平成 15 年 11 月に町教委が所在確認調査を実施し、道教委から厚真川左岸の河岸段丘上の約 500mにわたって「要試掘調査」の回答がされた（平成 15 年 12 月 17 日付 教文第 4779 号)。試掘調査は道教委によって平成 16 年 10 月と平成 17 年４月に実施され、トレンチ４ヶ所から擦文土器片（Ⅲ層）と縄文晩期土器片、被熱礫（Ⅴ層）などが出土し、導水路設計センターの延長で 85mの要現状保存の回答となった（平成 16 年 12 月 1 日付 教文第 4641 号 再試掘調査、平成 17 年 6 月 13 日付 教文第 786 号 要現状保存)。開発事業所と協議を進めた結果、当地は２区用水路への分水施設を建設することからルート変更は不可能で発掘調査による記録保存することで合意した。

なお、室開建より平成 18 年 11 月に本遺跡より東側で厚幌導水路の路線変更による再協議書が提出された（平成 18 年 11 月 24 日付 室建企第 86 号)。平成 18 年 11 月に所在確認調査（平成 18 年 12 月４日付 教文ス第 3452 号 要試掘)、平成 19 年５月に試掘調査が行われた。その結果、幌内７遺跡はさらに設計センターで 80m東側まで延長され、西側 40mが要現状保存、東側 40mが要工事立会と回答された（平成 19 年６月８日付 教文ス第 1082 号)。この試掘調査で本遺跡より東側で厚真川とオコッコ川との合流点へ舌状に突出した河岸段丘上おいて縄文前期前半の盛土遺構に伴う多量の被熱礫が出土し、オコッコ１遺跡（Ｊ-13-107）として新たに登載された。

調査地点から分水する２区用水路についても平成 20 年に実施設計路線が確定し、これに基づく事前協議書が室開建から提出された（平成 20 年５月 16 日付 室建技官第 16 号)。道教委によって６月に所在確認調査(平成 20 年６月 12 日付 教文ス第 1080 号 要試掘)、８月に試掘調査を行った結果、町道幌内左岸線を越えて段丘縁辺まで約 20mの延長で幌内７遺跡が広がることが判明した(平成 20 年８月 26 日付 教文ス第 1917 号 要現状保存)。なお、包蔵地カードも道教委によって登載手続きが行われ、縄文晩期と擦文文化期の遺物包含地で登載された（平成 17 年 11 月)。発掘調査では中世アイヌ文化期の平地式住居跡１軒などが検出されており、試掘調査においてアイヌ文化期の包蔵地有無の判断が困難である事の一例と思われる。

発掘調査年度は、開発事業所と厚幌導水路の敷設工事計画を踏まえた上での協議を進め、平成 20 年度に発掘調査を行い、平成 21 年度に敷設工事着工となった。この中で導水路本管埋設時の基本掘削幅が 10.5m、２区用水路分水施設部分で掘削幅が 15.2mの掘削設計が提示され、道教委回答の延長 85mから調査面積が 952 ㎡と確定した。これに続き文化財保護法 94 条第１項の土木工事の通知が室開建より町教委経由で道教委へ提出された（平成 20 年３月 14 日付 室建用第 1121 号)。

第2節　調査の方法

１．調査区の設定

幌内７遺跡の発掘調査区は平成 17 年４月に実施した試掘調査結果、導水路施工設計センターで延長 85ｍの要現状保存の道教委の回答通知に従い、導水路及び２区用水路分水施設の掘削範囲を含むものである。なお掘削範囲は現地表面での法面上端ラインである。現地における調査区範囲杭及び設計センター杭である IP №44 と№45 の打設は、開発事業所で行った。設計中心線は、ほぼ東西方向で調査区の長軸となる。

２．グリッド設定

全体のグリッド網は導水路設計中心線の変換点である IP №44 と IP №45 を結線したラインである概ね東西方向の軸をＸ軸、直行する南北軸をＹ軸とし IP №44 の点位置をグリッド網の設定基点とした。なおＹ軸は真北より３度 51 秒西に傾く。グリッドは５ｍ×５ｍ四方を通常の単位とし、グリッド網は導水路設計中心線上の試掘調査で確定した幌内７遺跡の範囲を網羅する規模で検討し、基点 IP №44 より東へ 105ｍ、北へ 55ｍの位置に地図上の起点 A-0 とした。グリッド呼称は南北方向のＸ軸ラインを A･B･C…のアルファベット列で、Ｙ軸ラインを 1･2･3･･･のアラビア数字列とした。各グリッドの呼称は全体のグリッド網の起点同様に、グリッドに対し東北側に位置する杭名称としている。この結果、グリッド網設定の基点である IP №44 はグリッド杭名 L-21 となった（図Ｉ－１）。

現地でのグリッド設定は、耕作土及び火山灰除去前に設置された IP №44 と IP №45 から控え杭をバックホーによる火山灰除去に影響の無い地点へ設置し、火山灰除去後、Ⅲ層上面に５ｍ四方のグリッド杭を調査補助員および測量技能作業員が光波式トータルステーションを用いて打設した。なお、報告書中に焼土等の遺構位置を示すため、厚幌１遺跡と同様に机上の小グリッドを設けている（第２部 第Ｉ章 図Ｉ－２）。

絶対高（Ｚ座標）は調査区東側の町道を挟んで北側約 14.5ｍにある３級基準点 H-16-02 H=56.431ｍから各グリッド杭へオートレベルを用いて移設した。

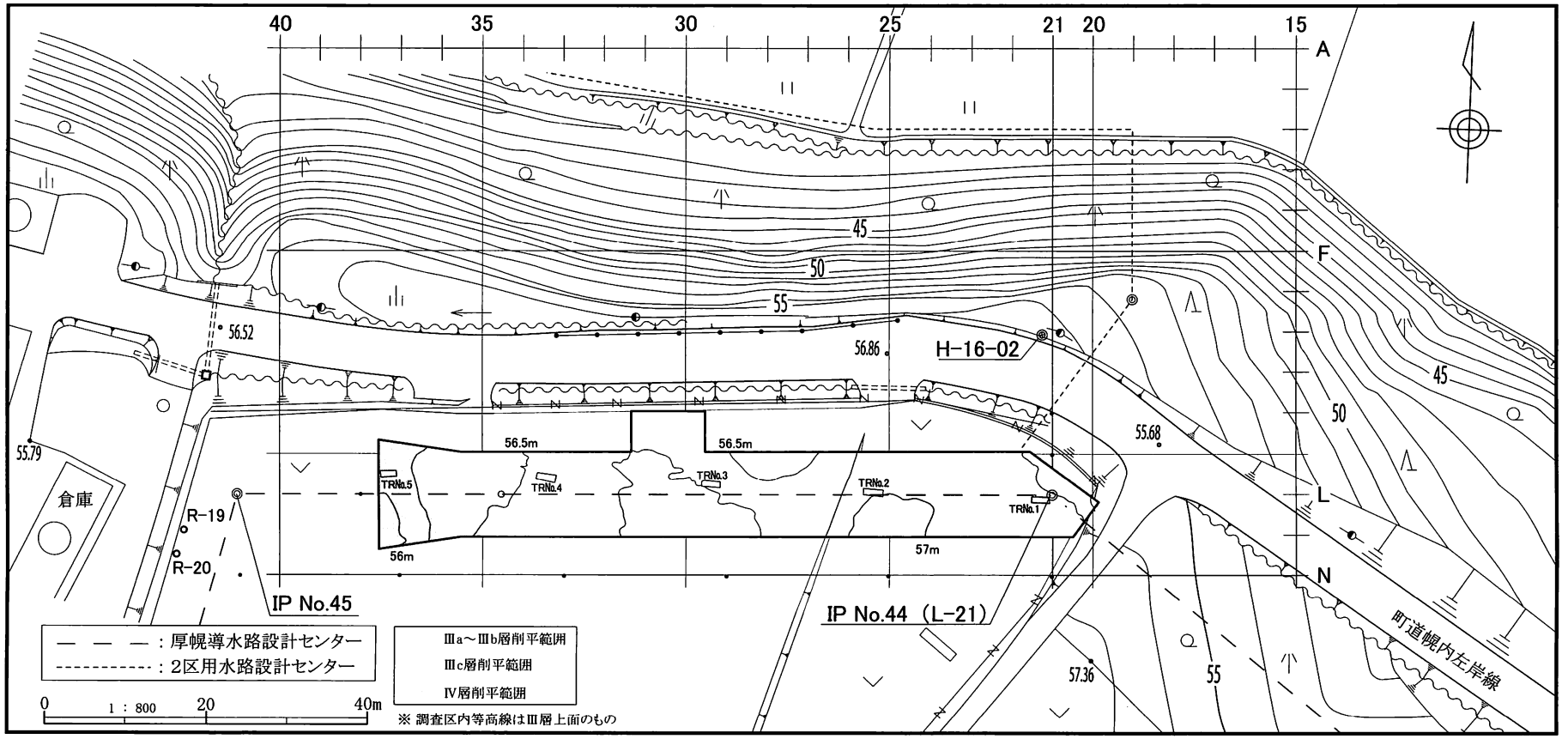
なお、Ⅲ層調査終了後、Ⅳ層（樽前ｃテフラ）をバックホーで除去するため、ほとんどのグリッド杭を撤去した。このためＶ層上面で再設置したグリッド杭は平面ＸＹ座標値において完全な復元位置で打設できたが、絶対高は除去したⅣ層の層厚分、低い標高値となっており３次元での同じ点位置には復旧できていない。Ⅲ層のグリッド杭との混同を避けるため名称末尾に「Ｂ」を付記した。

３．包含層及び遺構の調査方法

幌内７遺跡の現況は、耕作地であり障害となる立木や埋設物等は存在していなかった。耕作土や樽前ｂテフラなどの無遺物層の除去は土木業者に委託し、調査員の立会のもとバックホーで行った。この際、耕作土は調査終了後、現状復旧するため、分別して堆積した。重機による樽前ｂテフラ除去後のⅢ層上面で調査補助員と測量技能作業員で等高線測量を行い、耕作等による撹乱、削平範囲等も記録した。またこの時点で、Ⅲ層上面で浅い溝状に窪む道跡を検出し、削平部分からは擦文文化期等の土器片なども検出していた。

包含層調査は試掘調査結果や火山灰除去の時点で、調査区の東側に遺物が多いことが判明していたので、東側から層位毎に調査を開始した。

出土遺物はⅢ層、Ｖ層共に光波式トータルステーションで全点の出土位置情報（XYZ 座標）や層位を個々に記録して取り上げた。



図Ⅰ-1　調査区内地形及び試掘トレンチ位置図

表Ⅰ-1　幌内7遺跡試掘調査一覧表

調査日	TR. No.	遺構		遺物											合計
				土器		石器		剥片類		礫		他	小計		
		Ⅲ層	Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅴ層	
平成17年4月	1	なし	なし	－	4	1	－	－	－	－	－	－	1	4	5
	2	なし	なし	1	－	－	－	－	－	3	2	－	4	2	6
	3	なし	なし	－	－	3	－	－	－	－	2	－	3	2	5
	4	なし	なし	－	－	1	－	－	－	2	1	－	3	1	4
	5	なし	倒木痕	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
合計		－	－	1	4	5	－	－	－	5	5	－	11	9	20

表Ⅰ-2　グリッド設定関係杭座標値一覧表

杭名	X座標	Y座標	Z座標
IPNo.44(L-21)	-138,363.583	-23,391.049	－
IPNo.45	-138,370.319	-23,490.613	－
H-16-02 (3級基準点)	－	－	56.431m

遺構はⅢ層上面で道跡を検出確認したほか、Ⅲc～Ⅳ層上面およびⅥ層で柱穴、土坑、Ｔピットを検出し、調査した。焼土や灰集中、各種遺物集中は層位面ごとの包含層調査にて検出した時点で、周囲の伴う遺物を検討し、平面図及び断面図等の記録を行った。遺構堆積状態の分層、断面図土層注記は調査員、調査補助員が行い、実測図化は測量技能作業員が行った。遺構等の記録写真は全て35㎜一眼レフデジタルカメラで撮影し、一部は６×７中盤カメラを用いた。

なお焼土燃焼面や灰集中、炭化物集中はフローテーション処理を目的として全量をサンプリングし、土壌乾燥及び水洗作業を発掘調査期間内に行った。二次選別は整理業務期間に行い、回収した動物遺存体及び炭化種子の同定は厚幌１遺跡を含め、外部に委託している（第４部 第Ⅱ章 第１節、第２節）。また、フローテーションサンプル中からはフレイクチップなどの微細遺物も回収できた。

Ｖ層の調査終了後、樽前ｄテフラより下層の遺物包含層の確認を目的にバックホーでトレンチを掘開した。東西の延長は約85m、幅約１ｍの１条と直交するトレンチ２列を設定した（図Ｉ－４）。恵庭ａ風化ローム等の旧石器遺物包含層の可能性がある土層については移植ゴテによる調査を行ったが、遺物は出土しなかった。一部で河岸段丘の形成時期を把握するため基盤層まで人力による掘削確認作業も行った（図Ｉ－５）。

第3節　調査結果の概要

１．Ⅲ層の調査概要

Ａ　アイヌ文化期

本遺跡のアイヌ文化期に所属する遺構および遺物は、樽前ｂテフラより下層の黒色土２～３㎝掘り下げた層位から検出している。主な検出遺構は平地式住居跡１軒、灰集中１ヶ所、道跡１条が挙げられる。文化層の保存状態については現況が畑地であり、東側と西側の一部が削平・耕作により撹乱を受けていた。道跡は幅約50㎝で東西方向に延び、現在の町道と並行する状態で検出している（図Ⅱ－１）。道跡が途切れる25ラインより東側は畑造成による削平を受け、窪みは確認できていないが、道跡として使われていた地点は包含層に比べ硬く締まっていたため推定地点が特定できている。Ⅲ層中位の平地式住居跡は調査区の中央より西側32～34ラインで炉跡および主体部の柱穴を検出している（図Ⅱ－１）。平地式住居跡の調査については、町内の発掘成果により炉跡周辺に棒状礫がまとまって出土する、２ヶ所が並列して検出されるなどの傾向があり、本遺構においても２ヶ所の並列した炉跡と周辺に棒状礫がまとまって出土していたことから平地式住居跡と想定して調査を行った。結果は主体部に11本の柱穴を確認できたが、西側は撹乱により付属部（セム）の柱穴を確認することは出来なかった。また、住居の北東側に検出した灰集中２（図Ⅱ－８）については住居炉跡に灰層が殆ど認められないこと、ともに被覆している黒色土の厚さがほぼ同じことから同時期の所産であると考えられる。平地式住居跡をはじめとする炉跡や礫集中の所属時期については、遺構、遺物に被覆している黒色土の厚さから中世アイヌ文化期と考えられる。道跡については窪みに有珠ｂテフラ（1663年）を被覆しており、下層からは中世アイヌ文化期の礫集中（ⅢSB-05）が検出されているため近世初頭に形成されたものと考えられる。

本遺跡は富里地区ニタップナイ遺跡（厚真町教育委員会2009b）のように、樽前ｂテフラ直下から遺構、遺物が出土していない。上流域の上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会2009a）と考え合わせると、中流域でも幌内地区においては中世段階の集落が主体的に形成されていた可能性が高い。

B　擦文文化期後期

擦文文化期に関しては土坑２基、焼土３ヶ所、土器集中５ヶ所、礫集中２ヶ所とほとんど出土していない。焼土は白頭山苫小牧テフラと同一もしくは上位のレベルで検出されるが、ⅢF-06（図Ⅲ-３）以外は時期を示す資料を伴っていない。調査区東側で検出した礫集中（ⅢSB-07）では同一レベルで礫石器・土器・金属製品・礫を検出しているが、焼土など伴っていないため、性格の特定は困難である。土器集中は集中区から４個体検出され、器形や文様構成から擦文後期に相当する資料と考えられる。個体は圧倒的に甕が多く、坏は全体の中でも３点しか出土していない。

C　続縄文文化期

本遺跡で出土している続縄文文化期の遺構・遺物は北大式期の所産である。町内で当該期の資料がまとまって出土するのは初めてである。分布範囲は主に調査区東側で、包含層から出土する土器はほとんどが白頭山苫小牧テフラ下層のⅢc 層より出土している。主な遺構は焼土、土器集中、フレイクチップ集中でⅢPB-05、ⅢF-10、ⅢFCB-01 は同一レベルで密接して検出しており、被熱したフレイクチップも出土していることから関連する遺構群と考えられる。土器型式については口縁部から底部までの復元個体はないものの、ほとんどの土器が口唇部、器表面の調整、突瘤による文様構成から北大Ⅲ式と考えられる。これら以外には包含層から微隆起線の付いた口縁部片と注口部分の破片（図Ⅳ-６-１～３）が出土しており、北大Ⅰ式に相当すると考えられる。続縄文文化期とした土器はいずれも胎土に多量の砂礫を含む特徴を有しており、擦文文化期の土器とは出土層位以外には胎土に明らかな違いが認められる。また、ⅢPB-07 から出土した土器は器形が特異で、底部からの立ち上がりが他の土器に比べ直線的で、胴部が張り出している。器表面は全体をナデによる調整のみで、突瘤や文様などは施されていない。所属時期については胎土に円礫を多量に含むことから北大式期であると考えられる。（奈良）

２．Ⅴ層の調査概要

縄文時代の遺構および遺物は調査区東側に主な分布域を示している。遺構は焼土４ヶ所、土坑７基、Ｔピット１基検出している。出土土器は縄文前期中葉の平底土器群（ⅡB1）、中期後葉の柏木川式（ⅢB2）、後期初頭の余市式（ⅣA1a）、後期後葉の鮏澗式（ⅣC3）、縄文晩期中葉（ⅤB1）で、主体となる時期は縄文時代晩期中葉の美々３式相当である。出土層位はⅤ層上位のⅤa～ⅤbU 層が主体で、時期的にも矛盾しない。縄文時代晩期の遺物については東側の 22～24 ラインにかけて濃密な分布を示し、この分布域に重なるように焼土を４ヶ所検出している。焼土については２ヶ所ずつ並列しており、平地式住居跡の可能性も考え調査を行なったが規則的な柱穴の配列は確認することが出来なかった。主体的に出土する晩期の土器については、胎土に石英を多量に含む富良野盆地系土器と含まない在地系土器の２種に大別することが出来たが、器種や分布範囲による違いは認められない。遺跡全体を調査していないが、富良野盆地系と在地系土器の出土量は差が認められ富良野盆地系が明らかに客体的様相を示していることがわかる。石器については縄文晩期に特徴的な安山岩製スクレイパー・黒曜石製の棒状原石が出土している。安山岩については色調が黒色を呈しており、旭川市や富良野市で出土する資料と類似するが産地の特定には至っていない。棒状原石に関しては半光沢のある岩屑面、やや抵抗のある質感から「八号沢の露頭」に類似する資料と考えている。

（奈良）

表Ⅰ-3　幌内7遺跡　層位別概要一覧表

項目	Ⅲ層			Ⅴ層	合計
	アイヌ文化期	擦文文化期	続縄文文化期	縄文時代	
発掘調査面積(㎡)	952				952
平地式住居跡	1	-	-	-	1
竪穴住居跡	-	-	-	-	0
竪穴様遺構	-	-	-	-	0
建物跡	3	-	-	-	3
杭　跡	21	-	-	-	21
土　坑	-	2	-	7	9
焼土	2	3	3	4	12
灰集中	1	-	-	-	1
Tピット	-	-	-	-	1
獣骨集中	1	-	-	-	1
礫集中	1	2	-	-	3
土器集中	-	6	2	-	8
フレイク･チップ集中	-	-	2	-	2
遺物点数	2,696			8,783	11,479
表採遺物点数	13				13
遺物総点数					11,492

表Ⅰ-4　出土遺物一覧表

層　位	細分類										計
	土　器	礫石器	剥片石器	鉄製品	銅製品	土製品	石製品	礫	剥片類	その他	
Ⅲ層	913	39	30	19	2	-	-	1,419	274	-	2,696
Ⅴ層	2,965	167	432	-	-	2	1	3,450	1,762	4	8,783
表採	-	-	5	1	1	-	-	3	3	-	13
	3,878	206	467	20	3	2	1	4,872	2,039	4	11,492

第4節　遺跡の位置と環境

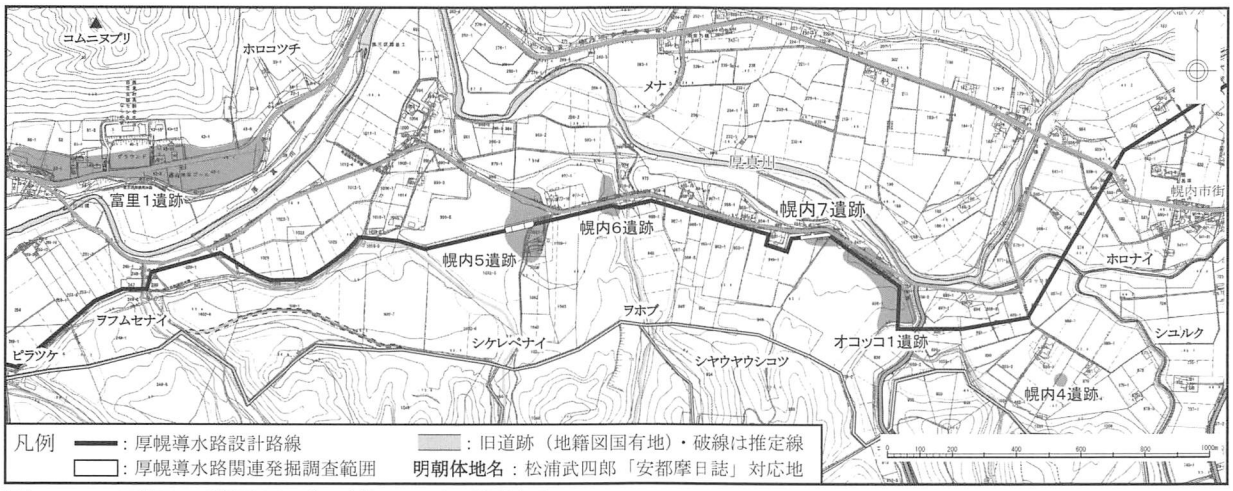
１．遺跡の位置と周辺の環境

A　自然地理的環境

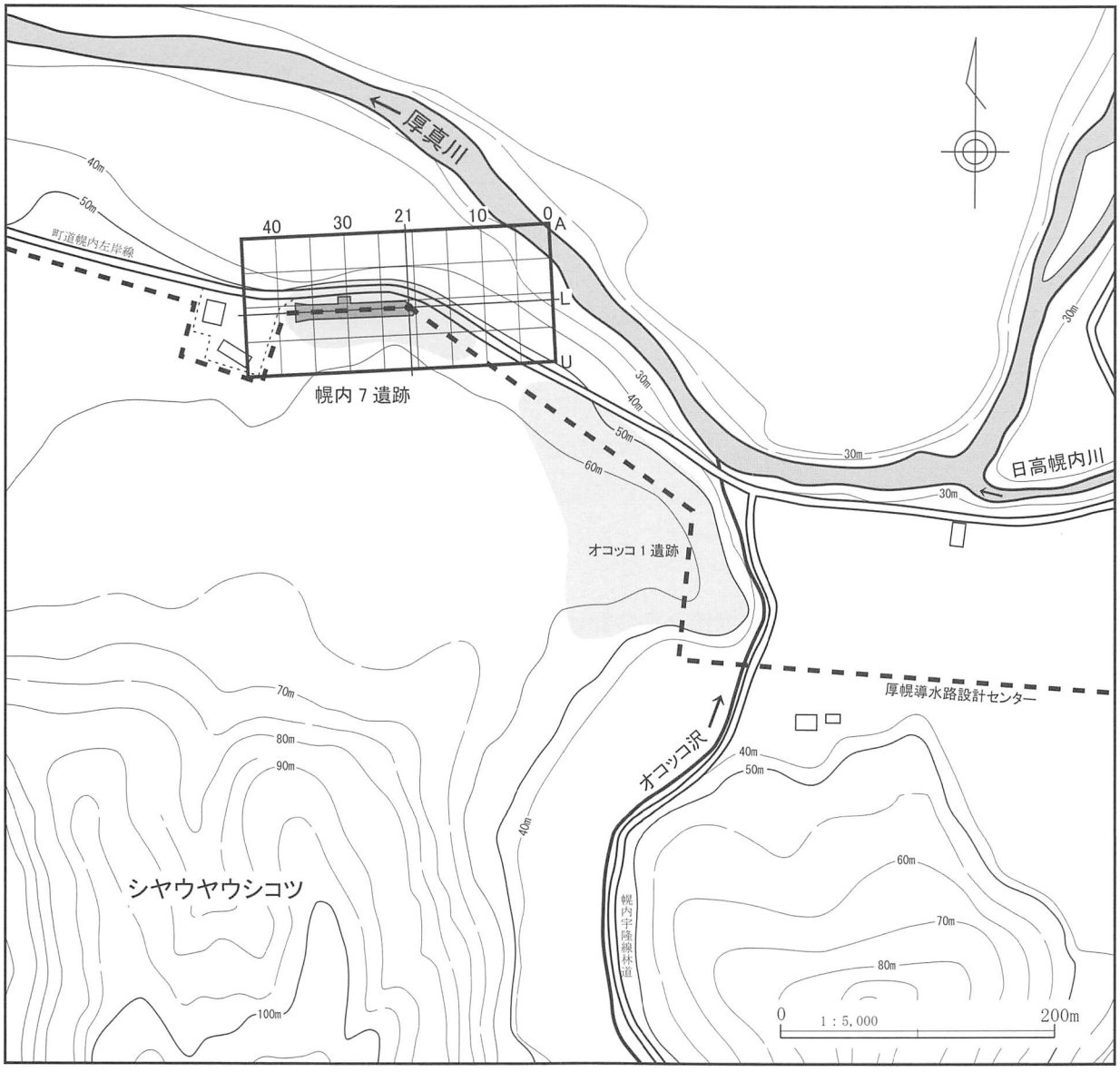
幌内７遺跡は、厚真川河口より 28km ほど遡った厚真川中流域の左岸、標高 54～58mの河岸段丘縁辺部に立地し、厚真町市街地より直線距離にして 7.8km の北東方向に位置する。厚真川中流域の中でも最奥部付近にあり、厚真川と日高幌内川やシュルク沢川(「トリカブト」の義。厚真村 1956)、オコッコ沢川（「蛇」の義。厚真村 1956）との合流域に面している。オコッコ沢川との合流点は本遺跡から東南東へ約 350mの地点である。これらの支流合流点付近は、沖積低地がやや広域に形成され、幌内市街地付近は盆地状の地形となっている。

本遺跡が立地する河岸段丘は厚真川流域に形成されている段丘面の中でも広域に形成されたもので、東西方向に流下する厚真川に平行して上流側の支流オコッコ沢川から字幌内 1032-１周辺の無名川付近までの約 1.5km にわたって一定の傾斜度を保つ河岸段丘面が続く。背後の低平な山地性丘陵までの奥行きは遺跡周辺で約 350mである。この段丘面堆積物は現地表面から３mほど下層に水成堆積シルト層があり、これを恵庭ａテフラ（En-a 約 1.9～2.1 万年前降下）が直接被覆している。離水形成時期は恵庭ａテフラの降下が原因と思われる。テフラの堆積状態を考慮すると、上流域に位置する上幌内モイ遺跡の T4 面以上に相当し、厚真川の現河床面との比高が 25m前後であることから T5 面に相当すると思われる。現在は広大な畑作地域となっており、昭和 53 年の大規模な農地造成により本来の微地形は不明であるが、数面の潜在的段丘面が存在していると思われる。

なお本遺跡の北東側は北東向きの段丘崖斜面で、その下方に標高 45m前後の小規模な河岸段丘面がある。厚真川現河床面からの比高を考慮すると上幌内モイ遺跡 T2 面に相当するものと思われる。



図Ⅰ-2　周辺の遺跡及び旧道、アイヌ語地名



図Ⅰ-3　周辺の地形及びグリッド配置図

B　歴史的環境

(1)　先史時代

幌内７遺跡が立地している厚真川左岸の河岸段丘上には、上流側からオコッコ１遺跡、幌内７遺跡、幌内６遺跡、幌内５遺跡の４ヶ所が所在している。うち幌内５遺跡を除く３遺跡は厚幌導水路建設事業の試掘調査で新規登載された包蔵地である。

本遺跡の東南東に 180mの位置あるオコッコ１遺跡は、厚真川とオコッコ沢川の合流点に張り出す標高 55～60mの舌状台地に立地し、厚幌導水路建設に係わる試掘調査で、縄文時代前期前半の盛土様遺構が確認されている。平成 21 年度に発掘調査した幌内５遺跡もほぼ同時期で、半島状に突出した河岸段丘高位面を中心に形成され、当該期の削平造成痕とその排土と考えられる盛土様遺構が調査された。いずれの遺跡も盛土様遺構に陸棲哺乳類の焼骨片を含み、被熱による破砕礫が多量に出土している。本遺跡から 1.4km 西方の厚真川対岸に位置する富里１遺跡からも試掘調査で少量の静内中野式土器片と多量の被熱礫が出土している。厚真川中流域では本遺跡より西へ 2.9km の位置に、平成 19 年度に発掘調査したニタップナイ遺跡がある（厚真町教育委員会 2009b）。１型式ないしは２型式ほど新しい段階の遺跡であるが多量の被熱破砕礫と焼骨片を伴う不明瞭な人為堆積層を確認している。厚真町内において、厚真川上流域ではショロマ２遺跡、厚幌２遺跡の試掘調査で静内中野式土器と多量の被熱破砕礫が出土し、下流域でも鹿沼７遺跡で焼骨片と被熱破砕礫を伴う盛土層が確認されており、縄文時代前期前半に遺跡数が急増する傾向にある。

なお、幌内地区住民からの聞き取り調査で調査区北東側の標高 45m前後の段丘面にも遺物包含層が存在しているというが、試掘調査を行っていないことから範囲、時期等の詳細は不明である。

幌内６遺跡は、幌内７遺跡より西へ約 600mの地点に位置し、本遺跡群が立地する河岸段丘の中央部を開析する無名沢の左岸に立地している。厚真川本流に面した縁辺部から 150mほど内陸に入った地点の試掘調査で、縄文時代後期初頭の余市式土器が数点出土しており、包蔵地範囲の縁辺部または小規模な包蔵地と思われる。厚真川本流に面した段丘縁辺部に広がる可能性があるものの、範囲は確認できていない。幌内７遺跡においても厚真川に面する段丘縁辺部から内陸側の耕作地を踏査した結果、遺物を採集できなかったことから厚真川本流に面する限られた範囲と思われる。

(2)　歴史時代

本遺跡周辺の記録は第１部第Ⅱ章第２節の記述の通り、1857（安政５）年６月に厚真を訪れた松浦武四郎によるものが最も古い記録となっている。『戊午東西蝦夷山川取調日誌 戊午安都麻日誌』によるとトンニカ村（現厚真町富里地区）に入り、翌２日目に幌内地区周辺の探索で地名等を記録している（松浦･秋葉 1985）。地形等から各地名の位置が概ね対比できる（図Ⅰ－２）。武四郎の歩いた道筋は河岸段丘の縁辺部を主体とする現在の町道幌内左岸線の直線的なルートではなく、遺跡群の立地する河岸段丘面と背後の山地性丘陵との変換部、山地性丘陵の裾路を通ったと思われ、地形地籍合成図に道路敷地として区画された国有地が残っている。武四郎は２泊ほどトンニカ村に滞在し、３日目に幌内７遺跡より南側の丘陵裾のルートを通り、シュルク沢川からむかわ町栄地区似湾沢川の鵡川筋へ抜けている。

幌内７遺跡周辺の地名として「シヤシヤウシコツ」（「岩・岸・ある・谷」の義。厚真村 1956）が記されている。おそらく本遺跡背後の山地性丘陵を開析する小規模な沢地形に相当するものと思われる。ここの記述として「小沢の上に少しの平地ある処也。其名義は昔し蜂の巣有りし地面と云事

也。近年まで人家二軒有りしなり。当時トンニカえ引取りしとかや。」（松浦・秋葉 1985）とあり、近世後葉に幌内７遺跡周辺には小規模なコタンが存在していたと思われる。なお、武四郎の記録には厚真川右岸「ホロコツチ」、左岸「オフムセナイ」、「シユルク」にかつて人家があったことが記録されており、１ないしは２軒程度の小規模なコタンが点在していたことが伺える。

その後の記録として幌内自治会記念誌『幌内のあゆみ』（厚真町幌内自治会 1997）によると、1890（明治 23）年頃の幌内地区の戸数として３軒のアイヌ民族が狩猟を中心に生活していた記録が残されている。幌内地区の和人による農業開拓は 1895（明治 28）年に約 20 戸の移入が始まりで、翌 1896 年の作付けは水田３反歩、畑 15 町歩となっている。幌内７遺跡周辺には 1922（大正 11）年に佐藤重太郎という人物が入地しているが、詳細な地点は不明である。なお、現在の町道幌内左岸線が舗装化されたのは昭和 62 年である。（乾）

２．調査区内の地形と地質

Ａ　地　　形

東西 85mの長軸をもつ発掘調査区は現地表面において、昭和 53 年に行った農地造成の均平化によりほぼ平坦な地形となっていた。本来の地形としては、樽前ｂテフラ除去後のⅢ層上面の等高線図に表れていると考えられる（図Ⅰ－１）。

Ⅲ層上面では調査区全面が河岸段丘の縁辺部、北側へ緩い傾斜を有し、斜面上方の調査区南側と西側が農地造成によってⅤ層上面まで削平されていた。調査区壁面の堆積状態から本来の標高は 56～57m のほぼ平坦な地形であったと考えられる。微地形としては調査区東側の 25 ラインに北方向に張り出す微高地があり、調査区を南北に分断する低平な尾根状地形であったと考えられる。この微高地は農地造成によってⅣ層（樽前ｃテフラ）上面まで削平されていた。西側に隣接するＪ-27・28 区付近で等高線標高 56m の僅かな沢頭地形が確認でき、縄文時代晩期の遺物はこの沢地形より東側で多数出土している。

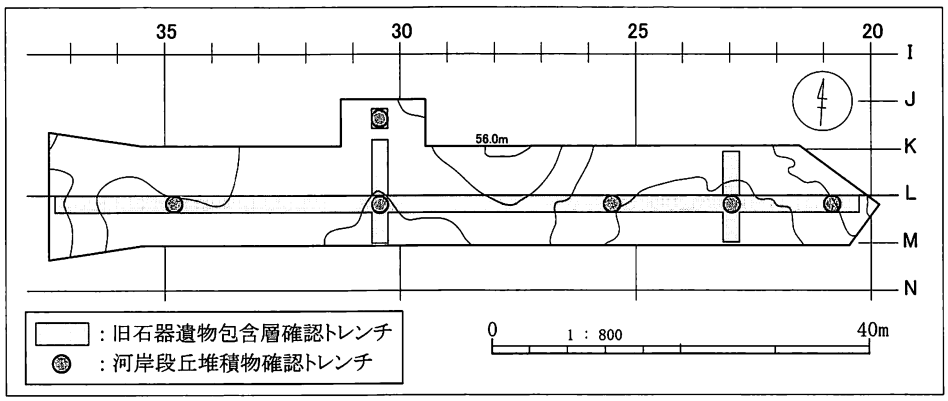
Ｂ　地　　質

調査区の殆どがⅢ層上面からⅤ層中位まで削平され、農地造成の盛土と耕作土が西側に堆積している。耕作土中には樽前ｂ降下軽石を多量に含んでおり、削平部分の土砂が押し出されてきたと思われる。

本来の堆積状態は第Ⅱ部の厚幌１遺跡と同様に樽前山、有珠山、駒ヶ岳等を供給源とする近世火山噴出物が堆積していたと考えられる。調査区内で農地造成の削平を免れている沢状地形部分（Ｊ-27 区付近）では、樽前ａテフラの堆積と褐色砂質土のⅡｂ（0B）層が部分的に堆積しており、樽前ｂテフラは 20～30cm の層厚であったことが確認できた。また、この範囲では白頭山苫小牧テフラがやや安定的に連続した堆積状態で確認でき、Ⅲｃ層も厚く上位（ⅢcU）と下位（ⅢcL）に分層できた。

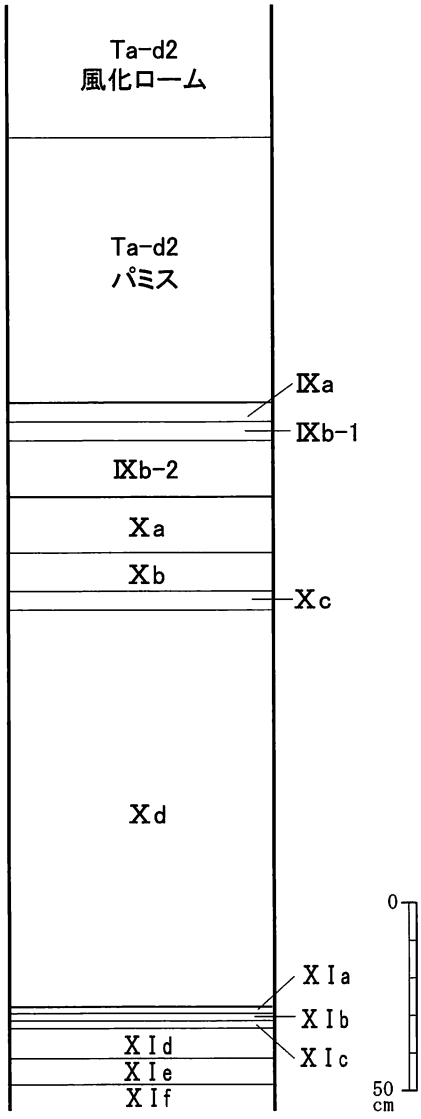
Ⅴ層の黒色土は樽前ｄテフラによって段丘堆積物がパックされていることから安定した堆積で、二次堆積物や泥岩、砂岩などの段丘堆積物の混入は見られない。また、上流域の厚幌１遺跡と異なる点として、安定的な樽前 d1 スコリアの堆積は認められず、粒径２cm 以下の塊状の樽前 d1 スコリアが漸移層Ⅵ層中に少量混入する状態で確認できる。

縄文時代Ⅴ層包含層の調査終了後にバックホーによる樽前ｄテフラの除去を行い、下層の遺物包含層確認調査時に河岸段丘の形成過程を把握するための深掘りトレンチを掘開した。恵庭ａテフラ降下によって本段丘面が完全に離水したことが、堆積状態から判明している（図Ⅰ－４・５）。（乾）



図Ⅰ-4　旧石器遺物包含層確認トレンチ位置図

〔幌内7遺跡 Ta-d テフラ下層層序〕



Ⅸ層：恵庭ａテフラ降下以後堆積物

a：10YR4/2　灰黄褐色　シルト≡炭化物粒（φ１～３↓　斑状）
上面に炭化材有。千歳、苫小牧市域の「ⅢB層」に相当。

b-1：10YR6/6　明黄褐色　シルト＝炭化物粒（φ１～５↓）

b-2：10YR5/4　にぶい黄褐色　粘土質シルト＝炭化物粒（φ１～５↓　斑状）やや粘性強

Ⅹ層：恵庭ａテフラ（En-a　B.P.20,000yr 前後降下）

a：10Y4/6　褐色　En-a 風化ローム－降下軽石（斑状）
≡黒色岩塊（斑状）

b：10Y5/2　灰黄褐色風化ローム質土　粘性中

c：10YR7/6　明黄褐灰色　En-a 降下軽石（φ５↓）－細砂～粗粒砂

d：5Y8/3　淡黄色　En-a 降下軽石（φ５～30↓）

XⅠ層：恵庭ａテフラ降下以前段丘堆積物

a：10YR4/4　褐色　粘土～粘土質シルト

b：10YR4/2　灰黄褐色　シルト＝風化火山灰（均一）

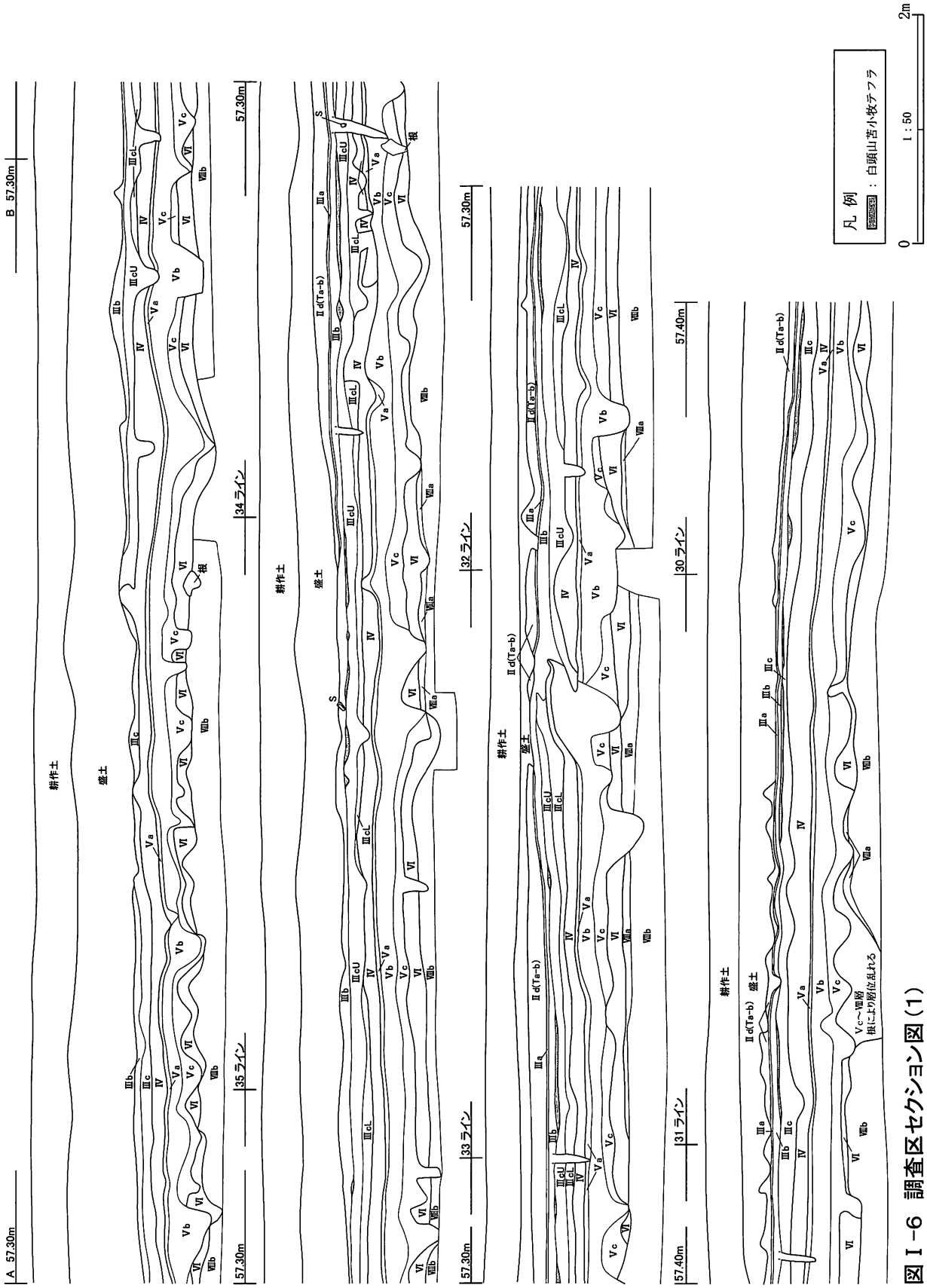
c：10YR4/6　褐色　シルト～砂－扁平・亜角礫（φ５～30↓）
風化火山灰＋砂＋細砂（斑状）

d：10YR5/6　黄褐色　シルト

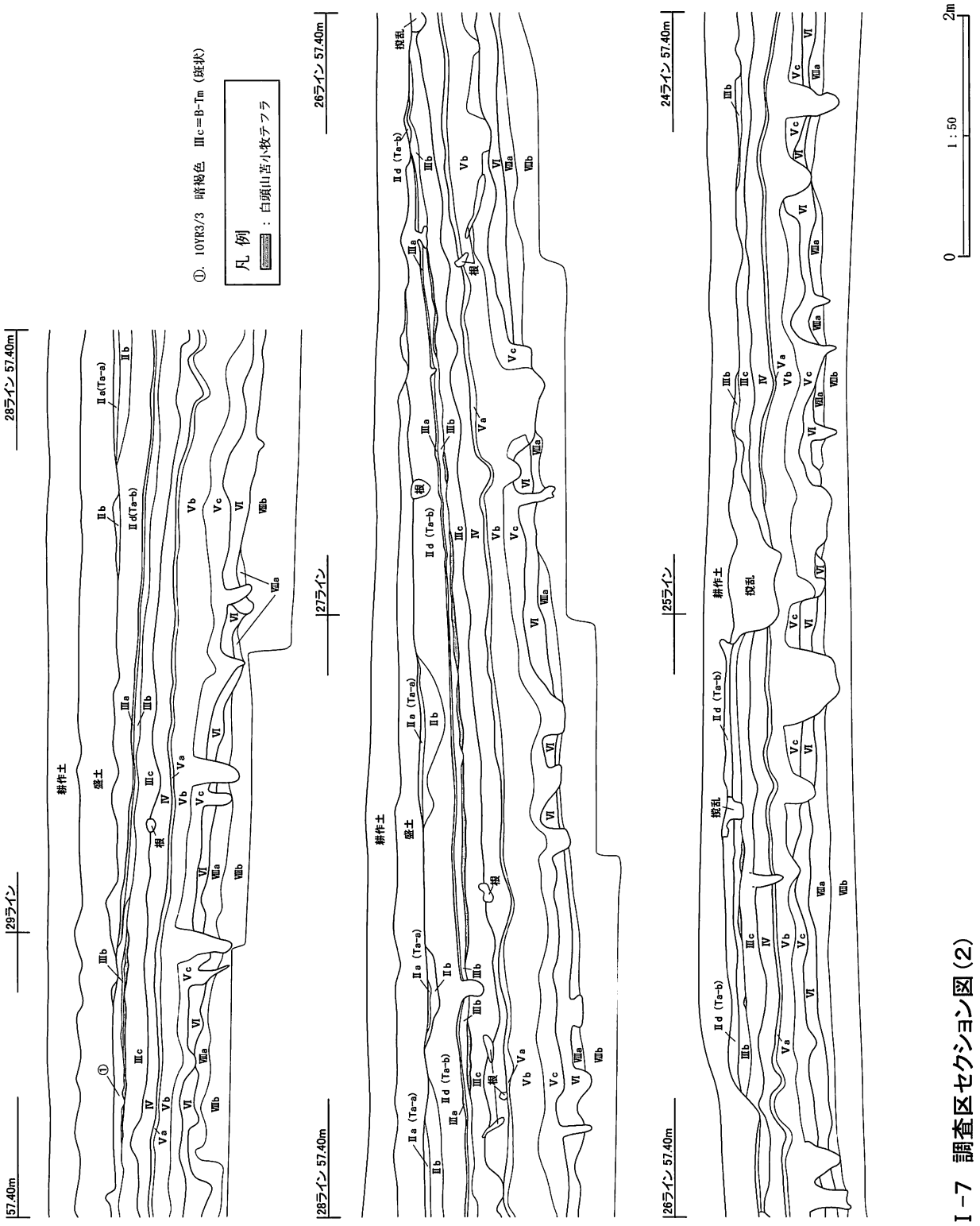
e：10YR7/2　にぶい黄褐色　粘土

f：10YR7/2　にぶい黄褐色　砂～粗粒砂－亜角礫

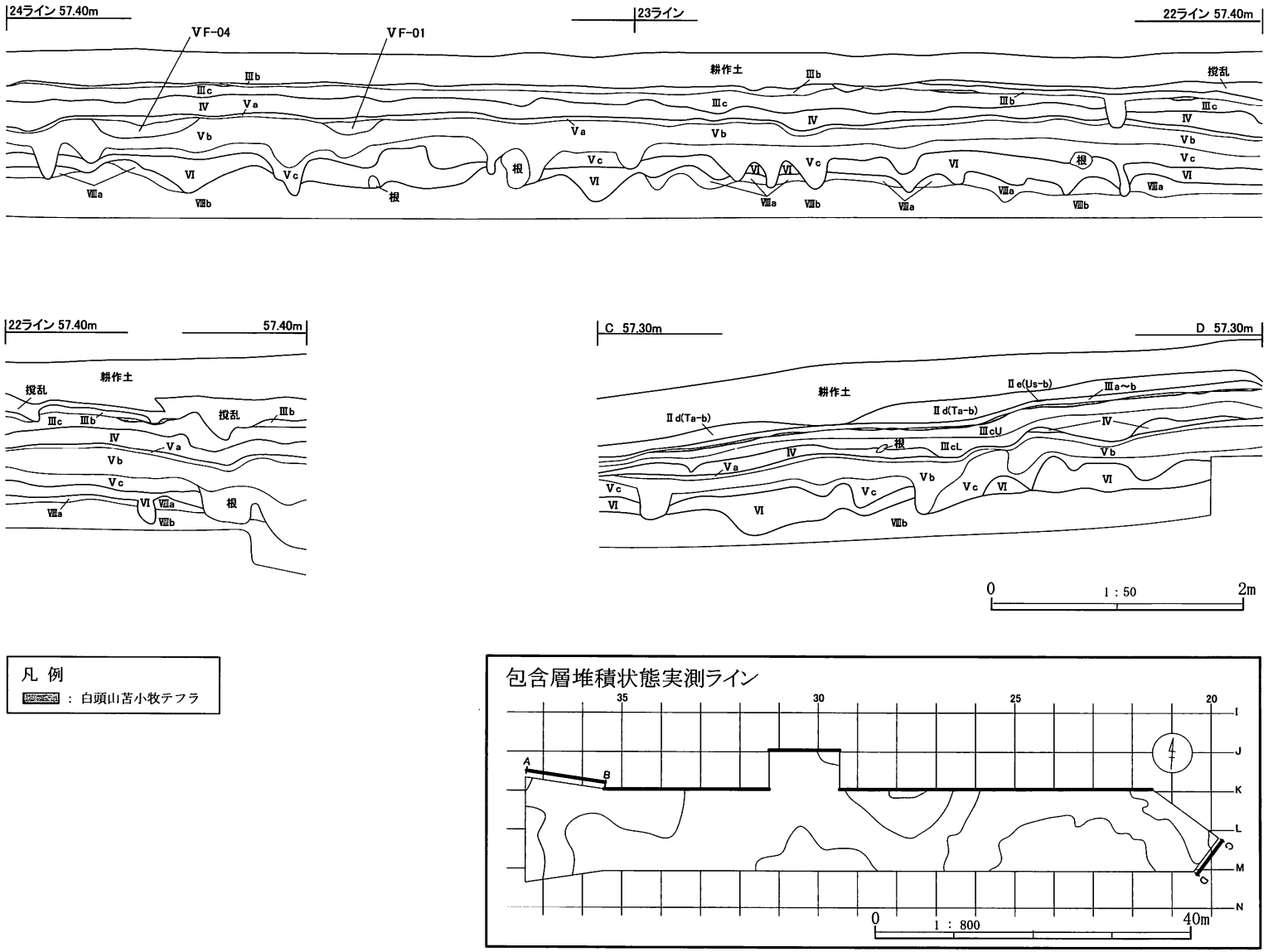
図Ⅰ-5　Ta-d テフラ下層柱状図



図Ⅰ-6　調査区セクション図(1)



図Ⅰ-7　調査区セクション図(2)



図Ⅰ-8　調査区セクション図(3)及び堆積状態実測ライン

第Ⅱ章　アイヌ文化期の調査

幌内７遺跡のアイヌ文化期における概況は、樽前ｂテフラ下層の黒色土（Ⅲ層）を２～３cm被覆して遺構および遺物が確認されたことから、中世段階の所産と考えられる。主な遺構としては平地式住居跡１軒、焼土２ヶ所、灰集中１ヶ所、建物跡３軒、杭跡21本、礫集中１ヶ所、獣骨集中１ヶ所、道跡１条を検出している。遺物は金属製品17点のほか、ⅢbU層から出土した礫、剥片等が589点出土している。特筆する点としては、平地式住居跡（ⅢH-01）と住居跡北東側に位置する灰集中（ⅢAS-02）との関連が考えられ、当該期の生活形態を知る上で重要な発見であった。また、調査区長軸方向に長さ約66mにわたって道跡を１条検出している。この道跡は窪みに有珠ｂテフラの堆積が認められ、Ⅲ層黒色土の硬化状態から中世アイヌ文化期よりやや新しい時期の所産と考えられる。本遺跡には有珠ｂテフラ直下のアイヌ文化期の遺構、遺物は認められないが、道跡の検出により周辺に同時期の集落、もしくは狩猟場までのルートが存在する可能性が示唆される。　（奈良）

第1節　住居跡

１号平地式住居跡〔ⅢH-01〕　（図Ⅱ-３　カラー図版３-２　図版２～４・20・21）

位　置：K・L-32・33　規　模：610×452cm

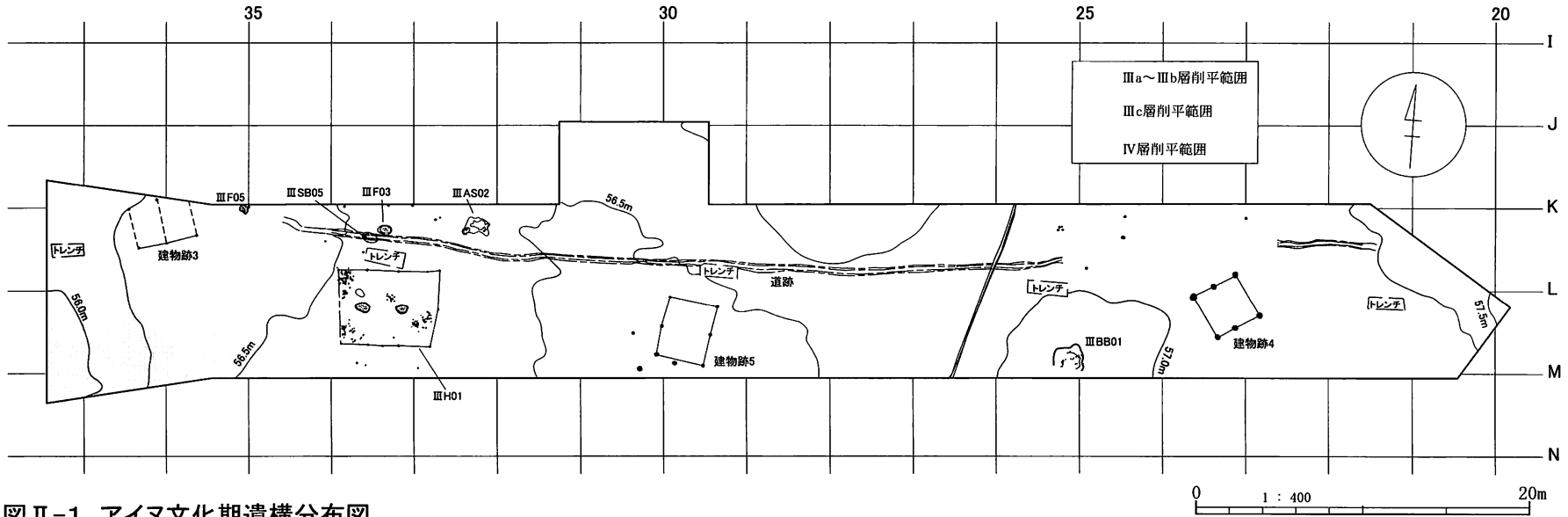
長軸方向：N-90°W　付属遺構：炉跡（HF01・02）

確認・調査：L-33区でⅢa層を２～３cm掘り下げたところ、僅かに焼骨片を含む範囲を確認した。周辺を同一面まで掘り下げた結果、東西方向の長軸上に２ヶ所、楕円形の焼土を検出した。同様に周辺からは棒状礫で構成される集石３ヶ所確認し、これら集石はⅢH-01.HF01・02周辺に分布していた。焼土が長軸上に並び周辺に棒状礫が散在している事から平地式住居跡と想定して調査を進め、焼土はそれぞれ長軸方向にベルトを設定し、被覆する黒色土の厚さを確認した後にベルトを除去して検出写真及びトレンチを設定し記録を行った。各遺構の記録を行った後、これらを台状に残して柱穴確認調査に移行した。柱穴の認定にあたってはⅢb～Ⅳ層にかけてジョレンによる精査を繰り返し、スタッフを用いて間隔を想定した後、プランの半截をして断面観察を行った。柱穴の完掘後、焼土、集石と合わせて完掘写真を撮影し調査終了とした。

付属炉（図Ⅱ-３）：灰層を伴わない炉跡を長軸上に２ヶ所検出している。形状はHF01が92×60cm、HF02が70×54cmの楕円形を呈している。１層とした燃焼面はHF01が３cm、02が２cmでいずれも焼骨片を少量含んでいるが、灰層はほとんど認められないことから掻き出しが行われていたと思われる。地山被熱層はⅢbL～Ⅲc層まで達している。炉跡の間隔は約1.6mでいずれも燃焼面上位にⅢa～ⅢbU層を２cm被覆しており、中世アイヌ文化期の所産であると思われる。

柱穴（図Ⅱ-４）：柱穴として認定できたものは主体部の11本である。柱穴の間隔は東西方向で約1.8m、南北方向で2.2mである。深さの平均は36cmで、住居跡各コーナーに確認したHP01・24・35・36は確認面から30cm以上の深さを測る。柱穴は全て「打込み」で炉跡方向に傾く「外踏ん張り」構造をしている。付属部に関しては主体部西側の包含層削平が著しく検出するには至らなかった。

遺物出土状態（図Ⅱ-３）：住居炉跡とした周辺からは、これらを取り囲むように棒状礫を検出した。礫の集中単位は５ヶ所であるが、単体で出土する礫と合わせて範囲を確認すると方形状の分布



図Ⅱ-1　アイヌ文化期遺構分布図

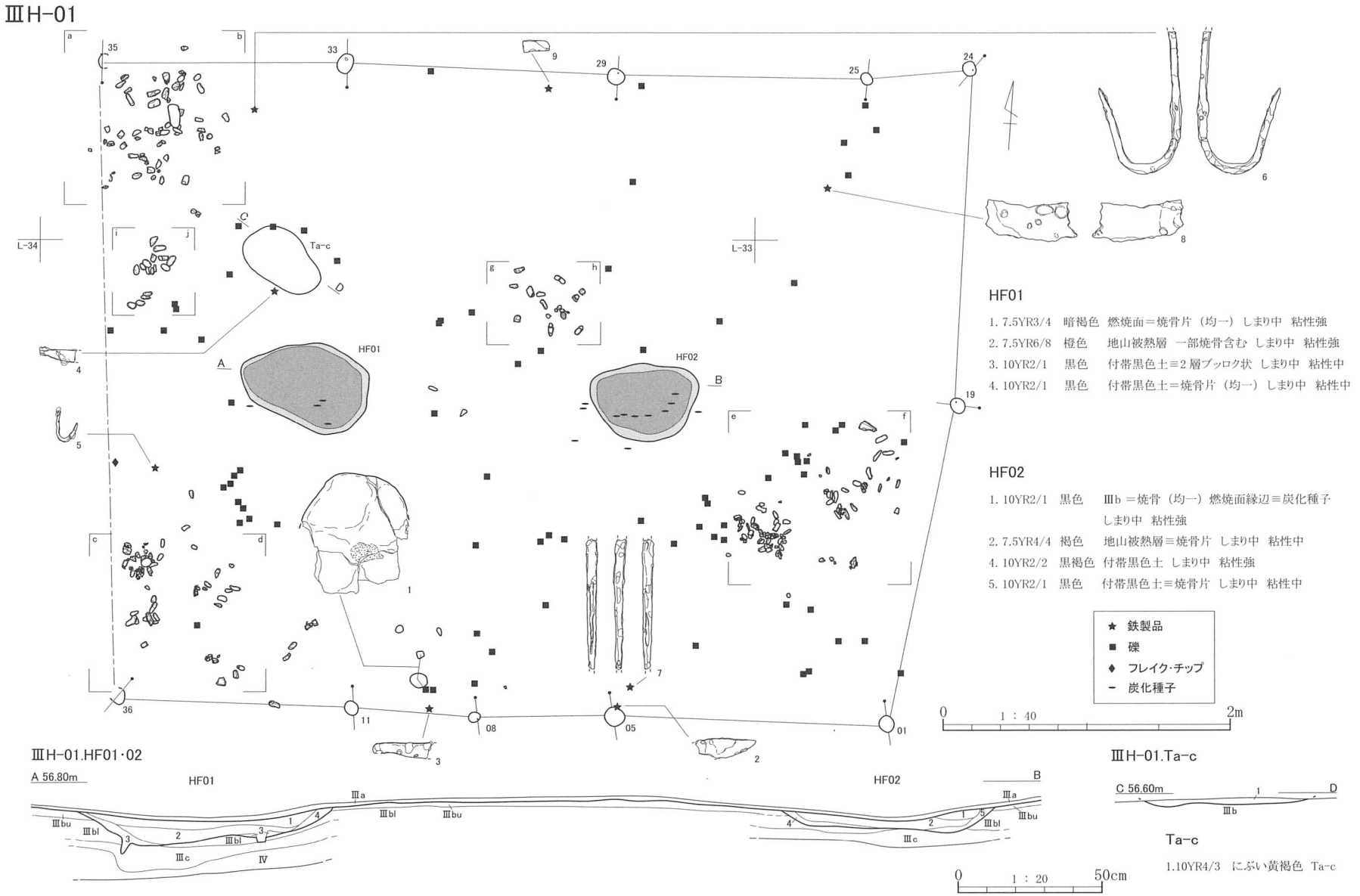
表Ⅱ-1　アイヌ文化期遺構群一覧表

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
	長軸	短軸				
ⅢH-01	610	452	K・L-32・33	ⅢbU	ⅢF-01・02.ⅢSB-01～04.06.ⅢAS-02	
ⅢAS-02	172	102	K-32	ⅢbU	ⅢH-01	
建物跡3	350	265	J・K-35・36	Ⅲc		
建物跡4	285	282	K-22.L-21・22	Ⅲc		
建物跡5	365	285	L-29・30	Ⅲc		
杭　跡	-	-	-	Ⅲc		図Ⅱ-10・11参照
ⅢF-03	86	58	K-33	ⅢbU	ⅢSB-05	
ⅢF-05	60	43	J・K-35	ⅢbL		撹乱受ける
ⅢSB-05	90	50	K-33	ⅢbU	ⅢF-03	
ⅢBB-01	(195)	(168)	L-24・25	Ⅲc		浅い土坑内出土
道　跡	6633	51	K-21・22・25～34	ⅢaU		

図Ⅱ-2　ⅢH-01 周辺遺構分布図

を示していた。炉跡燃焼面周辺からは炭化したキハダ属果実 16 点が出土したため、座標を記録している。金属製品は炉跡及び棒状礫と同一面から８点出土しており、特徴を示す分布は認められないが、HF01 北側から鉤状鉄製品１点が折れた状態で出土している。

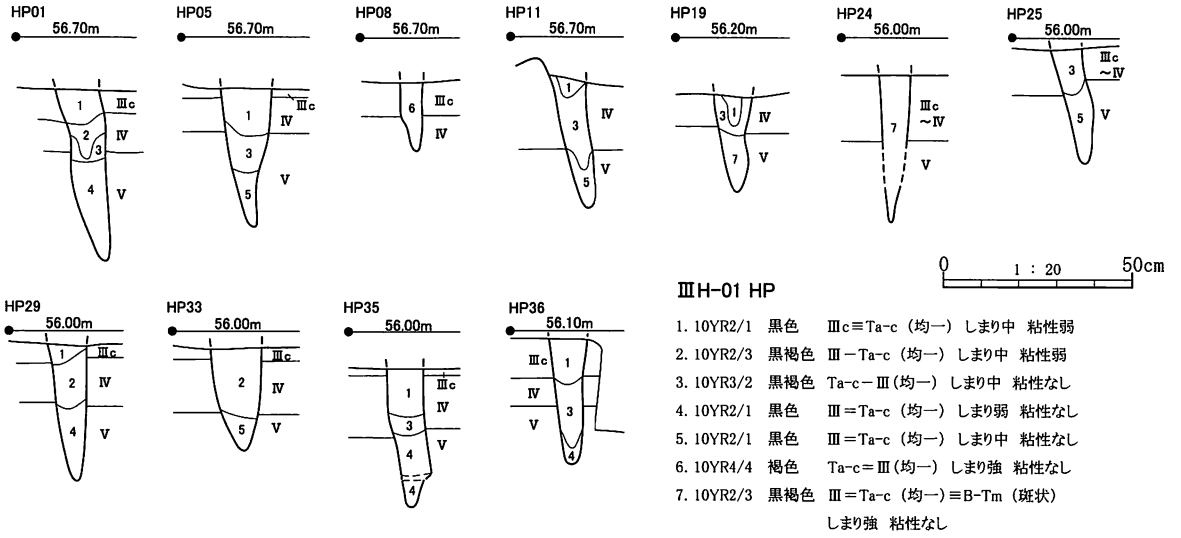
出土遺物（図Ⅱ-６・７）：１は扁平礫を素材とした中央に敲打痕が認められる台石である。２～９は鉄製品である。２は刀子の切先で大部分を欠損しているが、刃部は明瞭に認められる。３・４は刀子の茎部分で、３は棟から刃縁に向かって逆三角形状の断面を呈している。共に目釘穴は認められない。５は釣針で先端は尖り、基部は角状に近い断面形態をしている。６は鉤状鉄製品で半分に折損している。基部は９㎝で、機能部は変換点から約６㎝あり先端はやや外反して先端は尖る。断面形は角状で内側には溝跡が認められるため、板状または棒状の素材を加工して製作されたものと思われる。このような鉄製品に溝跡が認められる事例は町内の厚幌１遺跡や上幌内モイ遺跡で報告されている（厚真町教育委員会 2004・2007）。７は棒状鉄製品で両端ともに欠損している。２側面には溝跡が認められる。８・９は板状鉄製品で、８は厚さ 3.7㎜、断面は角状で鉄鍋片と考えられる。９は規模や断面形態から刀子茎の可能性があるが判然としない。10～58 は住居床面より出土した棒状礫で集中している単位で掲載、計測を行っている。規格に大小の差異はあるものの、ⅢH-01・Ⅲ



図Ⅱ-3　ⅢH-01 平面及び炉跡断面図

SB-01～03 は長短比の平均が 2.0 前後と楕円形を呈する礫が多いのに対し、ⅢSB-04・06 は 4.9、4.1 と細長い礫がまとまる結果を得ている（表Ⅱ-６～11）。また、数点ではあるが、被熱しているもの（12・16・19・29・31・48・50・54～57）、紐を結んでいた痕跡の認められるもの（54・55）がある。フローテーションからは、ヒエ属、キビ、タデ科、ブドウ科片、スモモ属片など複数出土しているが、キハダ属の果実、種子片が多く出土している（第４部 第Ⅱ章 第２節参照）。　（奈良）

ⅢH-01 HP



図Ⅱ-4　ⅢH-01 柱穴断面図

表Ⅱ-2　ⅢH-01属性表

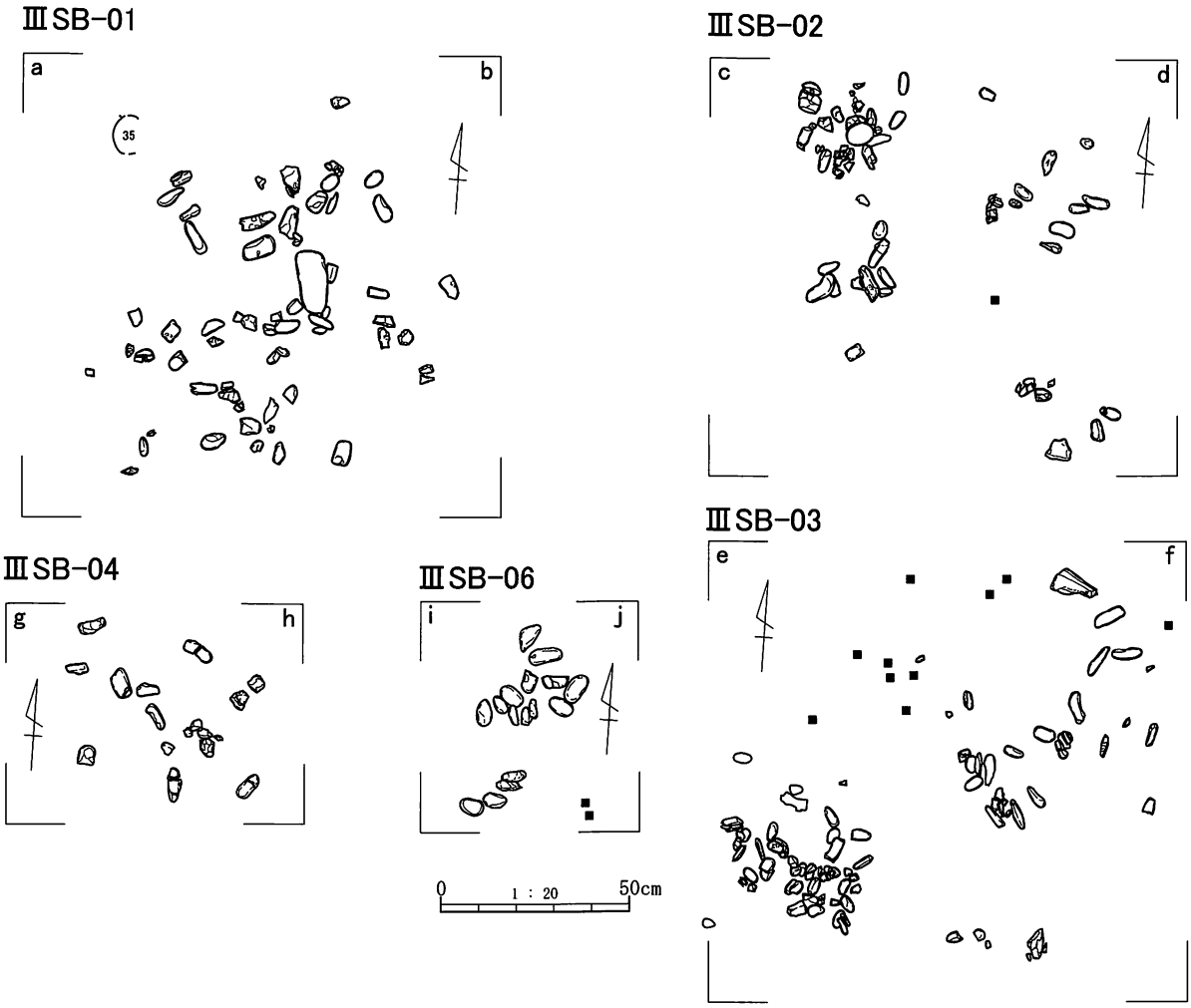
挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm) 主体部 長軸	規模(cm) 主体部 短軸	規模(cm) 付属部 長軸	規模(cm) 付属部 短軸	柱穴 本数 主体	柱穴 本数 付属	柱穴 本数 その他	付属遺構
Ⅱ-2・3	2-1	K・L-32・33	ⅢbU	N-90° W	610	452	－	－	11	－	－	ⅢF-01・02.ⅢSB-01～04・06

表Ⅱ-3　ⅢH-01付属遺構属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	タイプ	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	規模(cm) 厚さ	灰・骨片の有無	備考
Ⅱ-3	2-2	HF01	L-33	ⅢbU	地床炉	楕円形	92	60	8	有	
Ⅱ-3	2-4	HF02	L-33	ⅢbU	地床炉	楕円形	70	54	8	有	
Ⅱ-3	4-1	Ta-c	L-33	ⅢbU	－	楕円形	60	38	2	－	Ta-cブロック分布範囲

表Ⅱ-4　ⅢH-01柱穴属性表

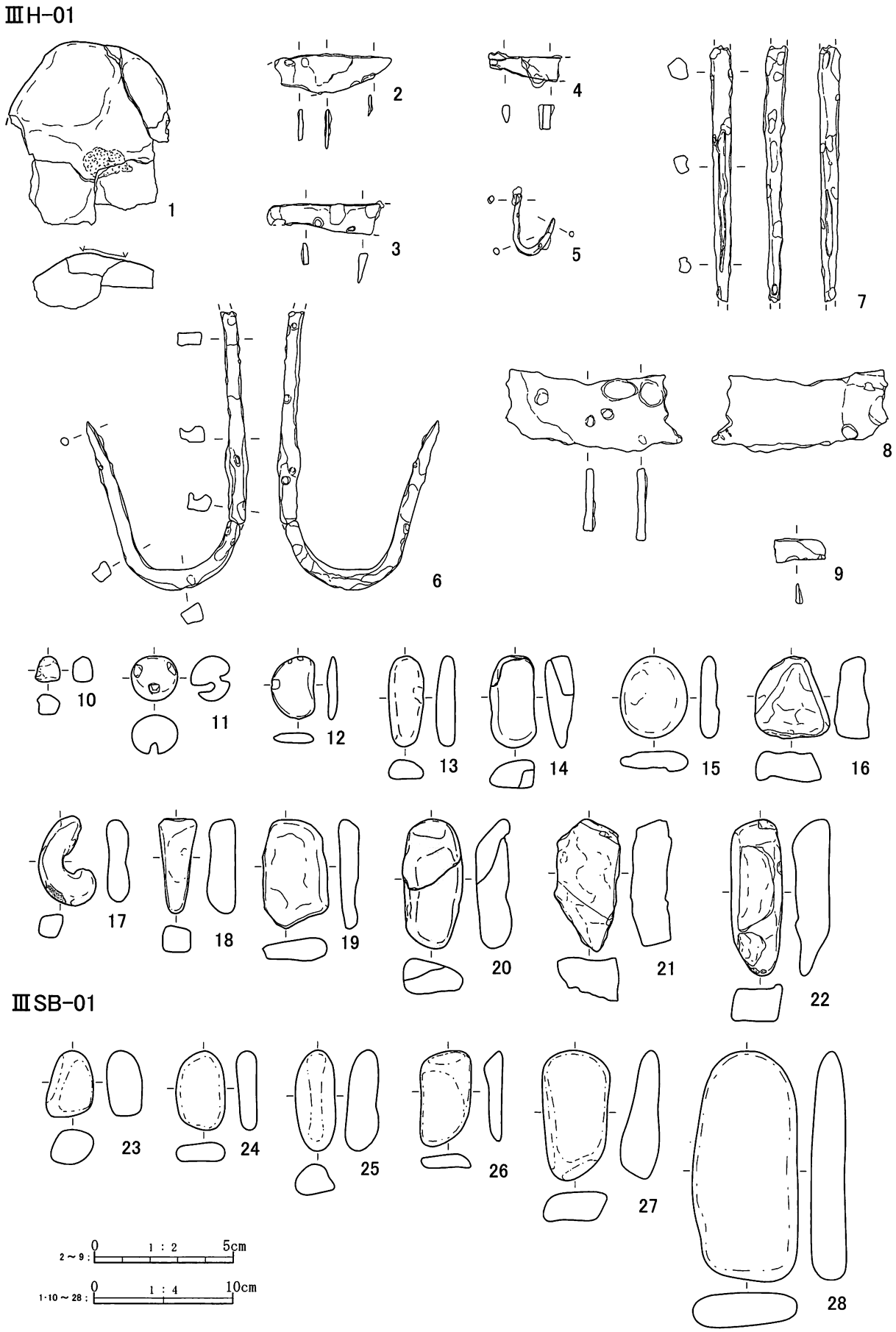
挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ	備考
Ⅱ-4	4-3	HP01	12	2	46	5°	打込み	
Ⅱ-4	4-4	HP05	12	2	36	5°	打込み	
Ⅱ-4	－	HP08	6	2	16	1°	打込み	
Ⅱ-4	4-5	HP11	6	2	40	10°	打込み	
Ⅱ-4	4-6	HP19	8	2	26	0°	打込み	
Ⅱ-4	4-7	HP24	8	2	40	0°	打込み	
Ⅱ-4	－	HP25	8	2	30	5°	打込み	
Ⅱ-4	4-8	HP29	10	2	36	5°	打込み	
Ⅱ-4	－	HP33	12	2	26	9°	打込み	
Ⅱ-4	4-13	HP35	10	2	36	5°	打込み	
Ⅱ-4	4-14	HP36	10	2	30	4°	打込み	



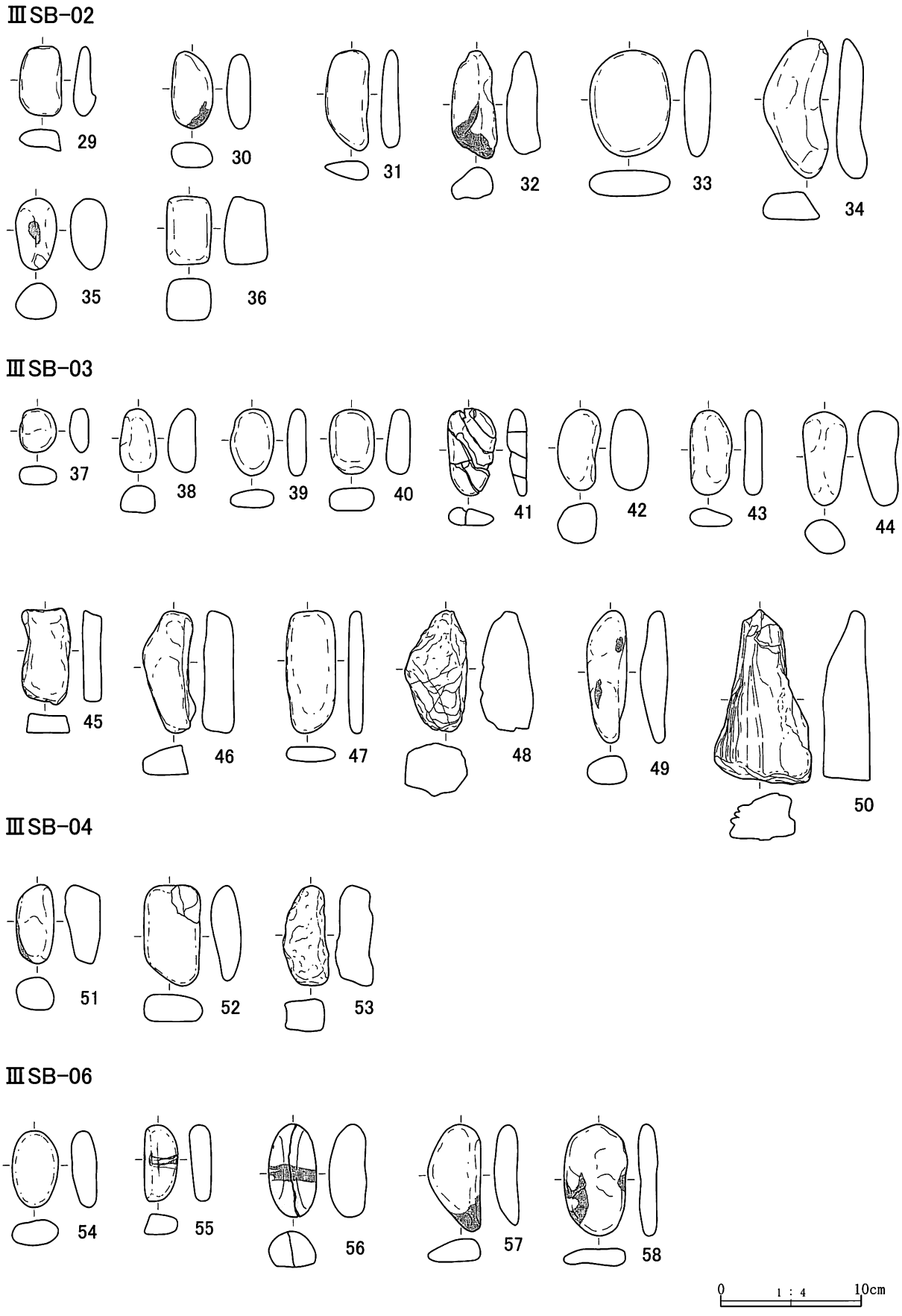
図Ⅱ-5　ⅢSB-01 ～ 04･06 平面図

表Ⅱ-5　ⅢH-01出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-6-1	20-1-1	ⅢST004	287ほか	台　石	-	ⅢbU	ⅢH-01	L-33	134.7	114.9	35.3	535.0	Sa.	
Ⅱ-6-2	20-1-2	1	501	刀　子	-	ⅢbU	ⅢH-01	L-33	41.5	14.5	1.5	2.8	Fe.	
Ⅱ-6-3	20-1-3	11	183	刀子茎	-	ⅢbU	ⅢH-01	M-33	43.0	11.5	1.8	2.88	Fe.	
Ⅱ-6-4	20-1-4	20	1678	刀子茎	-	ⅢbU	ⅢH-01	L-33	27.0	13.0	4.9	1.77	Fe.	
Ⅱ-6-5	20-1-5	3	503	釣　針	-	ⅢbU	ⅢH-01	L-33	19.0	10.5	1.3	0.5	Fe.	
Ⅱ-6-6	20-1-6	8	180	鉤状鉄製品	-	ⅢbU	ⅢH-01	K-33	90.0	52.0	4.1	36.6	Fe.	
Ⅱ-6-7	20-1-7	2	502	棒状鉄製品	-	ⅢbU	ⅢH-01	L-33	93.0	7.6	6.8	9.08	Fe.	
Ⅱ-6-8	20-1-8	16	301	板状鉄製品	-	ⅢbU	ⅢH-01	K-32	62.5	27.4	3.7	17.0	Fe.	
Ⅱ-6-9	20-1-9	18	665	鉄　片	-	ⅢbU	ⅢH-01	K-33	21.6	10.3	0.2	1.2	Fe.	



図Ⅱ-6　ⅢH-01 出土遺物（1）



図Ⅱ-7　ⅢH-01 出土遺物（2）

表Ⅱ-6　ⅢH-01礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-6-10	20-2	1	234	ⅢbU	完形	18.0	-39.3	17.0	-14.2	13.9	-4.0	1.1	-0.8	6.1	-	Che.	
-	20-2	2	316	ⅢbU	完形	28.2	-29.1	16.8	-14.4	7.1	-10.8	1.7	-0.2	4.7	-	Gni.	
-	20-2	3	285	ⅢbU	完形	28.0	-29.3	18.2	-13.0	10.1	-7.8	1.5	-0.3	7.0	-	Sa.	
-	20-2	4	306	ⅢbU	完形	35.7	-21.6	15.2	-16.0	6.9	-11.0	2.3	0.5	3.2	-	Mud.	
-	20-2	5	1897	ⅢbM	完形	42.1	-15.2	18.8	-12.4	10.7	-7.2	2.2	0.4	6.6	-	Mud.	
Ⅱ-6-11	20-2	6	1663	ⅢbM	完形	34.3	-23.0	33.2	2.0	27.5	9.6	1.0	-0.9	29.4	-	Sa.	
Ⅱ-6-12	20-2	7	229	ⅢbU	完形	45.7	-11.6	31.0	-0.2	7.0	-10.9	1.5	-0.4	11.9	-	Mud.	
-	20-2	8	1899	ⅢbM	完形	40.0	-17.3	23.9	-7.3	22.1	4.2	1.7	-0.2	29.2	-	Sa.	
-	20-2	9	1896	ⅢbM	完形	41.8	-15.5	31.5	0.3	21.2	3.3	1.3	-0.6	33.3	-	Sa.	
-	20-2	10	1902	ⅢbM	完形	44.0	-13.3	24.0	-7.2	13.0	-4.9	1.8	-0.1	21.1	-	Sa.	
-	20-2	11	1874	ⅢbM	完形	50.9	-6.4	24.1	-7.1	21.8	3.9	2.1	0.2	27.7	-	Sa.	
-	20-2	12	1904	ⅢbM	完形	50.3	-7.0	27.0	-4.2	18.2	0.3	1.9	0.0	31.3	-	Sa.	
-	20-2	13	1903	ⅢbM	完形	46.4	-10.9	30.8	-0.4	25.0	7.1	1.5	-0.4	57.4	-	Sa.	
-	20-2	14	1906	ⅢbM	完形	51.1	-6.2	32.6	1.4	19.3	1.4	1.6	-0.3	55.3	-	Sa.	
-	20-2	15	1869	ⅢbM	完形	60.0	2.7	27.2	-4.0	12.7	-5.2	2.2	0.3	23.3	-	Mud.	
-	20-2	16	1872	ⅢbM	完形	58.3	1.0	23.3	-7.9	16.8	-1.1	2.5	0.6	33.1	-	Mud.	
Ⅱ-6-13	20-2	17	292	ⅢbU	完形	65.7	8.4	25.1	-6.1	13.7	-4.2	2.6	0.7	32.1	●	Sa.	
Ⅱ-6-14	20-2	18	286	ⅢbU	完形	65.7	8.4	32.4	1.2	19.2	1.3	2.0	0.1	51.9	-	Sa.	
Ⅱ-6-15	20-2	19	305	ⅢbU	完形	58.6	1.3	48.8	17.6	13.4	-4.5	1.2	-0.7	49.8	-	Sa.	
-	20-2	20	1871-1	ⅢbU	完形	49.7	-7.6	35.5	4.3	22.3	4.4	1.4	-0.5	128.1	-	Sa.	
-	20-2	21	246	ⅢbU	完形	55.7	-1.6	32.6	1.4	12.1	-5.8	1.7	-0.2	31.0	-	Sa.	
-	20-2	22	302	ⅢbU	完形	55.6	-1.7	34.2	3.0	14.8	-3.1	1.6	-0.3	35.8	-	Sa.	
-	20-2	23	311	ⅢbU	完形	56.1	-1.2	31.1	-0.1	18.7	0.8	1.8	-0.1	38.5	-	Sa.	
-	20-2	24	1871-2	ⅢbM	完形	56.5	-0.8	37.1	5.9	28.0	10.1	1.5	-0.4	128.1	-	Sa.	
-	20-2	25	245	ⅢbU	完形	62.1	4.8	33.0	1.8	16.4	-1.5	1.9	0.0	24.1	-	Sa.	
-	20-2	26	321	ⅢbU	完形	51.0	-6.3	47.4	16.2	16.8	-1.1	1.1	-0.8	50.6	-	Qu.	
Ⅱ-6-16	20-2	27	309	ⅢbU	完形	59.2	1.9	48.5	17.3	21.5	3.6	1.2	-0.7	3.2	-	Gra.	
Ⅱ-6-17	20-2	28	235	ⅢbU	完形	65.2	7.9	27.9	-3.3	16.5	-1.4	2.3	0.5	37.4	●	Sa.	
-	20-2	29	1881	ⅢbM	完形	60.6	3.3	30.1	-1.1	18.5	0.6	2.0	0.1	40.1	-	Sa.	
-	20-2	30	1880	ⅢbM	完形	60.0	2.7	32.4	1.2	23.4	5.5	1.9	0.0	54.3	-	Sa.	
-	20-2	31	310	ⅢbU	完形	64.2	6.9	32.1	0.9	15.8	-2.1	2.0	0.1	34.8	-	Sa.	
Ⅱ-6-18	20-2	32	228	ⅢbU	完形	67.9	10.6	27.4	-3.8	20.1	2.2	2.5	0.6	43.9	●	Sa.	
-	20-2	33	314	ⅢbU	完形	67.2	9.9	42.0	10.8	22.4	4.5	1.6	-0.3	93.9	-	Qu.	
-	20-2	34	1877	ⅢbM	完形	79.4	22.1	28.9	-2.3	16.2	-1.7	2.7	0.9	37.6	-	Mud.	
Ⅱ-6-19	20-2	35	241	ⅢbU	完形	78.9	21.6	47.0	15.8	15.4	-2.5	1.7	-0.2	76.7	-	Sa.	
-	20-2	36	1873	ⅢbM	完形	81.7	24.4	32.0	0.8	17.1	-0.8	2.6	0.7	63.5	-	Sa.	
Ⅱ-6-20	20-2	37	315	ⅢbU	完形	92.9	35.6	44.0	12.8	24.8	6.9	2.1	0.2	113.7	●	Sa.	
Ⅱ-6-21	20-2	38	313	ⅢbU	完形	94.9	37.6	46.8	15.6	30.6	12.7	2.0	0.1	176.5	-	Qu.	
Ⅱ-6-22	20-2	39	312	ⅢbU	完形	113.0	55.7	27.3	-3.9	26.3	8.4	4.1	2.3	122.6	-	Gni.	
完形合計						2236.6		1218.2		697.3		73.6		1848.8			
完形平均値						57.3		31.2		17.9		1.9		47.4			
遺物総重量														3234.9			

表Ⅱ-7　ⅢSB-01礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-6-23	20-3	1	1706	ⅢbU	完形	49.0	-23.0	33.1	-2.2	25.0	4.8	1.5	-0.6	51.6	-	Sa.	
Ⅱ-6-24	20-3	2	1685	ⅢbU	完形	56.4	-15.6	34.9	-0.4	14.5	-5.7	1.6	-0.5	41.6	-	Sa.	
-	20-3	3	1707	ⅢbU	完形	57.8	-14.2	30.1	-5.2	18.0	-2.2	1.9	-0.2	35.8	-	Sa.	
-	20-3	4	1686	ⅢbU	完形	60.6	-11.4	24.7	-10.6	17.6	-2.6	2.5	0.4	26.2	-	Sa.	
-	20-3	5	1733	ⅢbU	完形	61.2	-10.8	29.1	-6.2	17.2	-3.0	2.1	0.0	33.3	-	Mud.	
-	20-3	6	1710	ⅢbU	完形	66.7	-5.3	28.6	-6.7	13.2	-7.0	2.3	0.2	28.9	-	Sa.	
-	20-3	7	1712	ⅢbU	完形	55.3	-16.7	40.5	5.2	17.7	-2.5	1.4	-0.7	54.1	-	Sa.	
-	20-3	8	1736	ⅢbU	完形	61.0	-11.0	26.8	-8.5	12.8	-7.4	2.3	0.2	18.8	-	Mud.	
-	20-3	9	1692	ⅢbU	完形	61.3	-10.7	25.4	-9.9	16.2	-4.0	2.4	0.3	31.9	-	Sa.	
-	20-3	10	1683	ⅢbU	完形	56.0	-16.0	35.1	-0.2	19.0	-1.2	1.6	-0.5	46.7	-	Sa.	
-	20-3	11	1687	ⅢbU	完形	61.2	-10.8	41.8	6.5	17.7	-2.5	1.5	-0.6	57.4	-	Sa.	
Ⅱ-6-25	20-3	12	1701	ⅢbU	完形	72.8	0.8	28.5	-6.8	24.8	4.6	2.6	0.6	62.7	-	Sa.	
-	20-3	13	1691	ⅢbU	完形	78.1	6.1	29.6	-5.7	20.8	0.6	2.6	0.5	60.1	-	Sa.	
Ⅱ-6-26	20-3	14	1705	ⅢbU	完形	70.3	-1.7	35.9	0.6	12.9	-7.3	2.0	-0.1	39.9	-	Sa.	
-	20-3	15	1730	ⅢbU	完形	68.1	-3.9	44.7	9.4	28.0	7.8	1.5	-0.6	22.1	-	Sa.	
-	20-3	16	1684	ⅢbU	完形	77.1	5.1	39.5	4.2	25.7	5.5	2.0	-0.1	106.7	-	Sa.	
-	20-3	17	1693	ⅢbU	完形	94.4	22.4	33.2	-2.1	30.5	10.3	2.8	0.7	147.6	-	Sa.	
Ⅱ-6-27	20-3	18	1697	ⅢbU	完形	95.1	23.1	42.3	7.0	27.7	7.5	2.2	0.1	145.0	-	Sa.	
Ⅱ-6-28	20-3	19	1698	ⅢbU	完形	16.5	92.0	67.5	32.2	25.0	4.8	0.2	0.0	425.0	-	Sa.	
完形合計						1367.4		671.3		384.3		39.2		1435.4			
完形平均値						72.0		35.3		20.2		2.1		75.5			
遺物総重量														2687.8			

表Ⅱ-8　ⅢSB-02礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-7-29	21-1	1	1751	ⅢbU	完形	49.3	-15.1	29.5	-2.8	15.6	-4.0	1.7	-0.4	30.3	-	Sa.	
Ⅱ-7-35	21-1	2	1773	ⅢbU	完形	50.8	-13.6	28.9	-3.4	24.9	5.3	1.8	-0.3	44.2	●	Sa.	
-	21-1	3	1785	ⅢbU	完形	55.6	-8.8	30.9	-1.4	22.6	3.0	1.8	-0.2	34.1	-	Sa.	
Ⅱ-7-30	21-1	4	1775	ⅢbU	完形	54.2	-10.2	29.9	-2.4	16.8	-2.8	1.8	-0.2	38.0	●	Sa.	
Ⅱ-7-36	21-1	5	1772	ⅢbU	完形	47.7	-16.7	31.1	-1.2	29.4	9.8	1.5	-0.5	79.2	-	Sa.	
-	21-1	6	1779	ⅢbU	完形	50.6	-13.8	22.6	-9.7	25.4	5.8	2.2	0.2	45.0	-	Sa.	
-	21-1	7	1763	ⅢbU	完形	52.2	-12.2	35.1	2.8	20.4	0.8	1.5	-0.5	46.2	-	Sa.	
-	21-1	8	1769	ⅢbU	完形	57.7	-6.7	29.9	-2.4	15.1	-4.5	1.9	-0.1	33.0	-	Sa.	
-	21-1	9	1756	ⅢbU	完形	57.9	-6.5	36.8	4.5	18.0	-1.6	1.6	-0.5	49.3	-	Sa.	
-	21-1	10	1784	ⅢbU	完形	62.4	-2.0	35.9	3.6	16.5	-3.1	1.7	-0.3	41.0	-	Sa.	
-	21-1	11	1745	ⅢbU	完形	60.7	-3.7	26.4	-5.9	19.7	0.1	2.3	0.3	40.8	-	Sa.	
-	21-1	12	1786	ⅢbU	完形	66.1	1.7	27.0	-5.3	15.1	-4.5	2.4	0.4	34.1	-	Mud.	
-	21-1	13	1787	ⅢbU	完形	64.0	-0.4	32.7	0.4	15.1	-4.5	2.0	-0.1	36.5	-	Mud.	
-	21-1	14	1765	ⅢbU	完形	65.7	1.3	26.3	-6.0	21.3	1.7	2.5	0.5	38.5	-	Sa.	
-	21-1	15	1774	ⅢbU	完形	67.7	3.3	31.7	-0.6	14.7	-4.9	2.1	0.1	36.5	-	Sa.	
-	21-1	16	1780	ⅢbU	完形	65.9	1.5	36.6	4.3	17.3	-2.3	1.8	-0.2	57.9	●	Sa.	
-	21-1	17	1758	ⅢbU	完形	70.4	6.0	28.3	-4.0	21.8	2.2	2.5	0.5	44.7	-	Mud.	
Ⅱ-7-31	21-1	18	1778	ⅢbU	完形	72.6	8.2	31.0	-1.3	12.9	-6.7	2.3	0.3	37.8	-	Sa.	
Ⅱ-7-32	21-1	19	1757	ⅢbU	完形	76.3	11.9	31.6	-0.7	22.3	2.7	2.4	0.4	48.9	●	Sa.	
Ⅱ-7-33	21-1	20	1755	ⅢbU	完形	69.3	4.9	57.6	25.3	17.8	-1.8	1.2	-0.8	136.9	-	Gni.	
-	21-1	21	644	ⅢbU	完形	80.4	16.0	29.6	-2.7	22.2	2.6	2.7	0.7	58.1	-	Mud.	
-	21-1	22	1767	ⅢbU	完形	83.8	19.4	34.2	1.9	26.5	6.9	2.5	0.4	87.3	-	Mud.	
Ⅱ-7-34	21-1	23	1770	ⅢbU	完形	99.0	34.6	40.3	8.0	18.4	-1.2	2.5	0.4	106.8	-	Sa.	
完形合計						1480.3		743.9		449.8		46.8		1205.1			
完形平均値						64.4		32.3		19.6		2.0		52.4			
遺物総重量														2183.9			

第2節　灰集中

本節で扱う灰集中とは、地山被熱層がなく灰層を主体とした焼土粒、炭化物などの集積である。また、ⅢAS-01は欠番のため02から報告を行うものである。

ⅢAS-02（図Ⅱ-8　図版5）

位　置：K-32　規　模：172×102×8㎝

確認・調査：ⅢH-01の北東側、ⅢbU層調査中に灰層の一部を検出した。マウンド状の盛り上がりを確認したため、頂部を中心に十字トレンチを設定し、灰集中として調査した。灰層の上位には黒色土が1～2㎝ほど堆積していたことから、ⅢbU層をベルト状に残し、灰層の範囲を確認した。灰層範囲は長軸172㎝、幅102㎝で、灰層上面からはシカを中心とする動物骨が出土した。ベルト状に残したⅢbU層は堆積状態を記録後に除去し、灰層全体の平面図および写真撮影を終了した。再度トレンチを設定し、灰層の土層断面を観察した。土層断面記録後は出土遺物を取り上げ、フローテーションサンプルとして灰層を回収し調査を終了した。

堆積状態：灰層の主体は2層で、3・4層はⅢb層に斑状の灰が混ざる漸移層、1層はⅢa層が主体で、灰層ブロックが斑状に混入する。約8㎝の厚さで堆積しており、下位に焼土は認められなかった。灰層下面は一部根による影響で乱れているがほぼ水平で、ⅢbU層に接している。

性格：灰層は焼土が認められないことから、廃棄により堆積した二次堆積層と判断されるが、形成の時間幅は不明である。炉跡から掻きだされたと判断され、「灰送り場」の性格が考えられる。

関連遺構：形成要因となった可能性がある炉跡は、位置的に近いⅢH-01検出の2ヶ所の炉跡である。ただし、ⅢH-01の炉跡は明瞭な灰層が認められず、また、出土動物骨の主体が異なることから、関連しない可能性もある。

出土遺物：礫29点、骨99点が出土した。骨の種別はシカを主体に、サケを少量含む。ハンドピックで哺乳綱37点、シカ21点、不明29点、フローテーションでシカ3点、魚綱1点、サケ属5

表Ⅱ-9　ⅢSB-03礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-7-37	21-2	1	1823	ⅢbU	完形	30.9	-28.9	26.2	-4.5	124.0	102.8	1.2	-0.8	15.6	-	Che.	
Ⅱ-7-38	21-2	2	1827	ⅢbU	完形	45.1	-14.7	27.0	-3.7	19.1	-2.1	1.7	-0.3	30.6	-	Sa.	
-	21-2	3	1850	ⅢbU	完形	44.3	-15.5	28.5	-2.2	19.4	-1.8	1.6	-0.4	33.3	-	Sa.	
-	21-2	4	1846	ⅢbU	完形	46.2	-13.6	29.9	-0.8	13.9	-7.3	1.5	-0.4	22.7	-	Sa.	
Ⅱ-7-39	21-2	5	1839	ⅢbU	完形	47.3	-2.7	31.4	0.7	11.9	-9.3	1.5	-0.5	23.7	-	Sa.	
-	21-2	6	1842	ⅢbU	完形	40.3	-19.5	27.4	-3.3	17.0	-4.2	1.5	-0.5	25.6	-	Mud.	
-	21-2	7	1816	ⅢbU	完形	49.8	-10.0	23.3	-7.4	15.3	-5.9	2.1	0.1	24.2	-	Sa.	
-	21-2	8	1845	ⅢbU	完形	49.4	-10.4	23.6	-7.1	19.4	-1.8	2.1	0.1	28.5	-	Sa.	
-	21-2	9	1891-1	ⅢbU	完形	50.2	-9.6	24.9	-5.8	15.9	-5.3	2.0	0.0	43.9	-	Mud.	
-	21-2	10	1894-1	ⅢbU	完形	50.0	-9.8	28.5	-2.2	12.8	-8.4	1.8	-0.2	18.5	-	Mud.	
-	21-2	11	1841	ⅢbU	完形	51.5	-8.3	29.3	-1.4	17.7	-3.5	1.8	-0.2	28.5	-	Mud.	
-	21-2	12	1856	ⅢbU	完形	53.9	-5.9	29.4	-1.3	16.0	-5.2	1.8	-0.2	32.4	-	Sa.	
-	21-2	13	1858	ⅢbU	完形	52.1	-7.7	25.9	-4.8	19.4	-1.8	2.0	0.0	33.9	-	Sa.	
Ⅱ-7-40	21-2	14	1857	ⅢbU	完形	46.1	-13.7	31.8	1.1	16.8	-4.4	1.4	-0.5	35.1	-	Sa.	
-	21-2	15	1813	ⅢbU	完形	50.7	-9.1	29.7	-1.0	16.5	-4.7	1.7	-0.3	32.9	-	Sa.	
-	21-2	16	1860	ⅢbU	完形	47.3	-12.5	28.7	-2.0	22.6	1.4	1.6	-0.3	36.7	-	Sa.	
-	21-2	17	1814	ⅢbU	完形	49.0	-10.8	33.6	2.9	20.9	-0.3	1.5	-0.5	38.1	-	Sa.	
-	21-2	18	1830	ⅢbU	完形	50.3	-9.5	32.4	1.7	15.4	-5.8	1.6	-0.4	29.6	-	Sa.	
-	21-2	19	1834	ⅢbU	完形	49.0	-10.8	34.2	3.5	19.0	-2.2	1.4	-0.6	40.3	-	Sa.	
-	21-2	20	1806	ⅢbU	完形	53.3	-6.5	27.8	-2.9	20.3	-0.9	1.9	-0.1	42.2	-	Sa.	
-	21-2	21	1838	ⅢbU	完形	54.1	-5.7	29.0	-1.7	14.5	-6.7	1.9	-0.1	24.2	-	Sa.	
-	21-2	22	1848	ⅢbU	完形	57.9	-1.9	27.2	-3.5	13.2	-8.0	2.1	0.1	29.3	-	Sa.	
-	21-2	23	1840	ⅢbU	完形	58.2	-1.6	28.3	-2.4	19.5	-1.7	2.1	0.1	26.9	-	Mud.	
-	21-2	24	1825	ⅢbU	完形	57.0	-2.8	22.0	-8.7	17.1	-4.1	2.6	0.6	21.7	-	Mud.	
-	21-2	25	1835	ⅢbU	完形	58.2	-1.6	26.2	-4.5	17.0	-4.2	2.2	0.2	33.7	-	Sa.	
Ⅱ-7-41	21-2	26	1804	ⅢbU	完形	61.3	1.5	33.2	2.5	12.5	-8.7	1.8	-0.1	26.7	-	Mud.	
Ⅱ-7-42	21-2	27	1862	ⅢbU	完形	57.7	-2.1	30.5	-0.2	26.1	4.9	1.9	-0.1	56.2	-	Sa.	
-	21-2	28	1849	ⅢbU	完形	57.1	-2.7	33.4	2.7	21.1	-0.1	1.7	-0.3	54.9	-	Sa.	
Ⅱ-7-43	21-2	29	1892	ⅢbU	完形	60.3	0.5	24.9	-5.8	12.9	-8.3	2.4	0.4	30.1	-	Sa.	
-	21-2	30	1805	ⅢbU	完形	62.6	2.8	32.4	1.7	26.3	5.1	1.9	-0.1	70.2	-	Sa.	
-	21-2	31	1799	ⅢbU	完形	64.2	4.4	39.7	9.0	22.5	1.3	1.6	-0.4	45.2	-	Sa.	
Ⅱ-7-44	21-2	32	1807	ⅢbU	完形	66.3	6.5	32.9	2.2	25.2	4.0	2.0	0.0	57.5	-	Sa.	
-	21-2	33	1893	ⅢbU	完形	71.9	12.1	37.5	6.8	12.2	-9.0	1.9	-0.1	49.2	-	Sa.	
Ⅱ-7-45	21-2	34	1833	ⅢbU	完形	67.9	8.1	23.0	-7.7	13.4	-7.8	3.0	1.0	40.3	-	Mud.	
-	21-2	35	1837	ⅢbU	完形	72.7	12.9	22.5	-8.2	32.1	10.9	3.2	1.2	57.1	-	Mud.	
-	21-2	36	1809	ⅢbU	完形	70.9	11.1	31.5	0.8	16.9	-4.3	2.3	0.3	37.2	-	Mud.	
-	21-2	37	1810	ⅢbU	完形	73.6	13.8	32.3	1.6	19.2	-2.0	2.3	0.3	40.3	-	Sa.	
-	21-2	38	1796	ⅢbU	完形	82.2	22.4	35.6	4.9	17.7	-3.5	2.3	0.3	66.6	-	Sa.	
Ⅱ-7-46	21-2	39	1803	ⅢbU	完形	84.9	25.1	45.3	14.6	20.5	-0.7	1.9	-0.1	76.9	-	Mud.	
Ⅱ-7-47	21-2	40	1795	ⅢbU	完形	86.9	27.1	28.5	-2.2	9.9	-11.3	3.0	1.1	45.2	-	Gni.	
Ⅱ-7-48	21-2	41	1819	ⅢbU	完形	82.2	22.4	33.4	2.7	38.0	16.8	2.5	0.5	163.0	-	Qu.	
Ⅱ-7-49	21-2	42	1798	ⅢbU	完形	93.9	34.1	24.9	-5.8	19.7	-1.5	3.8	1.8	57.8	●	Sa.	
Ⅱ-7-50	21-2	43	1794	ⅢbU	完形	110.8	51.0	72.0	41.3	30.8	9.6	1.5	-0.5	310.0	-	Qu-Sch.	
完形合計						2569.5		1319.7		911.6		85.6		2036.5			
完形平均値						59.8		30.7		21.2		2.0		47.4			
遺物総重量														2798.9			

表Ⅱ-10　ⅢSB-04礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-7-51	21-3	1	478	ⅢbU	完形	17.6	-2.4	11.5	5.6	12.6	-1.3	1.5	-3.4	46.7	●	Sa.	
-	21-3	2	481	ⅢbU	完形	20.3	0.3	9.2	3.3	18.1	4.2	2.2	-2.7	50.5	-	Sa.	
-	21-3	3	493	ⅢbU	完形	27.7	7.7	7.3	1.4	27.2	13.3	3.8	-1.1	33.6	●	Mud.	
-	21-3	4	483	ⅢbU	完形	29.3	9.3	12.2	6.3	23.3	9.4	2.4	-2.5	30	-	Sa.	
Ⅱ-7-52	21-3	5	480	ⅢbU	完形	33.3	13.3	1.4	-4.5	17.1	3.2	23.8	18.9	78.4	-	Sa.	
Ⅱ-7-53	21-3	6	477	ⅢbU	完形	31.9	11.9	5.8	-0.1	13.0	-0.9	5.5	0.6	77.7	●	Sa.	
完形合計						160.1		47.4		111.3		39.2		316.9			
完形平均値						20.0		5.9		13.9		4.9		39.6125			
遺物総重量														569.2			

表Ⅱ-11　ⅢSB-06礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-7-54	21-4	1	637	ⅢbU	完形	16.1	-3.9	5.3	-0.6	20.1	6.2	3.0	-1.9	39.8	-	Sa.	
Ⅱ-7-55	21-4	2	635	ⅢbU	完形	16.4	-3.6	14.0	8.1	22.0	8.1	1.2	-3.7	27.2	●	Sa.	紐痕
-	21-4	3	636	ⅢbU	完形	25.6	-32.9	3.8	-23.5	17.4	-0.1	6.7	2.6	71.9	-	Sa.	
-	21-4	4	642	ⅢbU	完形	24.5	-34.0	1.9	-25.4	20.7	3.2	12.9	8.8	63.5	-	Sa.	
Ⅱ-7-56	21-4	5	639/640	ⅢbU	完形	27.9	-30.6	4.8	-22.5	12.1	-5.4	5.8	1.7	73.3	●	Sa.	紐痕
-	21-4	6	638	ⅢbU	完形	70.2	11.7	40.6	13.3	23.9	6.4	1.7	-2.4	82.1	-	Sa.	
-	21-4	7	632	ⅢbU	完形	68.5	10.0	43.8	16.5	19.8	2.3	1.6	-2.6	73.3	-	Sa.	
-	21-4	8	643	ⅢbU	完形	73.8	15.3	31.7	4.4	17.0	-0.5	2.3	-1.8	51.5	●	Sa.	
Ⅱ-7-57	21-4	9	628	ⅢbL	完形	75.9	17.4	37.5	10.2	16.9	-0.6	2.0	-2.1	3.0	●	Sa.	
-	21-4	10	629	ⅢbL	完形	81.2	22.7	35.4	8.1	18.6	1.1	2.3	-1.8	73.0	-	Sa.	
Ⅱ-7-58	21-4	11	631	ⅢbL	完形	79.2	20.7	46.0	18.7	11.5	-6.0	1.7	-2.4	59.0	●	Mud.	
完形合計						526.8		245.5		157.9		37.1		550.6			
完形平均値						58.5		27.3		17.5		4.1		61.2			
遺物総重量														811.3			

点、ネズミ類２点、マイマイ類？１点が出土した。マイマイ類？は後世の混入と思われる。シカは頭蓋骨の上顎先端１点、臼歯１点を含む歯冠破片４点、基節骨５点、長管骨１点、中手・中足骨などの第二・五指趾５点、大腿骨１点、種子骨１点が同定されており、基節骨、大腿骨には骨幹切断痕や金属器による切除痕が残されている。哺乳綱は長管骨が多い。(第４部 第Ⅱ章参照)。シカは特に四肢骨が多いことから、他の場所で解体されたものが持ち込まれたと判断される。　　(山田)

第3節　建物跡

複数の柱穴で構成され、上屋構造が想定される遺構を建物跡とした。検出した建物跡は３軒で、いずれも５～６本の柱穴で構成される。柱穴は「打込み」(建物跡３・５）と「掘方」(建物跡４）の両タイプが認められ、覆土はいずれも黒色土が主体である。また、覆土に多量の Ta-b テフラを含む柱穴を検出したが、Ta-b 降下以後の近現代の遺構と判断し、第Ⅵ章に記載した。　　(山田)

建物跡３（図Ⅱ-９　図版６-１・２）

位　置：J・K-35・36　規　模：350×265 cm　構　成：５本柱（ⅢKP-37～39・55・56）

確認・調査：調査区西側のⅣ層上面で、規則的に配列する直径約 10 cmの黒色土の円形プランを５基検出した。建物跡と推定し調査を行った。柱穴は３×２本の組み合わせをなし、柱穴間距離は長軸 2.0m、短軸 2.3mの間隔で位置する。１基は調査区外に位置すると考えられる。また、推定だが、さらに調査区外に３基が位置し、９本柱の建物跡の可能性もある。

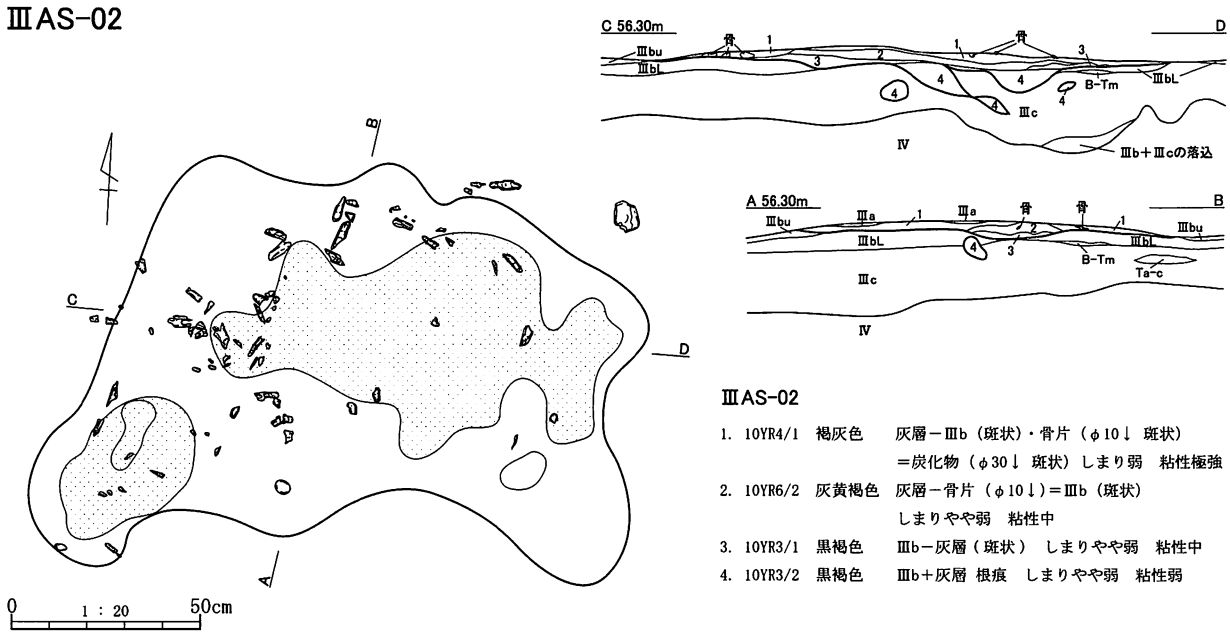
柱穴：直径８～14 cm、確認面からの深さは最大 54 cm、先端部はⅧ層に達する。先端は尖り、すべて「打込み」で、ⅢKP-55 では壁面に硬化が認められる。覆土はⅣ層がわずかに混ざるⅢc 層を主体とし、しまり、粘性ともに弱い。　　(山田)

建物跡４（図Ⅱ-９　図版６-３～７）

位　置：K-22、L-21・22　規　模：285×282 cm　構　成：６本柱（ⅢKP-41～46）

確認・調査：Ⅵ層上面遺構確認調査で、Ⅲ層にⅣ層が混入する黒褐色土の円形プランを検出した。Ⅳ層上面で確認できなかったⅢ層の柱穴と考え周囲を精査したところ、円形プランの規則的な配列を確認し、建物跡として調査した。柱穴は３×２本の組み合わせをなし、柱穴間距離は長軸約 1.1～1.5m、短軸約 2.7mの間隔で位置する。

柱穴：直径９～32 cm、柱痕と掘方を検出し、先端がⅧ層まで達するものがある。覆土は柱痕部分がしまりの弱いⅢ・Ⅴ層、掘方部分はしまりの強いⅤ層・Ⅵ層が主体である。　　(山田)



図Ⅱ-8　ⅢAS-02 平面及び断面図

表Ⅱ-12　ⅢAS-02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層 位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-8	5-1	ⅢAS-02	K-32	ⅢbU	不整形	172	102	8	有	未被熱

建物跡５（図Ⅱ-10　図版６-８～10）

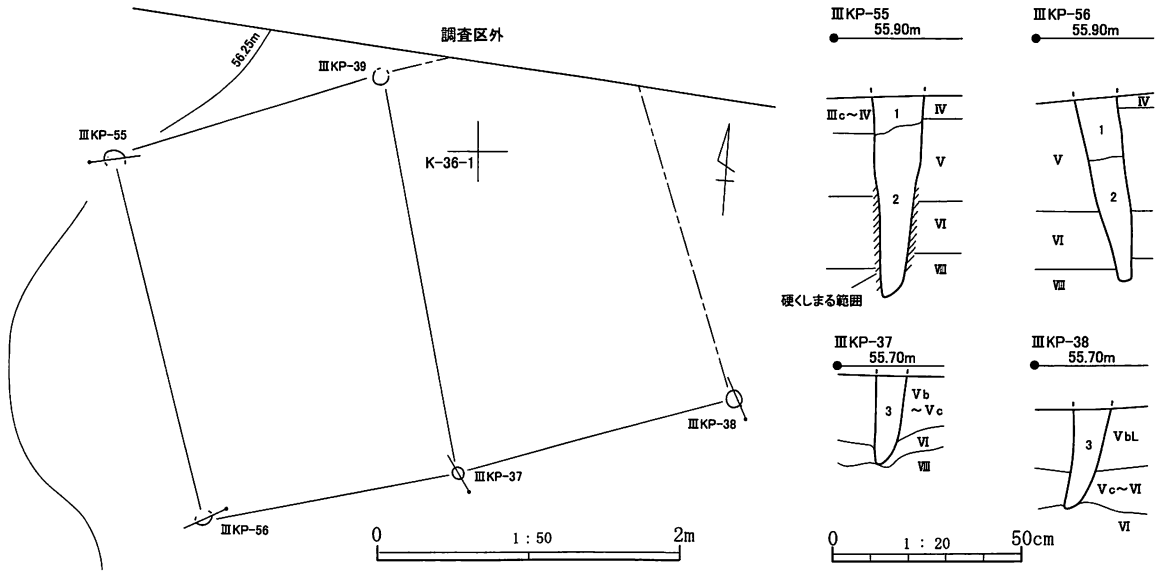
位　置：L-29・30　規　模：365×285 cm　構　成：６本柱（ⅢKP-23・25・47～50）

確認・調査：Ⅳ層上面遺構確認調査で、黒色土の円形プランを２基確認した。ⅢKP-23・25 として調査し、配列の有無を確認するため周囲を精査したが、Ⅳ層上面では柱穴の検出に至らなかった。Ⅴ層調査を終了し、Ⅵ層上面遺構確認調査の際にⅢ層の黒色土を主体とする円形プランを検出した。これらの柱穴がⅢKP-23・25 と組み合わさることを確認し、建物跡として調査した。柱穴は３×２本の組み合わせをなし、柱穴間距離は長軸約 1.7m、短軸約 2.6mの間隔で位置する。

柱穴：直径 10～24 cm、確認面からの深さは最大 70 cm、すべて先端が尖る「打込み」でⅧ層に達する。覆土は上位から中位にかけてしまりの弱いⅢ層、下位はしまりの弱いⅤ層が主体となる。

（山田）

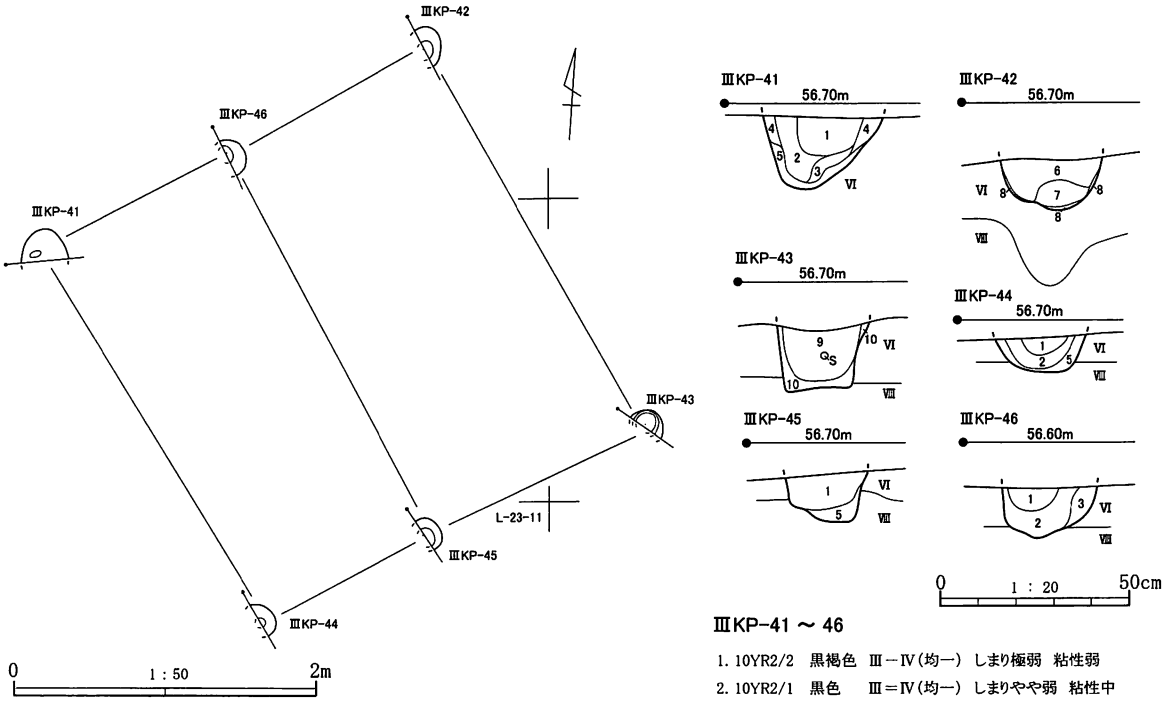
建物跡 3



ⅢKP37·38·55·56

1. 10YR2/1　黒色　Ⅲ≡Ⅳ(均一)　しまり中　粘性中
2. 10YR1.7/1　黒色　Ⅲ≡Ⅳ·Ta-d（均一）しまりなし　粘性中
3. 10YR2/1　黒色　Ⅲc＝Ⅳ(均一)　しまりなし　粘性なし

建物跡 4



ⅢKP-41 ～ 46

1. 10YR2/2　黒褐色　Ⅲ－Ⅳ(均一)　しまり極弱　粘性弱
2. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＝Ⅳ(均一)　しまりやや弱　粘性中
3. 10YR2/3　黒褐色　Ⅵ－Ⅴ(均一)　しまり強　粘性極強
4. 10YR3/4　暗褐色　Ⅵ　しまり強　粘性中
5. 10YR4/4　褐色　Ⅵ－Ta-dp（φ10↓ 均一）しまり強　粘性中
6. 10YR2/2　黒褐色　Ⅲ－Ⅴ＝Ⅵ(均一)　しまり中　粘性弱
7. 10YR2/3　黒褐色　Ⅵ＝Ⅴ≡Ⅲ(均一)　しまりやや強　粘性中
8. 10YR2/1　黒色　Ⅴ　しまり強　粘性中
9. 10YR2/1　黒色　Ⅲ－Ⅴ＝Ⅳ(均一)　しまり強　粘性弱
10. 10YR4/4　褐色　Ⅵ＝Ⅴ(斑状)　しまり強　粘性弱

図Ⅱ-9　建物跡3·4 平面及び断面図

表Ⅱ-13　建物跡3柱穴属性表（平面規模：350cm×265cm）

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備　考
				上端	下端	深さ			
Ⅱ-9	-	ⅢKP-55	K-36	14	2	54	4°	打込み	
Ⅱ-9	-	ⅢKP-56	K-36	11	2	50	7°	打込み	
Ⅱ-9	6-1	ⅢKP-37	K-36	8	2	24	6°	打込み	
Ⅱ-9	6-2	ⅢKP-38	K-35	10	2	26	11°	打込み	

表Ⅱ-14　建物跡4柱穴属性表（平面規模：285cm×282cm）

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備　考
				上端	下端	深さ			
Ⅱ-9	-	ⅢKP-41	L-22	32	7	19	0°	掘方	
Ⅱ-9	6-4	ⅢKP-42	K-22	17	6	13	0°	掘方	
Ⅱ-9	6-5	ⅢKP-43	L-21	15	14	16	0°	掘方	
Ⅱ-9	-	ⅢKP-44	L-22	9	24	12	0°	掘方	
Ⅱ-9	-	ⅢKP-45	L-22	12	22	10	8°	掘方	
Ⅱ-9	-	ⅢKP-46	K-22	13	25	14	0°	掘方	

表Ⅱ-15　建物跡5柱穴属性表（平面規模：365cm×285cm）

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備　考
				上端	下端	深さ			
Ⅱ-10	6-9	ⅢKP-23	L-30	22	1	64	1°	打込み	
Ⅱ-10	-	ⅢKP-25	L-30	24	2	70	2°	打込み	
Ⅱ-10	-	ⅢKP-47	L-29	10	1	22	0°	打込み	
Ⅱ-10	-	ⅢKP-48	L-29	12	1	18	7°	打込み	
Ⅱ-10	-	ⅢKP-49	L-29	12	1	18	0°	打込み	
Ⅱ-10	-	ⅢKP-50	L-29	12	1	23	4°	打込み	

第４節　杭　跡

杭跡（図Ⅱ-10・11　図版６-11～13）

位　置：J-33・K-24・25・32～34・L-29・30・32・33

検出数：21 基（ⅢKP-09～13・18～20・22・24・28～34・51～54）

確認・調査：断面観察によって柱穴と認定したものは平地式住居跡や建物跡を想定して、周囲を精査したが、このうち、規則的な配列が認められないものを杭跡として扱った。検出した杭跡は 21 基で、ⅢKP-18 のみ柱痕と掘方を持つ。他はすべて「打込み」である。規模は直径 8～10 cmが多く、最小規模は直径８cm、深さ 10 cm（ⅢKP-54）、最大規模は直径 28 cm、深さ 50 cm（ⅢKP-18）がある。柱穴先端形状はⅢKP-10・22 が丸く、他はすべて尖る。（山田）

第5節　焼土及び遺物集中

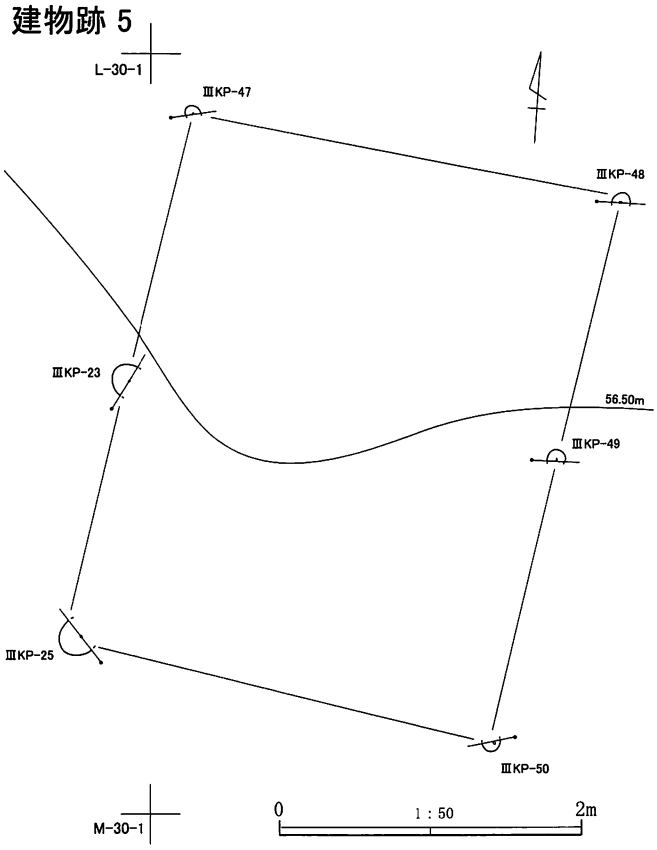
ⅢＦ-03・ⅢSB-05（図Ⅱ-12・13　図版７-１・２・５）

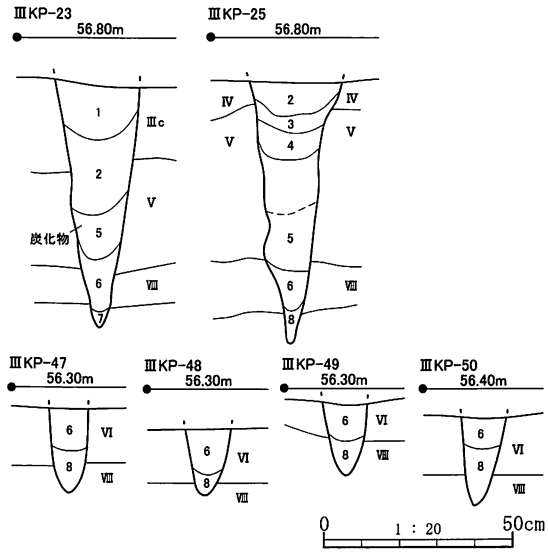
〔ⅢＦ-03〕　位　置：K-33　規　模：86×58×８cm

〔ⅢSB-05〕　位　置：K-33

K-33 区のⅢbU 層調査中、僅かに焼骨片を確認した。周辺の精査を行い範囲確認したところ、楕円形に広がる焼土を検出した。平面形の記録後、長軸方向に半截して断面記録を行った。焼土は１・２層に灰層がなく、僅かな焼骨片と被熱層ブロックが認められることから、掻き出し等の行為が行われていたと考えられる。また、周囲の精査を行ったところ焼土の南西側から集石（ⅢSB-05）を検

建物跡 5

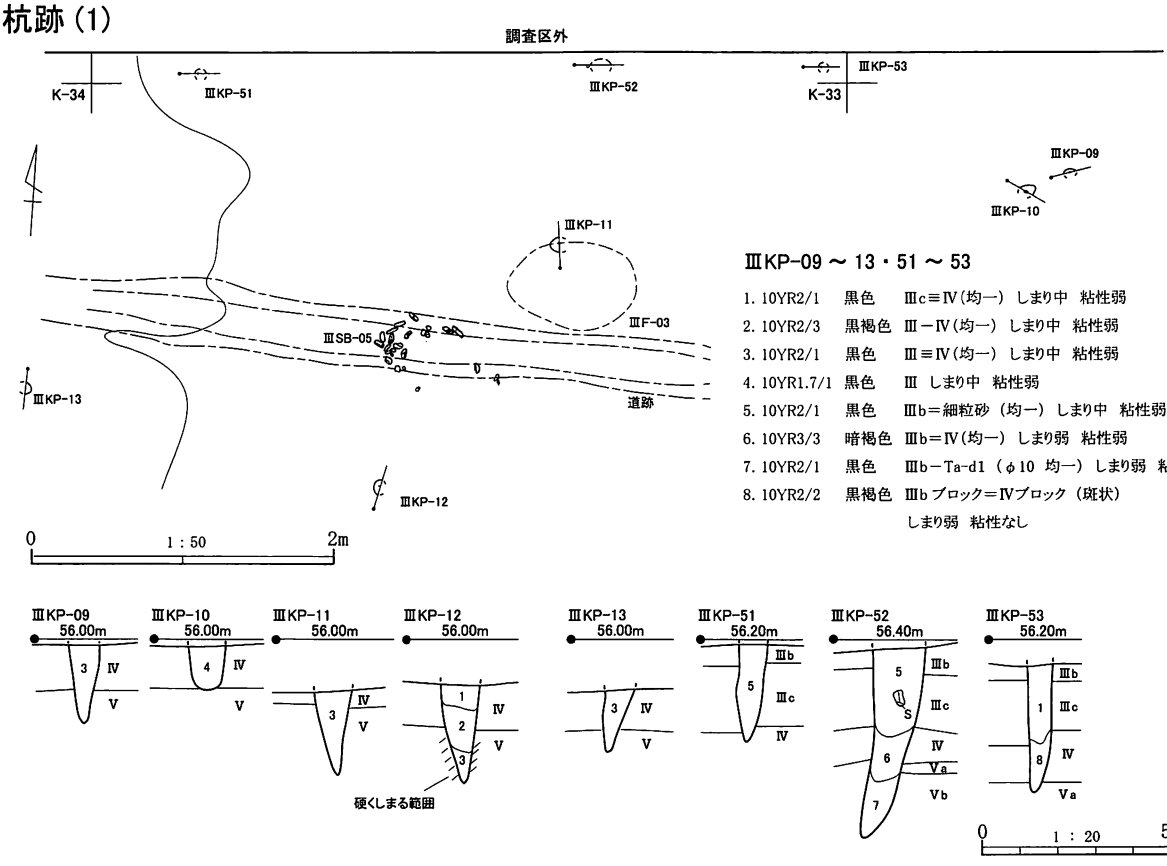




ⅢKP-23・25・47 ～ 50

1. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＝Ⅳ　しまり弱　粘性中
2. 10YR2/2　黒褐色　Ⅳ－Ⅲ　しまり強　粘性やや弱
3. 10YR2/3　黒褐色　Ⅳ＝Ⅲ　しまり強　粘性弱
4. 10YR3/3　暗褐色　Ⅲ＋Ⅳ　しまり中　粘性弱
5. 10YR2/1　黒色　Ⅲ－Ⅴ＝Ⅳ　しまり弱　粘性強
6. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＋Ⅴ≡Ⅳ　しまり極弱　粘性極強
7. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴ－Ta-dp（φ3↓ 均一）＝Ⅳ　しまり極弱　粘性極強
8. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴ－Ta-dP（φ3↓ 斑状）しまり弱　粘性強

杭跡（1）

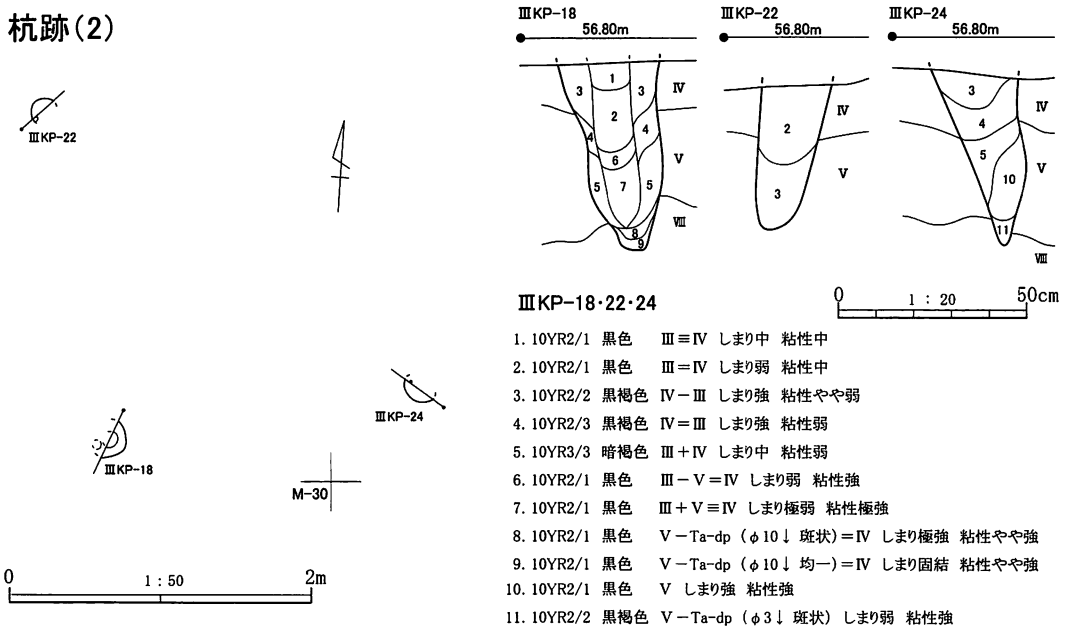


ⅢKP-09 ～ 13・51 ～ 53

1. 10YR2/1　黒色　Ⅲc≡Ⅳ(均一) しまり中　粘性弱
2. 10YR2/3　黒褐色　Ⅲ－Ⅳ(均一) しまり中　粘性弱
3. 10YR2/1　黒色　Ⅲ≡Ⅳ(均一) しまり中　粘性弱
4. 10YR1.7/1　黒色　Ⅲ　しまり中　粘性弱
5. 10YR2/1　黒色　Ⅲb＝細粒砂（均一）しまり中　粘性弱
6. 10YR3/3　暗褐色　Ⅲb＝Ⅳ(均一) しまり弱　粘性弱
7. 10YR2/1　黒色　Ⅲb－Ta-d1（φ10 均一）しまり弱　粘性弱
8. 10YR2/2　黒褐色　Ⅲb ブロック＝Ⅳブロック（斑状）しまり弱　粘性なし

図Ⅱ-10　建物跡5・杭跡（1）平面及び断面図

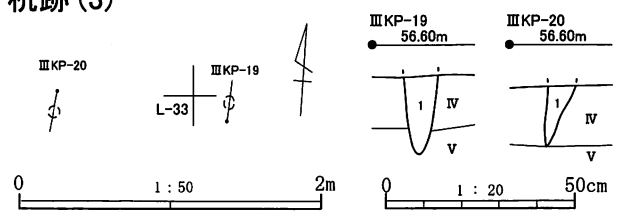
杭跡(2)



ⅢKP-18・22・24

1. 10YR2/1 黒色　Ⅲ≡Ⅳ しまり中 粘性中
2. 10YR2/1 黒色　Ⅲ＝Ⅳ しまり弱 粘性中
3. 10YR2/2 黒褐色 Ⅳ－Ⅲ しまり強 粘性やや弱
4. 10YR2/3 黒褐色 Ⅳ＝Ⅲ しまり強 粘性弱
5. 10YR3/3 暗褐色 Ⅲ＋Ⅳ しまり中 粘性弱
6. 10YR2/1 黒色　Ⅲ－Ⅴ＝Ⅳ しまり弱 粘性強
7. 10YR2/1 黒色　Ⅲ＋Ⅴ≡Ⅳ しまり極弱 粘性極強
8. 10YR2/1 黒色　Ⅴ－Ta-dp（φ10↓ 斑状）＝Ⅳ しまり極強 粘性やや強
9. 10YR2/1 黒色　Ⅴ－Ta-dp（φ10↓ 均一）＝Ⅳ しまり固結 粘性やや強
10. 10YR2/1 黒色　Ⅴ しまり強 粘性強
11. 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ－Ta-dp（φ3↓ 斑状）しまり弱 粘性強

杭跡(3)



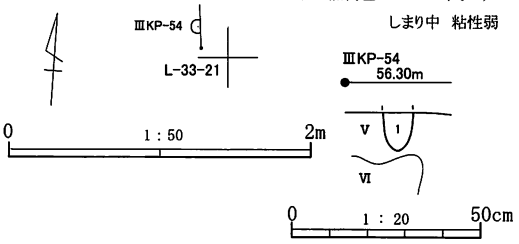
ⅢKP-19・20

1. 10YR2/1 黒色 Ⅲ＝Ⅳ(斑状) しまり中 粘性弱

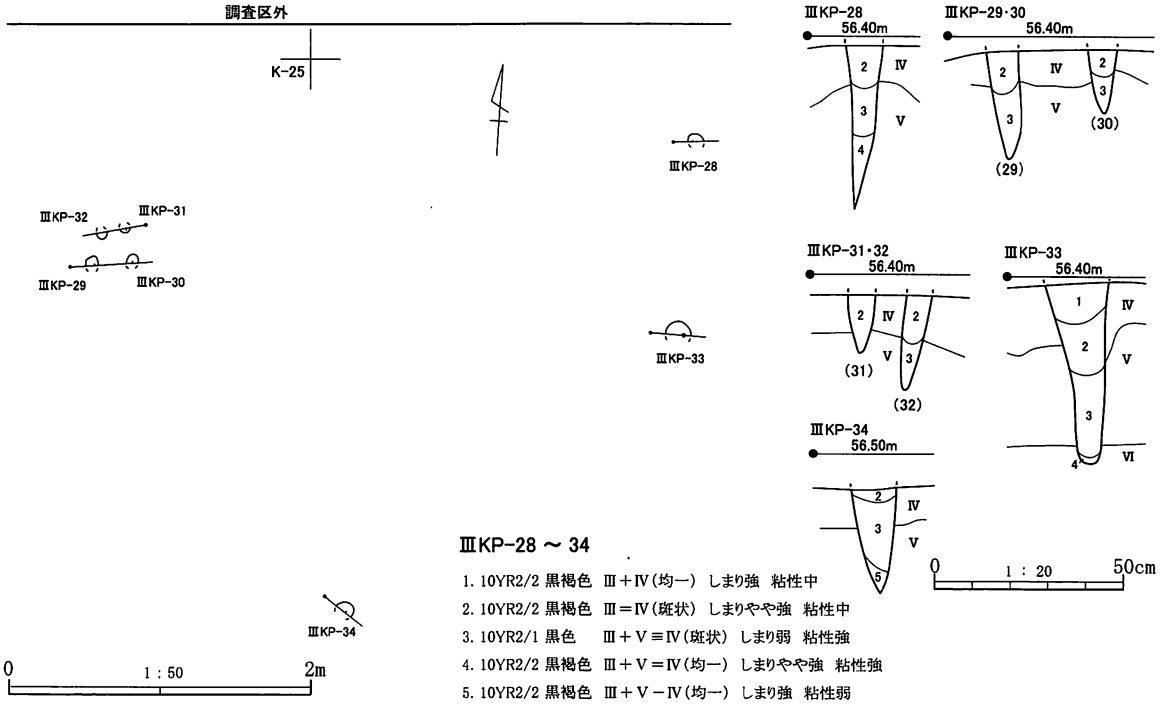
杭跡(4)

ⅢKP-54

1. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb－Ⅵ(均一) しまり中 粘性弱



杭跡(5)



ⅢKP-28 ～ 34

1. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲ＋Ⅳ(均一) しまり強 粘性中
2. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲ＝Ⅳ(斑状) しまりやや強 粘性中
3. 10YR2/1 黒色　Ⅲ＋Ⅴ≡Ⅳ(斑状) しまり弱 粘性強
4. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲ＋Ⅴ＝Ⅳ(均一) しまりやや強 粘性強
5. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲ＋Ⅴ－Ⅳ(均一) しまり強 粘性弱

図Ⅱ-11　杭跡(2)～(5)平面及び断面図

表Ⅱ-16 杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
				上端	下端	深さ			
Ⅱ-10	-	ⅢKP-09	K-32	8	1	20	4°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-10	6-11	ⅢKP-10	K-32	10	3	12	3°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-10	-	ⅢKP-11	K-33	10	1	22	5°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-10	-	ⅢKP-12	K-33	10	1	16	2°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-10	-	ⅢKP-13	K-34	8	1	16	7°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-18	L-30	26	6	50	6°	掘方	杭跡(2)
Ⅱ-11	6-12	ⅢKP-19	L-32	9	1	20	0°	打込み	杭跡(3)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-20	L-33	8	1	16	11°	打込み	杭跡(3)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-22	L-30	18	2	38	5°	打込み	杭跡(2)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-24	L-29	23	1	24	7°	打込み	杭跡(2)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-28	K-24	10	1	44	6°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-11	6-13	ⅢKP-29	K-25	8	2	29	7°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-30	K-25	8	1	16	5°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-31	K-25	7	1	16	0°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-32	K-25	6	2	25	10°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-33	K-24	17	2	48	3°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-34	K-24	12	1	28	0°	打込み	杭跡(5)
Ⅱ-10	-	ⅢKP-51	J-33	8	1	26	6°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-10	-	ⅢKP-52	J-33	14	1	50	10°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-10	-	ⅢKP-53	J-33	7	2	34	2°	打込み	杭跡(1)
Ⅱ-11	-	ⅢKP-54	L-33	8	2	10	0°	打込み	杭跡(4)

出した。出土層位が同じであり、棒状礫が被熱していることから共伴する遺構と考えられる。ⅢSB-05の上位には道跡が見つかっており、アイヌ文化期の中でも時間差があると思われる。１～４は出土した棒状礫の一部で１・２・４は被熱しており紐痕が僅かに認められる。構成礫の規格も長短比の標準偏差が３を抜いて-0.5から-1.3と比較的平均値に近いため、選択的に持ち込まれていると言える。

（奈良）

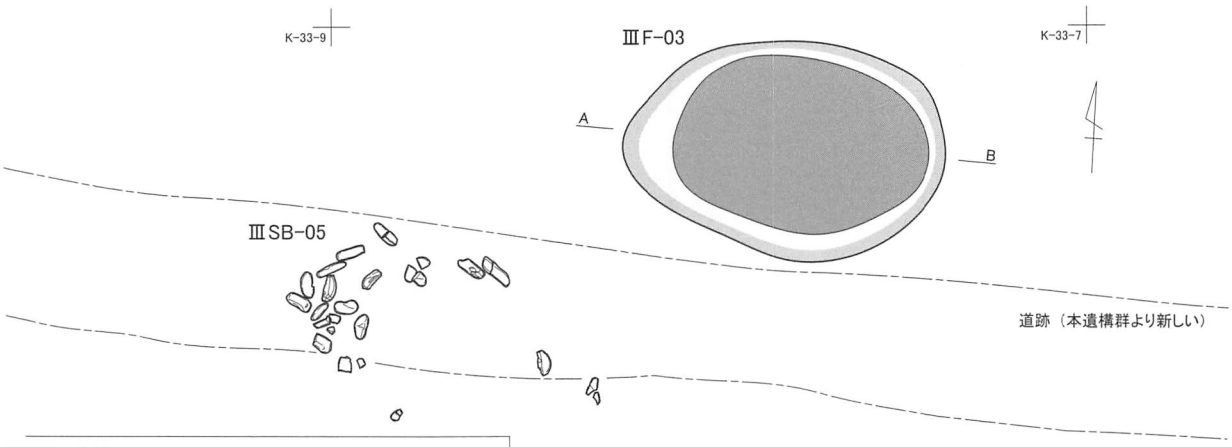
ⅢF-05（図Ⅱ-12　図版７-３・４）

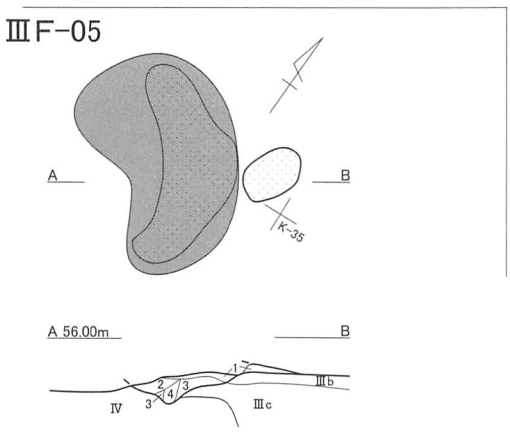
調査区西側に撹乱を受けた状態で灰層と焼土を検出した。調査区内でも西側はⅢbからⅣ層まで削平が達し、本遺構もプラウによる撹乱を受けている。しかし、灰層の残存状態からアイヌ文化期の可能性が高いと考えられ、本節にて掲載を行っている。調査は平面の記録をとった後に、灰層のサンプルをとりながら半截を行い、断面の記録をとって調査終了とした。断面観察から１層は灰層で、４層は２層と同じ地山被熱層であったと考えられる。（奈良）

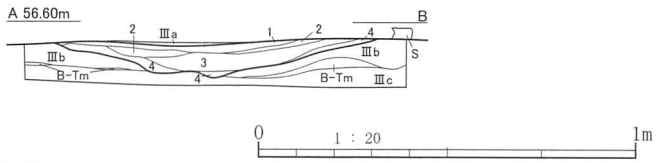
ⅢBB-01（図Ⅱ-14　図版７-６～８）

調査区の東側、L-25区付近をⅢc層まで掘り下げたところ、Ⅲb層が落ち窪む不整形プランからシカの歯列を検出した。周辺の精査を行ったところ同様の獣骨が出土したため、獣骨集中を想定した調査を行った。獣骨はⅢb層主体の黒色土層から主に出土し、分布域もⅢb層が落ち窪む196×168cmの中で出土している。獣骨全体の精査を行った後、全体と個別の記録をとって調査終了とした。本遺構の検出面はⅢc層であるが、獣骨がⅢb層起源の黒色土で浅い皿状の窪みから出土することからアイヌ文化期に帰属する不整形な土坑に廃棄されたものと考えられる。（奈良）

ⅢF-03・ⅢSB-05







ⅢF-03

1. 10YR2/1　黒色　Ⅲa＝3 層（斑状）しまり弱　粘性中
2. 10YR3/4　暗褐色　燃焼面－Ⅲ（斑状）・焼土ブロック≡骨片（φ5↓ 斑状）しまり弱　粘性やや弱
3. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅲb 地山被熱層≡Ⅲ（斑状）・骨片（φ5↓ 斑状）しまりやや弱　粘性弱
4. 10YR2/2　黒褐色　Ⅲb 付帯黒色土＝3 層≡骨片（φ5↓ 斑状）しまり中　粘性弱

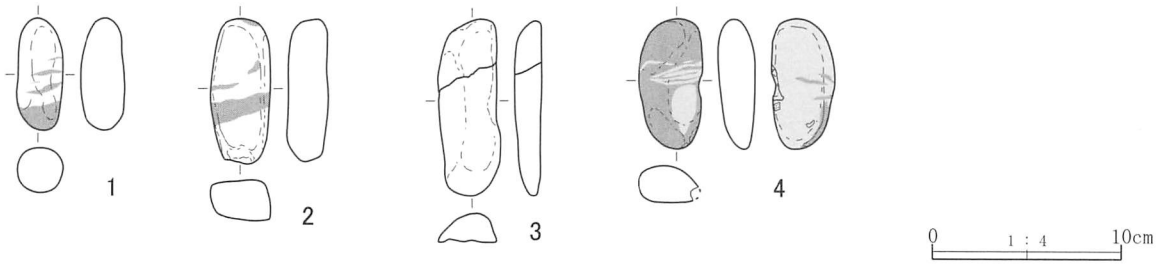
ⅢF-05

1. 7.5YR7/8　黄橙色　Ⅲb＝灰層（斑状）しまり中　粘性強
2. 7.5YR6/8　橙色　地山被熱層　しまりなし　粘性なし
3. 10YR3/1　黒褐色　Ⅲc 付帯黒色土　しまり中　粘性中
4. 7.5YR6/8　橙色　1 層 －焼土ブロック＋灰層（10YR6/2 灰黄褐色）

図Ⅱ-12　ⅢF-03･05･ⅢSB-05 平面及び断面図

表Ⅱ-17　ⅢF-03･05属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層 位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-12	7-1	ⅢF-03	K-33	ⅢbU	楕円形	86.0	58.0	8.0	骨片	
Ⅱ-12	7-3	ⅢF-05	K-35	ⅢbL	不整形	60.0	43.0	7.0	灰層	撹乱受ける

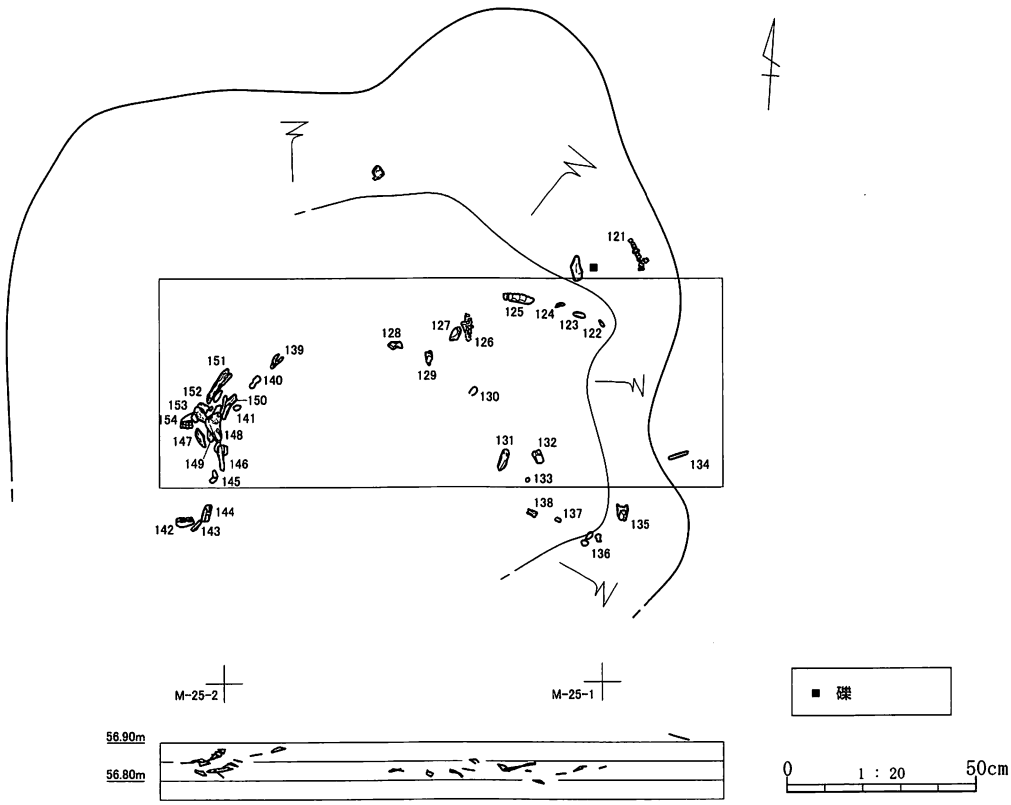


図Ⅱ-13　ⅢSB-05 出土礫

表Ⅱ-18　ⅢSB-05礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-13-1	22-1	1	623	ⅢbU	完形	59.7	-12.1	23.2	-6.4	23.4	2.6	2.6	-0.5	39.6	●	Sa.	
-	22-1	2	616	ⅢbU	完形	62.6	-9.2	35.3	5.7	18.7	-2.1	1.8	-1.3	42.6	-	Sa.	
-	22-1	3	615	ⅢbU	完形	63.9	-7.9	34.5	-7.9	24.7	3.9	1.9	-1.2	63.7	-	Sa.	
-	22-1	4	604	ⅢbU	完形	67.6	-4.2	28.4	-4.2	16.1	-4.7	2.4	-0.7	44.8	●	Sa.	
-	22-1	5	624	ⅢbU	完形	68.5	-3.3	33.0	-3.3	16.7	-4.1	2.1	-1.0	52.0	-	Sa.	
-	22-1	6	625	ⅢbU	完形	73.4	1.6	31.0	1.6	27.1	6.3	2.4	-0.7	60.7	-	Mud.	
-	22-1	7	618	ⅢbU	完形	72.7	0.9	36.4	0.9	22.8	2.0	2.0	-1.1	43.6	●	Sa.	609と接合
Ⅱ-13-2	22-1	8	613	ⅢbU	完形	76.9	5.1	30.3	5.1	20.6	-0.2	2.5	-0.6	80.1	●	Sa.	
-	22-1	9	627	ⅢbU	完形	83.1	11.3	32.6	11.3	18.3	-2.5	2.5	-0.6	67.2	-	Sa.	
Ⅱ-13-3	22-1	10	605	ⅢbU	完形	93.4	21.6	7.8	21.6	24.2	3.4	12.0	8.9	50.6	-	Sa.	
Ⅱ-13-4	22-1	11	626	ⅢbU	完形	68.5	-3.3	33.6	-3.3	16.0	-4.8	2.0	-1.1	53.7	●	Sa.	
完形合計						790.3		326.1		228.6		34.1		598.6			
完形平均値						71.8		29.6		20.8		3.1		54.4			
遺物総重量														1051			

ⅢBB-01



図Ⅱ-14　ⅢBB-01 平面及び垂直分布図

表Ⅱ-19　ⅢBB-01属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	短軸	主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
Ⅱ-14	7-6	L-24・25	Ⅲc	不整形	(195)	(168)	-	未被熱	-	浅い土坑内出土

第6節　道　跡

道　跡（図Ⅱ-15　図版８-１～６）

位　置：K-21･22･25～34　規　模：6,633×51×5.3 cm　方　位：N-90° E

確認・調査：樽前ｂテフラ除去後に、浅い溝状の窪みを１条検出した。溝状の窪みはⅢ層上面が削平されていた影響で部分的に途切れていたが、東西方向に続いていた。一部、火山灰を除去したところ、Ⅲ層上面で硬化面を確認した。削平範囲についても硬化が認められ、その範囲を推定することができた。これを人為的な填圧による硬化と判断し、道跡として調査した。火山灰を窪みに残した状態で、短軸方向のトレンチを５m間隔で設定し、土層断面の記録を行った。道跡は約 50 cm幅で、削平範囲の硬化面を含めると総延長は約 66mとなる。

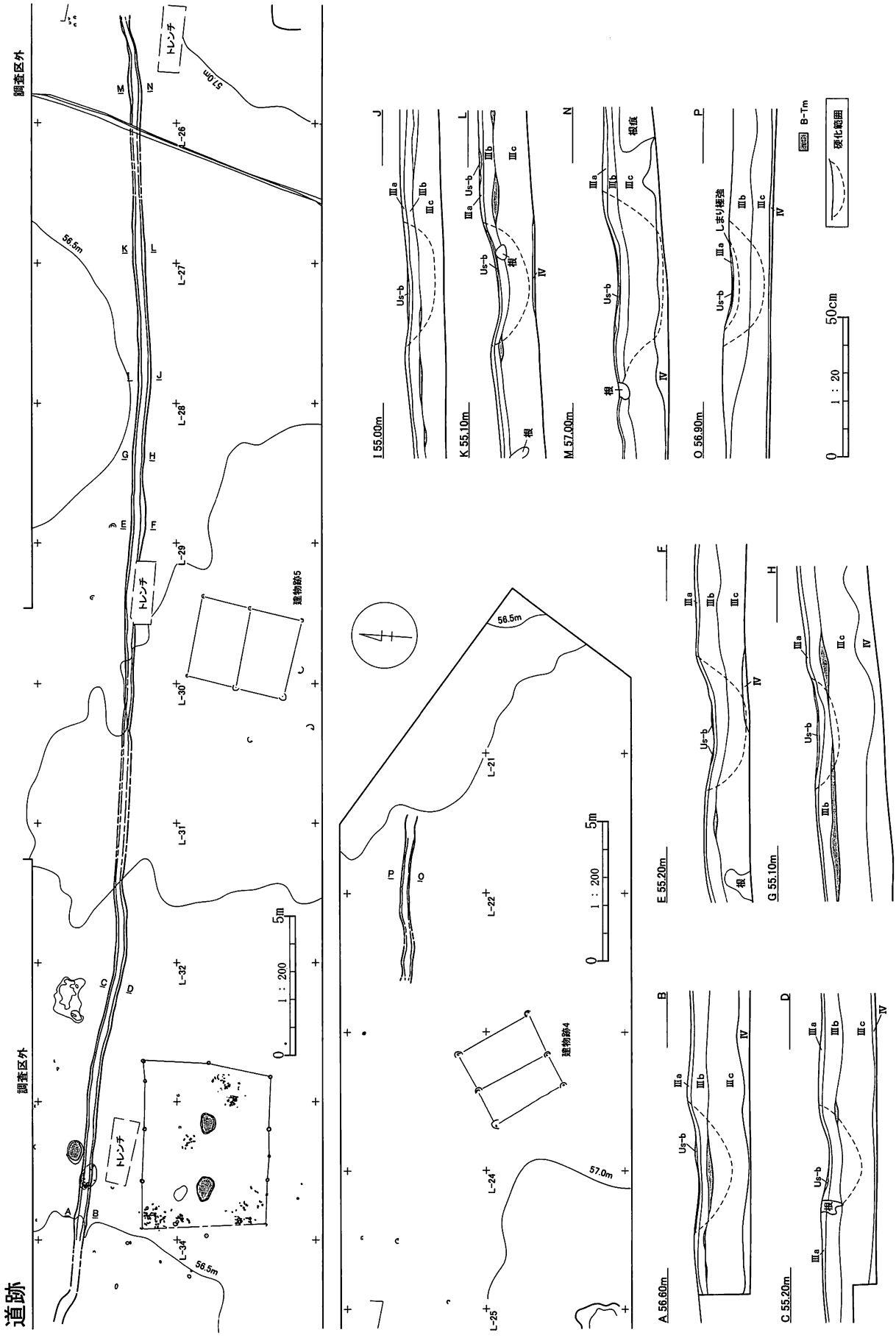
堆積状態：断面は２～５cm程皿状に窪み、Ⅲ層上位から下位層にかけて硬化範囲が認められ、硬化は一部Ⅳ層に達する。樽前ｂテフラ直下で斑状に堆積する有珠ｂテフラを検出したことから 1663 年以前に形成された道跡である。道跡より下層で中世アイヌ文化期と考えられるⅢSB-05 が重複して検出されたことから近世段階の道跡と考えられる。（山田）

表Ⅱ-20　道跡属性表

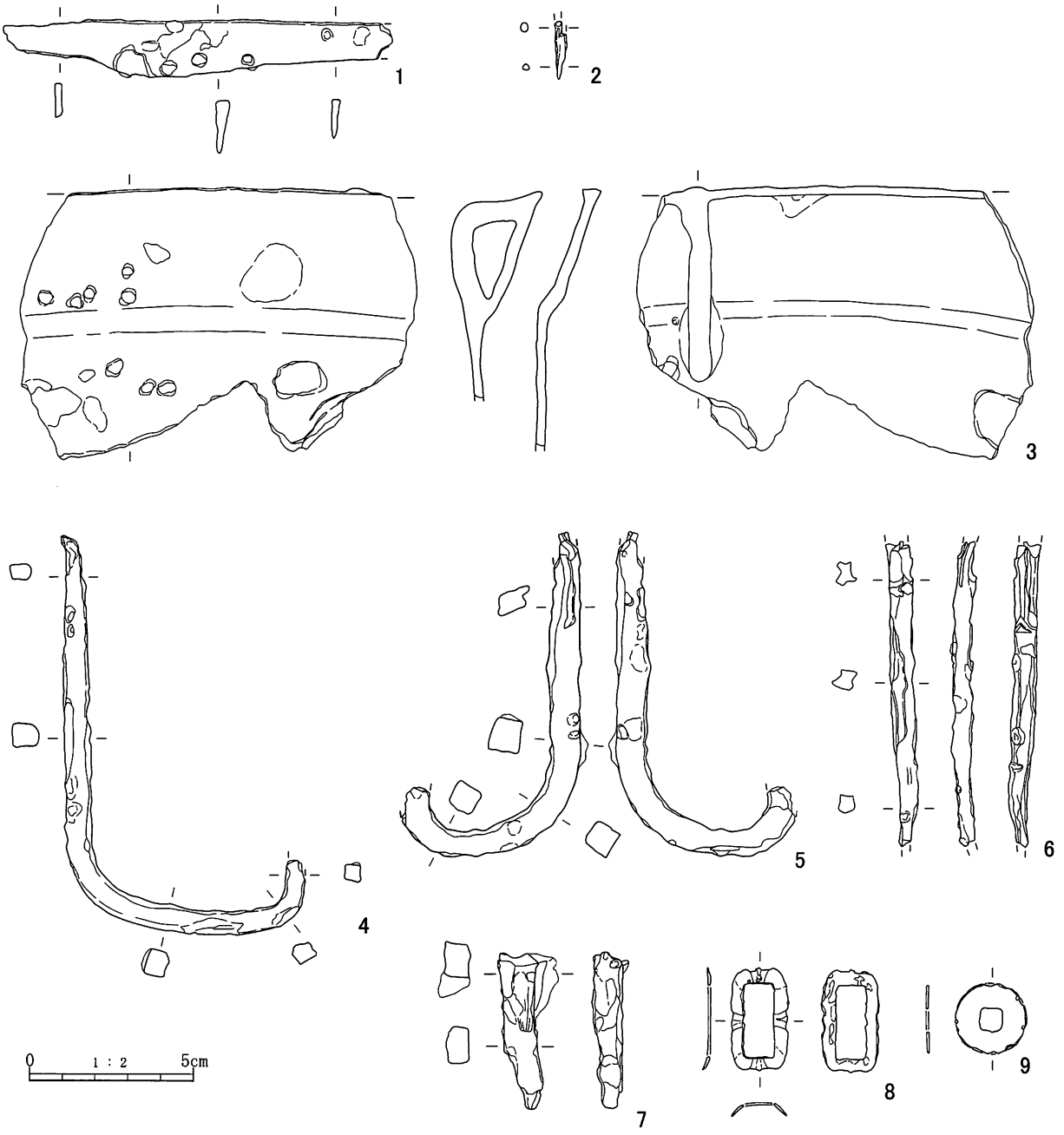
挿図番号	図版番号	グリッド	層 位	規模(cm)			方位	条数	備　考
				長さ	幅	窪み			
Ⅱ-15	8-1	K-21･22･25～34	ⅢaU	6630	51	5.3	N-90° E	1	Us-b下

第7節　包含層出土遺物

金属製品：（図Ⅱ-16-１～９　図版 22-２-１～９）：アイヌ文化期の包含層より出土した金属製品は９点で、５以外全てⅢbU 層からである。本遺跡では中世段階の平地式住居跡を検出していることから、これら金属製品は中世アイヌ文化期の所産であると考えられる。金属製品は 30 ラインより西側に主な分布域を示し、平地式住居跡周辺で検出されていることがわかる。１は切先を欠損している刀子である。平棟で区が不明瞭、茎は断面角状で目釘孔は認められない。２は縫い針の先端部で、本数は２本と思われ断面が丸状である。基部欠損のため目通しの孔は不明である。３は内耳鉄鍋の口縁部片で開口部から段差を有し外傾している。口唇部は角状、耳部は口唇部とほぼ水平で、断面は二等辺三角形状を呈する。耳部の厚さは約８mm である。４・５は鉤状鉄製品で、断面は角状を呈し先端部欠損している。５は基部に溝と捻られたような痕跡が認められる。６・７は棒状鉄製品で断面は角状を呈し、６は四方に溝が認められることから板状の素材を棒状に成形した可能性も考えられる。７は錆びの付着が著しいが鉄残片と考えられる。８は隅丸方形状を呈する銅製金具で、0.4 mmと薄く湾曲した形状をしている。器表面の文様が判然としないが、凹凸により対称的な区画が作出されている。９は摩滅した古銭で表裏ともに文字の痕跡は認められない。（奈良）



図Ⅱ-15 道跡 平面及び断面図



図Ⅱ-16　アイヌ文化期包含層出土金属製品

表Ⅱ-21　アイヌ文化期包含層出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(cm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ16-1	22-2-1	13	185	刀　子	－	ⅢbU	－	J-30	11.9	1.8	1.2	14.7	Fe.	先端欠損
Ⅱ16-2	22-2-2	7	165	縫い針	－	ⅢbU	－	K-31	1.8	0.4	1.2	0.2	Fe.	
Ⅱ16-3	22-2-3	12	184	内耳鉄鍋	－	ⅢbU	－	K-30	12.2	8.1	5.3	167.6	Fe.	
Ⅱ16-4	22-2-4	17	599	鉤状鉄製品	－	ⅢbU	－	L-29	12.0	7.2	6.2	51.6	Fe.	
Ⅱ16-5	22-2-5	4	504	鉤状鉄製品	－	KR	－	－	9.8	5.8	9.3	47.7	Fe.	
Ⅱ16-6	22-2-6	5	69	棒状鉄製品	－	ⅢbU	－	K-32	9.2	0.8	5.4	8.8	Fe.	
Ⅱ16-7	22-2-7	10	182	棒状鉄製品	－	ⅢbU	－	M-33	4.8	2.0	15.1	8.0	Fe.	
Ⅱ16-8	22-2-8	9	181	金　具	－	ⅢbU	－	M-33	3.1	1.8	0.4	2.1	Cu.	
Ⅱ16-9	22-2-9	6	80	古　銭	－	ⅢbU	－	L-32	2.2	2.0	0.5	1.2	Cu.	

第Ⅲ章 擦文文化期の調査

擦文文化期の調査では主な遺構として土坑２基、焼土３ヶ所、土器集中５ヶ所、礫集中２ヶ所検出している。本章で取り扱う擦文文化期の遺構及び遺物は主にⅢbL 層で検出したものを対象としているが、遺構等は現場所見や周辺の遺物分布状況などを考慮して判断したものである。遺構、遺物分布状況はいずれも調査区全体に散在しており、西側に焼土、中央に土器、石器の集中、東側に土坑を検出しているが、特徴的な偏りは認められない。出土した擦文土器については、縦位、斜位の沈線文と刻文を組み合わせた文様が主体となり、口縁部文様帯から口唇部にかけての立ち上がりに明瞭な段差がなくなることから、後期前半から後半にかけての資料と思われる。遺物は土器が 655 点、剥片石器８点、礫石器 16 点、金属製品４点、剥片 47 点、礫 410 点出土している。擦文土器の器種は甕が 713 点、坏は３点のみで甕が全体の 99%を占める。帰属時期について土器以外は便宜的に層位による分類を行ったのみで一覧表にはⅢ層出土遺物として記している（表Ⅰ－４）。　（奈良）

第1節 土 坑

ⅢP-01（図Ⅲ－２　図版９－１・２）

位　置：L-26･27　規　模：78×72×28 cm　方　位：N-70° E

確認・調査：Ⅳ層上面で黒色土の円形プランを確認し、トレンチ調査を行った。坑底面と壁面の立ち上がりを確認したことから土坑と判断し、半截して堆積状態を記録後、完掘した。平面形及び坑底面は不整な円形で、坑底から坑口への立ち上がりは緩やかである。

堆積状態：覆土はⅢ層を主体とし、Ⅳ層が均一もしくは斑状に混ざる。水平に堆積することから、人為的な埋め戻し土と考えられる。間層にⅢc～Ⅳ層の流入土を挟む。　（山田）

ⅢP-02（図Ⅲ－２　図版９－３・４）

位　置：L-25･26　規　模：116×114×62 cm　方　位：N-62° E

確認・調査：Ⅳ層上面で黒色土の円形プランを確認し、トレンチ調査を行った。坑底面と壁面の立ち上がりを確認したことから土坑と判断し、半截して堆積状態を記録後、完掘した。平面形及び坑底面は不整な円形で、坑底から坑口部への立ち上がりはほぼ直立する。

堆積状態：覆土はⅢ層を主体とし、Ⅳ層が均一もしくはブロック状に混ざる。水平に堆積することから、人為的な埋め戻し土と考えられる。間層にⅢc～Ⅳ層の流入土を挟む。

出土遺物：覆土から剥片１点、礫５点、計６点（重量 438.25g）が出土した。剥片は安山岩製、礫はすべて砂岩である。　（山田）

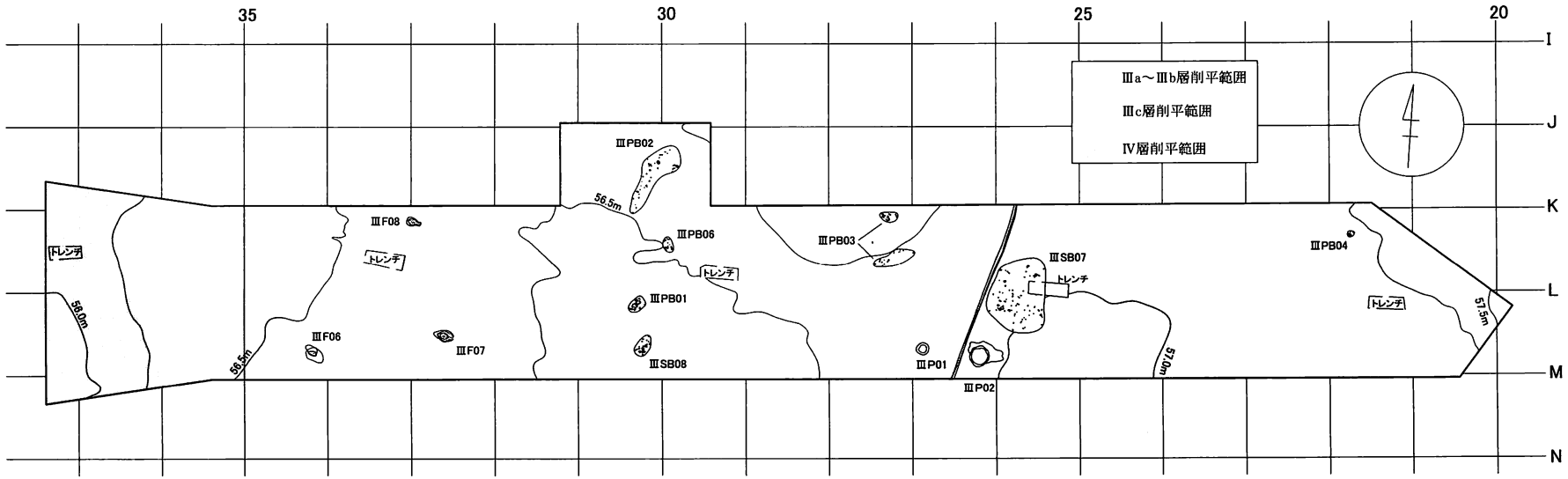
第2節 焼 土

ⅢF-06（図Ⅲ－３・４－１　図版９－５～７･23－１）

位　置：L-34　規　模：54×28×３cm

確認・調査：ⅢbL 層調査中にごく弱い被熱範囲を検出し、トレンチ調査を行った。土層断面で焼骨片を含むレンズ状の地山被熱層を確認し、焼土と認定し調査した。

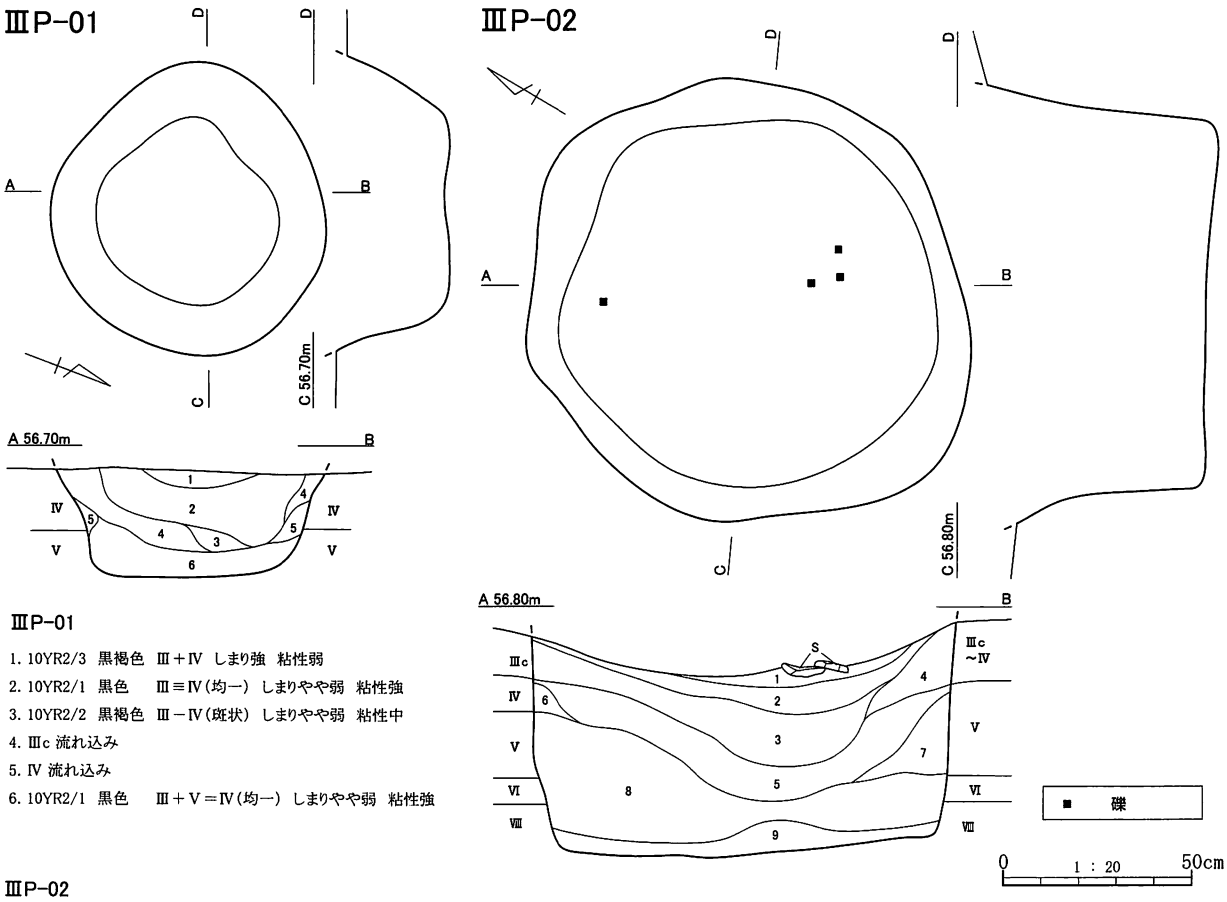
１層は弱い地山被熱層、２層はごく弱い地山被熱層である。上位が削平されていたため燃焼面は



図Ⅲ-1　擦文文化期遺構分布図

表Ⅲ-1　擦文文化期遺構群一覧表

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
	長軸	短軸				
ⅢP-01	78	72	L-26・27	Ⅲc		
ⅢP-02	116	114	L-25・26	Ⅲc		
ⅢF-06	54	28	L-34	ⅢbL		
ⅢF-07	125	70	L-32	ⅢbL		
ⅢF-08	86	52	K-32・33	ⅢbL		
ⅢPB-01	100	60	L-30	ⅢbL		
ⅢPB-02	440	180	J-29・30	ⅢbL		
ⅢPB-03	320	140	K-27	ⅢbL		
ⅢPB-04	28	15	K-21	ⅢbL		
ⅢPB-06	50	30	K-29・30	ⅢbL		
ⅢSB-07	480	360	K・L-25	ⅢbL		
ⅢSB-08	100	55	L-30	ⅢbL		



ⅢP-01

1. 10YR2/3　黒褐色　Ⅲ＋Ⅳ　しまり強　粘性弱
2. 10YR2/1　黒色　Ⅲ≡Ⅳ(均一)　しまりやや弱　粘性強
3. 10YR2/2　黒褐色　Ⅲ－Ⅳ(斑状)　しまりやや弱　粘性中
4. Ⅲc 流れ込み
5. Ⅳ 流れ込み
6. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＋Ⅴ＝Ⅳ(均一)　しまりやや弱　粘性強

ⅢP-02

1. 10YR2/1　黒色　Ⅲb　しまり中　粘性中
2. 10YR2/3　黒褐色　Ⅲc－Ⅴ(均一)＝Ⅳ・Ⅵ(斑状)　しまり中　粘性中
3. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴ－Ⅲc (均一)＝Ⅳ・Ⅵ(ブロック状)　しまりやや弱　粘性強
4. 10YR3/3　暗褐色　Ⅲc ～Ⅳ流れ込み　しまりやや弱　粘性弱
5. 10YR3/4　暗褐色　Ⅲc＝Ⅴ(均一)＝Ⅳ・Ⅵ(斑状)
6. Ⅳ 流れ込み
7. 10YR2/2　黒褐色　Ⅲc＋Ⅴ(均一)　しまり弱　粘性強
8. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴ－Ⅲc (均一)＝Ⅳ・Ⅵ(均一)
9. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴ≡Ⅲc・Ⅳ・Ⅵ(均一)　しまり強　粘性極強

図Ⅲ-2　ⅢP-01・02 平面及び断面図

表Ⅲ-2　ⅢP-01・02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-2	9-1	ⅢP-01	L-26・27	Ⅲc	円形/円形	78	72	50	48	28	N-70° E	1.08	1.04	-	
Ⅲ-2	9-3	ⅢP-02	L-25・26	Ⅲc	円形/円形	116	114	100	87	62	N-62° E	1.01	1.14	-	

残っていないが、ともに焼骨片を少量含む。層境は不明瞭である。被熱層と同一面～下位で B-Tm が検出されており、B-Tm 降下以後に形成されたものである。

遺物出土状態：焼土上面のⅢbL 層で土器２点が出土した。　(山田)

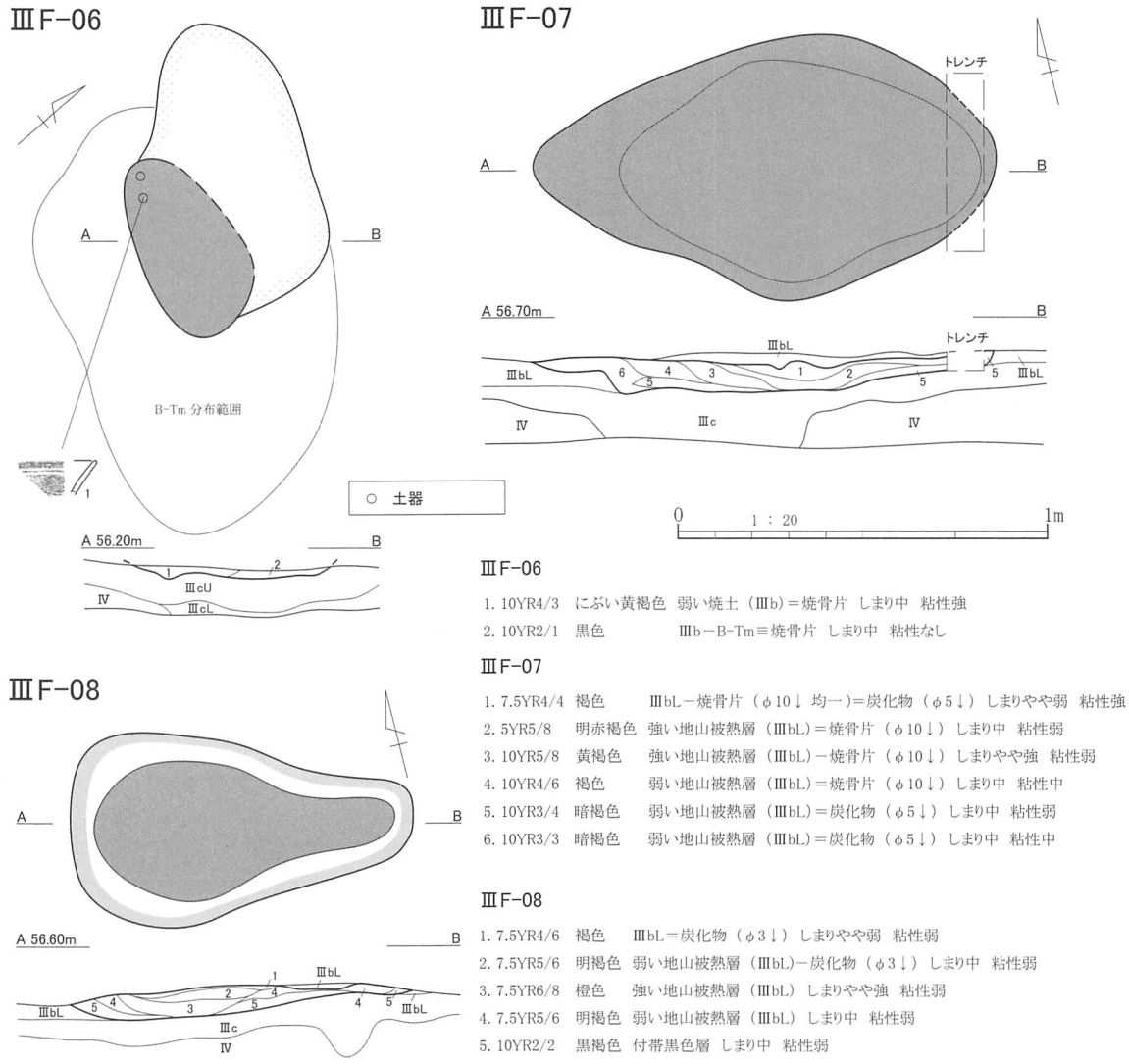
出土遺物（図Ⅲ－４－１）：１は坏の口縁部で、直下に２条の沈線文が施される。内外面ともにミガキ調整がされる。　(奈良)

ⅢＦ-07（図Ⅲ-３　図版９-８・10-１）

位　置：L-32　規　模：125×70×10 ㎝

確認・調査：ⅢbL 層調査中に不整楕円形の被熱範囲を検出し、トレンチ調査を行った。土層断面で焼骨片・炭化物を含む燃焼面とレンズ状の地山被熱層を確認し、焼土と認定し調査した。

１層は焼骨片・炭化物を含む燃焼面相当層、２・３層は被熱の強い地山被熱層、４～６層は弱い地山被熱層である。層境は１層～４層が明瞭で、５・６層は不明瞭である。被熱層はⅢbL 層で、下面はⅢc 層に接する。２～４層は焼骨片、５・６層は炭化物を多く含む。地山被熱層中の焼骨片の起源は不明だが、灰の掻きだしなどが行われた際に混入した可能性が考えられる。（山田）



ⅢF-06

1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　弱い焼土（Ⅲb）＝焼骨片　しまり中　粘性強
2. 10YR2/1　黒色　Ⅲb－B-Tm≡焼骨片　しまり中　粘性なし

ⅢF-07

1. 7.5YR4/4　褐色　ⅢbL－焼骨片（φ10↓　均一）＝炭化物（φ5↓）　しまりやや弱　粘性強
2. 5YR5/8　明赤褐色　強い地山被熱層（ⅢbL）＝焼骨片（φ10↓）　しまり中　粘性弱
3. 10YR5/8　黄褐色　強い地山被熱層（ⅢbL）－焼骨片（φ10↓）　しまりやや強　粘性弱
4. 10YR4/6　褐色　弱い地山被熱層（ⅢbL）＝焼骨片（φ10↓）　しまり中　粘性中
5. 10YR3/4　暗褐色　弱い地山被熱層（ⅢbL）＝炭化物（φ5↓）　しまり中　粘性弱
6. 10YR3/3　暗褐色　弱い地山被熱層（ⅢbL）＝炭化物（φ5↓）　しまり中　粘性中

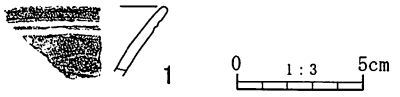
ⅢF-08

1. 7.5YR4/6　褐色　ⅢbL＝炭化物（φ3↓）　しまりやや弱　粘性弱
2. 7.5YR5/6　明褐色　弱い地山被熱層（ⅢbL）－炭化物（φ3↓）　しまり中　粘性弱
3. 7.5YR6/8　橙色　強い地山被熱層（ⅢbL）　しまりやや強　粘性弱
4. 7.5YR5/6　明褐色　弱い地山被熱層（ⅢbL）　しまり中　粘性弱
5. 10YR2/2　黒褐色　付帯黒色層　しまり中　粘性弱

図Ⅲ-３　ⅢF-06 ～ 08 平面及び断面図

表Ⅲ-３　ⅢF-06～08属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリット	層 位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-3	9-5	ⅢF-06	L-34	ⅢbL	楕円形	54	28	3	骨片	
Ⅲ-3	9-8	ⅢF-07	L-32	ⅢbL	楕円形	125	70	10	骨片	
Ⅲ-3	10-2	ⅢF-08	K-32・33	ⅢbL	楕円形	86	52	10	無	



図Ⅲ-4　ⅢF-06 出土土器

表Ⅲ-4　ⅢF-06出土土器属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-4-1	23-1	ⅢF-06	SP07	ⅦC	660	L-34	ⅢbL	坏	口縁部	ミガキ	ミガキ	1	

ⅢF-08（図Ⅲ-３　図版 10-２・３）

位　置：K-32･33　規　模：86×52×10 cm

確認・調査：ⅢbL 層調査中に不整楕円形の被熱範囲を検出し、トレンチ調査を行った。土層断面で燃焼面とレンズ状の地山被熱層、付帯黒色層を確認し、焼土として調査した。

１層は燃焼面相当層、３層は被熱の強い地山被熱層、２・４層は弱い地山被熱層、５層は付帯黒色層である。層境は明瞭。被熱層はⅢbL 層で、下面はⅢc 層に接し、１・２層は炭化物を多く含むが焼骨片はみられない。（山田）

第3節　遺物集中

ⅢPB-01（図Ⅲ-５・８-１　図版 10-４・５･23-２）

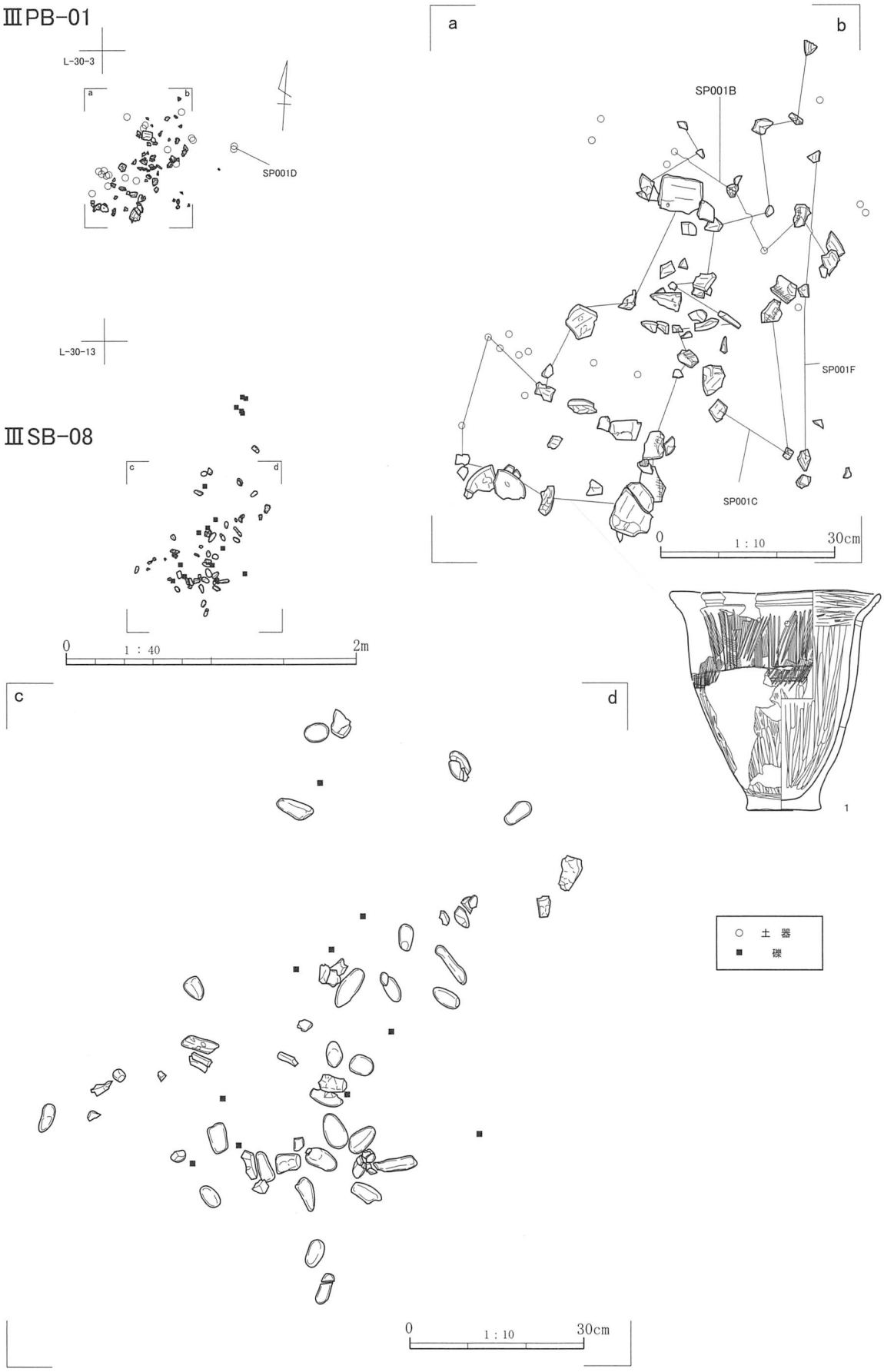
L-30 区のⅢbL～Ⅲc 層にかけて出土している。主体はⅢbL 層で、100×60cm の範囲でまとまって接合している。土器の出土レベルは約 56.5m で調査区内でも高い位置から出土しているが、上部は耕作のため一部削平を受けている。南側約 1.6m 地点で同一層からⅢSB-08 が出土している。１はⅦB3c の甕で口唇部は丸状。口縁部文様帯は浅い沈線が１段巡り、胴部文様帯には縦位と斜位の沈線を施文後、横走沈線文を数条施している。器形は口縁部が緩やかに開き、明瞭な段差をもたない。（奈良）

ⅢSB-08（図Ⅲ-５･11-21～28　図版 12-１･24-３）

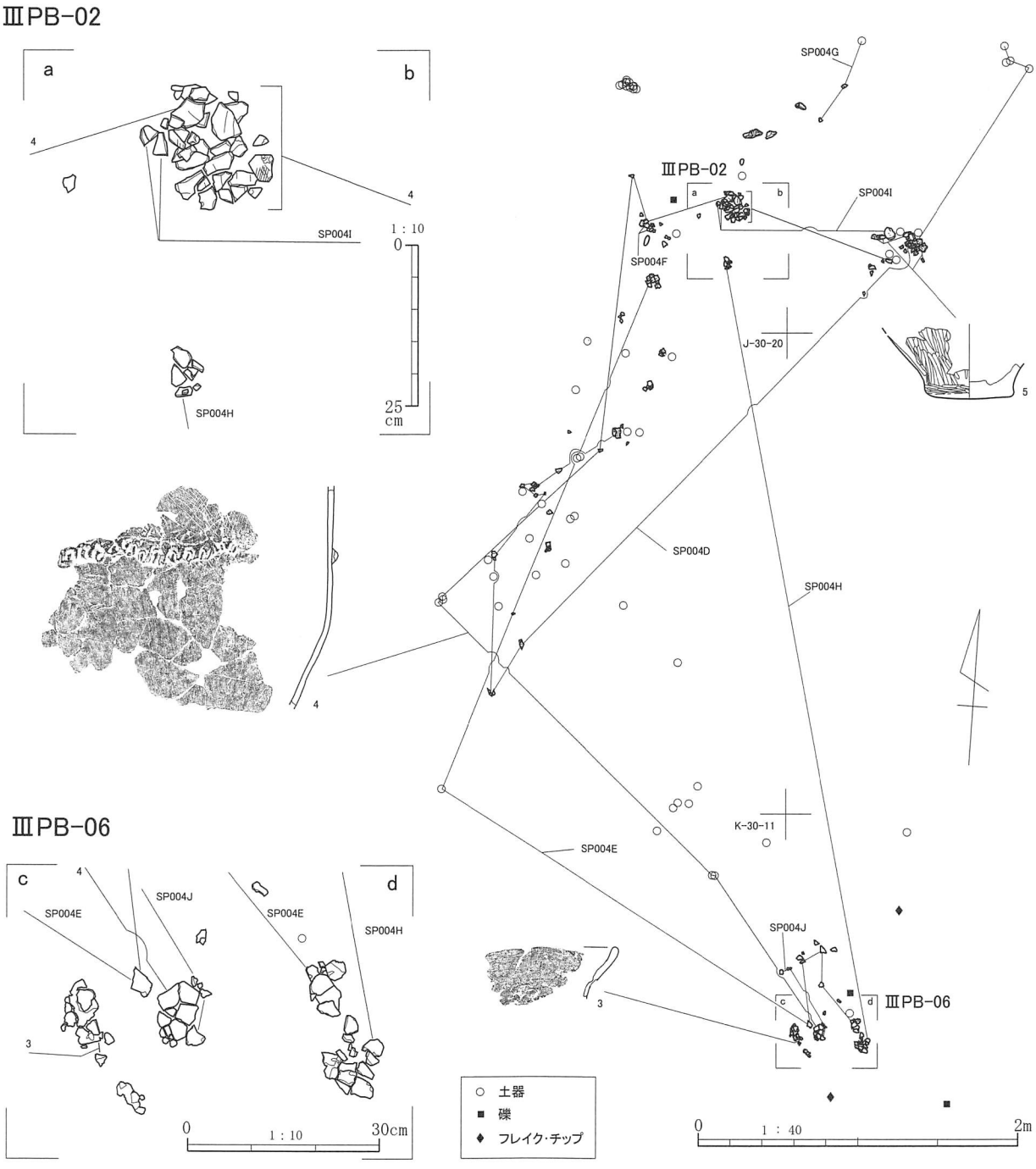
L-30 区のⅢPB-01 の南側から 90×50cm の範囲でまとまって出土している。構成礫は棒状で長短比も 1.9 と楕円形の範疇に入る礫が多く、同じような規格の礫を選択的に持ち込んでいた可能性が高い。ⅢPB-01 とは約 1.7m 離れており、土器と礫の混在が認められないことから、供伴関係は不明である。（奈良）

ⅢPB-02･06（図Ⅲ-６・８-３～５　図版 10-６・７･11-１･23-４～６）

ⅢPB-02 はⅠ･J-29 区を中心にⅢbL 層から 350×160cm の範囲で細長く分布していた。その南側約 4.8m 地点にはⅢPB-06 が 50×20 cmの範囲でまとまって出土している。これら２つの集中区は同一個体であり接合関係にある。出土層位はⅢbL 層が主体であり、ⅦB3c の甕である。３は口縁部で、外傾した後やや内湾気味に立ち上がる。口唇部はミガキにより丸状に整形され、器表面は強いミガキで調整されている。４は胴部上半から下半にかけての資料で、胴部文様帯には斜位の沈線文、ミガキ、浅い沈線文の順に施文され、浅い沈線文は不整な「X」状を呈している。沈線文下位には貼付帯が１条廻り、馬蹄形圧痕文が施される。器面の内外面は強いミガキで調整され非常に薄い。５は底部で内外面はミガキ調整されている。いずれも胎土に砂粒を多量に含む。（奈良）



図Ⅲ-5　ⅢPB-01・ⅢSB-08 平面図



図Ⅲ-6　ⅢPB-02･06 平面図

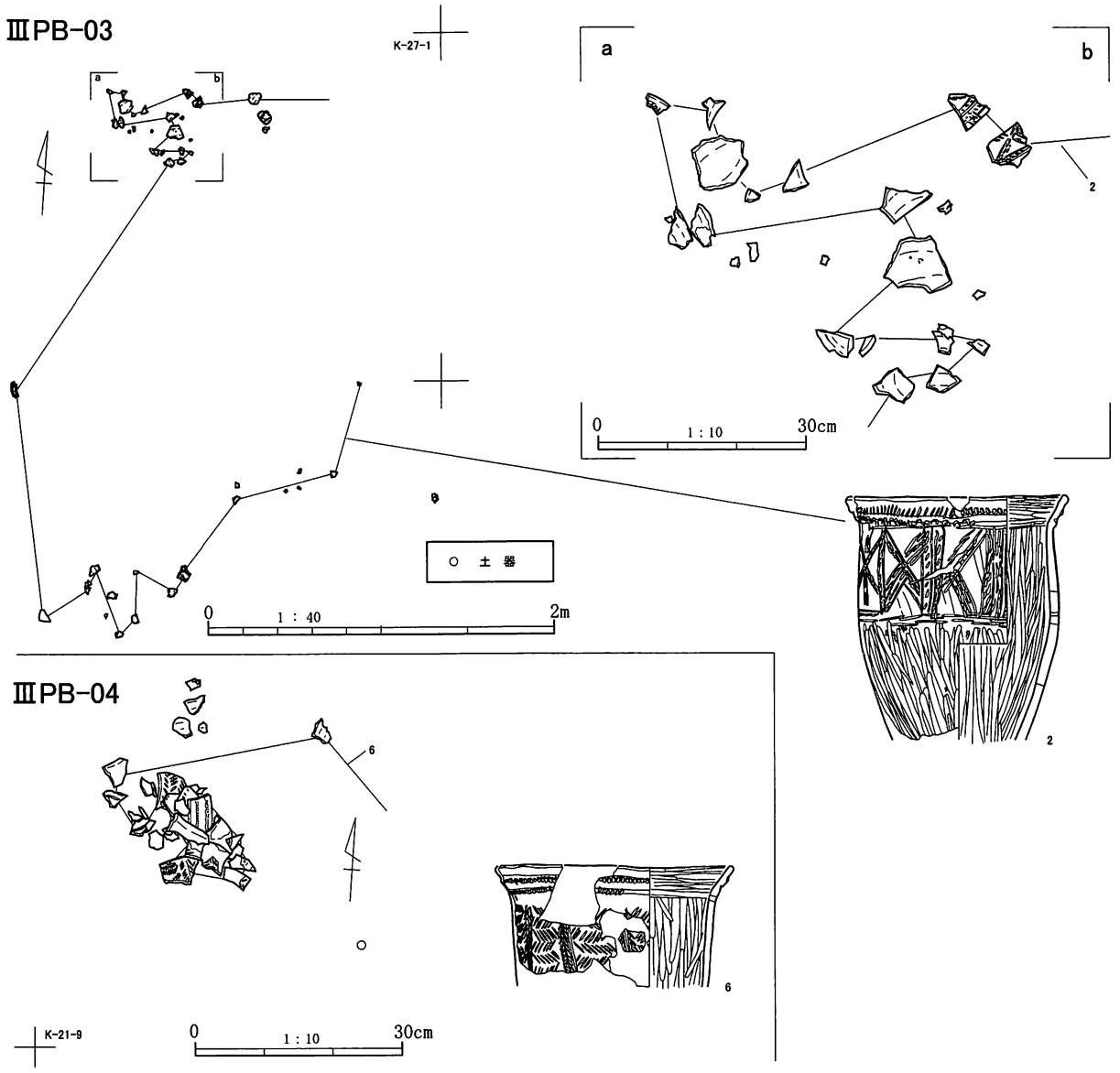
ⅢPB-03（図Ⅲ-７・８-２　図版 10-８･23-3a･3b）

K-27 区の沢地形からまとまって出土している。比較的大きな破片が 60×40cm の範囲でまとまり、南側約 2.4m の地点に分布する土器片と接合している。出土層位はⅢbL 層で、底部を欠くおよそ半個体分が接合している。２はⅦB3c4 の甕で、口縁部から胴部下半の復元個体である。口縁部文様帯は方向が異なる刻みと、その下位に馬蹄形を模倣した刺突列が施される。胴部文様帯は縦方向に２条１対の沈線を施し、間に短い沈線を充填している。その後「X」状に２本ないし３本の沈線を施

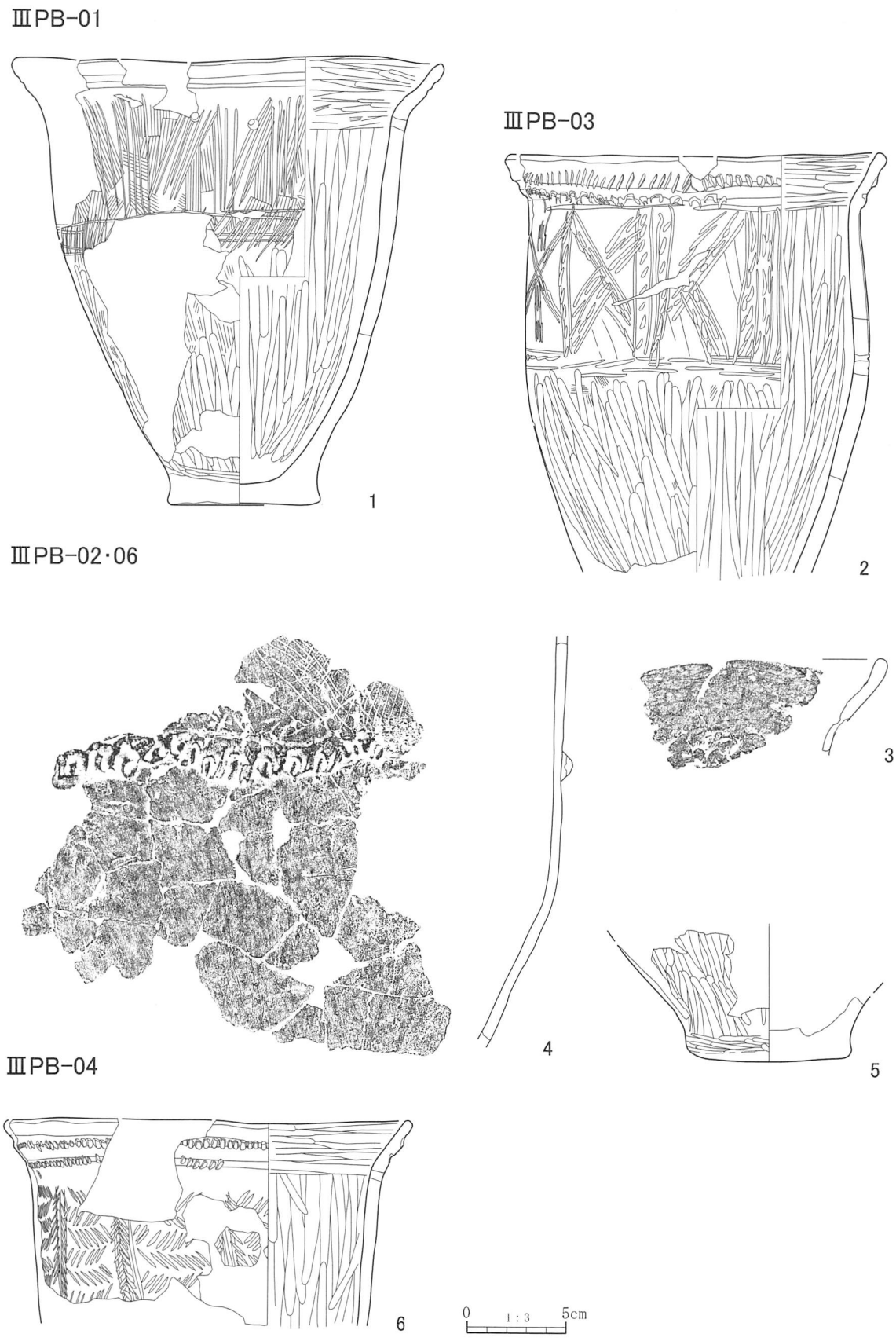
し、縦方向と同じように短い沈線を充填している。胴部文様帯下位には短い沈線文を横方向に１段ないし２段で区画している。器形は口縁部がやや外傾し、胴部はやや張り出す。　（奈良）

ⅢPB-04（図Ⅲ-７・８-６　カラー図版４-３　図版 23-７）

K-21 区のⅢbL 層でまとまって出土している。周囲に同一片はなく 30×15cm のまとまった範囲で接合している。６はⅦB3c の甕で、口縁部から胴部上半の資料である。口縁部文様帯には浅い沈線の上に刻みが２段施される。胴部文様帯は縦位の綾杉文と横位の綾杉文で構成され、これらを区画するように縦位の沈線文が施文される。口縁部はやや外傾し、胴部は比較的直立している。（奈良）



図Ⅲ-7　ⅢPB-03･04 平面図



図Ⅲ-8　ⅢPB-01 ～ 04·06 出土土器

表Ⅲ-5　ⅢPB-01～04･06出土土器属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整 内側	器面調整 外側	点数	備考
Ⅲ-8-1	23-2	ⅢPB-01	SP01A	ⅦB3c	1360･1361 他27点	L-30	ⅢbL	甕	口縁～底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ ミガキ	37	
					1637･1638 他6点		Ⅲc						
Ⅲ-8-3	23-4	ⅢPB-06	SP04A	ⅦB3c	1475･1476･1477	K-29	ⅢbL	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	3	器面はミガキにより非常に薄い
Ⅲ-8-4	23-5	ⅢPB-02	SP04B	ⅦB3c	695～697･1119･1154･1164･1165･1167･1168･1169･1170･1171･1173～1176･1178･1181･1190･1192･1250	J-30	ⅢbL	甕	胴部上半～下半	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	25	
					1199	J-29							
		ⅢPB-06			1462･1465	K-29							
		-			1300	K-30							
Ⅲ-8-5	23-6	ⅢPB-02	SP04C	ⅦB3c	1200･1201 他6点	J-29	ⅢbL	甕	底部	ミガキ	ミガキ	8	
Ⅲ-8-2	23-3a.3b	ⅢPB-03	SP02A	ⅦB3c	740･771･752･780　他31点	K-27	ⅢbL	甕	口縁～胴部下半	ナデ ミガキ	ハケメ ナデ ミガキ	35	
Ⅲ-8-6	23-7	ⅢPB-04	SP03	ⅦB3c	1547･1548･1681 他16点	K-21	ⅢbL	甕	口縁～胴部上半	ミガキ	ナデ 弱いミガキ	19	

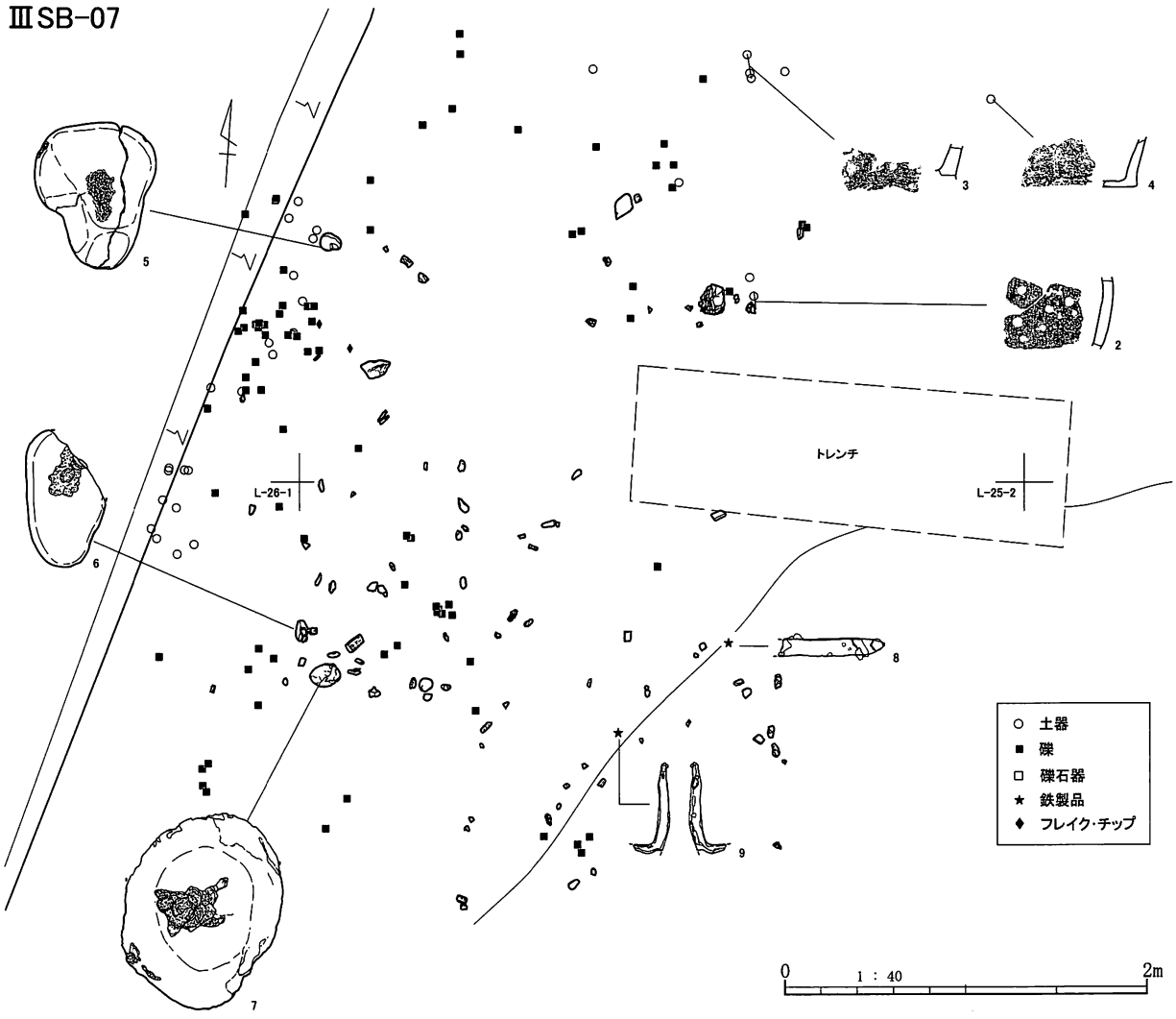
ⅢSB-07（図Ⅲ-９～11　図版 11-３･24-１～９）

調査区の東側 K･L-25･26 区のⅢbL 層を掘り下げたところ、不定形な礫が一面に散在していた。範囲を確定するために精査を行ったところ、480×360cm の範囲で礫石器及び礫の分布が認められた。平面の記録後、遺構名を付けて遺物を取上げ調査終了とした。この分布範囲内には礫石器のほか土器、鉄器が出土し、出土層位からも擦文文化期の遺構群として取り扱っている。１～４はⅦB3c の土器で、器種は全て甕で２・３は同一個体片である。１は口縁部で文様がなく、比較的直線的に立ち上がる。２・３は胴部片で、器表面はハケメとナデによって調整されている。２片とも器表面が剥落している。４は底部でほぼ直立気味に立ち上がる。胎土は１～３が砂粒を少量含み、４は砂粒を中量含む。５・６は、たたき石で砂岩製。５は不整形な亜円礫を素材とし、表面に面的な敲打痕が形成されている。裏面および両側縁にも数ヵ所の敲打痕が集積する。６は楕円形の亜円礫を素材とし、表面に中央がすり鉢状にくぼむ敲打痕が集積する。７は台石。自然破砕した大型円礫を素材とし、頂端部に複数の単位からなる敲打痕が集積する。各敲打単位は重複して形成されている。８は刀子の切先部分で、棟から刃部に向かって僅かに逆三角形状を呈している。刃部幅は 12.7mm と細く、厚さも 1.7mm と薄い。９は鉤状鉄製品で、変換点から先端部にかけて欠損している。断面は角状で基部方向はやや細くなる。10～20 は構成礫で長短比の標準偏差が 1.3 から-0.9 と形状にまとまりがなく不揃いである。　（１～４・８～20：奈良　５～７：山田）

第4節　包含層出土遺物

１．土器（図Ⅲ-12　図版 25-１）

１・２はミニチュア土器で、周辺の遺物出土状態からⅦB の甕に分類している。１は口縁部から底部までの個体。口唇部は内削ぎであるが、摩滅のため判然としない。２は口縁部で口唇部は角状、



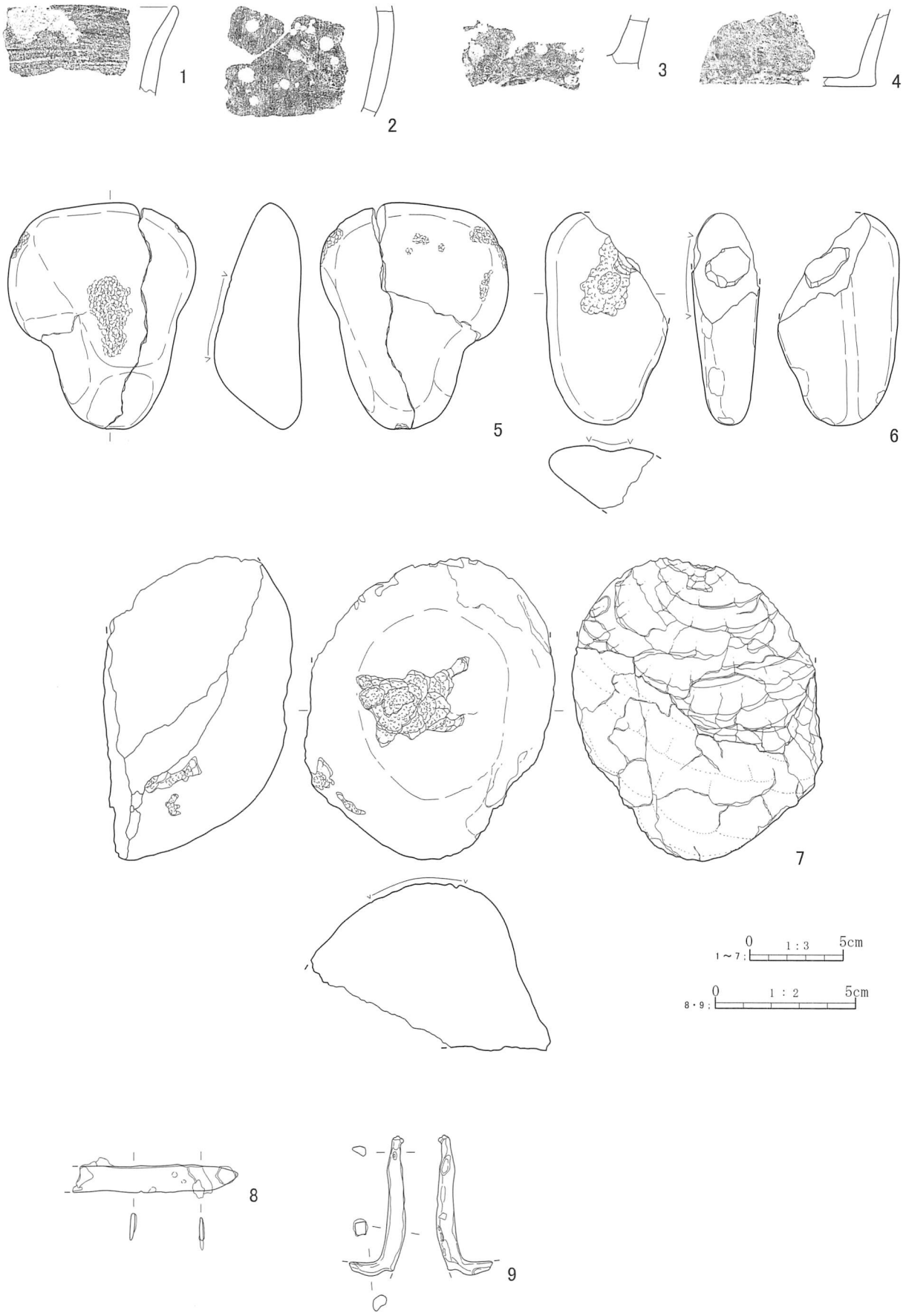
図Ⅲ-9　ⅢSB-07 平面図

ともに器面は弱いナデによって整形されている。２は胎土に砂礫を少量含む。３～５はⅦB3c の甕胴部で同一個体である。３・４は胴部文様帯で縦及び鋸歯状の沈線文が施され、４は下位に「X」字状の沈線文と、これらを区画するように２条１対の横走沈線で構成されている。３～５はともにハケメ後に弱いミガキによって整形されている。６はⅦB3c の甕で斜位の沈線、横走沈線、縦位の沈線の順に施文される。器表面はミガキ調整されている。７・８は底部で、７の底部変換点は角状に整形されている。８は大きさからミニュチア土器と思われる。９・10 はⅦC の坏口縁部で、９は口縁部直下に沈線文と体部に縦方向の沈線文がみられる。10 は段を有する体部片で、内面はミガキ調整されている。（奈良）

２．石器（図Ⅲ-13-１～６　図版 25-２-11～16）

便宜的にⅢb 層下位を擦文文化期の包含層として扱った。石器は礫石器 29 点 28 個体（重量 7152.90g）が出土した。内訳はたたき石 21 点、砥石３点、台石１点、加工痕ある礫１点、滑沢面ある礫３点２個体で、たたき石が多く出土している。

１・２はたたき石。１は長方形の板状礫の片面に平坦な敲打痕が集積する。２は板状礫の両面に



図Ⅲ-10　ⅢSB-07 出土遺物

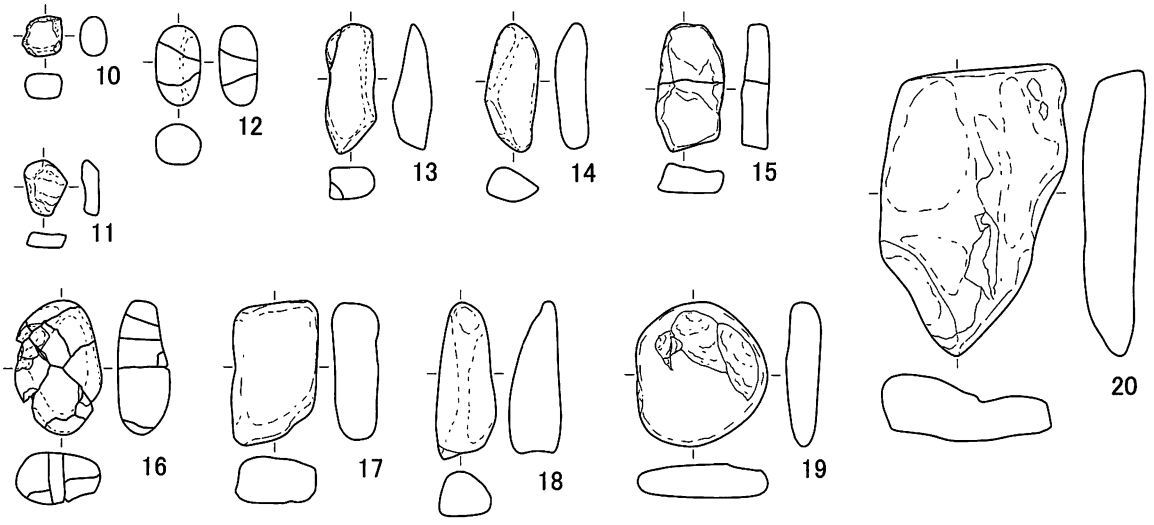
表Ⅲ-6　ⅢSB-07出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整		点数	備考
									内側	外側		
Ⅲ-10-1	24-1-1	SP13A	ⅦB3e	968	K-25	ⅢbL	甕	口縁部	ハケメ	ハケメ	1	無文
Ⅲ-10-2	24-1-2	SP11A	ⅦB3	981・980・1611	K-25	ⅢbL	甕	胴部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	3	表面剥落
Ⅲ-10-3	24-1-3	SP11B	ⅦB3	1099・2072	K-25	ⅢbL	甕	胴部下半	ナデ	ナデ	2	底部付近
Ⅲ-10-4	24-1-4	SP12	ⅦB3	1097	K-25	ⅢbL	甕	底部	ナデ	ナデ	1	円礫多量

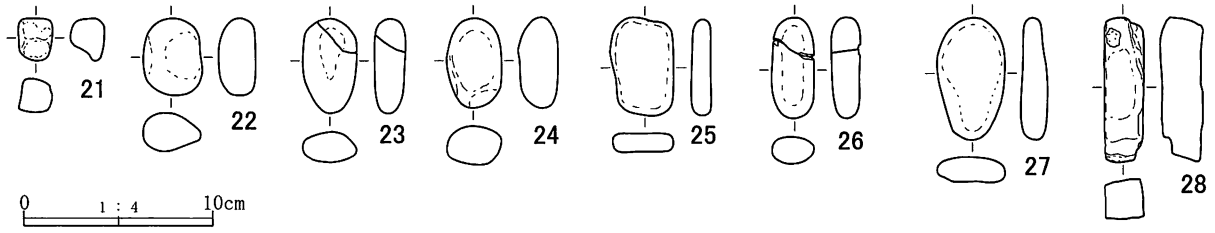
表Ⅲ-7　ⅢSB-07出土礫石器・金属製品属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-10-5	24-1-5	ⅢSB-07	-	L-25	990	たたき石	ⅠB	ⅢbL	112.5	63.6	34.8	215.0	Sa.	
Ⅲ-10-6	24-1-6	ⅢSB-07	-	K-25	959	たたき石	ⅡA	Ⅲc	120.0	99.4	47.1	555.0	Sa.	
Ⅲ-10-7	24-1-7	ⅢSB-07	-	L-25	995	台　石	Ⅱ	ⅢbL	172.0	136.0	85.1	2050.0	Gra.	
Ⅲ-10-8	24-1-8	ⅢSB-07	-	L-25	300	刀　子	-	ⅢbL	59.0	12.7	1.7	2.89	Fe.	
Ⅲ-10-9	24-1-9	ⅢSB-07	-	L-25	299	釣針未成品	-	ⅢbL	48.0	12.0	4.0	6.96	Fe.	

ⅢSB-07



ⅢSB-08



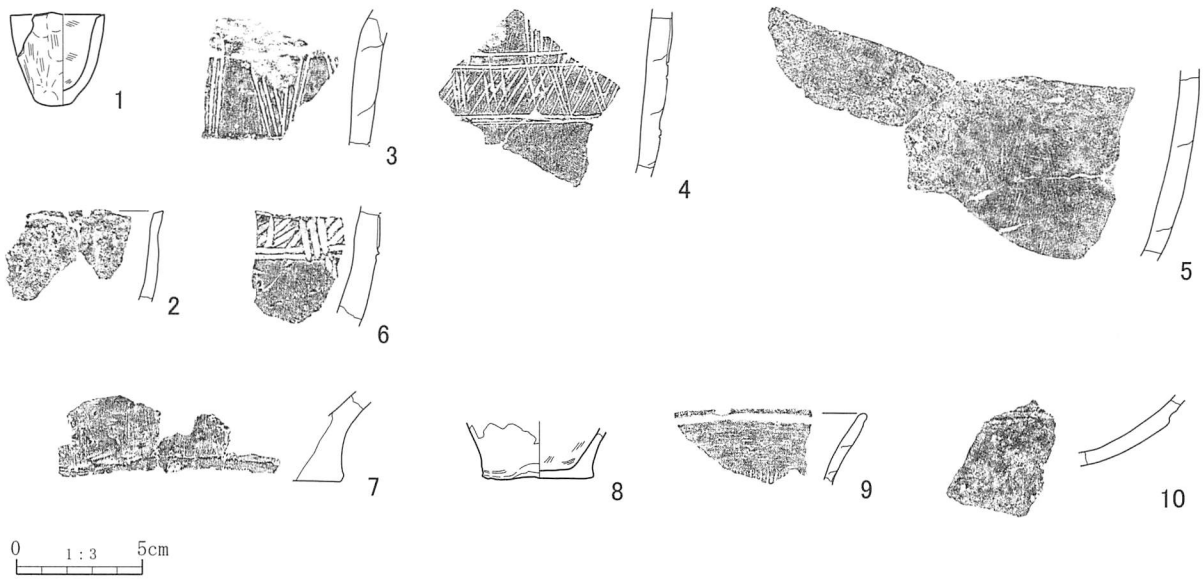
図Ⅲ-11　ⅢSB-07・08 出土礫

表Ⅲ-8　ⅢSB-07礫属性表

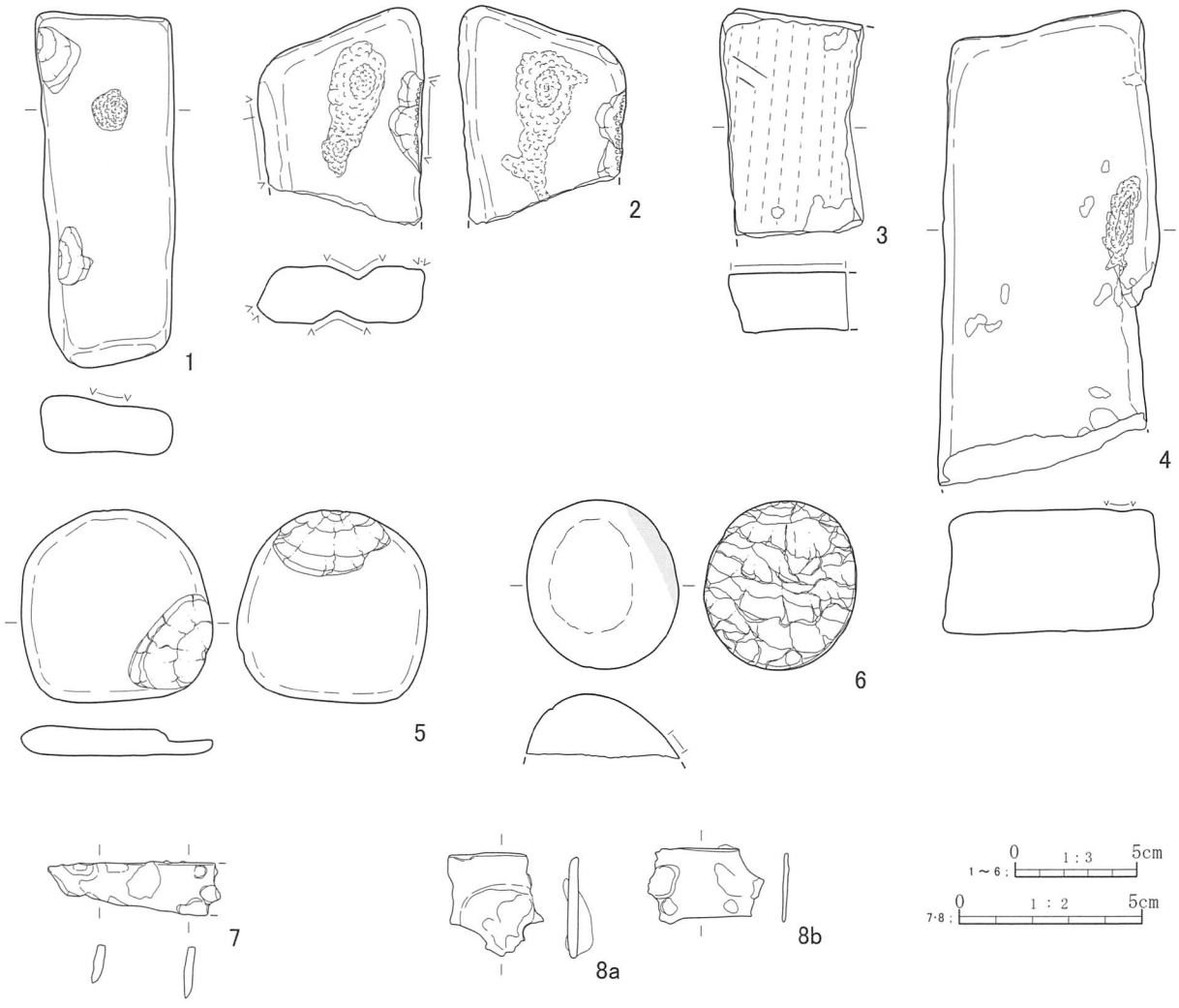
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅲ-11-10	24-2	1	1026	ⅢbL	完形	24.5	-38.6	21.0	-12.3	12.0	-5.2	1.2	-0.8	7.6	-	Sa.	
Ⅲ-11-11	24-2	2	1086	ⅢbL	完形	29.2	-33.9	23.1	-10.2	8.2	-9.0	1.3	-0.7	5.1	-	Mud.	
-	24-2	3	1088	ⅢbL	完形	33.8	-29.3	27.0	-6.3	4.9	-12.3	1.3	-0.7	5.2	-	Mud.	
-	24-2	4	1089	ⅢbL	完形	35.7	-27.4	26.6	-6.7	9.8	-7.4	1.3	-0.6	10.3	-	Sa.	
-	24-2	5	1025	ⅢbL	完形	36.6	-26.5	24.4	-8.9	12.2	-5.0	1.5	-0.5	15.3	-	Sa.	
Ⅲ-11-12	24-2	6	1060	ⅢbL	完形	42.4	-20.7	24.1	-9.2	20.2	3.0	1.8	-0.2	26.0	-	Sa.	
-	24-2	7	1016	ⅢbL	完形	51.7	-11.4	31.3	-2.0	16.6	-0.6	1.7	-0.3	29.4	-	Sa.	
-	24-2	8	1044	ⅢbL	完形	64.8	1.7	22.5	-10.8	13.4	-3.8	2.9	0.9	20.4	-	Mud.	
Ⅲ-11-13	24-2	9	1009	ⅢbL	完形	69.0	5.9	21.2	-12.1	19.4	2.2	3.3	1.3	10.4	-	Mud.	
-	24-2	10	1052	ⅢbL	完形	53.6	-9.5	21.3	-12.0	20.8	3.6	2.5	0.5	29.6	-	Mud.	
-	24-2	11	991	ⅢbL	完形	48.8	-14.3	29.7	-3.6	16.5	-0.7	1.6	-0.3	38.4	-	Sa.	
-	24-2	12	1013	ⅢbL	完形	55.5	-7.6	28.2	-5.1	14.0	-3.2	2.0	0.0	145.1	-	Sa.	
-	24-2	13	965	ⅢbL	完形	56.7	-6.4	31.5	-1.8	17.8	0.6	1.8	-0.2	47.5	-	Sa.	
-	24-2	14	1003	ⅢbL	完形	59.7	-3.4	35.0	1.7	14.5	-2.7	1.7	-0.3	41.9	●	Sa.	
Ⅲ-11-14	24-2	15	964	ⅢbL	完形	67.4	4.3	27.3	-6.0	15.3	-1.9	2.5	0.5	28.3	-	Mud.	
-	24-2	16	982	ⅢbL	完形	67.2	4.1	23.3	-10.0	20.5	3.3	2.9	0.9	26.1	-	Mud.	
-	24-2	17	994	ⅢbL	完形	70.1	7.0	25.3	-8.0	19.1	1.9	2.8	0.8	33.8	-	Mud.	
-	24-2	18	1018	ⅢbL	完形	77.5	14.4	26.8	-6.5	13.7	-3.5	2.9	0.9	26.8	-	Mud.	
-	24-2	19	976	ⅢbL	完形	62.4	-0.7	29.8	-3.5	22.2	5.0	2.1	0.1	63.2	-	Sa.	
-	24-2	20	1004	ⅢbL	完形	67.4	4.3	31.5	-1.8	13.5	-3.7	2.1	0.2	25.7	-	Mud.	
-	24-2	21	1042	ⅢbL	完形	64.6	1.5	41.8	8.5	16.9	-0.3	1.5	-0.4	53.3	●	Sa.	
-	24-2	22	1011	ⅢbL	完形	66.0	2.9	33.9	0.6	14.8	-2.4	1.9	0.0	36.4	-	Sa.	
-	24-2	23	983	ⅢbL	完形	67.9	4.8	35.4	2.1	21.8	4.6	1.9	-0.1	40.0	-	Mud.	
Ⅲ-11-15	24-2	24	1035	ⅢbL	完形	67.4	4.3	33.4	0.1	14.5	-2.7	2.0	0.0	43.7	-	Mud.	
Ⅲ-11-16	24-2	25	1092	ⅢbL	完形	70.8	7.7	44.8	11.5	26.1	8.9	1.6	-0.4	29.6	-	Mud.	
-	24-2	26	1613	Ⅲc	完形	73.1	10.0	33.0	-0.3	22.2	5.0	2.2	0.2	66.9	●	Sa.	
-	24-2	27	1037	ⅢbL	完形	75.1	12.0	39.3	6.0	12.8	-4.4	1.9	-0.1	29.6	-	Mud.	
Ⅲ-11-17	24-2	28	1028	ⅢbL	完形	73.8	10.7	44.0	10.7	24.4	7.2	1.7	-0.3	15.3	-	Sa.	
Ⅲ-11-18	24-2	29	1008	ⅢbL	完形	82.2	19.1	30.3	-3.0	26.8	9.6	2.7	0.7	72.9	-	Sa.	
Ⅲ-11-19	24-2	30	1000	ⅢbL	完形	78.0	14.9	71.0	37.7	18.6	1.4	1.1	-0.9	165.5	-	Gni.	
Ⅲ-11-20	24-2	31	961	Ⅲc	完形	163.0	99.9	93.0	59.7	31.0	13.8	1.8	-0.2	520.0	-	Sa.	
完形合計						1955.9		1030.8		534.5		61.3		1709.3			
完形平均値						63.1		33.3		17.2		2.0		55.1			
遺物総重量														8365.4			

表Ⅲ-9　ⅢSB-08礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅲ-11-21	24-3	1	1349	ⅢbL	完形	22.6	-30.9	17.0	-11.8	17.7	0.3	1.3	-0.6	8.9	-	Sa.	
Ⅲ-11-22	24-3	2	1325	ⅢbL	完形	41.4	-12.1	31.9	3.1	19.9	2.5	1.3	-0.6	33.0	-	Sa.	
-	24-3	3	1324	ⅢbL	完形	42.2	-11.3	30.1	1.3	18.4	1.0	1.4	-0.5	26.8	-	Sa.	
-	24-3	4	1306	ⅢbL	完形	43.2	-10.3	33.0	4.2	15.5	-1.9	1.3	-0.6	27.4	-	Sa.	
-	24-3	5	1347	ⅢbL	完形	43.4	-10.1	30.4	1.6	17.9	0.5	1.4	-0.5	31.1	-	Sa.	
-	24-3	6	1335	ⅢbL	完形	40.1	-13.4	28.7	-0.1	17.8	0.4	1.4	-0.5	25.3	-	Mud.	
-	24-3	7	1342	ⅢbL	完形	44.9	-8.6	34.3	5.5	17.5	0.1	1.3	-0.6	34.2	-	Sa.	
Ⅲ-11-23	24-3	8	1318	ⅢbL	完形	50.7	-2.8	27.9	-0.9	15.2	-2.2	1.8	-0.1	28.5	-	Sa.	
Ⅲ-11-24	24-3	9	1340	ⅢbL	完形	47.9	-5.6	28.5	-0.3	20.0	2.6	1.7	-0.2	37.3	-	Sa.	
-	24-3	10	1315	ⅢbL	完形	50.3	-3.2	27.9	-0.9	19.2	1.8	1.8	-0.1	37.1	-	Sa.	
-	24-3	11	1309	ⅢbL	完形	49.9	-3.6	29.4	0.6	15.5	-1.9	1.7	-0.2	30.4	-	Sa.	
-	24-3	12	1332	ⅢbL	完形	52.5	-1.0	30.6	1.8	18.4	1.0	1.7	-0.2	38.3	-	Sa.	
-	24-3	13	1308	ⅢbL	完形	48.4	-5.1	33.9	5.1	22.2	4.8	1.4	-0.5	39.4	-	Sa.	
Ⅲ-11-25	24-3	14	1343	ⅢbL	完形	52.6	-0.9	33.0	4.2	9.8	-7.6	1.6	-0.3	29.0	-	Sa.	
-	24-3	15	1338	ⅢbL	完形	54.9	1.4	28.8	0.0	16.9	-0.5	1.9	0.0	35.0	-	Sa.	
Ⅲ-11-26	24-3	16	1341	ⅢbL	完形	54.0	0.5	22.6	-6.2	13.4	-4.0	2.4	0.5	23.8	-	Sa.	
-	24-3	17	1336	ⅢbL	完形	59.4	5.9	28.7	-0.1	15.0	-2.4	2.1	0.2	34.6	-	Sa.	
-	24-3	18	1329	ⅢbL	完形	57.1	3.6	33.6	4.8	13.7	-3.7	1.7	-0.2	33.4	-	Sa.	
-	24-3	19	1304	ⅢbL	完形	55.9	2.4	27.5	-1.3	22.1	4.7	2.0	0.1	36.7	-	Mud.	
-	24-3	20	1346	ⅢbL	完形	67.8	14.3	22.7	-6.1	17.9	0.5	3.0	1.1	28.7	-	Mud.	
-	24-3	21	1307	ⅢbL	完形	64.8	11.3	28.1	-0.7	18.8	1.4	2.3	0.4	42.6	●	Sa.	
Ⅲ-11-27	24-3	22	1328	ⅢbL	完形	64.6	11.1	36.4	7.6	12.5	-4.9	1.8	-0.1	41.5	-	Sa.	
-	24-3	23	1319	ⅢbL	完形	75.2	21.7	32.0	3.2	19.2	1.8	2.4	0.4	36.6	-	Mud.	
-	24-3	24	1316	ⅢbL	完形	77.7	24.2	23.4	-5.4	20.5	3.1	3.3	1.4	45.5	-	Sa.	
Ⅲ-11-28	24-3	25	1330	ⅢbL	完形	76.2	22.7	19.6	-9.2	20.6	3.2	3.9	2.0	41.4	-	Mud.	
完形合計						1337.7		720.0		435.6		47.9		826.5			
完形平均値						53.5		28.8		17.4		1.9		33.1			
遺物総重量														565.7			



図Ⅲ-12　擦文文化期包含層出土土器



図Ⅲ-13　擦文文化期包含層出土礫石器·金属製品

敲打痕が集積し、中央部が浅く窪み、右側縁稜、左側縁稜にも敲打痕が観察される。３は砥石。長方形の板状礫の片面に器体長軸方向の擦痕からなる平滑な砥面が形成されている。４は台石。直方体状の板状礫の片面右側に断面がＶ字状に窪む敲打痕が集積する。５は加工痕ある礫。平面不整形な扁平礫の表面右下端と裏面上端にそれぞれ１単位の加工痕が観察される。６は滑沢面ある礫。破損しているが、円礫の表面右上半に滑沢面が認められる。（山田）

３．金属製品（図Ⅲ-13-７・8a・8b　図版 25-２-17・18a・18b）：７・8a・8b は金属製品で、７は刀子の茎。切先を欠損し目釘穴は認められない。断面は刃縁に向かってやや細くなる。8a・8b は同一個体の板状鉄製品で、孔などは認められない。（奈良）

表Ⅲ-10　擦文文化期包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整		点数	備考
									内側	外側		
Ⅲ-12-1	25-1-1	SP15	ⅦB3e	1293	J-29	ⅢbL	甕	口縁部～底部	ナデ	ナデ	1	ミニチュア
Ⅲ-12-2	25-1-2	SP16	ⅦB3e	543・2243	K-26	Ⅲc	甕	口縁部	ナデ	ナデ	2	
Ⅲ-12-3	25-1-3	SP10C	ⅦB3c	916	L-20	ⅢbL	甕	胴部上半	ミガキ	ハケメ	1	
Ⅲ-12-4	25-1-4	SP10B	ⅦB3c	889・904 1194	L-21	ⅢbL 撹乱	甕	胴部上半	ミガキ	ハケメ	3	
Ⅲ-12-5	25-1-5	SP10A	ⅦB3c	13 882・876	L-21	ⅢbU ⅢbL	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ	3	
Ⅲ-12-6	25-1-6	SP14A	ⅦB3c	909	L-21	ⅢbL	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-12-7	25-1-7	SP09	ⅦB3	824・1568 905	K-21 L-21	ⅢbL	甕	底部	ミガキ	ハケメ ミガキ	3	
Ⅲ-12-8	25-1-8	SP17	ⅦB3	2238・2298・2243-1	K-26	Ⅲc	甕	底部	ナデ	ナデ	3	
Ⅲ-12-9	25-1-9	SP06A	ⅦC	138	L-33	ⅢbL	坏	口縁部	ミガキ	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-12-10	25-1-10	SP08	ⅦC	1592	K-28	Ⅲc	坏	体部	ミガキ	ミガキ	1	

表Ⅲ-11　擦文文化期包含層出土礫石器・金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-13-1	25-2-11	－	I-30	689	たたき石	ⅠA1	ⅢbL	145.1	56.3	24.8	325.0	Sa.	
Ⅲ-13-2	25-2-12	－	K-25	2069	たたき石	ⅠA3	ⅢbL	87.5	66.8	23.0	190.0	Sa.	
Ⅲ-13-3	25-2-13	－	L-33	133	砥　石	ⅠA	ⅢbL	93.2	58.2	25.0	230.0	Sa.	
Ⅲ-13-4	25-2-14	－	L-20	932	台　石	Ⅰ	ⅢbL	197.0	88.0	52.7	1655.0	Sa.	
Ⅲ-13-5	25-2-15	－	L-31	178	加工痕ある礫	Ⅰ	ⅢbL	77.1	76.9	12.2	80.4	Sa.	
Ⅲ-13-6	25-2-16	－	K-25	1087	滑沢面ある礫	－	ⅢbL	69.3	62.1	27.1	138.4	Sa.	
Ⅲ-13-7	25-2-17	－	L-20	2083	刀　子	－	ⅢbL	48.0	17.0	2.6	7.4	Fe.	
Ⅲ-13-8a	25-2-18a	－	J-30	703-1	板状鉄製品	－	ⅢbL	26.1	21.0	4.5	3.8	Fe.	
Ⅲ-13-8b	25-2-18b	－	J-30	703-2	板状鉄製品	－	ⅢbL	30.6	30.6	1.2	2.1	Fe.	

第Ⅳ章　続縄文文化期の調査

続縄文文化期の調査では主な遺構として焼土３ヶ所、土器集中３ヶ所、フレイクチップ集中２ヶ所検出している。遺物は土器258点、剥片石器15点、礫石器23点、礫435点、剥片類220点出土している。本章で扱う遺構・遺物はB-Tm下位のⅢc層より出土したものを対象としている。主体時期は北大式に分類され、微隆起線文を有する北大Ⅰ式のほか、口縁部直下にOI突瘤文が廻る北大Ⅲ式相当の資料も出土し、初期の擦文文化期の資料も一部含んでいる可能性もある。厚真町で当該期の資料がまとまって出土するのは本遺跡が初めてであり、続縄文から擦文文化期にかけて人々がどのようなところに遺跡を形成していったのかを知る手掛りとなった。　（奈良）

第1節　焼　土

ⅢF-09（図Ⅳ-２・５-１　図版12-４・５・26-１）

位　置：K-25・26　規　模：(70) × (57) ×８cm

確認・調査：ⅢbL層調査中に不整楕円形の被熱範囲を検出し、トレンチ調査を行った。土層断面で燃焼面とレンズ状の地山被熱層、付帯黒色層を確認し、焼土と認定し調査した。

１層は燃焼面相当層、２・３層は被熱の強い地山被熱層、４・５層は弱い地山被熱層である。層境は明瞭。被熱層はⅢbL層で、下面はⅢc層に接し、１・２層は炭化物を多く含む。

遺物出土状態：焼土上面のⅢbL層および２層中から土器、剥片、礫が出土した。

出土遺物：１は胴部片で、胎土に砂礫を含み他の北大式期の土器と類似する。石器類は剥片６点、礫19点、計25点（重量59.83g）が出土した。礫１点に被熱が認められた。　（山田　１：奈良）

ⅢF-11（図Ⅳ-２　図版12-８）

位　置：L-20　規　模：28×11×６cm

確認・調査：ⅢbL調査中に極めて弱い被熱範囲を検出した。長軸方向でトレンチを設定し、断面で厚さ４cmほどの地山被熱層を確認したため、ⅢF-11として調査した。被熱層はⅢbL～Ⅲc層中に形成されている。焼成は弱く、炭化物、骨片等は検出していない。層境は不明瞭で規模も小さいことから短期間のうちに使用、放棄されたものと考えられる。　（山田）

第2節　焼土及び遺物集中

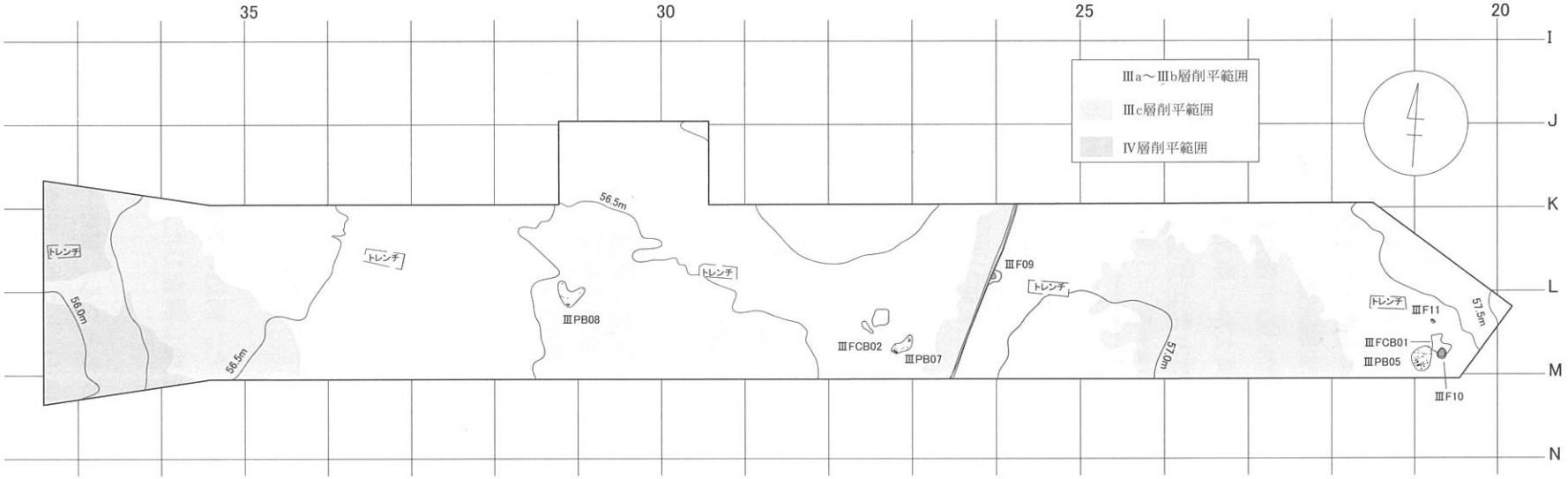
ⅢF-10・ⅢPB-05・ⅢFCB-01（図Ⅳ-２・５-２・３　図版12-６・13-２・３・26-１-２・３）

〔ⅢF-10〕位　置：L-20　　規　模：66×56×６cm

〔ⅢFCB-01〕位　置：L-20　規　模：140×108cm

確認・調査：ⅢbL層調査中に土器集中（ⅢPB-05）を検出した。周辺にB-Tmが斑状に分布していたため、土器集中（ⅢPB-05）の中央に土層観察用のベルトを残し調査した。出土レベルはB-Tmより下位のレベルで出土している。

集中範囲の広がりを確認するため周辺のⅢbL層を掘り下げたところ、ⅢPB-05の北東側１mほどの地点で約1.5～２mの範囲でフレイクチップ集中（ⅢFCB-01）とこれに重複する被熱範囲を検出し、トレンチ調査を行った。断面を観察したところ厚さ約４cmの地山被熱層を確認し、ⅢF-10とし



図Ⅳ-1　続縄文文化期遺構分布図

表Ⅳ-1　続縄文文化期遺構群一覧表

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
	長軸	短軸				
ⅢF-09	70	57	K-25・26	ⅢbL		北大式期
ⅢF-10	66	56	L-20	Ⅲc	ⅢPB-05・ⅢFCB-01	北大式期
ⅢF-11	28	11	L-20	Ⅲc		北大式期
ⅢPB-05	100	80	L-20	ⅢbL		北大式期
ⅢPB-07	140	30	L-27	ⅢbL		北大式期
ⅢPB-08	20	20	L-30・31	Ⅲc		北大式期
ⅢFCB-01	140	108	L-20	ⅢbL		北大式期
ⅢFCB-02	96	94	L-27	Ⅲc		北大式期

て調査した。土層断面は、１層が燃焼面相当層、２層が強い地山被熱層、３・４層が弱い地山被熱層である。全体にしまりが弱く、層境はやや不明瞭である。１層は炭化物を少量含み、被熱した剥片が多く出土した。

遺物出土状態：ⅢPB-05 では破片の状態の土器が１m四方の範囲で出土した。このうち 30 cmほどの狭い範囲から口縁部片がまとまって出土した。ⅢFCB-01 では焼土上面と重複部分にあたる南側で剥片石器、剥片が多く出土し、被熱が認められた。ⅢＦ-10、ⅢFCB-01 は被熱石器が含まれていることから関連を有しており、またⅢPB-05 もほぼ同一面で検出されている。位置も近いことから各遺構は同時期に形成されたと考えられる。

出土遺物（図Ⅳ-５-１～３）：１はⅢＦ-09 から出土した甕の胴部片で胎土に砂礫を中量含んでいる。２・３はⅢPB-05 の同一個体片の口縁部で、胎土に砂礫を多量に含む。口唇部は内側が隅丸、外側が角状に整形されている。器面全体はナデ調整され、口縁部直下に等間隔の OI 突瘤が連続して施される。ⅢPB-05 から土器 108 点、石鏃１点、石槍１点、剥片１点が出土した。ⅢFCB-01 から RF１点、ピエス・エスキーユ１点、剥片 28 点、礫３点、計 33 点（重量 51.24g）が出土した。石器類全体のうち約 30%に被熱痕跡が認められた。ⅢＦ-10 から剥片４点（重量 4.35g）が出土した。１点のみに被熱痕跡が認められた。石材はすべて黒曜石製である。　（２・３；奈良　山田）

ⅢPB-07（図Ⅳ-３・５-４　図版 11-２・26-１-４a・４b）

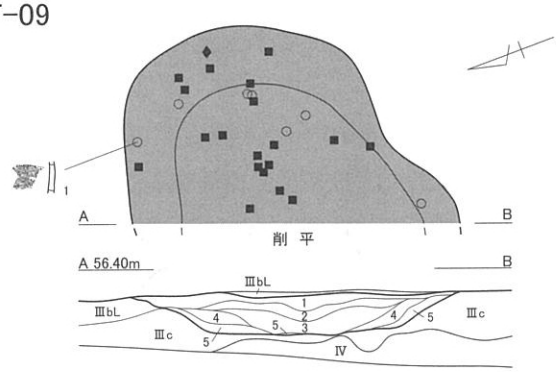
L-27 区のⅢc 層で底部を上にした状態で土器が出土した。この土器集中はⅢc 層で出土しており、底部の立ち上がりや胎土が他の擦文土器と異なることから、続縄文文化期の遺物に属する可能性も考えられる。このような土器は類例がなく例外的ではあるが、胎土に円～亜円の砂礫を含む特徴から本章で報告するものである。この集中は 28×10cm と１m 北東側に出土する 10×９cm の集中が接合し、土器自体の拡散は３点ほど離れた地点で接合しているが、殆どが同じグリッド間の接合である。４はⅦF1 の口縁部から底部にかけての復元個体で、器面全てナデ調整され、文様は施されていない。器形は口縁部が外反し胴部が張り出すやや球胴状を呈しており、底部からの立ち上がりは張り出しがなく、直線状に外傾している。胎土には円礫の砂粒を多く含み剥がれやすく脆い。（奈良）

ⅢPB-08（図Ⅳ-３・５-５～７　図版 13-４・５・26-１-５～７）

L-30・31 区のⅢc 層を掘り下げたところ、ⅢcL 層からまとまって土器が出土したが、遺物量は少なく、20×18cm の範囲から出土した。周辺では同じⅢcL 層から僅かながら出土しているが、出土量は僅少である。この集中区上層のⅢbL 層からは擦文土器が出土しているが、本集中区から出土した土器は明らかに擦文土器の下層から出土し、胎土も本遺跡で出土する擦文土器と異なる事から、擦文後期中葉より古い時期、つまり北大式期の所産であると思われ、層位的にも矛盾しない。

出土遺物（図Ⅳ-５-５～７）：５・６は口縁部から胴部にかけての資料で、口縁部はやや外傾し、口唇部は角状を呈する。胴部は僅かに膨らみをもつが、直立気味に立ち上がる。文様は口縁部直下の円形刺突文のみで、φは４mm前後である。内面の刺突による突瘤部分には、刺突を施す際に内側を押さえた製作者の指紋が認められる。６は胴部下半～底部にかけての資料で、底側縁から胴部下半にかけて外傾する。器表面はハケメ後ナデ調整されており、胎土はいずれも砂礫を中～多量含む。７はスクレイパーで、円礫面が残置する不定形剥片を素材とし、剥片末端の背面側に急角度剥離による平面Ｕ字形の刃部が作出されている。　（奈良　７：山田）

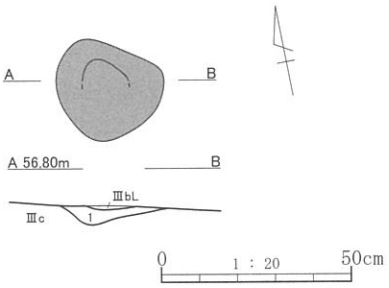
ⅢF-09



ⅢF-09

1. 10YR2/2　黒褐色　　燃焼面　ⅢbL＝焼土粒･焼骨片（φ10↓ 斑状）しまり中　粘性中
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　強い地山被熱層（Ⅲc）－焼骨片（φ10↓ 均一）しまり強　粘性弱
3. 10YR4/6　褐色　　強い地山被熱層（Ⅲc）－焼骨片（φ3↓ 斑状）しまり強　粘性極弱
4. 10YR3/4　暗褐色　　弱い地山被熱層（Ⅲc）－焼骨片（φ3↓ 斑状）しまり中　粘性やや弱
5. 10YR2/2　黒褐色　　弱い地山被熱層（Ⅲc）　しまり中　粘性やや弱

ⅢF-11

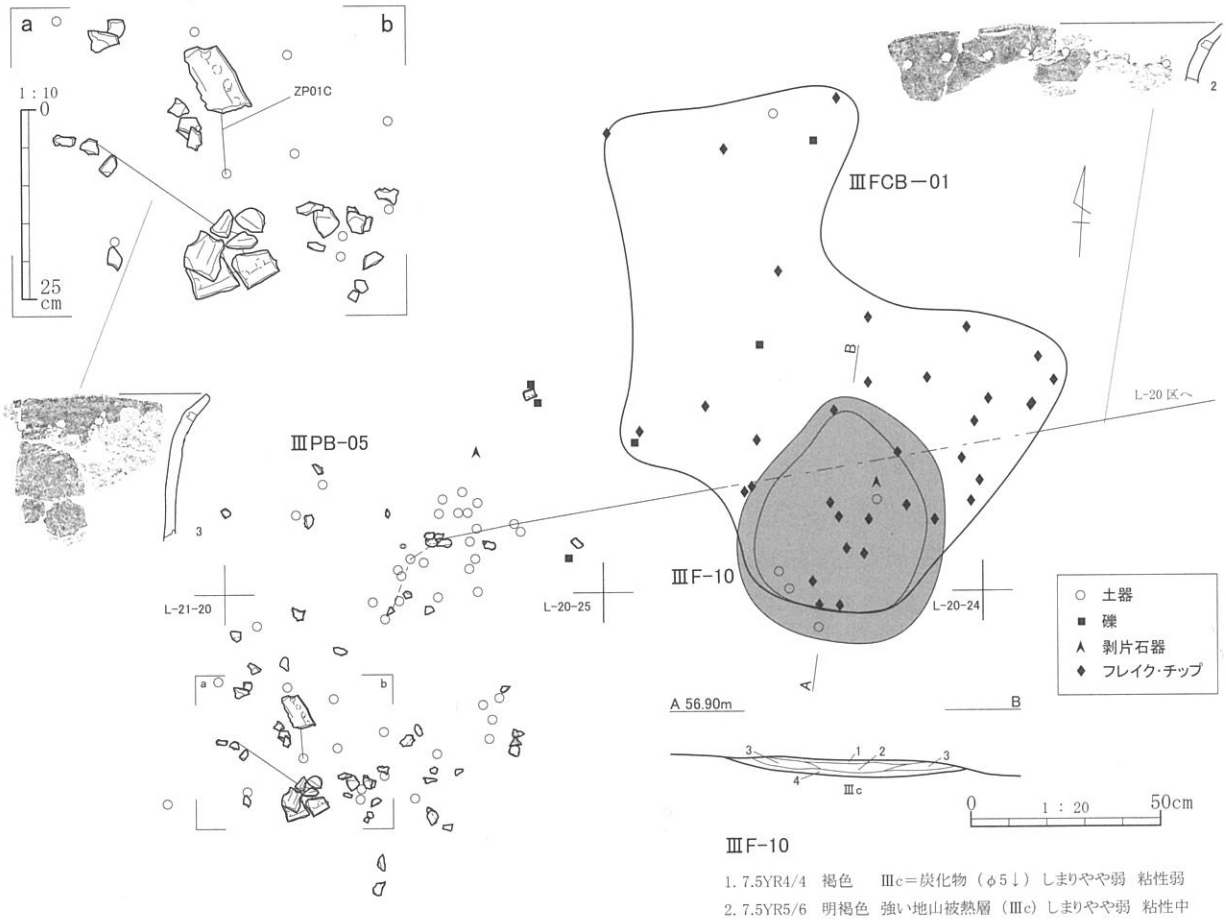


ⅢF-11

1. 10YR3/4　暗褐色　焼土－ⅢbL（斑状）しまり中　粘性強

○ 土器
■ 礫
♦ フレイク･チップ

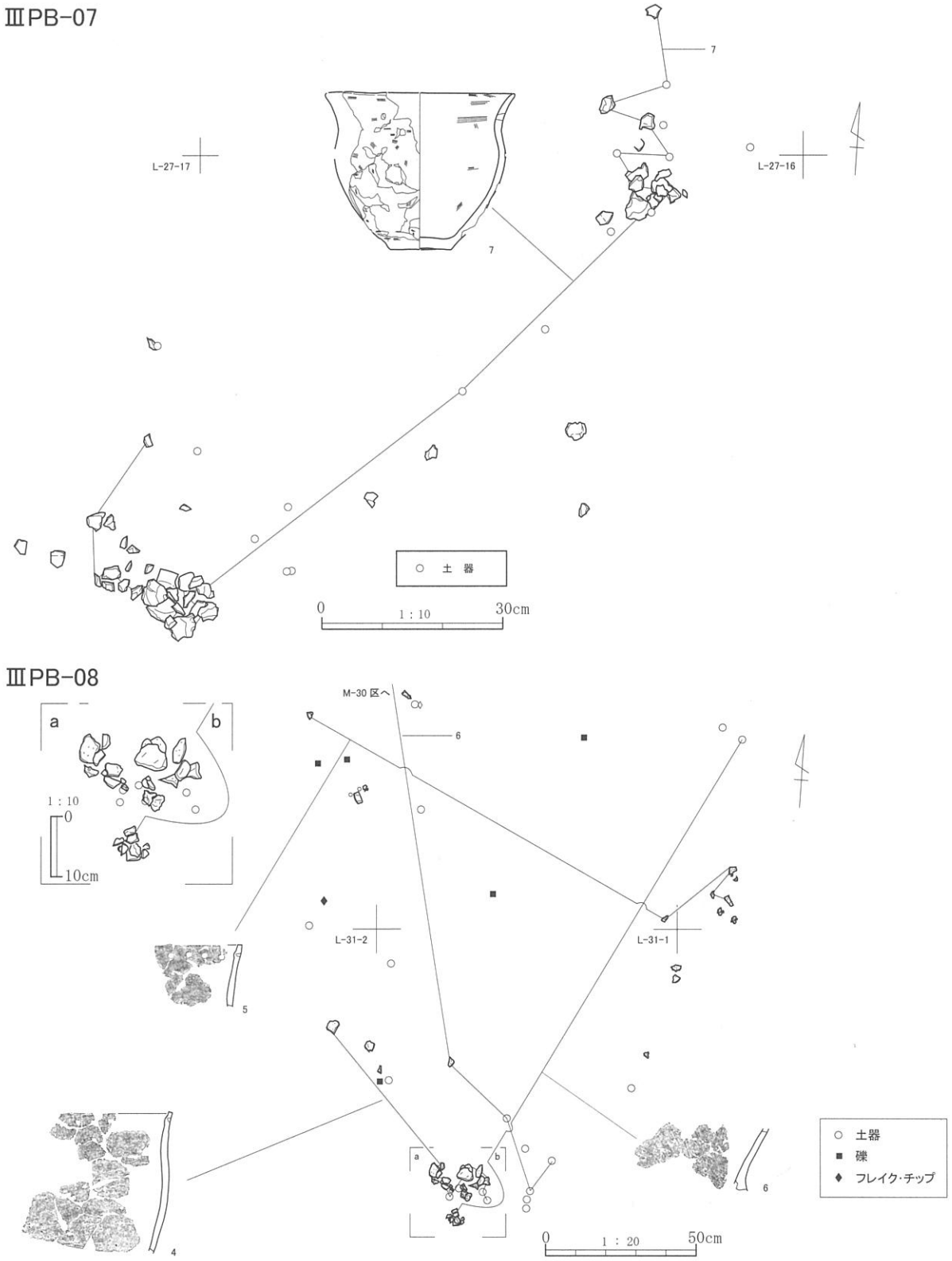
ⅢF-10･ⅢPB-05･ⅢFCB-01



ⅢF-10

1. 7.5YR4/4　褐色　　Ⅲc＝炭化物（φ5↓）しまりやや弱　粘性弱
2. 7.5YR5/6　明褐色　強い地山被熱層（Ⅲc）しまりやや弱　粘性中
3. 7.5YR4/3　褐色　　弱い地山被熱層（Ⅲc）しまり中　粘性中
4. 10YR2/2　黒褐色　弱い地山被熱層（Ⅲc）しまり中　粘性弱

図Ⅳ-2　ⅢF-09 ～ 11･ⅢPB-05･ⅢFCB-01 平面及び断面図



図Ⅳ-3　ⅢPB-07·08 平面図

表Ⅳ-2　ⅢF-09～11・ⅢFCB-01・02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有・無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅳ-2	12-4	ⅢF-09	K-25・26	ⅢbL	-	70	(57)	8	骨片	
Ⅳ-2	12-6	ⅢF-10	L-20	Ⅲc	円形	66	56	6	骨片	
Ⅳ-2	12-8	ⅢF-11	L-20	Ⅲc	円形	28	11	6	無	
Ⅳ-2	13-3	ⅢFCB-01	L-20	Ⅲc	不整形	140	108	-	無	
Ⅳ-4	13-6	ⅢFCB-02	L-27	Ⅲc	不整形	96	94	-	無	

ⅢFCB-02（図Ⅳ-４・５-８　図版 13-６　26-１-８）

L-27 区のⅢc 層を調査中、フレイク・チップの集中を検出した。面的な掘り下げを行い、出土範囲を検出した。平面形を記録し、剥片石器と２cm大の剥片を中心に座標点を記録し、取り上げを行った。それ以下の大きさの剥片は土壌ごとサンプリングし、ウォーターセパレーションで遺物を回収した。規模は 96×94cm で、南西側にも集中を確認した。石材は黒曜石が主体で、剥片石器が１点出土している。検出層位から続縄文文化期と考えられる。

出土遺物：７は背面に円礫面が残置する不定形剥片素材のスクレイパーで、素材剥片末端の背面側に急角度剥離による平面U字形の刃部が作出されている。　（山田）

第３節　包含層出土遺物

１．土器（図Ⅳ-６-１～６　図版 26-２-９～14）

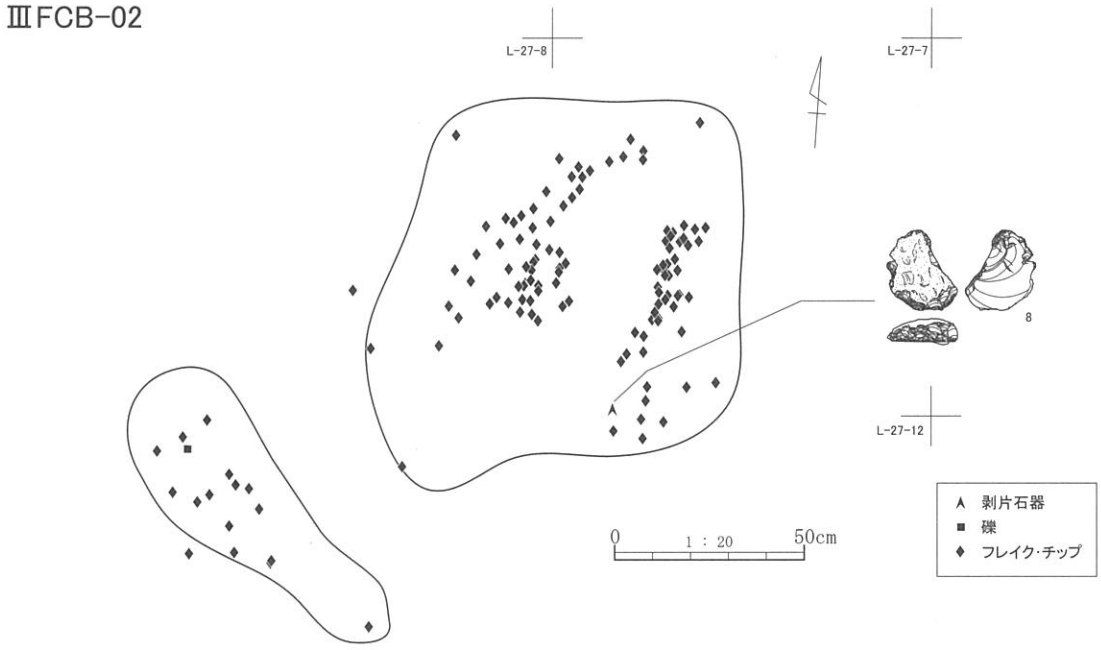
１は口縁部で波状を呈する。口唇部は丸状で、ナデ整形され口縁部直下には５本の微隆起線文が認められる。２は注口基部、３は注口部分である。いずれも器表面に微隆起線が認められ、内面には注口を整形する際にできた擦痕が部分的に観察できる。１～３は同一個体で注口土器であると思われる。胎土はいずれも砂礫を少～中量含んでいる。４は口縁部で外反し、口唇部は角状に整形され、口縁部直下にφ４mm 前後の細い円形刺突が施される。胎土は砂粒を少量含み、器表面は黒色でやや光沢をもつ。５は胴部で器表面はハケメ・ナデによって整形される。胎土の観察から４・５は同一個体である。６は口縁部下位から胴部上半にかけての資料で、円形刺突が２ヶ所認められる。胎土は砂粒を少量含む。　（奈良）

２．石器（図Ⅳ-６-７～10　図版 26-３-15～18）

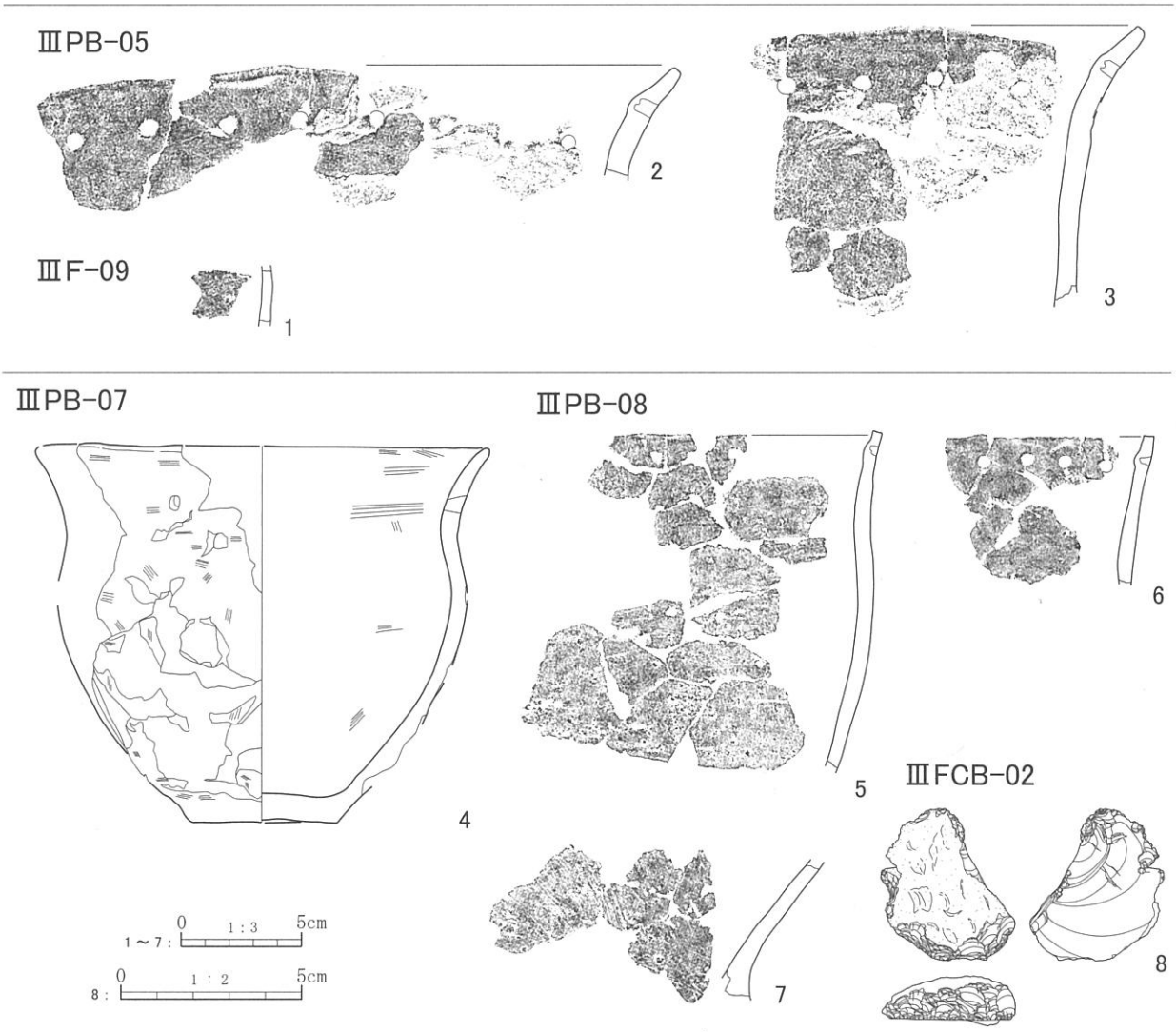
剥片石器は石鏃１点、スクレイパー３点、石核１点、ピエス・エスキーユ１点、RF１点、UF６点、計 13 点（重量 59.38g）が出土した。石材はスクレイパー１点が頁岩製で、他は黒曜石製である。

礫石器はたたき石 13 点、砥石２点、滑沢面ある礫１点、計 16 点９個体（重量 2188.30g）が出土した。石材は滑沢面ある礫が凝灰岩製、他は砂岩製で、特に砥石には細粒砂岩が利用されている。

７はスクレイパー。背面に円礫面が残置する不定形剥片を素材とする。素材剥片末端に、背面側への急角度剥離により器体をほぼ半周する平面U字形の刃部が作出されている。刃部は鈍角で刃縁の摩耗が著しい。８は石核。剥離作業面は４面認められ、打面を 90 度転移して剥片を剥離している。９は砥石。破損のため全体形状が不明であるが、板状礫を素材とする。砥面は両面に形成され、表面は器体中央に向かってわずかに窪み、裏面は平滑である。両面とも器体長軸方向の擦痕が観察される。10 は滑沢面ある礫。平面楕円形の扁平な凝灰岩を素材とする。滑沢面は下端と裏面平坦面に形成されている。　（山田）



図Ⅳ-4　ⅢFCB-02 平面図



図Ⅳ-5　ⅢF-09・ⅢPB-05・07・08・ⅢFCB-02 出土土器及び石器

表Ⅳ-3　続縄文文化期遺構出土土器属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整 内側	器面調整 外側	点数	備考
Ⅳ-5-1	26-1-1	ⅢF-09	ZP06	ⅦA？	946	K-25	ⅢbL	甕	胴部	ナデ	ナデ	1	φ3↓円礫多量
Ⅳ-5-2	26-1-2	ⅢPB-05	ZP01A	ⅦA？	1990・1991 他5点	L-20	Ⅲc	甕	口縁部	ナデ	ナデ	7	
Ⅳ-5-3	26-1-3		ZP01B		2132・2137 他5点	L-20	Ⅲc		口縁部	ナデ	ナデ	7	
Ⅳ－5－4	24-1-4a	ⅢPB-07	SP05	ⅦA？	564・2196・2183 他28点	L-27	Ⅲc	甕	口縁～底部	ナデ	ナデ	34	
					2048・2049	L-25							
					541	K-26							
Ⅳ-5-5	26-1-5	ⅢPB-08	ZP02A	ⅦA？	169	L-31	ⅢbL	甕	口縁部～胴部	ナデ	ナデ	14	φ3↓円礫多量
					2560・2549 他9点		ⅢcL						
					730・731		Ⅲc						
Ⅳ-5-6	26-1-6		ZP02B		2541・2540・2542	K-30	ⅢcL		口縁部	ナデ	ナデ	5	
					2537・2574	K-31							
Ⅳ-5-7	26-1-7		ZP02D		266	K-31	ⅢbL		胴部下半～底部	ナデ	ハケメナデ	7	
					721	K-31	Ⅲc						
					733・735・736	L-31	Ⅲc						
					2552・2569	L-31	ⅢcL						

表Ⅳ-4　ⅢFCB-02出土石器属性表

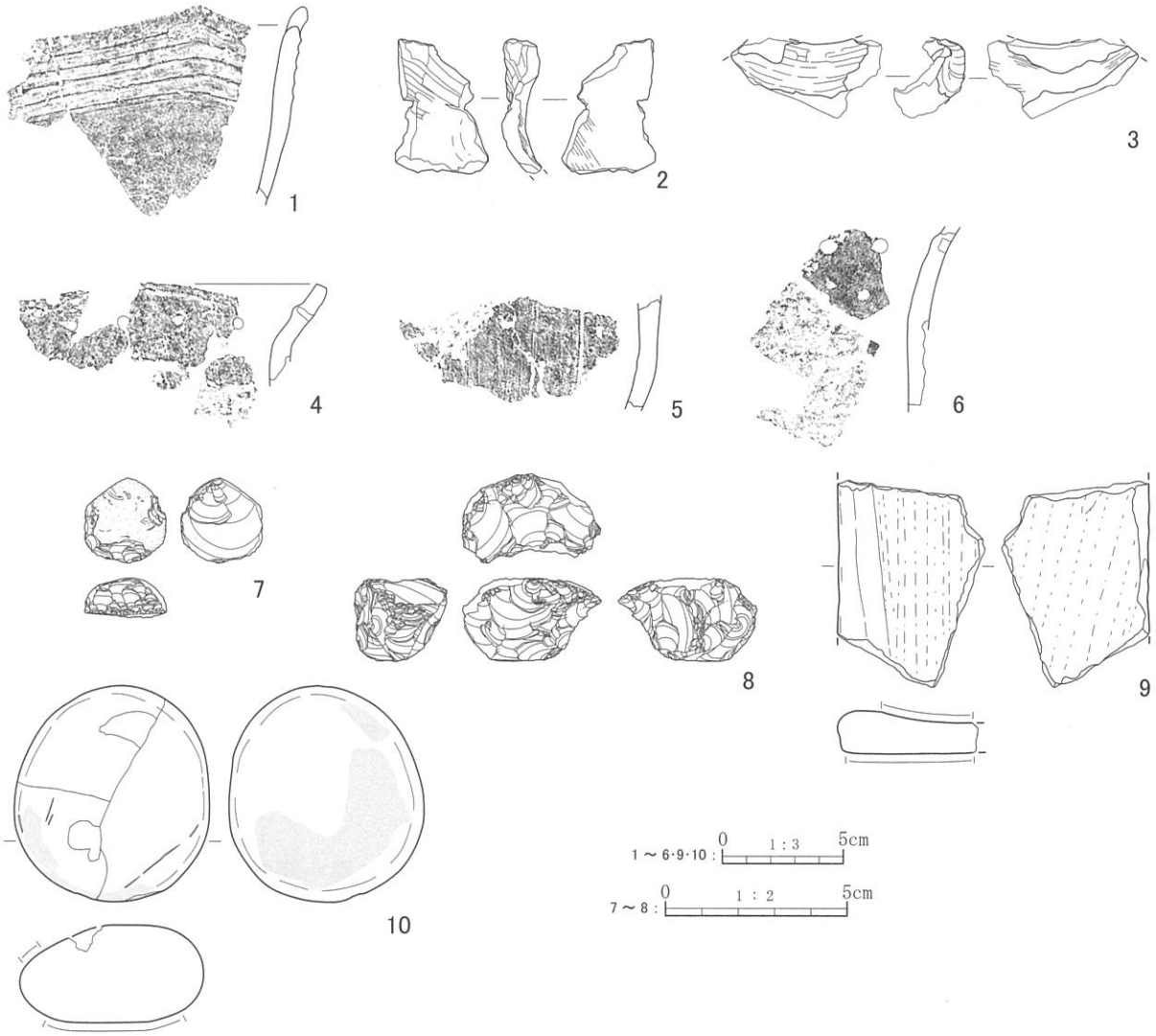
挿図番号	図版番号	遺構名	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm) 長軸	計測値(mm) 短軸	計測値(mm) 厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-5-8	26-1-8	ⅢFCB-02	－	L-27	1981	スクレイパー	A2	Ⅲc	44.4	34.4	12.3	16.41	Obs.	

表Ⅳ-5　続縄文文化期包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整 内側	器面調整 外側	点数	備考
Ⅳ-6-1	26-2-9	ZP03A	ⅦF1	2525	K-26	Ⅲc	注口	口縁部	ナデ	ナデ	2	口縁部微隆起線
				6787	K-27	ⅤbL						Ⅴ層落ち込み
Ⅳ-6-2	26-2-10	ZP03B	ⅦF1	529・540	K-26	ⅢbL	注口	注口基部	ナデ	ナデ	2	微隆起線
Ⅳ-6-3	26-2-11	ZP03C	ⅦF1	2232	K-26	Ⅲc	注口	注口部	ナデ	ナデ	1	微隆起線
Ⅳ-6-4	26-2-12	ZP04A	ⅦA?	542	K-26	ⅢbL	甕	口縁部	ナデ	ハケメナデ	3	赤色岩片多量
				2235・2242		Ⅲc						
Ⅳ-6-5	26-2-13	ZP04B	ⅦA?	2234・2236・2233	K-26	Ⅲc	甕	胴部	ナデ	ハケメナデ	3	
Ⅳ-6-6	26-2-14	ZP05A	ⅦA?	568・2372　他3点	L-27	ⅢcL	甕	胴部上半	ハケメ	ハケメナデ	5	

表Ⅳ-6　続縄文文化期包含層出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm) 長軸	計測値(mm) 短軸	計測値(mm) 厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-6-7	26-3-15	－	L-28	676	スクレイパー	A1	Ⅲc	23.3	22.6	10.3	5.89	Obs.	
Ⅳ-6-8	26-3-16	－	L-20	2026	石　核	－	Ⅲc	23.2	37.4	20.2	20.21	Obs.	
Ⅳ-6-9	26-3-17	－	K-20	1985	砥　石	ⅠB	Ⅲc	79.8	61.0	20.9	127.2	Sa.	
Ⅳ-6-10	26-3-18	－	K-20	1984	滑沢面ある礫	－	Ⅲc	87.8	79.8	47.2	330.0	Tu.	



図Ⅳ-6　続縄文文化期包含層出土土器及び石器

第Ⅴ章　縄文時代の調査

縄文時代の調査では遺構が土坑７基、焼土４ヶ所検出している。主な遺物は土器 2,965 点、剥片石器 432 点、礫石器 167 点、土製品２点、石製品１点、礫 3,450 点、剥片類 1,762 点、総数 8,783 点出土している。本遺跡では縄文時代晩期中葉の土器が主体を占め、調査区東側に濃い分布域を示している。遺構に関しては僅かしかないが、焼土は２ヶ所ずつ並んで検出するという特異な様相を示している。遺構･遺物分布の特徴として、東側にまとまって出土する傾向にあり、調査区の東側およそ 350mには厚真川とその支流であるオコッコ沢の合流点があり、遺跡の本体はより東側のオコッコ１遺跡周辺に広がるものと考えられる。また、石器に関しては晩期に特徴的な棒状原石（カラー図版４－７）や安山岩製スクレイパーが出土している。（奈良）

第１節　土　坑

土坑は調査区の東側に主な分布域を示し、全体で８基検出した。規模はＶＰ-01･05 を除いて殆どが楕円形に近く、深さも確認面から 10～40cm と統一性を欠く。時期は土坑上位に縄文晩期中葉の土器群が広がっているが、坑底面からの出土はない。しかし、検出状態などから近い時期であったと考えられる。遺構番号は 01 から 17 まで付番しているが半截後欠番にしたものがある。（奈良）

ＶＰ-01（図Ⅴ－２　図版 14-１・２）

位　置：K-31　規　模：212×112×56 ㎝　平面形：楕円形

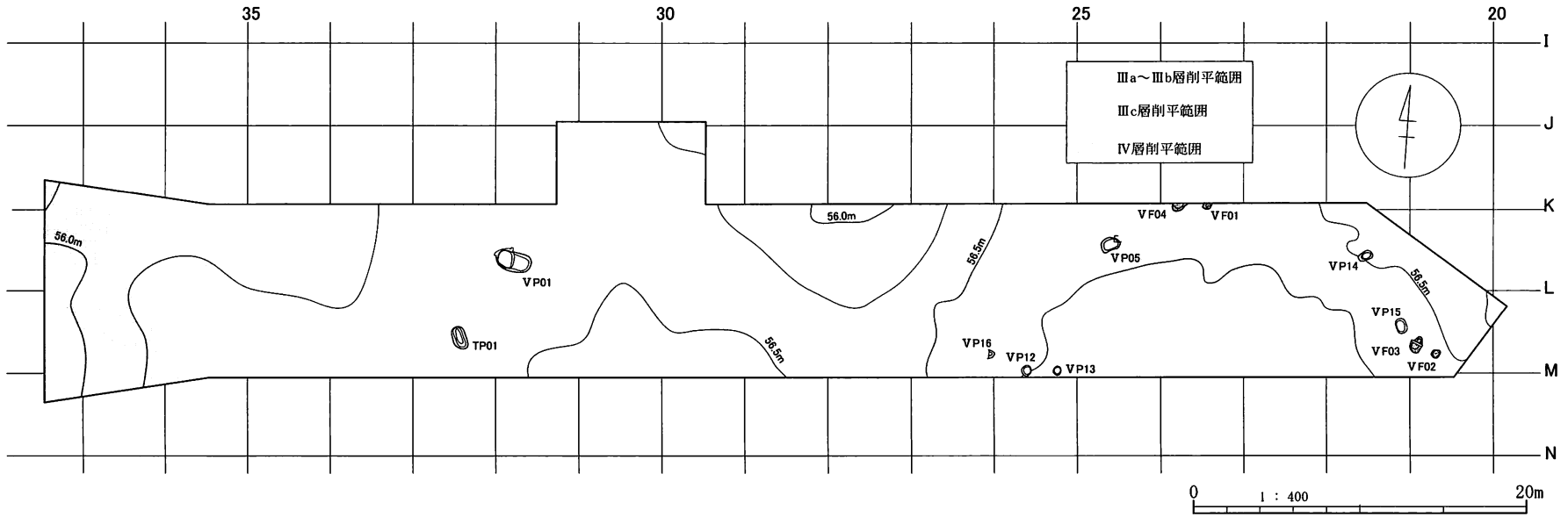
確認・調査：Ⅴb 層を調査中、K-31 区に Ta-c テフラが楕円形に落ち窪む範囲を確認した。十字ベルトを設定して断面観察を行ったところ、Ta-c テフラは中心に向かって皿状に堆積し、倒木痕などの影響が認められなかったことから、土坑として調査した。短軸ベルトを残し完掘したところ、ベルトを挟んで西と東の坑底面に段差が認められた。西側は１段低くⅤb 層起源の円形プランが確認できたが、長軸では重複関係を把握することができなかったため、短軸ベルトを外す際に完掘を行った。完掘の結果、確認面は楕円形で坑底面は円形プランが２基重なるようになったが、断面で確認できなかったため、重複関係は不明である。調査は平面の記録後、坑底面の段差が分かる位置でエレベーションを採取して調査終了とした。

堆積状態：１層は Ta-c で厚さ 14cm ほど皿状に堆積している。覆土中位の５層まではⅤb 層主体の黒色土層が堆積し、坑底面直上の６・８層は Ta-d パミスが混入する。西側の窪みに堆積する８・９層は特に違った堆積物は認められず、坑内には新旧関係を示すような堆積は認められない自然堆積であった。また、土坑周辺は若干盛り上がり、掘り上げ土の可能性も考えられたが、断面を確認したところ認められなかった。（奈良）

ＶＰ-05（図Ⅴ－２・４－１～３　図版 14-３・４）

位　置：K-24　規　模：114×80×10 ㎝　平面形：楕円形

確認・調査：Ⅵ層上面でⅤ層が落ち込む不整形な範囲を確認した。東側の撹乱で断面の立ち上がりが確認できたため、短軸で断面観察を行った。平面形は不整形であるが、坑底面はほぼ水平で、立ち上がりも明瞭であることから土坑として調査を行った。断面の記録後に完掘して撮影、エレベーション等の諸記録をとって調査終了とした。

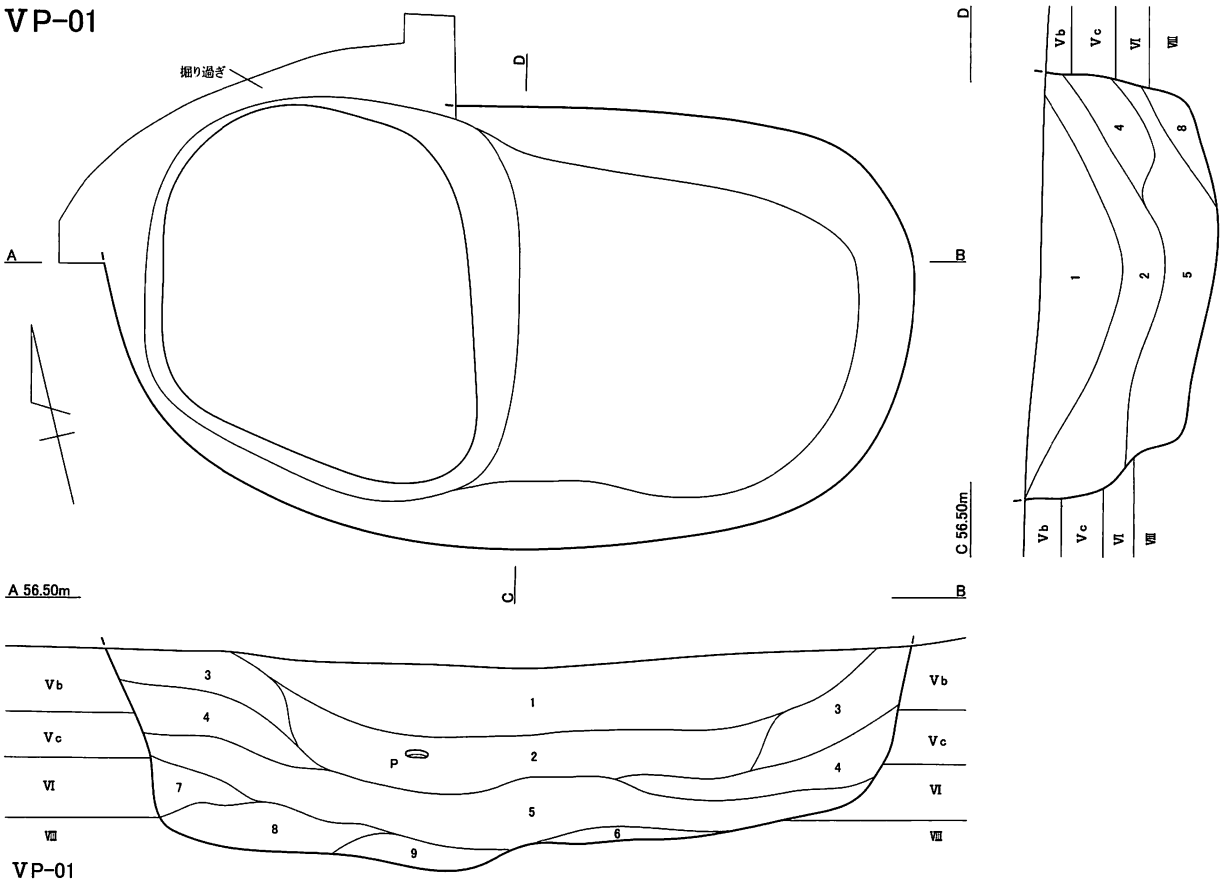


図Ⅴ-1　縄文時代遺構分布図

表Ⅴ-1　縄文時代遺構群一覧表

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
	長軸	短軸				
VP-01	212	112	K-31	VbL		
VP-05	114	80	K-24	Ⅵ		
VP-12	62	60	L-25	Vc		
VP-13	52	46	L-25	Vc		
VP-14	88	52	K-21	Ⅵ		
VP-15	90	60	L-21	Ⅵ		
VP-16	34	(46)	L-26	Ⅵ		
VF-01	46	(30)	J-23	VbU		
VF-02	50	44	L-21	VbU		
VF-03	104	70	L-21	VbU		
VF-04	(54)	(44)	J-23	VbU		
TP-01	140	80	L-32	Ⅵ		

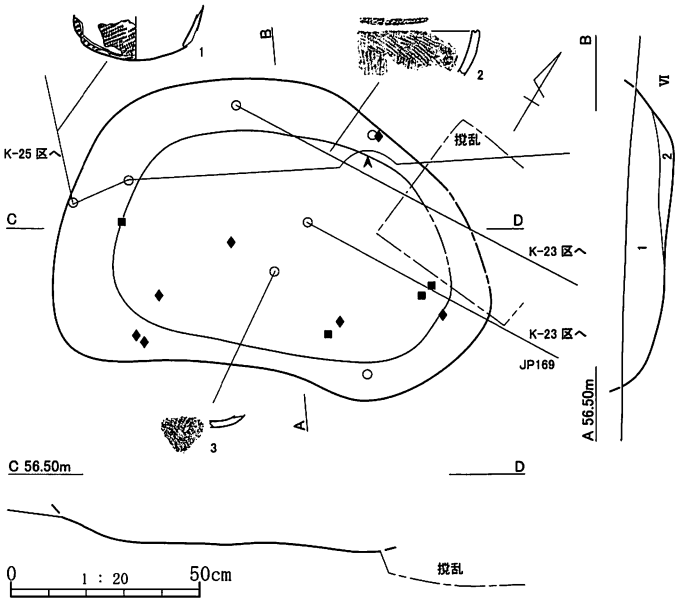
VP-01



VP-01

1. 10YR6/6　明黄褐色　Ta-c
2. 10YR2/1　黒色　Vb＝Ta-c（均一）≡Ta-dp（均一）しまり中　粘性弱
3. 10YR2/1　黒色　Vb＝Ta-d1（均一）≡Ta-dp（均一）しまり強　粘性中
4. 10YR3/1　黒褐色　Vb≡Ta-dp・Ta-c（均一）しまり中　粘性中
5. 10YR2/3　黒褐色　Vb＝Ta-dp・Ta-c（均一）≡VI　しまり中　粘性中
6. 10YR3/4　暗褐色　Ta-d－Vb　しまり中　粘性強
7. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ta-c（均一）しまり弱　粘性弱
8. 7.5YR5/8　明褐色　Ta-d－Vb（斑状）しまり中　粘性強
9. 10YR2/1　黒色　Vb＝Ta-c（均一）しまり弱　粘性弱

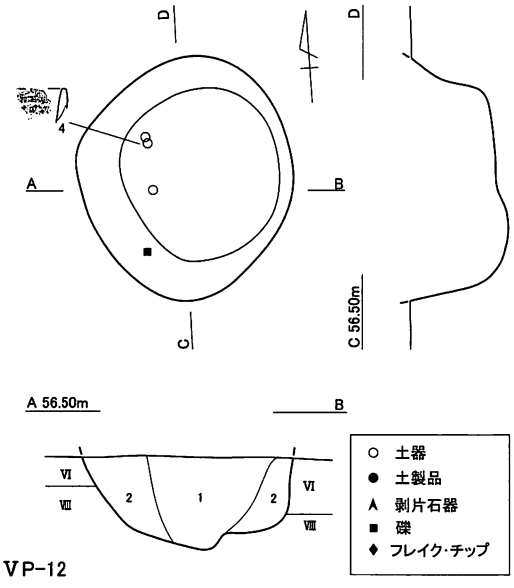
VP-05



VP-05

1. 10YR2/1　黒色　Vb～c＝Ta-dp・Ta-d1（φ5↓ 均一）しまり中　粘性中
2. 10YR3/4　暗褐色　VI－Vc　しまり弱　粘性中

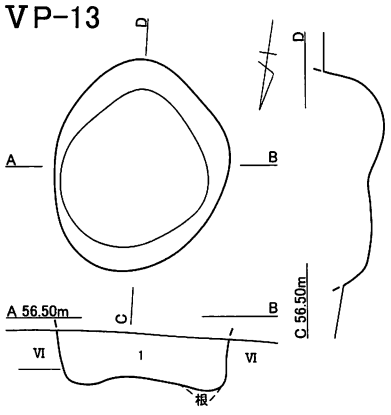
VP-12

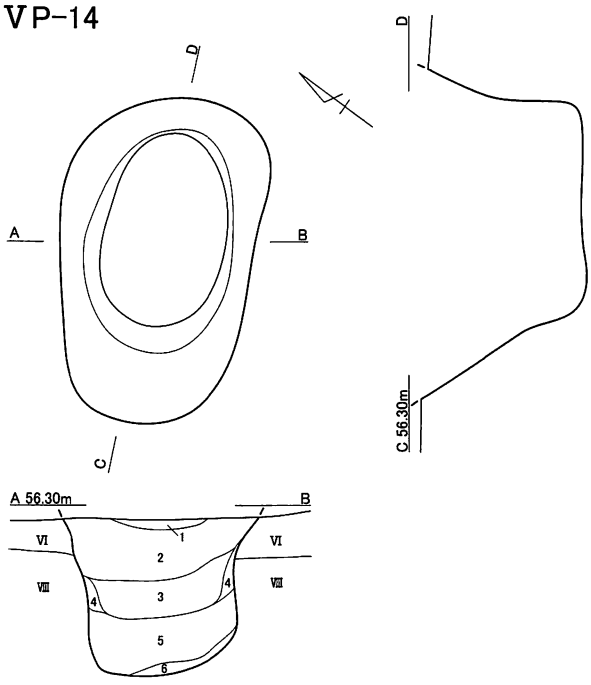


VP-12

1. 10YR2/1　黒色　Vb＝Ta-dp・Ta-d1（φ5 均一）しまり中　粘性中
2. 10YR2/2　黒褐色　Vb～c＝Ta-d1（φ10↓）しまり強　粘性中

図Ｖ-2　ＶＰ-01･05･12 平面及び断面図



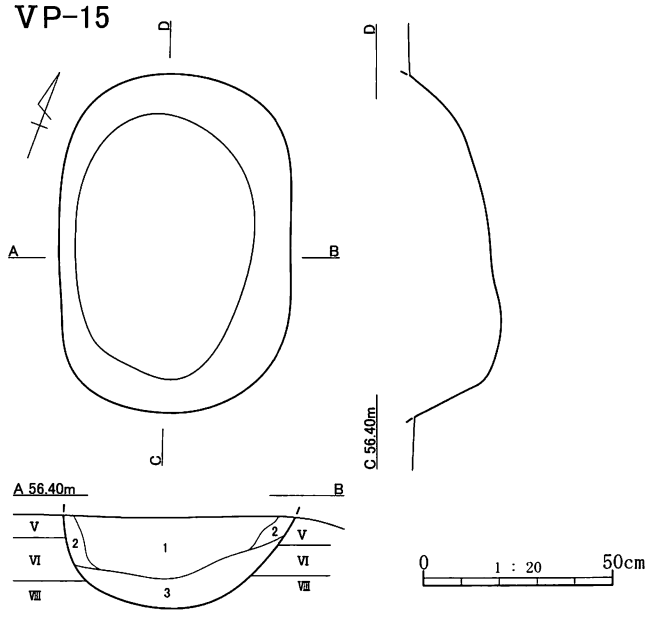


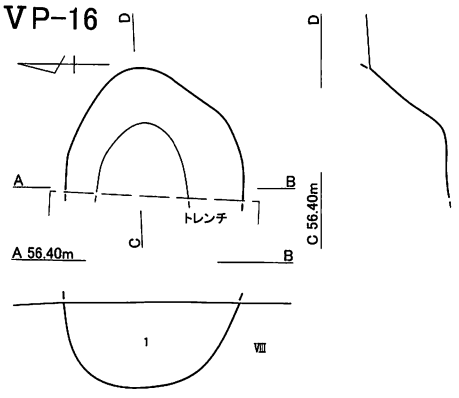
VP-13

1. 10YR2/1　黒色　Vb～c＝Ta-dl（φ5）≡Ta-dp　しまり弱　粘性中

VP-14

1. 10YR2/2　黒褐色　V－Ta-dp（φ3↓ 斑状）しまり中　粘性弱
2. 10YR2/3　黒褐色　V－Ta-dp（φ30↓ 均一）＝VI　しまり中　粘性中
3. 10YR2/2　黒褐色　V－Ta-dp（φ30↓ 斑状）＝VI　しまり中　粘性強
4. 7.5YR3/4　暗褐色　V＋VII（ブロック状）しまりやや弱　粘性強
5. 10YR2/3　黒褐色　V－Ta-dp（φ5↓ 斑状）≡VI　しまりやや弱　粘性極強
6. 10YR2/1　黒色　V＝Ta-dp（φ10↓ 斑状）しまり弱　粘性極強





VP-15

1. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ta-dp（φ10↓ 斑状）しまり中　粘性中
2. 10YR2/3　黒褐色　V＋VI≡Ta-dp（φ10↓ 均一）しまり中　粘性中
3. 10YR2/2　黒褐色　Vb－Ta-dp（φ10vv↓ 均一）しまりやや弱　粘性やや強

VP-16

1. 10YR2/3　黒褐色　V－Ta-dp（φ5↓ 均一）しまり中　粘性中

図Ⅴ-3　VP-13～16 平面及び断面図

表Ⅴ-2　VP-01·05·12～16属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
V-2	14-1	VP-01	K-31	VbL	楕円形/楕円形	212	112	184	92	56	N-14° W	1.89	2.00	－	
V-2	14-3	VP-05	K-24	VI	楕円形/楕円形	114	80	88	54	10	N-60° E	1.42	1.62	VB1	
V-2	14-5	VP-12	L-25	Vc	円形/円形	62	60	44	42	26	N-3° E	1.03	1.04	VB1	
V-3	14-7	VP-13	L-25	Vc	円形/円形	52	46	38	36	14	N-4° W	1.13	1.05	－	
V-3	15-1	VP-14	K-21	VI	楕円形/楕円形	88	52	50	32	40	N-64° E	1.69	1.56	－	
V-3	15-3	VP-15	L-21	VI	楕円形/楕円形	90	60	70	47	24	N-19° E	1.50	1.48	－	
V-3	15-5	VP-16	L-26	VI	不整形/不整形	(34)	46	(20)	24	22	N-88° E	－	－	－	

堆積状態：１層はＶb 層～c 層主体の黒色土で、Ta-d パミスと Ta-d1 スコリアを少量含み、２層はⅥ層主体であるが、Ｖc 層起源の黒色土を多量に含んでいる。いずれも自然堆積である。

遺物出土状態：覆土中位から下位にかけて土器及び礫、フレイク・チップが出土している。堆積状態から流れ込みによる遺物と考えられ、包含層と接合している。覆土下位から出土していることから、同時期の所産と考えられ、土坑出土の遺物として取り扱っている。

出土遺物（図Ｖ-４-１～３）：１～３はＶ群 B1 類の土器で１は突出底、３は平底の底部で、１は底側縁から底面にかけて LR 斜行縄文が施文される。２は口縁部で地文縄文のみ、口唇部に沿って RL 縄文原体を押圧している。いずれも胎土に砂粒を少～中量含む。（奈良）

ＶＰ-12（図Ｖ-２・４-４　図版 14-５・６）

位　置：L-25　規　模：62×60×26 cm　平面形：円形

確認・調査：L-25 区の調査区南壁付近でＶb 層が円形に落ち窪む範囲を確認した。短軸で半截し断面観察したところ、坑底面に凹凸が認められたが、立ち上がりが明瞭であったため土坑として調査を行った。短軸の記録後、完掘し写真を撮って調査終了とした。

堆積状態：１・２層ともにＶb 層を主体としており、１層は Ta-d パミスと Ta-d1 スコリアを少量含み、２層は Ta-d1 スコリアが多く、流れ込みによる自然堆積と思われる。

遺物出土状態：覆土中位より土器が１点出土している。

出土遺物（図Ｖ-４-４）：４はＶ群 B1 類の口縁部片である。文様は地文縄文のみで、口唇部は隅丸角状にナデ整形が施される。（奈良）

ＶＰ-13（図Ｖ-３　図版 14-７・８）

位　置：L-25　規　模：52×46×14 cm　平面形：円形

確認・調査：L-25 区の調査区南壁付近、ＶＰ-12 の東側にＶb 層が落ち窪む範囲を確認した。短軸で半截し断面観察を行ったところ、坑底面はやや凹凸気味であったが、立ち上がりが明瞭に認められたため土坑として調査を行った。短軸の記録後、完掘し写真を撮って調査終了とした。

堆積状態：Ｖb～Ｖc 層が主体で、Ta-d1 スコリア、Ta-d パミスが混入する。自然堆積と思われる。（奈良）

ＶＰ-14（図Ｖ-３　図版 15-１・２）

位　置：K-21　規　模：88×52×40 cm　平面形：楕円形

確認・調査：Ⅵ層上面で Ta-d パミスが斑状に混入する黒色土の不整楕円形プランを検出した。短軸方向でトレンチを設定して土層断面を観察したところ、坑底と壁面の立ち上がりを確認したため、土坑と判断して調査した。半截後、断面の記録を行い完掘した。坑底面は平坦で、坑底からはわずかにオーバーハングして立ち上がり、坑口部はやや開き気味となる。遺物は出土していない。

堆積状態：４層を除き埋め戻しと考えられる。１～３・５層はＶ層に Ta-d パミスとⅥ層が斑状に混ざる黒褐色土を基層とする。４層は壁面のⅧ層がブロック状に崩落した流入土と考えられる。６層は僅かに Ta-d パミスが混入する黒色土で、粘性が極めて強いことから遺体層の可能性がある。（山田）

ＶＰ-15（図Ｖ-３　図版 15-３・４）

位　置：L-21　規　模：90×60×24 cm　平面形：楕円形

確認・調査：ＶＦ-02・03 周辺を掘り下げたところ、Ⅵ層上面で黒色土の楕円形プランを検出し

た。短軸方向でトレンチを設定したところ、坑底と壁面の立ち上がりを確認し、土坑と判断して調査した。半截後、土層断面の記録を行い完掘した。坑底は皿状で、立ち上がりは緩やかである。

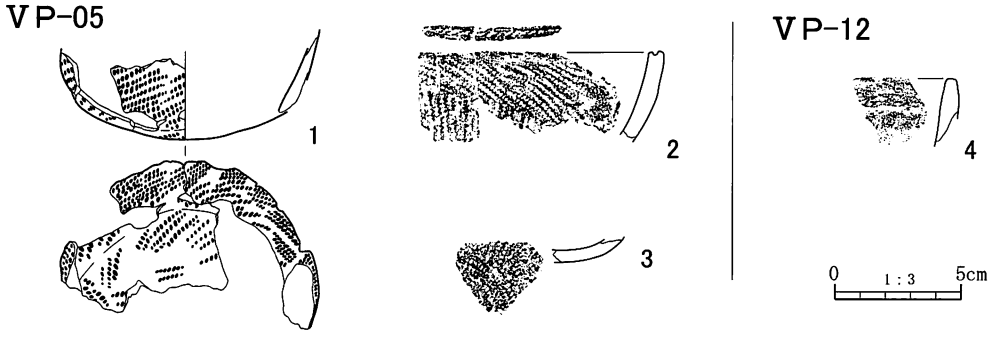
堆積状態：1・3層はVb層にTa-dパミスが斑状に混入する埋め戻し土、2層は壁面のⅤ層及びⅥ層の流入土である。（山田）

ⅤP-16（図Ⅴ-3　図版15-5・6）

位　置：L-26　規　模：(34) × (46) ×22 cm

確認・調査：L-26区のⅥ層調査中、Vb層が落ち窪む範囲を確認した。トレンチによる断面観察で西側を欠損してしまったが、立ち上がりが明瞭であることと、ⅤP-12・13と東西に並ぶ位置に検出したことから土坑として扱った。約半分を欠損してしまったため、断面記録後、残り半分を完掘し記録をとって調査終了とした。

堆積状態：Vb層にTa-dパミスが多量に混入する。Vb層においては包含層にTa-dパミスが認められる地点もあるため、流れ込みによる自然堆積と思われる。（奈良）



図Ⅴ-4　ⅤP-05·12出土土器

表Ⅴ-3　ⅤP-05·12出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅴ-4-1	27-1-1	JP114	VB1	胴部下半～底部	3175·5670·5506 他4点/VP-05·K-24·25/Va·bU·bM·c	外傾-丸状-突出底	LR斜行縄文-LR斜行縄文-ナデ	砂礫少量	
Ⅴ-4-2	27-1-2	JP071	VB1	口縁部	7483·9709/K-23·VP-05/VbL·c	平縁·外傾-隅丸角状	RL縄文原体押圧-RL斜行縄文(一部縦位)-ミガキ	砂粒中量	
Ⅴ-4-3	27-1-3	JP131	VB1	底部	9864/VP-05/Vc	丸状-平底	RL斜行縄文-ミガキ	砂粒中量	
Ⅴ-4-4	27-1-4	JP132	VB1	口縁部	9852/VP-12/Vc	平縁·やや外傾-隅丸角状	ナデ-RL斜行縄文	砂粒少量	

第2節　焼　土

ⅤF-01・04（図Ⅴ-5・6-1～3·10·11　図版15-7・8　16-5～7）

〔ⅤF-01〕　位　置：J-23　　規　模：(46) × (30) ×10cm

〔ⅤF-04〕　位　置：J-23　　規　模：(54) × (44) ×12cm

確認・調査：本遺構はJ-23区の調査区北壁にかかるように、2ヶ所並んで検出している。いずれもVbU層検出で、縄文時代晩期の所産と考えられる。間隔は約1mと密接しており、西側のⅤF

-04 は僅かに焼骨片が認められる。遺物は周辺からＶB1 の土器が多量に出土していることから、焼土範囲と重なる、もしくは縁辺部に出土する遺物を本遺構出土の遺物として取り扱っている。検出層位から同時期と思われる焼土は本遺構の南東側でも２ヶ所並んで検出している。燃焼面も 10cm 前後と比較的厚く、２ヶ所並列していることから住居の可能性も想定したが、規則性のある柱穴は見つかっていない。（奈良）

出土遺物（図Ｖ－６－１～３・10・11）：１・２はＶＦ-01 から出土した。１は胴部上半で地文のほか格子目状沈線文が施される。２は胴部下半で地文のみ。いずれも二次被熱のため赤色化している。３はスクレイパー。不定形剥片を素材とする。背腹両面の左側縁に平坦剥離による刃部が作出されている。被熱により破損している。10 はＶＦ-04 から出土した資料で、形状から鉢に相当する器形と考えられる。器表面は全体的に弱いナデ調整が、口唇部には不連続に刻みが施される。11 はピエス・エスキーユ。対向する上下端に両極剥離による圧縮型の剥離痕が集積する。剪断面は右側面で２面、左側面で末端まで達しない１面が観察される。左側面と腹面右端に節理面が残る。

（１・２・10：奈良　３・11：山田）

ＶＦ-02・03（図Ｖ－５・６－４～９　図版 16－１～４）

〔ＶＦ-02〕　位　置：L-21　　規　模：50×44×12cm

〔ＶＦ-03〕　位　置：L-21　　規　模：104×70×14cm

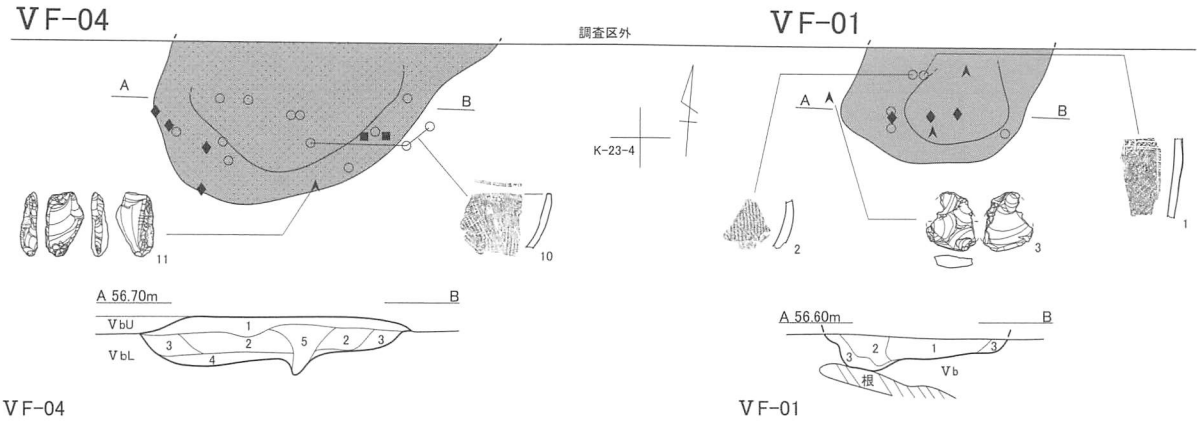
確認・調査：調査区東側のＶbU 層の調査で、暗褐色の不整形プランを２ヶ所検出した。Ｖa 層からも遺物が多く出土していたが、周囲は倒木痕で乱され、Ta-d1 スコリアが混在していたため、暗褐色の不整形プランも倒木痕によりⅥ層が持ち上げられた痕跡と考えていた。しかし、プランの上面から被熱痕跡のある剥片や二次焼成を受けた土器がまばらに出土したため、焼土の可能性を考慮してトレンチ調査を行った。土層断面の観察で燃焼面と地山被熱層を確認し、それぞれＶＦ-02・03 として調査した。02・03 は同一レベルで検出し、並列していることから、同一時期に形成されたと考えられる。土層断面はＶＦ-02・03 ともに共通している。１層は燃焼面で炭化物を微量に含む。２・３層は地山被熱層で、ＶＦ-03 の方がしまり、粘性ともに強い。４層は地山被熱層とＶb 層との漸移層で層境は不明瞭である。

遺物出土状態：多くは１層出土だが、ＶＦ-02 では２層上～中位から出土している。（山田）

出土遺物（図Ｖ－６－４～９）：〔ＶＦ-02〕土器は 16 点が出土した。石器類は石槍３点、RF１点、UF１点、剥片 21 点、礫５点、計 31 点（重量 52.34g）が出土した。石器石材は剥片２点がメノウ製、他は黒曜石製。礫はすべて砂岩である。石槍はすべて破損している。石器類は 46％に被熱が認められる。４・５は地文縄文のみの胴部で、６は吊耳状把手と思われる破片で、左右に撚糸、側面には貫通孔が認められる。色調はいずれも二次焼成のため赤色化している。

〔ＶＦ-03〕土器は 14 点が出土した。石器類は石鏃１点、スクレイパー１点、UF２点、剥片 67 点、礫３点、計 74 点（重量 114.82g）が出土した。石器石材は剥片２点がメノウ製、他は黒曜石製。礫は１点が泥岩で、他は砂岩である。石器類は 44％に被熱が認められる。

７は口縁部で口唇部に連続した刻みが施される。８は平底の底部で底面に RL 斜行縄文が施される。９は石鏃、縁辺に微細な調整が施された基端の尖る有茎鏃で背腹両面に素材面を残す。身部は幅広、返しは弱い。（山田　４～８：奈良）

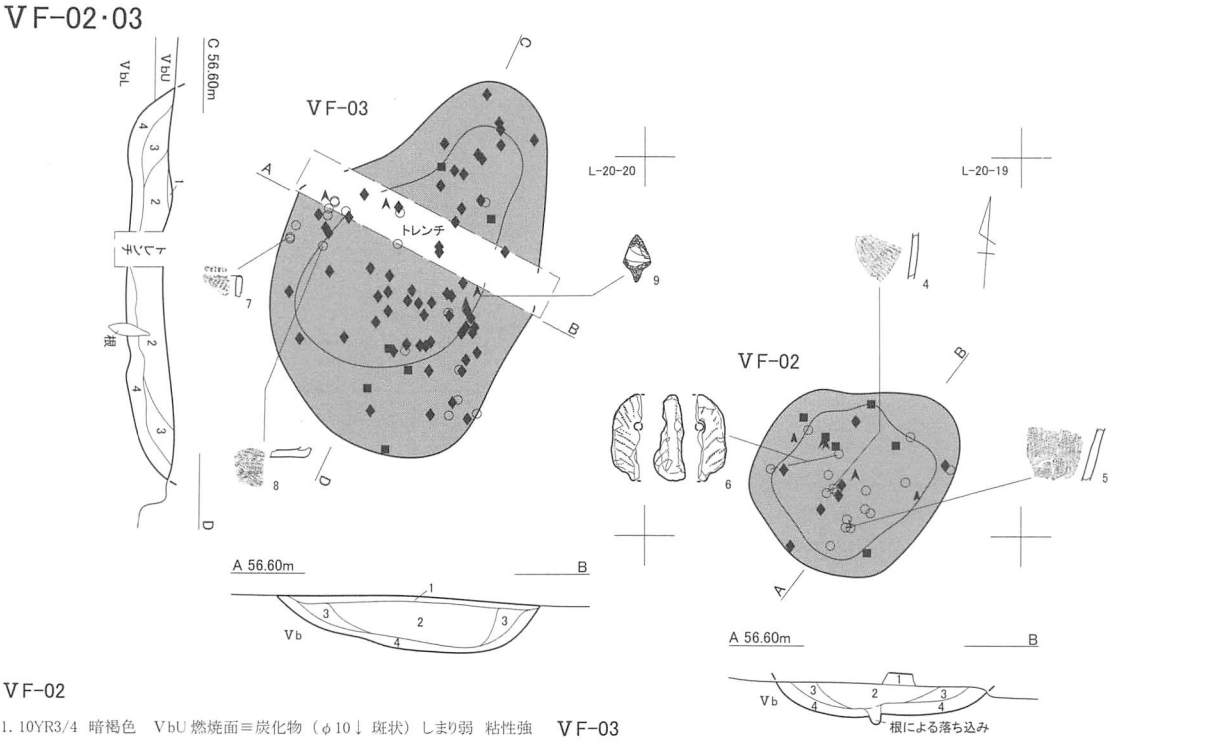


VF-04

1. 10YR3/4　暗褐色　Vb 燃焼面≡焼骨片（均一）しまり中　粘性中
2. 7.5YR5/8　明褐色　Vb 地山被熱層　しまり中　粘性中
3. 10YR3/1　黒褐色　VbL 被熱層の影響でやや色調明るい　しまり弱　粘性中
4. 7.5YR4/6　褐色　VbL－被熱層　しまり中　粘性強
5. 10YR3/3　暗褐色　Vb 根穴？

VF-01

1. 10YR6/8　明黄褐色　地山被熱層　焼骨等を含まない
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　弱い地山被熱層≡炭化物
3. 10YR3/3　暗褐色　2より弱い被熱範囲　色調やや明るい



VF-02

1. 10YR3/4　暗褐色　VbU 燃焼面≡炭化物（φ10↓ 斑状）しまり弱　粘性強
2. 10YR4/6　褐色　地山被熱層　しまり弱　粘性強
3. 10YR3/4　暗褐色　地山被熱層＝Vb（斑状）しまり中　粘性強
4. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡焼土（斑状）しまり中　粘性強

VF-03

1. 10YR3/4　暗褐色　VbU－礫（φ50↓ 斑状）＝焼土≡炭化物（φ10 斑状）しまり弱　粘性強
2. 7.5YR5/8　明褐色　地山被熱層　しまりやや強　粘性中
3. 10YR3/3　暗褐色　弱い地山被熱層　しまりやや強　粘性なし
4. 10YR2/1　黒色　Vb≡焼土（斑状）しまり強　粘性強

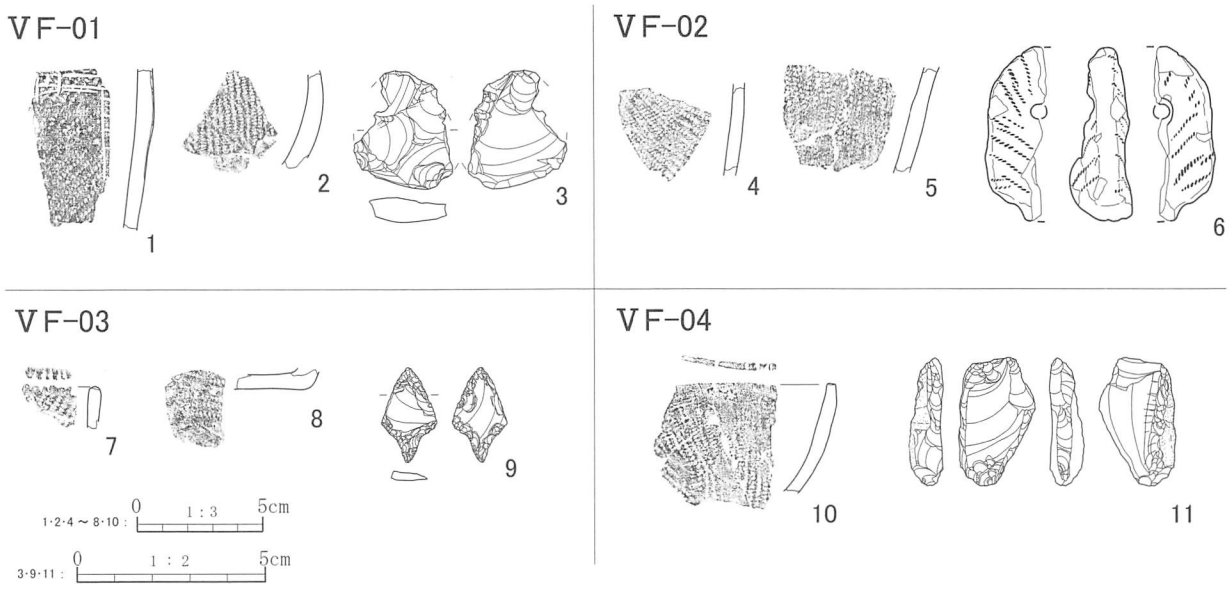
0　1：20　50cm

○ 土器
▲ 剥片石器
■ 礫
◆ フレイク・チップ

図Ⅴ-5　VF-01～04 平面及び断面図

表Ⅴ-4　VF-01～04 属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層 位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
V-5	15-7	VF-01	J-23	VbU	不整形	46	(30)	10	骨片	
V-5	16-1	VF-02	L-21	VbU	楕円形	50	44	12	無	
V-5	16-3	VF-03	L-21	VbU	不整円	104	70	14	無	
V-5	16-5	VF-04	J-23	VbU	不整形	(54)	(44)	12	無	



図Ⅴ-6　VF-01 ～ 04 出土遺物

表Ⅴ-5　VF-01～04　出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面		
V-6-1	27-1-5	JP086A	VB1	胴部上半	6011/VF-01/VbU	直立	LR斜行縄文・格子目状沈線文	砂粒少量	深鉢
V-6-2	27-1-6	JP125	VB1	胴部	6010/VF-01 /VbU	外傾	縦位RL縄文-ナデ	砂粒多量	鉢？
V-6-4	27-1-8	JP087	VB1	胴部	3611・3630/VF-02 /1・2	やや外傾	RL斜行縄文・ナデ-ミガキ	砂粒少量	深
V-6-5	27-1-9	JP127	VB1	胴部	5040・5047・10216/VF-02 /2	やや外傾	RL斜行縄文・ナデ	砂粒多量	深？
V-6-6	27-1-10	JP126	VB1	突起	5041・10308/VF-02 /2	吊耳状把手	R撚糸縄文(肥厚側面)円形刺突(貫通)・ナデ	砂粒中量	補修孔
V-6-7	27-1-11	JP129	VB1	口縁部	5052/VF-03/3	平縁・直立-丸状	刻み-LR斜行縄文	砂粒中量	深？
V-6-8	27-1-12	JP128	VB1	底部	5055/VF-03 /3	やや外傾-隅丸角状-平底	RL斜行縄文	砂粒少量	？
V-6-10	27-1-14	JP130	VB1	口縁部～胴部	2910・6015・6018/VF-04 ・J-23/VbU	平縁・やや外傾-隅丸角状/外傾	刻み(一部)-RL斜行縄文・ナデ-ミガキ(弱)	砂粒少量	鉢

表Ⅴ-6　VF-01・.03・04出土剥片石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-6-3	27-1-7	-	J-23	3606	スクレイパー	C1	VbU	VF-01	29.4	26.9	9.8	5.78	Obs.	
V-6-9	27-1-13	-	L-20	10252	石　鏃	A3	2	VF-03	24.9	14.5	2.0	0.80	Obs.	
V-6-11	27-1-15	-	K-23	6022	ピエス・エスキーユ	-	VbU	VF-04	34.2	19.8	8.2	5.80	Obs.	

第３節　Ｔピット

調査区西側で１基を検出した。形態はC1型（形態分類は第２部 第Ⅲ章 第５節参照）である。

TP-01（図Ⅴ-７　図版17-１・２）

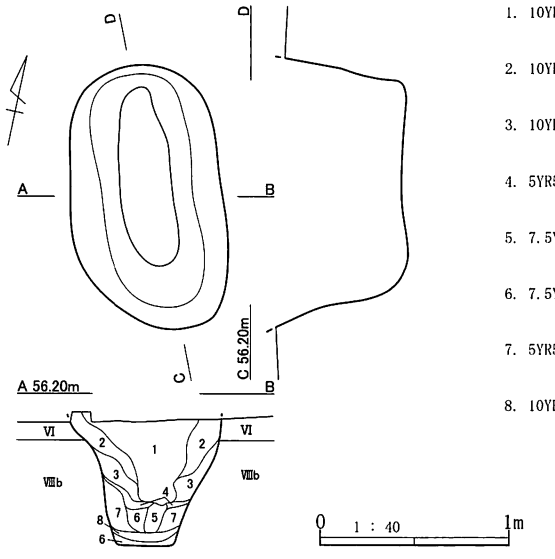
位　置：L-32　　規　模：140×80×70 cm　　方　位：N-20° E

確認・調査：Ⅵ層上面で Ta-d パミスが斑状に混ざる黒色土の楕円形プランを検出した。短軸方向でトレンチを設定して土層堆積状態を観察したところ、坑底と壁面の立ち上がりを確認した。覆土に自然堆積の特徴がみられたため、Ｔピットとして調査した。坑底は平坦で、壁面から坑口部へは直立気味に立ち上がる。深さは70 cmと浅く、杭跡の検出はない。

堆積状態：１層は Ta-d パミスを多量に含むⅤ層、２・３層は壁面のⅥ層が崩落した流入土、４・６・７層は壁面のⅧb 層が崩落した流入土で Ta-d パミスと Ta-d ロームが互層堆積する。５・８・９層は粘性の強い黒色土である。すべて自然堆積と判断されるが、１層に含まれる Ta-d パミスの混入起源は不明である。

遺物出土状態：覆土１層から礫１点が出土したが、Ⅴ層の遺物が流れ込んだものである。（山田）

TP-01



TP-01

1. 10YR2/1　黒色　Ⅴb－Ta-dp（φ10↓ 斑状）
　しまり中　粘性強
2. 10YR3/4　暗褐色　Ⅵ＝Ta-dp（φ5↓ 斑状）≡Ⅴb
　しまりやや弱　粘性弱
3. 10YR4/4　褐色　Ⅵ－Ta-dL＝Ta-dp（斑状）
　しまり強　粘性中
4. 5YR5/8　明赤褐色　Ⅷ≡Ⅴb　しまり強（ブロック状）
　しまり極弱　粘性極強
5. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴ－Ta-dp（φ10↓ 均一）
　しまり極弱　粘性強
6. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷ＋Ⅴb（斑状）　しまり強（ブロック状）
　しまり極弱　粘性極強
7. 5YR5/8　明赤褐色　Ⅷ　しまり強（ブロック状）
　しまり極弱　粘性やや弱
8. 10YR2/1　黒色　Ⅴ＝Ta-dp（φ10↓ 斑状）
　しまり弱　粘性極強

図Ⅴ-7　TP-01 平面及び断面図

表Ⅴ-7　TP-01 属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	平面形 調査面/坑底面	グリッド	調査面層位	調査面規模(cm) 長軸	調査面規模(cm) 短軸	坑底面規模(cm) 長軸	坑底面規模(cm) 短軸	深さ(cm)	長軸方向	杭跡	調査面長短比	坑底面長短比	備考
Ⅴ-7	17-1	TP-01	楕円形/楕円形	L-32	Ⅵ	140	80	84	28	70	N-20° E	－	1.75	3.0	

第４節　遺物集中

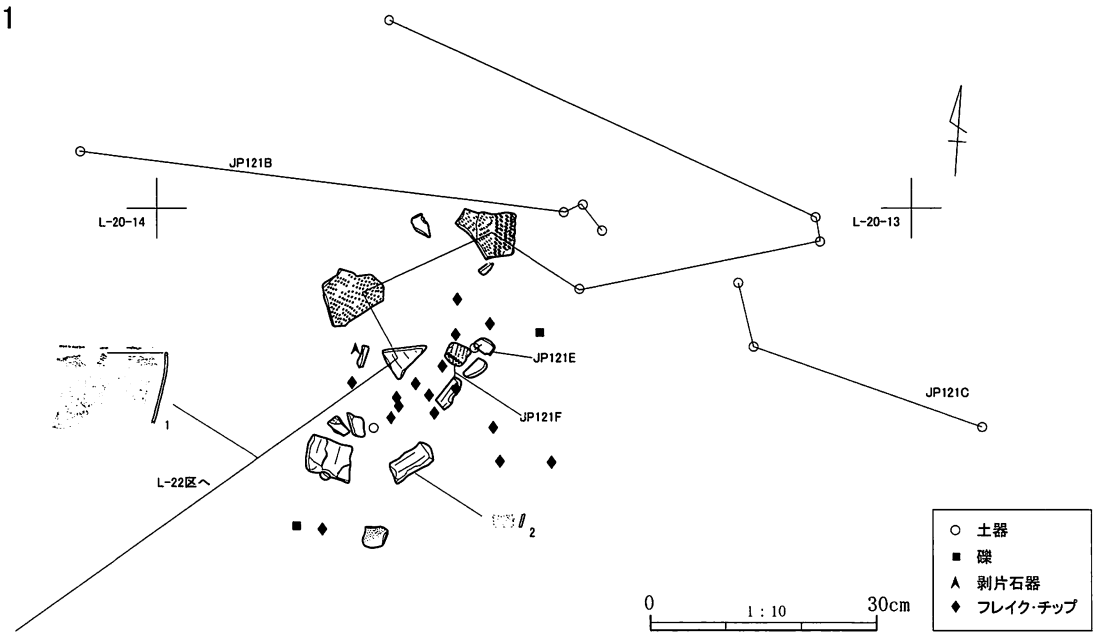
VPB-01（図Ⅴ-８・９　図版16-８　27-16・17）

ⅤbU 層を調査中、K-20 区でⅤB1 の土器がまとまって出土した。土器が集中している地点周辺は

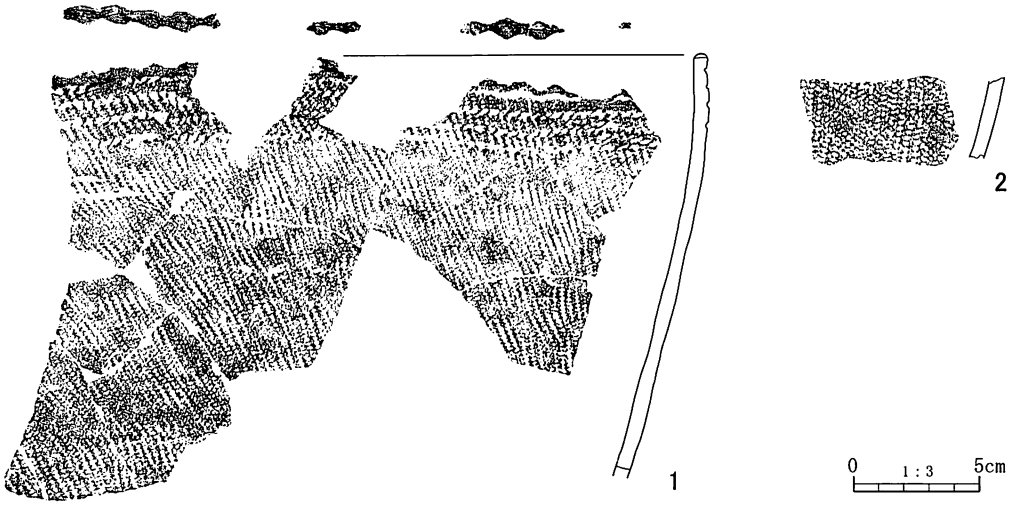
同時期の土器が多く出土していたが、出土状態で同一個体と判別できたためＶPB-01 と付番して一括資料として取上げた。接合関係からやや広く分布していたことがわかるが、調査区内で接合できたのは全体の 1/6 程度と思われ、底部は出土していない。

出土遺物（図Ｖ－９－１・２）：１は接合した中で一番大きな破片で、口縁部から胴部上半にかけての資料である。口唇部は隅丸角状で、幅広の刻みが連続して施される。口縁部から胴部にかけてはRL 斜行縄文が施文され、口縁部には縄線文が４段施される。晩期中葉の資料で美々３式の特徴に類似することから、相当の資料と考えられる。２は胴部片で、胎土に石英粒を多量に含む富良野盆地系土器。同一個体ではないが、同時期の所産と考えられる。（奈良）

ＶPB-01



図Ｖ－８　ＶPB-01 平面図



図Ｖ－９　ＶPB-01 出土土器

表Ⅴ-8　VPB-01 出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面		
V-9-1	27-1-16	JP121A	VB1	口縁部～胴部上半	77237・7729・7780 他3点/VPB-01・L-20・21・K-20 /VbU・bM・bL	平縁・直立-隅丸角状	刻み(幅広)-RL斜行縄文・縄線文-ミガキ(弱)/RL斜行縄文	砂粒少量	美々3式
V-9-2	27-1-17	JP059	VB1	胴部	7736/VPB-01/VbL	やや外傾	RL斜行縄文	砂粒中量 石英多量	

第５節　包含層出土遺物

１．土器・土製品（図Ⅴ-10～13・図版 28～31）

土器は遺構出土のものも含めて 2,965 点出土している。時期は縄文時代早期後半から晩期中葉までの資料を得ている。出土点数はⅤ群 B1 類が 2,145 点と最も多く出土し、全体の 72%を占める。次いでⅢ群 B2 類 321 点、Ⅱ群 B1 類 202 点、Ⅳ群 A1a 類 189 点、Ⅳ群 C3 類 59 点、Ⅰ群 B4 類２点出土している。遺物の分布状態は調査区東側にⅤ群の土器が多量に出土し、北側壁面よりに遺物が密集する傾向にあり、同分布域の中にⅡ・Ⅳ群の土器が少量混在している。Ⅲ群土器は調査区中央から東側に広く分布しているが、出土点数も 321 点と少なく石器群と伴うような出土状態は認められない。Ⅱ群土器は K-25・26 区付近の沢地形に流れ込むようにして出土する傾向にある。土器の出土レベルはⅣ・Ⅴ群がⅤa～b 層、Ⅱ群がⅤc 層から主体的に出土している。Ⅱ群土器については、同一層周辺から北海道式石冠や頁岩製のつまみ付きナイフなど、縄文時代前期の特徴を有する石器群が出土している。Ⅰ群土器は掲載した２点のみで、うち１点はⅢ層から出土している。Ⅴ群土器の器形については殆ど復元に至らなかったため文様要素で分類を行い、器形のわかるものについては本文中に記している。

以下に分類毎の概略を記載し、掲載土器の個々の詳細については表Ⅴ-９～13 を参考とされたい。

Ⅰ群 B4 類（図Ⅴ-10-４）

４は羽状構成の撚糸文がやや斜位に施されている。自縄自巻原体の軸痕は認められない。胎土は繊維を少量含む。

Ⅱ群 B1 類（図Ⅴ-10-５～15）

本群は円筒下層ａ並行期の平底土器とした資料である。焼成や繊維の量などはニタップナイ遺跡（厚真町教育委員会 2009b）で出土した尖底土器群に類似するが、平底底部が出土しているため本群に含めている。５～８は口縁部で、５は羽状縄文、６・７は LR 斜行縄文と縄線文が、８は RL 斜行縄文と縄線文が縦位に２条施される。口唇部は隅丸角状から角状に成形され、７は口唇部上と内面に縄文が施文される。５・６・８は弱いナデで調整される。いずれも胎土に多量の繊維を含み、５・６には砂礫が少量混入している。９～14 は胴部片で、文様は地文縄文のみので、14 のみ無節Ｒである。９～12 は地文施文後のミガキ調整が顕著で、縄文が潰れている。９は内面に同一原体の縄文が、10 には条痕文が認められる。胎土は 13 以外繊維を中～多量に、14 は砂礫を多量に含んでいる。15 は平底の底部でほぼ直立に立ち上がり、胎土に繊維を中量に含む。

Ⅲ群 B2 類（図Ⅴ-10-１　16～19　図Ⅴ-11-20～27）

本群は柏木川式に含まれる土器群である。１は胴部上半から下半にかけての復元個体で、現存器高は 23.1cm である。器形は胴部上半がやや内傾しているが、下半はやや外傾して立ち上がる。文様

はLR斜行縄文のみで、内面には輪積みによる凹凸がやや認められ、胎土に繊維を少量含む。16～20・22は口縁部である。16は口唇部が隅丸角状で内面は弱いミガキ調整が施される。肥厚帯から口縁部下位にかけて半截竹管工具で数条の押引文が施され、一部口唇部にも認められる。地文はLR斜行縄文で肥厚帯下位にはやや深く押引文が施され、胎土は繊維と赤色岩片を少量含む。17は口唇部に刻み、口縁部に２段の突引文が施される。焼成は良好で胎土に砂礫、繊維を少量含む。18は口唇部に突引文が施されている。口縁部は突引文と縦位の浅い沈線文が施され、胎土は繊維を少量含んでいる。19はLR斜行縄文に、中空工具による円形刺突文が施される。口唇部は大部分欠損しているが、同じ工具による円形刺突文が施される。胎土は円礫を多量に含んでいる。20は波状口縁のやや外反する個体で、口唇部を欠損している。文様は表面がＬ撚糸を縦位に施文した後、半截竹管による押引文が横位、斜位に施されている。内面は同様の原体を羽状構成に施文し、部分的に結縛痕が認められる。胎土には繊維を少量含んでいる。22は縦位の貼付文をもち、棒状工具で口唇、貼付文上に突引文が施される。貼付文の左側縁には不明瞭であるが、刺突文が２ヶ所認められる。21・23～27は胴部片で、21は横位に貼付帯が認められる。23は楕円形を呈する貼瘤文で、表面は貼瘤後にLR斜行縄文を、内面も同じ原体で縄文を施している。24は棒状工具で縦位の浅い沈線文が、25～27は地文縄文のみで、27は第１種結束羽状縄文が認められる。胎土は24が繊維を少量、21・26が砂礫とともに繊維を、23は赤色岩片を、それ以外は砂礫を少～多量に含んでいる。また、25の内面は弱いミガキ調整が施されている。

Ⅳ群A1a類（図Ⅴ-11-28～30）

本群は余市式に含まれる土器群である。28は口縁部で口唇は角状、口縁部に幅広の貼付帯をもつタイプと思われる。29・30は胴部で、29はLR・RLの異原体羽状縄文で構成され多段の貼付帯が付される。内面の剥落が著しく、胎土に砂粒を少～中量含んでいる。30は縦走する細いRL縄文が施されるが、胎土に砂粒を少～中量含んでいる点が他のⅣ群A1a類と類似することから本群に含めた。

Ⅳ群C3類（図Ⅴ-10-２　図Ⅴ11-31～33）

本群は鮭澗式に含まれる土器群である。２は胴部から底部にかけての資料で、地文にRL斜行縄文施文後、胴部下半から底部にかけて横方向のミガキを施している。内面は横方向にミガキが、底内面は形状に沿って弧状に調整がなされている。31は壺形土器の口縁部片と思われる資料である。文様は無文で、内外面ともに横方向のミガキによって整形されている。32・33は胴部片で32は地文縄文が磨消され、弧状？沈線文によって区画されている。焼成等などから判断して、２・31・32は同一個体と思われる。33は地文縄文後に鋸歯状沈線を施し、上下を平行沈線文で区画している。内面がやや「く」の字状に外反することから肩部に近い資料と思われる。胎土はいずれも砂礫を多量に含み、器表面に黒色岩片が目立つ。

Ⅴ群A１類（図Ⅴ-11-34）

本群は１点のみの出土で、晩期前葉に含まれる土器群である。34は平縁の口縁部でIO突瘤文が施される。

Ⅴ群B1類（図Ⅴ-11-35～48　図Ⅴ-12-49～71　図Ⅴ-13-72～92）

本群は晩期中葉に含まれる土器群である。殆どの個体が器形を識別できるほど復元できなかったために、文様要素による細分を行い、器形が推定できる個体については一覧表の備考に示した。以下に文様要素ごとにまとめて述べる。

地文縄文（図Ⅴ-11-35～48　図Ⅴ-13-87）

36～38・47は浅鉢と考えられる個体で、その他は鉢、または深鉢の個体と思われる。いずれも平縁で41は口唇部に縄文、42は口唇部内側から斜位に、44･46は口唇部に直交する形で縄の圧痕が施される。43は口唇部に突引文と内側から刻み、45は深い刻みが施されている。46の縄の圧痕については不連続に施文される。胴部文様は基本的には斜行縄文であるが、36は横位、39･40･47は縦位、48は磨耗のため地文が不明瞭である。48は胎土の観察から87の底部と同一個体と考えられ、推定器種は鉢と思われる。胎土は砂粒、砂礫を少～中量含んでいるが、38･46は石英を多量に含んでいるため富良野盆地系土器である。

縄線文または刻みのあるもの（図Ⅴ-12-49～56　図Ⅴ-13-82･90）

49～55は口縁部で、53以外は３～５条の縄線文が施される。文様は地文が49はRL斜行縄文、50・54は縦位のRL縄文、51は無文、52･55はLR斜行縄文である。縄線文は地文施文後に施され、51は口縁部直下に1.5cm無文帯を形成し、54は縄端圧痕による刺突が２段施される。55は縄線文間に３段の刺突列が施され、一部斜位の縄線文が認められる。56は胴部上半の資料で、口縁部直下付近と思われる。縄線文は無文帯形成後に２条、その下位に幅広の浅い沈線が施される。49･51･52･54は口唇部に刻み、50は縄文、55は縄端圧痕がそれぞれ施されている。53は口縁部から胴部にかけての資料で、一部突起が認められるが剥落のため詳細は不明。文様は地文にRL斜行縄文が施され、口縁部には３段の刻みが認められる。胴部は部分的に縄文を「ハ」の字状に重複させている。口唇部も地文と同じ原体で縄文が施される。胎土は49・50・54～56は砂粒を少量含み、51･52は砂礫を少～中量含む。82は胴部片で焼成から50と同一個体と考えられる。90は突出底の底部で、底面も縄文が施文されている。焼成から52と同一個体と考えられる。

沈線文（図Ⅴ-12-57～64）

57・58は平縁で口縁部直下に３～４条の横走沈線が施される。58は縦位のRL縄文が施文され、色調は赤黒く、胎土に砂粒をあまり含まない。遺跡内での出土量は少量であるため搬入品の可能性が高く、Ⅴ群B2類に分類している。59は小波状口縁、61･62は突起を有している。口唇部は59～61に刻みが、62に刻みと刺突文が施されている。60は格子目状に沈線文が施文され、掲載していないが同一個体の胴部片も20点出土している。61は横位の貼付帯上に連続して刻みが施されている。突起は外側から棒状工具によって刻みを施した後、口唇部に対して垂直方向の刺突文が３ヵ所施されている。62は器表面全体に弱いナデ調整を施しており、沈線文を挟むように中空工具による刺突列が３段認められる。突起には同心円状の沈線文が２重に施される。色調は黒色を呈しており、他の同時期の破片と焼成、硬さが異なる。63は沈線文が器面に対してやや下方から深く施文されている。64は胴部から底部にかけての資料で、底部立ち上がり付近まで沈線文が施され、間に刺突列が２段認められる。胎土は砂粒を少～中量含むものが多く、64には白色岩片が少量混入する。61は石英を多量に含むことから富良野盆地系土器と考えられる。

刺突文（図Ⅴ-12-65～67）

65･66は平縁の口縁部である。文様は65が縦位のRL縄文、66がRL斜行縄文を地文としており、地文施文後に縄端による刺突列が施される。65は刺突文が深く施され、内面に瘤が認められる。66は器面に対して垂直方向に刺突文が施され、口唇部にも連続して認められる。67は口縁部片である。文様は無文に、φ1㎜程度の棒状工具によって円弧状に刺突文が施文されている。胎土はいずれも

砂粒が少量、66 は赤色岩片も中量混入している。

無文（図Ⅴ-12-68～71）

68～71 は平縁の口縁部片で、71 は口唇部に刻みが認められる。いずれも器表面は弱くミガキ調整が施されている。胎土はいずれも砂粒を少量含んでいる。

突起（図Ⅴ-13-72～77）

72 は突起頂部に円形の貼付帯が認められ、同心円状に３条の撚糸圧痕、中心には刺突が施される。73･74 は突起頂部を肥厚させており、73 は口唇部に対して直交する形で縄の圧痕と刻みが、74 は刻みが施される。73 は突起直下に２条の縄線文と貫通孔が認められる。75 は突起頂部を指頭により押し潰して突起装飾部を作出している。口唇部には一部細い刻みが認められる。76 は貼付文の剥落により詳細は不明であるが、突起から垂下するように貼付帯があったと思われる。口唇部は外側に肥厚し、２条ないし３条の撚糸による縄線文が施され、外側から斜位に同原体による縄の圧痕が連続して施されている。また、突起は１ヶ所認められるが、本来は対になる突起があると思われる。77 は吊耳状把手の装飾部分と考えられ、口唇部には連続した刻み、頂部には円形刺突文が施される。この突起部分は器表面に菱形の貼付帯を区画して、両側から円形に貫通するように成形している。また、円形刺突文も僅かに確認できることから、装飾に富んだ個体であったと考えられる。胎土は砂粒を少量、74 は更に赤色岩片を含んでいる。76 は石英粒を多量に含んでいることから富良野盆地系土器である。

胴部（図Ⅴ-13-80･81･83～86･88）

88 以外は地文縄文の胴部片で、80、83～86･88 は縦位に地文縄文が施される。88 は一部鋸歯状に沈線文が施される。内面は 84 以外ミガキによる調整が施される。胎土は 80 が赤色岩片を多量、84 が白色岩片を少量含んでいる。86･88 は石英粒を多量に含んでいるため富良野盆地系土器である。それ以外は砂粒を少量含み、出土する大半の土器に類似する胎土である。

底部（図Ⅴ-13-89･91･92）

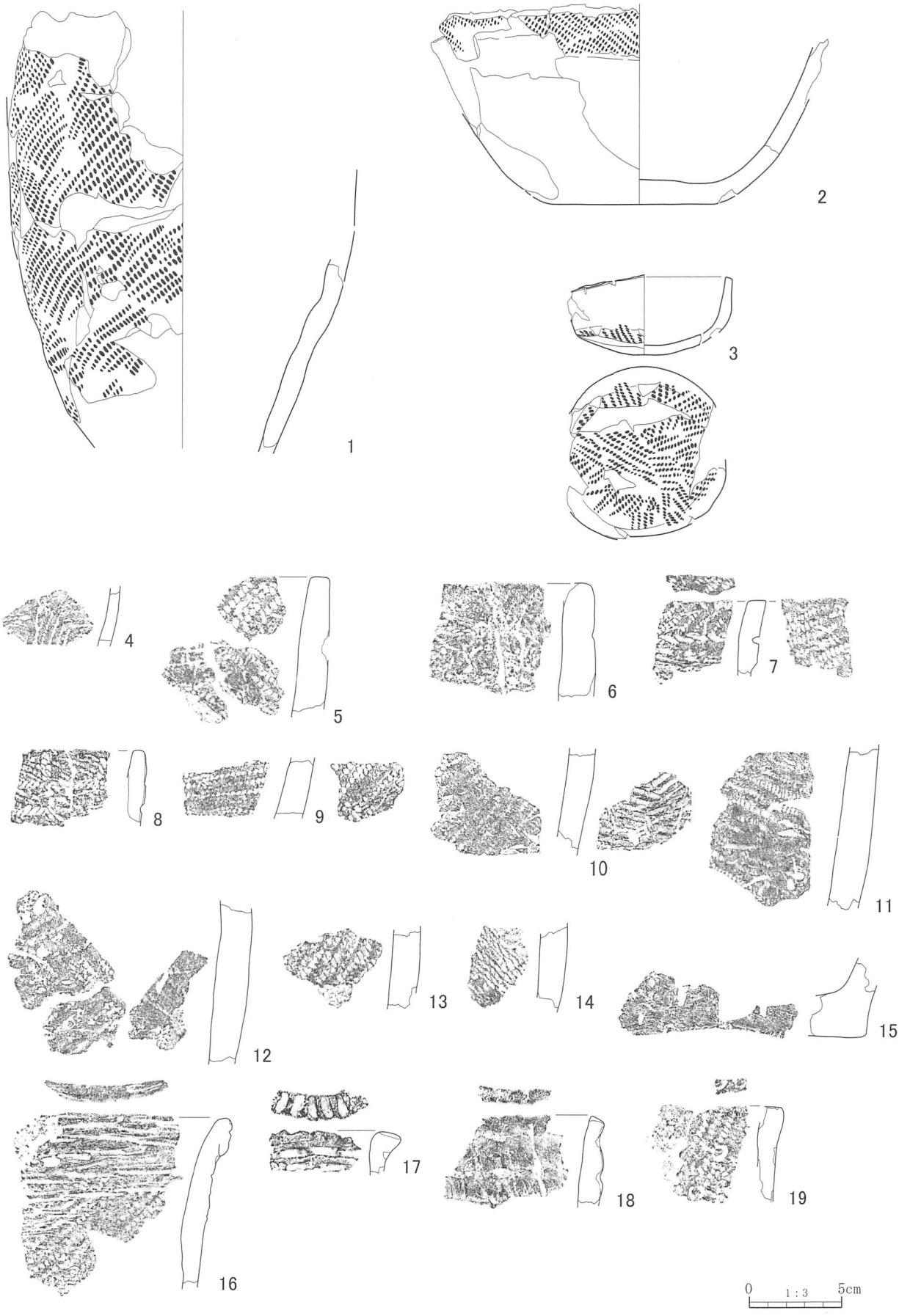
89 は底側縁に一条の沈線が認められる平底土器である。91 は突出底の底面のみの破片で、底面に縄文が施される。92 は底面に縄文が施される平底土器である。胎土は 89 が砂粒を少量、92 が中量含む。91 は石英を多量に含むため富良野盆地系土器である。

Ⅴ群 B2 類（図Ⅴ-13-78･79）

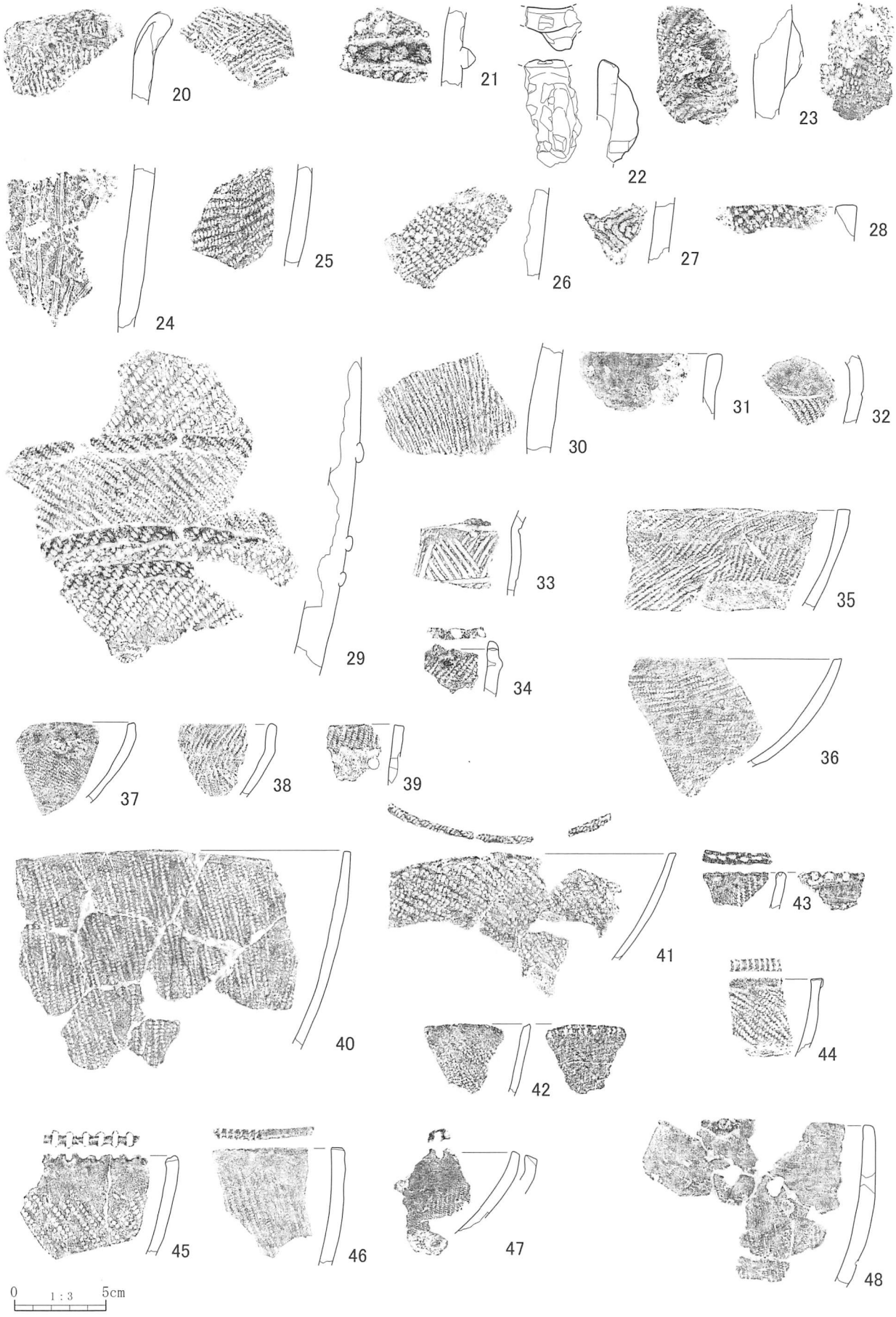
Ⅴ群出土の中でも８点と出土量は僅かである。いずれも器表面に赤色顔料が塗布され、78 は内面にも認められる。地文に文様は無く、掲載していない資料も含めて全て無文である。形状から 78 は壷形土器の口縁部付近、79 は肩部から胴部にかけての資料と考えられる。胎土も他の土器とは異なり、きめ細かい砂粒を多量に含み、破断面の剥落が葉理状を呈している。これらの要素から客体的に本遺跡に搬入された資料と考えられ、Ⅴ群 B2 類に含めている。

土製品（図Ⅴ-13-93）

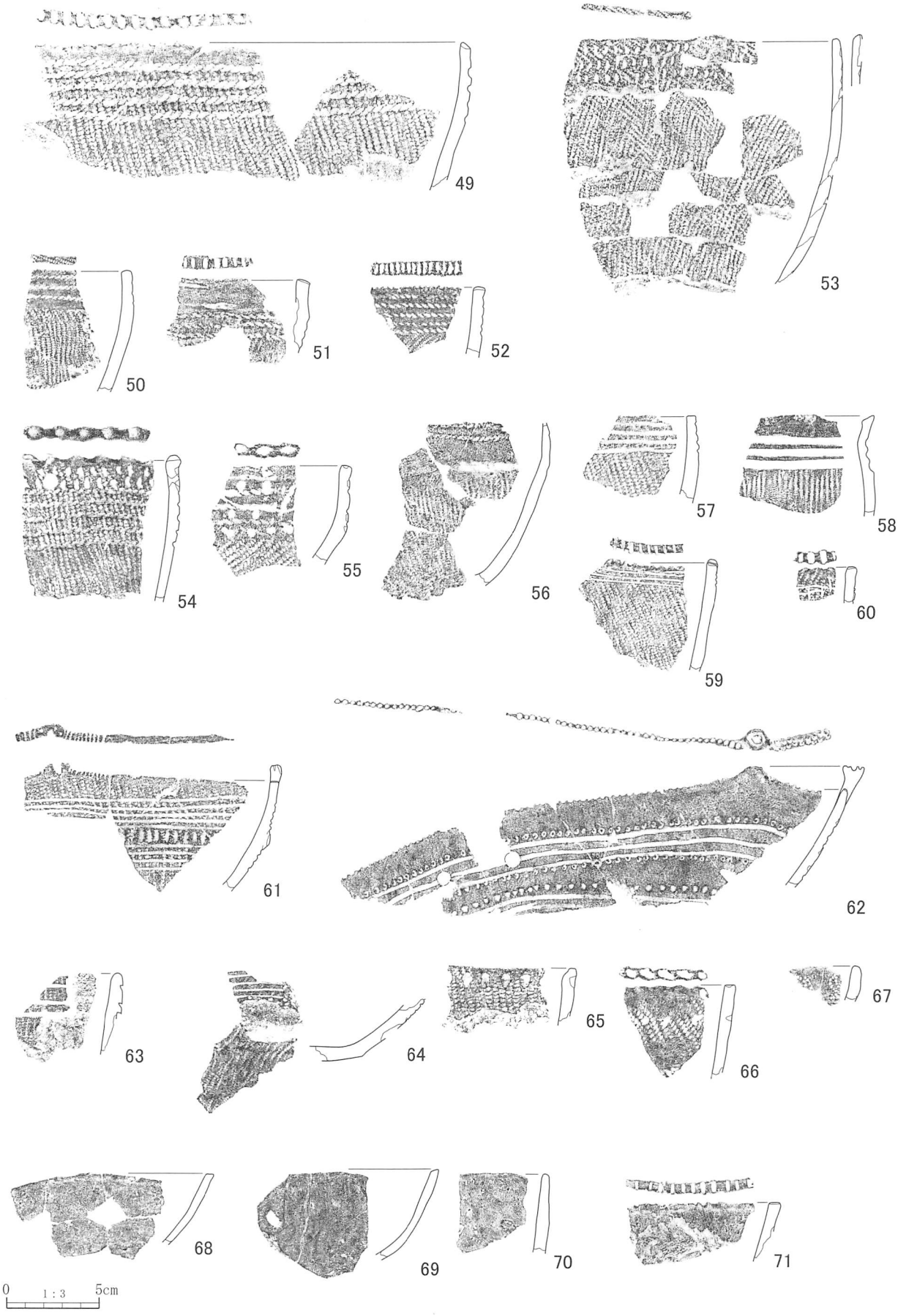
２点出土しているうちの１点で、楕円形を呈している。文様等は認められなく、未焼成と思われる。水洗のたびに表面が溶け、砂粒が現れてくる。胎土には砂粒を少量とφ約 10mm のパミスが一部含まれていることが観察される。形状や出土層位から縄文時代前期に出土する円盤状または、さつま揚げ状土製品の可能性が高いが、粘土塊の可能性もある。（奈良）



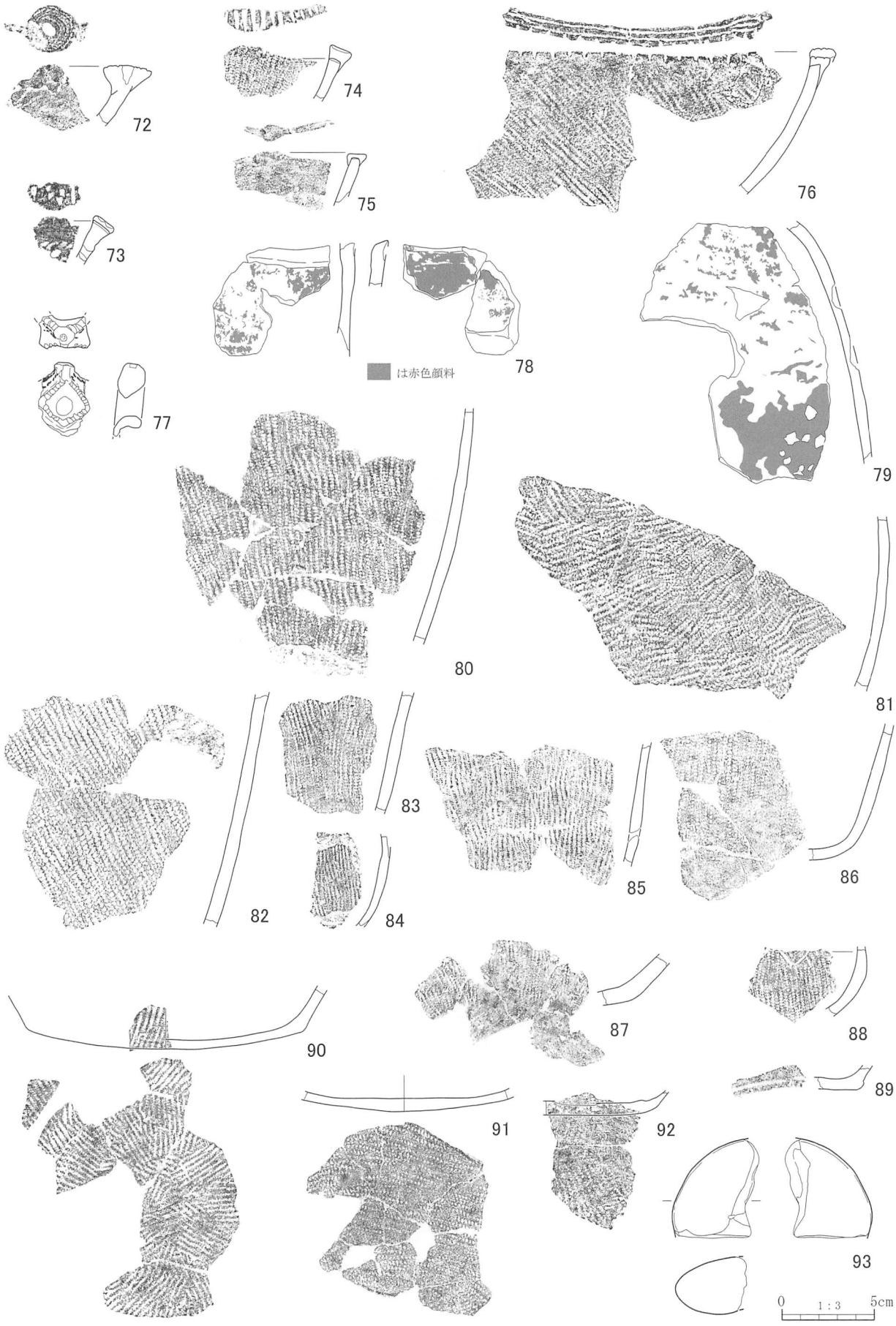
図Ⅴ-10　縄文時代包含層出土土器（1）



図Ⅴ−11　縄文時代包含層出土土器（2）



図Ⅴ−12　縄文時代包含層出土土器（3）



図Ⅴ−13　縄文時代包含層出土土器（4）・土製品

表Ⅴ-9 縄文時代包含層出土土器属性表(1)

属性表記載において、下記の認識のもと行っているが、「部位」・「器形」・「胎土」の記載については、相対比較によるもので観察者の主観による。
〔個体名称〕　同一個体にアラビア数字、破片資料にアルファベットを付番した。
〔 分 類 〕　「第Ⅰ章 第6節 1. 土器」に記載している。
〔器形等・文様〕　各部位毎の形態を示した。「口縁」は口縁部器表面、「底部側面」は底部器表面、「変換点」は底側面と底面との状態を記載した。
〔 器形等 〕　「外反」は反る状態。「外傾」は直線的に開く状態を示している。
〔 文 様 〕　以下の認識で記載した。
記載順序:部位の口縁～胴部:口縁部→胴部への記載順、部位の底～胴部:底部→胴部への記載順となっている。
記号: ＋;文様要素の重複施文　・;文様要素の複合ないしは充填構成
文様要素
2段異原体羽状縄文:撚りの異なる2段の原体(LR・RL)による羽状縄文
突引文:器面に対し施文工具が斜め方向に突き刺され、水平方向に連続して動く。文様の観察としては、圧痕が深く施文が連続している。
押引文:器面に対し施文工具が垂直方向に押し当てられ、水平方向に連続して動く。文様の観察としては、圧痕が浅く施文が連続している。
半截竹管工具による施文:( )内に器面に当てた工具面を記載している。(内)は半截竹管の内側、(外)は竹管の外面を用いて施文されもの。
縄線文:器表面に対し、2段以上の縄原体の圧痕。
貼付体1A: 口唇直下の幅広の貼付帯　貼付帯1B: 口唇直下の幅の細い貼付帯　貼付帯2: 貼付帯1以外の胴部に横環する貼付帯。
重複縄文:撚りの異なる原体を新旧重複して施文する。文様の観察としては、条が交差状に見られる。
〔 胎 土 〕　組織:破断面や剥離面に観察できる「板状の平行な割れ目」組織。(花岡 1992)
※グリッド取上げ遺物に関しては調査区名も遺物番号に含まれるため調査区の記載を省いている。

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅴ-10-1	28-1	JP041A	ⅢB2	胴部上～胴部下半	6040・6047・10941 他20点/K-31・32/ⅢcL・Ⅴa・bU・bL・c	やや外傾	LR斜行縄文・ナデ	繊維少量 砂粒少量	
Ⅴ-10-2	28-2	JP042A	ⅣC3	胴部下～底部	6565・6651・6859 他20点/J・K-22/ⅤbU・bM・bL	外傾-丸状-平底	RL斜行縄文・ミガキ-ミガキ	砂礫中量	
Ⅴ-10-3	28-3	JP112A	ⅤB1	口縁部～底部	4626・5650 他4点/K-24/ⅤbM・bL	緩やかな波状・直立-角状/外傾-丸状-丸底	ミガキ-ナデ/ナデ/LR斜行縄文-LR斜行縄文	砂粒少量	浅鉢
Ⅴ-10-4	28-4	JP045	ⅠB4	胴部	941・2764/L-20/Ⅲc・Ⅴa	やや外傾	撚糸文縦方向(羽状構成)	砂粒少量	
Ⅴ-10-5	28-5	JP004	ⅡB1	口縁部	8011・11095・11096/L-24/Ⅴc・Ⅵ	平縁・直立-隅丸角状	ナデ-羽状縄文・ナデ	繊維多量 砂礫少量	
Ⅴ-10-6	28-6	JP001A	ⅡB1	口縁部	8019・9237/K・L-24/Ⅴc	平縁・直立-隅丸角状	LR斜行縄文・縄線文・ナデ	繊維多量 砂礫少量	
Ⅴ-10-7	28-7	JP002	ⅡB1	口縁部	8225/M-25/Ⅴc	平縁・直立-角状	LR斜行縄文-LR斜行縄文・縄線文-LR斜行縄文	繊維多量	
Ⅴ-10-8	28-8	JP003	ⅡB1	口縁部	9199・9200/K-25/Ⅴc	平縁・直立-隅丸角状	RL斜行縄文・縄線文(横→縦)・ナデ	繊維多量	
Ⅴ-10-9	28-9	JP007	ⅡB1	胴部	10070/K-26/Ⅴc	やや外傾	LR斜行縄文・ミガキ-R斜行縄文・ミガキ	繊維多量	
Ⅴ-10-10	28-10	JP008	ⅡB1	胴部	10455/K-26/Ⅴc	やや外傾	LR斜行縄文・ミガキ-条痕	繊維多量	
Ⅴ-10-11	28-11	JP014 A	ⅡB1	胴部	9794・9796/L-23 /Ⅴc	やや外傾	RL斜行縄文・ミガキ	繊維中量	
Ⅴ-10-12	28-12	JP011	ⅡB1	胴部	10573・10649・11135-1/L-23/Ⅴc	直立	RL斜行縄文・ミガキ	繊維中量	
Ⅴ-10-13	28-13	JP006	ⅡB1	胴部	8332/L-27/ⅤbL	直立	LR斜行縄文	砂礫多量	
Ⅴ-10-14	28-14	JP005	ⅡB1	胴部	10558/K-24/Ⅴc	直立	無節R・ナデ-ミガキ(弱)	繊維中量 砂礫少量	

表V-10　縄文時代包含層出土土器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
V-10-15	28-15	JP017	ⅡB1	底部	8201/L-25 /Vc	直立-角状-平底	ナデ	繊維中量 砂粒少量	
V-10-16	28-16	JP019	ⅢB2	口縁部～胴部	10755・10759/L-30 /VbL・c	平縁・やや外傾-隅丸角状	半截竹管(内)押引文-肥厚帯+半截竹管(内)押引文・LR斜行縄文-ミガキ(弱)/LR斜行縄文	繊維少量 赤色岩片中量	
V-10-17	28-17	JP036	ⅢB2	口縁部	8592/K-39/VbL	平縁・直立-隅丸角状	刻み・ミガキ(弱)-竹管工具突引文(外)・ミガキ(弱)	繊維少量 砂礫少量	
V-10-18	28-18	JP020A	ⅢB2	口縁部	10817/K-35/Vc	平縁・直立-隅丸角状(外削ぎ)	半截竹管工具突引文-半截竹管工具突引文・浅い沈線文(縦位)-ナデ	繊維少量	
V-10-19	28-19	JP024	ⅢB2	口縁部	6779・10116・/L-26 /VbL・c	平縁・直立-隅丸角状	円形刺突文-LR斜行縄文・円形刺突文	繊維極少量 円礫多量	
V-11-20	28-20	JP046	ⅢB2	口縁部	5771/K-23/VbM	波状・外反	L撚糸文(縦位)・半截竹管(内)押引文(横・斜位)－L撚糸文(羽状構成1部重複)	繊維少量	口唇剥落
V-11-21	29-21	JP027	ⅢB2	胴部上半	5458/K-34/VbU	直立	貼付帯+指頭圧痕・竹管状工具突引文・LR斜行縄文	繊維少量 砂礫少量	
V-11-22	29-22	JP022A	ⅢB2	口縁部	11008/L-35/VbU	直立	棒状工具突引文(内)-貼付文(縦位)+棒状工具突引文(内)・刺突文	砂粒少量	
V-11-23	29-23	JP023	ⅢB2	胴部上半	10560/K-24/Vc	やや外傾	貼瘤文・LR斜行縄文-LR斜行縄文	砂礫多量 赤色岩片中量	
V-11-24	29-24	JP029	ⅢB2	胴部	10755・10759・/L-30/VbL・c	直立	浅い沈線文(縦位)	繊維少量	
V-11-25	29-25	JP026	ⅢB2	胴部	10768/L-30/Vc	直立	LR斜行縄文-ミガキ	砂粒少量	
V-11-26	29-26	JP025	ⅢB2	胴部	10717/K-33/VbL	直立	第1種結束斜行縄文(RL)	繊維少量 砂粒中量	内面剥落
V-11-27	29-27	JP028	ⅢB2	胴部	7061/K-22/VbL	直立	第1種結束羽状縄文	砂粒中量	
V-11-28	29-28	JP037	ⅣA1a	口縁部	4954/K-23/VbU	平縁・直立-角状	LR斜行縄文(貼付帯1A)	砂粒中量	
V-11-29	29-29	JP038A	ⅣA1a	胴部	7605・5827　他3点/K-23/Vc	やや外傾	異原体羽状縄文2段・貼付帯2	砂礫中量	
V-11-30	29-30	JP039	ⅣA1a	胴部	7627/K-23/Vc	やや外傾	RL縄文(縦位)	砂礫多量	
V-11-31	29-31	JP043A	ⅣC3	口縁部	3986/K-21/VbU	平縁・直立-隅丸角状(やや内削ぎ)	ミガキ-無文・ミガキ(横)-ミガキ	砂礫多量	
V-11-32	29-32	JP043B	ⅣC3	胴部	6470 /J-21 /VbM	やや内傾	RL斜行縄文・沈線文・無文帯+ミガキ	砂礫多量	壺肩部
V-11-33	29-33	JP044	ⅣC3	胴部	10705/L-31/Vc	やや外傾	地文縄文・鋸歯状沈線・横走沈線	砂礫多量	
V-11-34	29-34	JP072	VA1	口縁部	8639/L-27/VbL	平縁・直立-角状	IO突瘤文-RL斜行縄文	砂粒中量	
V-11-35	29-35	JP066	VB1	口縁部	2422・4741-1・9697/K-24 /VbL・bU・c	平縁・外傾-角状	ミガキ-RL斜行縄文-ミガキ	砂礫少量	
V-11-36	29-36	JP067	VB1	口縁部	4254・4255/K-22/VbU	平縁・外傾-角状(内削ぎ)	ミガキ-LR縄文(横位)-ミガキ	砂粒中量	
V-11-37	29-37	JP088A	VB1	口縁部	7449/K-23/VbL	平縁・内湾-隅丸角状	LR斜行縄文-ミガキ(弱)	砂礫極微量	
V-11-38	29-38	JP095B	VB1	口縁部～胴部	5537/K-25/VbM	平縁・直立-丸状/外傾	LR斜行縄文-ミガキ(弱)	砂粒少量 石英極少量	
V-11-39	29-39	JP124	VB1	口縁部	2589/L-24/Va	平縁・外傾-角状	LR縄文(縦位)-ミガキ(弱)	砂粒少量	
V-11-40	29-40	JP110	VB1	口縁部～胴部	5662・5756・9449　他4点/K-24/VbU・bM・c	平縁・やや外傾-隅丸角状	RL縄文(縦位)-ミガキ(弱)	砂礫極少量 砂粒中量	

表V-11 縄文時代包含層出土土器属性表(3)

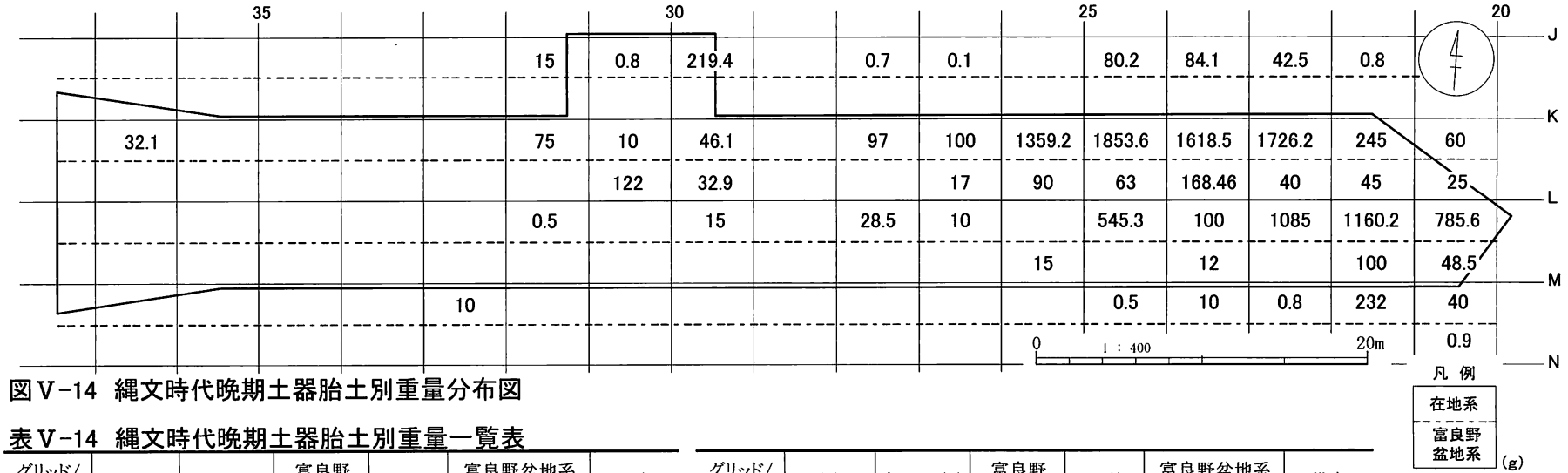
挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等 口縁ー口唇/胴部/底側面ー変換点ー底面	文様 口唇ー口縁ー内面/胴部ー内面/底側面ー底面ー内面	胎土	備考
V-11-41	29-41	JP108	VB1	口縁部～胴部上半	3811・2498他3点/L-23・24/Va・bL・c	平縁・外傾-角状(内削ぎ)	LR斜行縄文-LR斜行縄文・ナデ(弱)	砂礫少量	
V-11-42	29-42	JP163	VB1	口縁部	4018/K-31/VbU	平縁・外傾-尖状	縄の圧痕文-RL斜行縄文・ミガキ(弱)	砂粒少量	
V-11-43	29-43	JP136	VB1	口縁部	2793/K-22/Va	平縁・やや外傾-隅丸角状	竹管工具突引文-LR斜行縄文-刻み・ミガキ	砂粒少量 赤色岩片中量	
V-11-44	29-44	JP184	VB1	口縁部	5499/J-23/VbL	平縁・やや外傾-隅丸角状	縄の圧痕文-RL斜行縄文-ミガキ	砂粒少量	
V-11-45	29-45	JP096	VB1	口縁部	1582・6690/L-21 /VbM	平縁・直立-隅丸角状	刻み-RL斜行縄文-ナデ	砂礫極少量 赤色岩片極少量	
V-11-46	29-46	JP057	VB1	口縁部	2733/L-21/Va	平縁・直立-隅丸角状	縄の圧痕文-RL斜行縄文-ミガキ	砂粒中量 石英多量	
V-11-47	29-47	JP116	VB1	口縁部～胴部	5005・5013・/J-29/VbU	平縁・やや内湾-隅丸角状-外傾	刻み-無文/LR縄文(縦位)	砂礫中量	
V-11-48	29-48	JP062A	VB1	口縁部～胴部	6012・6546・9687他3点/K-22・24/VbU・bM・c	平縁・直立-隅丸角状/やや外傾	ミガキ(弱)-ミガキ(弱)・無文・RL縄文(縦位)・ナデ	砂粒極少量	
V-11-49	29-49	JP063A	VB1	口縁部	5524・5527・6495他3点/K-24/VbM・bL・c	平縁・やや外傾-隅丸角状	刻み-縄線文・RL斜行縄文-ミガキ	砂粒少量	
V-11-50	29-50	JP142	VB1	口縁部～胴部	4680・7318・/K-24/Va	平縁・やや外傾-隅丸角状/外傾	RL斜行縄文-縄線文・RL縄文(縦位)・縄線文	砂粒少量	
V-11-51	29-51	JP098	VB1	口縁部	4560・5520/K-25/VbU・bM	平縁・やや外傾-隅丸角状(外削ぎ)	刻み-無文帯-弱ミガキ	砂礫中量	
V-11-52	29-52	JP113A	VB1	口縁部	4240/K-22/VbU	平縁・直立-隅丸角状	刻み-LR斜行縄文・縄線文	砂礫少量	
V-11-53	29-53	JP194	VB1	口縁部～胴部下	4741-2・7193・7197 他16点/K-23・24/VbU・bM・c	突起?・直立-隅丸角状/外傾	RL斜行縄文-RL斜行縄文(胴部上半一部重複)・刺突列/RL斜行縄文	砂粒少量	突起部分剥落
V-12-54	30-54	JP111	VB1	口縁部～胴部上半	4440・6305・11184/L-20・K-22・表採/VbU・bM	平縁・直立-隅丸角状	刻み-縄端圧痕刺突列・RL縄文(縦位)	砂粒少量	
V-12-55	30-55	JP068	VB1	口縁部～胴部	4480・4481/K-22 /VbU	平縁・直立-隅丸角状	縄端圧痕-縄線文(横・斜位)+3段刺突列・LR斜行縄文-ミガキ	砂粒少量	
V-12-56	30-56	JP133A	VB1	胴部上～胴部下	2626・2628・3710・6166・/L-23/Va・bU・bL	外傾	無文帯+縄線文・幅広の浅い沈線・RL縄文(縦位)	砂粒多量	
V-12-57	30-57	JP183	VB1	口縁部	2592/L-24/Va	平縁・やや外傾-角状	弱いミガキ-横走沈線文・RL斜行縄文	砂粒中量	
V-12-58	30-58	JP069A	VB1	口縁部～胴部上	4332・4333/K-23/VbU	平縁・外反-角状-直立	ミガキ弱-横走沈線文・ミガキ/LR縄文(縦位)	砂粒少量	
V-12-59	30-59	JP143A	VB1	口縁部	3215/K-29/Va	小波状・やや外傾-角状	刻み-横走沈線文・RL斜行縄文	砂粒中量	
V-12-60	30-60	JP086B	VB1	口縁部	6536/K-22 /VbM	平縁・直立-隅丸角状	刻み-LR斜行縄文・ナデ・格子目状沈線	砂礫少量	
V-12-61	30-61	JP061	VB1	口縁部～胴部	3193・3194・3358・6793/K-29 /Va・bU	小突起・やや外傾-角状/外傾	縄の圧痕文(円形刺突・刻み突起部)ーRL斜行縄文・横走沈線文/RL斜行縄文・貼付帯+刻み・横走沈線	砂礫中量 石英多量	

表Ⅴ-12　縄文時代包含層出土土器属性表(4)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅴ-12-62	30-62	JP107	ⅤB1	口縁部	2792・3398・3399・他8点/K-22・23・24/Ⅴa・bU・bM・bL	小突起・外傾-隅丸角状	ボタン状突起・(円形刺突文+同じ状沈線)刻み・刺突列・ミガキ(弱)・竹管工具刺突列・横走沈線	砂粒少量	
Ⅴ-12-63	30-63	JP097	ⅤB2	口縁部	8767/L-22/ⅤbL	平縁・やや外傾-丸状	ミガキ-RL斜行縄文・横走沈線-ミガキ	砂粒少量	
Ⅴ-12-64	30-64	JP119	ⅤB1	胴部～底部	5004・5385/J-29/ⅤbU	外傾/外傾-張り出し-突出底	LR斜行縄文・ナデ・横走沈線+刺突列-ミガキ/LR斜行縄文	砂粒少量 白色岩片少量	
Ⅴ-12-65	30-65	JP105	ⅤB1	口縁部	3185/K-27 /Ⅴa	平縁・直立-丸状	ミガキ(弱)-RL縄文(縦位)・縄端圧痕刺突列	砂粒少量	
Ⅴ-12-66	30-66	JP115A	ⅤB1	口縁部	7962/M-21/ⅤbL	平縁・直立-角状	縄端圧痕刺突列-RL斜行縄文・縄端圧痕刺突列-ミガキ	砂粒少量 赤色岩片中量	
Ⅴ-12-67	30-67	JP070	ⅤB1	口縁部	4917・4918/K-23/ⅤbU	平縁・やや外傾-丸状	刺突文・ナデ	砂粒中量	
Ⅴ-12-68	30-68	JP109B	ⅤB1	口縁部	3663・5154他4点/L-22/	平縁・外傾-隅丸角状	ミガキ(弱)-ミガキ(弱)	砂粒少量	
Ⅴ-12-69	30-69	JP117	ⅤB1	口縁部～胴部	5029・5031/J-29/ⅤbU	平縁・外傾-隅丸角状-(内削ぎ)外傾	ナデ-ミガキ(弱)-ﾐｶﾞｷ	砂粒少量	
Ⅴ-12-70	30-70	JP081A	ⅤB1	口縁部	3983/K-21/ⅤbU	平縁・直立-隅丸角状	ミガキ-ミガキ(弱)-ナデ/ミガキ-ナデ	砂粒少量	
Ⅴ-12-71	30-71	JP123A	ⅤB1	口縁部	7310・7315/K-25/ⅤbL	平縁・外傾-隅丸角状	刻み-ミガキ(弱)-ミガキ(弱)	砂粒少量	
Ⅴ-13-72	30-72	JP138	ⅤB1	突起	2401/K-21/ⅤbU	ボタン状突起-外傾-隅丸角状	R撚糸渦巻文+円形刺突文 R撚糸押圧・ナデ-ナデ	砂粒少量	
Ⅴ-13-73	30-73	JP139	ⅤB1	突起	2659/K-23/Ⅴa	台形状突起・外傾-隅丸角状	縄の圧痕文・刻み-縄線文・円形刺突文-ナデ	砂粒少量	
Ⅴ-13-74	30-74	JP185	ⅤB1	口縁部	4226/L-20 /ⅤbU	小突起・外傾-隅丸角状	ミガキ・刻み-LR斜行縄文-ミガキ	砂粒少量 赤色岩片少量	
Ⅴ-13-75	30-75	JP120	ⅤB1	口縁部	4306/J-23/ⅤbU	小突起・外傾-隅丸角状	指頭圧痕(突起部分)-ナデ-ナデ	砂粒中量	
Ⅴ-13-76	30-76	JP056A	ⅤB1	口縁部	2732・7881/L-22/Ⅴa・bL	波状-外傾(小突起)-隅丸角状	R撚糸縄線-縄刻文・ RL斜行縄文・ミガキ-ミガキ	石英粒多量	
Ⅴ-13-77	30-77	JP064	ⅤB1	突起(注口部)	6455/K-21/ⅤbL	突起・直立-隅丸角状	円形刺突文・刻み-L撚糸押圧・刻目文	砂粒少量	
Ⅴ-13-78	30-78	JP196	ⅤB2	頸部～胴部	4116・6328/L-20/ⅤbU・bL	平縁・やや外反-直立	ミガキ+赤色塗彩-赤色塗彩	砂粒多量	
Ⅴ-13-79	30-79	JP197	ⅤB2	胴部	2490・2491　他3点/L-20・21/Ⅴa・bL・c	内傾	ミガキ+赤色塗彩-ミガキ	砂粒多量	
Ⅴ-13-80	30-80	JP100A	ⅤB1	胴部	5614・5618・5651他8点/K-24/ⅤbU・bM・bL ・c	外傾	LR縄文(縦位)-ナデ-ミガキ(弱)	赤色岩片多量	
Ⅴ-13-81	30-81	JP134	ⅤB1	胴部	9701・9870/K-24/Ⅴc	やや外傾	LR斜行縄文・ナデ	砂粒少量	
Ⅴ-13-82	31-82	JP063B	ⅤB1	胴部	4536・4982・5526・5535・9197他3点/K-25 /ⅤbU・bM・c	外傾	RL斜行縄文・ナデ-ミガキ	砂粒少量	
Ⅴ-13-83	31-83	JP137	ⅤB1	胴部	4288/K-23/ⅤbU	外傾	RL縄文(縦位)-ミガキ	砂粒少量	
Ⅴ-13-84	31-84	JP135	ⅤB1	胴部	2775/K-20/Ⅴa	直立	RL縄文(縦位)	白色岩片少量	

表Ⅴ-13 縄文時代包含層出土土器(5)・土製品属性表

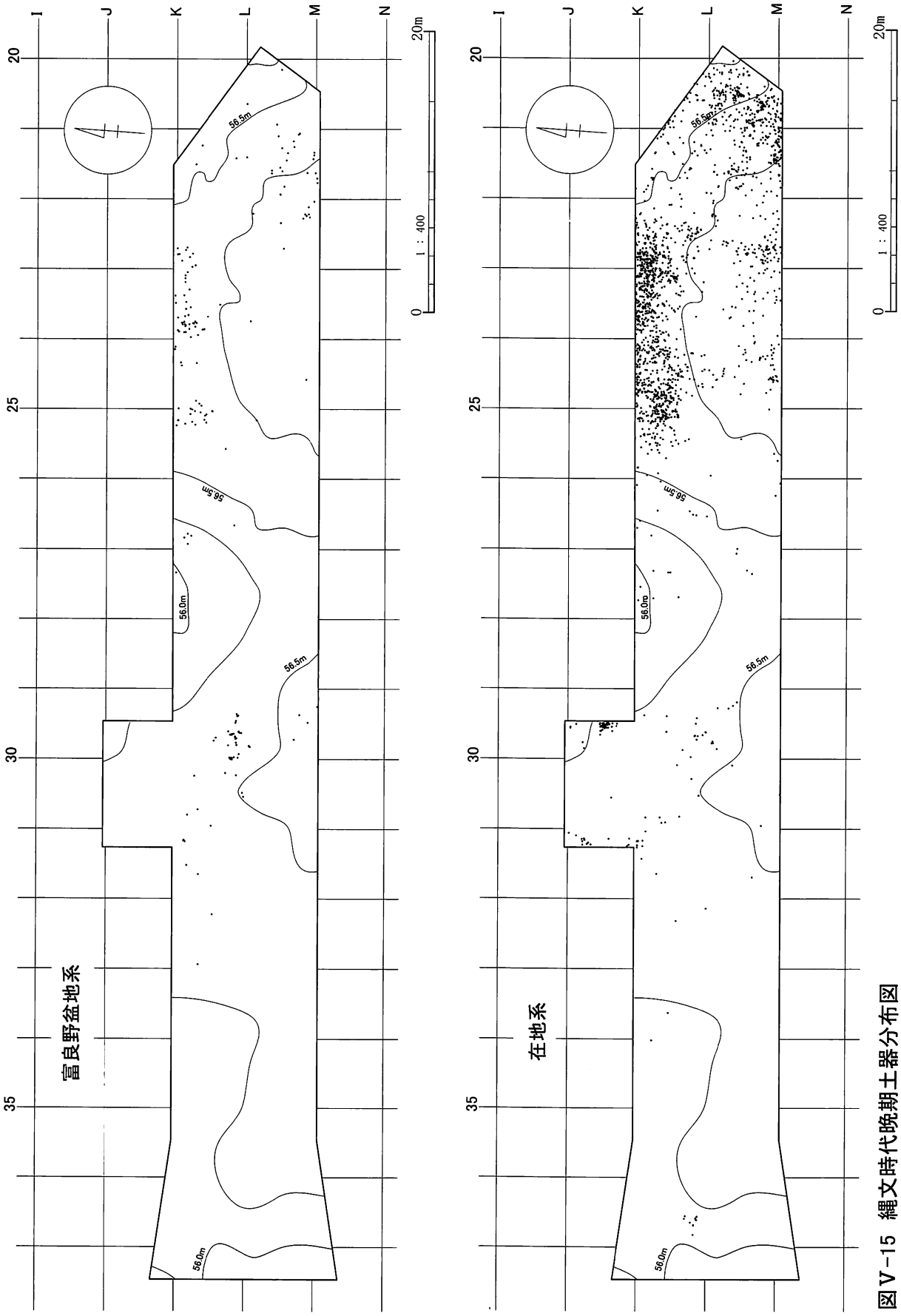
挿図番号	図版番号	個体名称	分類	部位	遺物番号/調査区/層位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅴ-13-85	31-85	JP095A	ⅤB1	胴部	4522・4534・4557・5629・7171/K-24・25/ⅤbU・bM・bL	やや外傾	LR縄文(縦位)-ミガキ(弱)	砂粒少量	
Ⅴ-13-86	31-86	JP048A	ⅤB1	胴部～底部	4524・4526・7430/K-25/ⅤbU・bL・c	外傾-丸状-平底？	RL縄文(縦位)-ミガキ(弱)	砂粒中量 石英多量	
Ⅴ-13-87	31-87	JP062B	ⅤB1	胴部～底部	2801・6537他3点/K-22/Ⅴa・bM ・bL	外傾-丸状-平底？	RL斜行縄文・ナデ-ミガキ	砂粒極少量	
Ⅴ-13-88	31-88	JP058	ⅤB1	胴部	3179/L-25/Ⅴa	内湾	RL縄文(縦位)・鋸歯状沈線文-ナデ	砂粒中量 石英多量	
Ⅴ-13-89	31-89	JP140	ⅤB1	底部	2609/K-24/Ⅴa	外傾-張出し-平底	ナデ・横走沈線文	砂粒少量	
Ⅴ-13-90	31-90	JP113B	ⅤB1	底部	2500・3756・3758他3点/L-23・24・M-23/Ⅴa・bU・bL・c	外傾-隅丸角状-突出底	LR斜行縄文-ミガキ/LR斜行縄文-ミガキ	砂粒少量	浅鉢
Ⅴ-13-91	31-91	JP104B	ⅤB1	底部	3218・3222・3362他8点/K-29・30/Ⅴa・bU	突出底	RL斜行縄文・ナデ-ミガキ	砂粒中量 石英多量	
Ⅴ-13-92	31-92	JP052	ⅤB1	底部	5188/L-22/ⅤbL	外傾-丸状-平底	LR斜行縄文/ナデ	砂粒中量	
Ⅴ-13-93	31-93	JP018	-	土製品	-	-	-	-	



図Ⅴ-14　縄文時代晩期土器胎土別重量分布図

表Ⅴ-14　縄文時代晩期土器胎土別重量一覧表

グリッド/遺構名	分類	在地系(g)	富良野盆地系(g)	小計	富良野盆地系土器出土比率	備考
J-21	VB1	0.8	-	0.8	-	
J-22	VB1	42.5	-	42.5	-	
J-23	VB1	84.1	-	84.1	-	
J-24	VB1	80.2	-	80.2	-	
J-26	VB1	0.1	-	0.1	-	
J-27	VB1	0.7	-	0.7	-	
J-29	VB1	219.4	-	219.4	-	
J-30	VB1	0.8	-	0.8	-	
J-31	VB1	15.0	-	15.0	-	
K-20	VB1	60.0	25.0	85.0	0.294	
K-21	VB1	245.0	45.0	290.0	0.155	
K-22	VB1	1726.2	40.0	1766.2	0.023	
K-23	VB1	1618.5	168.5	1787.0	0.094	
K-24	VB1	1853.7	63.0	1916.7	0.033	
K-25	VB1	1359.2	90.0	1449.2	0.062	
K-26	VB1	100.0	17.0	117.0	0.145	
K-27	VB1	97.0	-	97.0	-	
K-29	VB1	460.5	32.9	493.4	0.067	
K-30	VB1	10.0	122.0	132.0	0.924	
K-31	VB1	75.0	-	75.0	-	
K-36	VB1	32.1	-	32.1	-	
L-19	VB1	3.5	-	3.5	-	
L-20	VB1	785.6	48.5	834.1	0.058	
L-21	VB1	1160.2	100.0	1260.2	0.079	
L-22	VB1	1085.0	-	1085.0	-	
L-23	VB1	100.0	12.0	112.0	0.107	
L-24	VB1	545.3	-	545.3	-	
L-25	VB1	-	15.0	15.0	1.000	
L-26	VB1	10.0	-	10.0	-	
L-27	VB1	28.5	-	28.5	-	
L-29	VB1	15.0	-	15.0	-	
L-31	VB1	0.5	-	0.5	-	
M-20	VB1	40.0	0.9	40.9	0.022	
M-21	VB1	232.0	-	232.0	-	
M-22	VB1	0.8	-	0.8	-	
M-23	VB1	10.0	-	10.0	-	
M-24	VB1	0.5	-	0.5	-	
M-32	VB1	10.0	-	10.0	-	
VF-01	VB1	15.0	-	15.0	-	
VF-02	VB1	100.7	-	100.7	-	
VF-03	VB1	20.0	-	20.0	-	
VF-04	VB1	45.0	-	45.0	-	
VP-05	VB1	8.1	0.3	8.4	0.036	
VP-07	VB1	0.2	-	0.2	-	
VP-08	VB1	1.0	-	1.0	-	
VPB-01	VB1	445.0	20.0	465.0	0.043	
ⅢPB-05	VB1	-	40.0	40.0	1.000	
合計		11115.1	751.9	11867.0	-	
在地系土器					93.80%	
富良野盆地系土器					6.20%	



図Ⅴ-15　縄文時代晩期土器分布図

２．剥片石器（図Ⅴ-17･18　図版 32･33）

Ⅴ･Ⅵ層包含層からは石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、ピエス・エスキーユ、石核、RF、UF の計 418 点（重量 2,715.37g）が出土した。つまみ付きナイフはほとんどが背面全体に剥離痕が及ぶものである。スクレイパーは形態が多様である。石核は両面体石核、90 度打面転移のサイコロ状石核、求心状剥離の石核、両設打面石核がある。

石材は黒曜石 340 点、頁岩 34 点、メノウ 35 点、安山岩９点である。約 80%を黒曜石が占め、次いでメノウ、頁岩が多い。メノウは石核･RF･UF、頁岩はつまみ付きナイフの割合が高い。

石鏃（図Ⅴ-17-１～17　図版 32-１～17）

74 点が出土した。12･13 は頁岩製、他は黒曜石製である。１・２は無茎三角鏃、３～12 は有茎鏃、13 は基部の一方が長くなる三角鏃、14～17 は基部の作出が不明瞭なもの。全体では有茎鏃が多数を占める。１・２は前期、14～17 は後期、３～12 は晩期の時期のものに形態が類似する。

石槍（図Ⅴ-17-18～26　図版 32-18～26）

36 点が出土した。18･21･25･26 は頁岩製、他は黒曜石製である。18～23 は基部の作出が比較的明瞭なもの。24～26 は基部が不明瞭なもの。24 は薄手で剥離調整が細かい。21･22･26 は基部に左右対称の抉入がみられる。17･19 は身部と基部の変換点が突出したもの。

石錐（図Ⅴ-17-27　図版 32-27）

３点が出土した。27 はメノウ製の不定形剥片を素材とする。素材形状を大きく変えず、右側縁端部に背面側への剥離により錐部が作出されている。錐部先端の稜線は使用による摩耗が観察される。

つまみ付きナイフ（図Ⅴ-17-28～32　図版 32-28～32）

18 点が出土した。すべて頁岩製である。いずれも片面加工で、28 は側縁全周、29～32 は背面全体に剥離痕が及ぶ。形態は半月形（28）、ほぼ左右対称（29）などがある。素材利用は 28～31 が素材剥片の打点側につまみ部を作出するのに対し、32 は素材剥片の末端側につまみ部を作出する違いがある。

スクレイパー（図Ⅴ-17-33～36･18-37～49　図版 32-33～37･33-38～49）

84 点が出土した。35 は頁岩製、37 はメノウ製、39 は赤色チャート製、47～49 は安山岩製、他は黒曜石製である。33～37 は剥片末端、38～48 は側縁に刃部が作出されたもの。刃部位置は剥片末端（33～37）、側縁（38～44）、末端と側縁に位置し湾入するもの（45・46）がある。刃部形状は円形、拇状、直線状、外湾、内湾などがある。ほとんどが背面側に刃部を作出するが、34･37･39･40 のように刃部が腹面側に位置するものも認められた。49 は 47･48 が剥離面で接合したものである。接合状態は左側面に礫面を残置する大型･厚手の剥片である。上面にも剥離面がみられることから、49 のような大型剥片を石核として用いて、これを分割した剥片を素材に充当させ、スクレーパーを製作していたと考えられる。なお、安山岩製スクレーパーは晩期の土器に伴うものと考えられる。

ピエス・エスキーユ（図Ⅴ-18-50　図版 33-50）

３点が出土した。50 は不定形剥片の上下端に両極剥離による圧縮型の剥離痕が集積する。左側面に剪断面が２面観察される。

石核（図Ⅴ-18-51･52　図版 33-51･52）

13 点が出土した。51 はサイコロ状を呈する単設打面石核、52 はメノウ製の両面体石核。51 は下面に円礫面が残る分厚い剥片を素材とする。裏面に素材剥片の腹面が残る。剥離作業面は表面に位

置し、上面、右側面の剥離痕は石核調整痕とみられる。52 の素材形状は不明だが、表面に角礫面が残る。剥離作業は裏面を中心に多方向から剥離しているが、節理の影響で整った剥片は剥離されていない。また、器体表面中央に集中的な敲打痕が集積しており、剥離の初期段階でたたき石として利用されていたか、半割する目的があったと推察される。（山田）

３．礫石器・石製品・棒状原石（図Ⅴ-19～22　カラー４-７-１～５　図版 34･35）

Ⅴ・Ⅵ層包含層からは石斧、石斧片、たたき石、すり石、砥石、石鋸、台石、石皿、加工痕ある礫の計 167 点（重量 29,757.11g）が出土した。この他、軽石製品１点、石製品１点、棒状黒曜石原石 10 点（５個体）が出土した。砥石、敲石が最も多く、次いですり石が多いが、石皿･台石は少ない。

石材は緑色泥岩 44 点、青色片岩３点、片岩１点、泥岩１点、チャート１点、石英１点、片麻岩６点、安山岩５点、砂岩 105 点である。石斧調整剥片が緑色泥岩に含まれているため出土数が多いが、石材では砂岩が突出して利用されている。

器種と石材との関係では、石斧に緑色泥岩、青色片岩、片岩、すり石（北海道式石冠）に片麻岩･安山岩が利用されている。また、砥石は砂岩の中でも板状で細粒な材質が使用される傾向にある。

石斧・石斧片（図Ⅴ-19-１～７　図版 34-１～７）

石斧 14 点、石斧片 32 点が出土した。１～６は磨製石斧、７は石斧原材である。１は擦切石斧、平面短冊形の直刃片刃で器体左側縁側に両面からの擦切痕がみられる。２は乳棒状石斧。３点が接合した。被熱による剥落がみられる。３は平面撥形の円刃片刃で、器体両面に素材面が残る。４は平面撥形の円刃両刃、５は平面撥形の直刃両刃でいずれも素材整形時の剥離痕がみられる。６は平面短冊形の直刃片刃で器体表面は礫面、裏面は素材整形時の剥離痕が残る。側縁と器体下半に弱い研磨がみられる。

たたき石（図Ⅴ-19-８～11･20-12～17　図版 34-８～17）

41 点が出土した。８～10 は縦長で平坦面に敲打痕が集積する。11･12 は縦長で側縁稜上に敲打痕が集積する。13 は幅広の素材、平坦面に敲打痕が集積する。14～16 は球形で器体の半～全周に敲打痕が集積する。17 はストーンリタッチャー、上面に自然有孔のある凝灰岩の円礫を素材とする。両面に鼠噛状の敲打痕が散漫にみられる。

すり石（図Ⅴ-20-18～19･21-20～23　図版 35-18～23）

22 点が出土した。18･19 は側面にすり面が形成されたもの、20～23 は北海道式石冠である。18 は表面に敲打痕が観察されることから、たたき石としても使用されている。20 はすり面の縁辺を敲打したと考えられる下面からの剥離痕が観察される。22 は両面に素材の円礫面が残る。23 は破断面に下面からの剥離痕が観察されることから、破損後も使用していたと考えられる。

砥石（図Ⅴ-21-24～27　図版 35-24～27）

41 点が出土した。砥面は 24 が片面、25･26 が両面に形成され、いずれも平滑である。27 は片面に幅の広い溝状の砥面が形成されている。

石鋸（図Ⅴ-21-28　図版 35-28）

２点（１個体）が出土した。28 は板状の砂岩礫を素材とする。下縁に断面Ⅴ字状の刃部が形成されている。刃部先端は稜線が明瞭で磨耗がみられないことから、使用頻度は低かったと考えられる。

台石（図Ⅴ-21-29　図版 35-29）

６点が出土した。29 は大型で不整な扁平亜円礫を素材とする。散漫な敲打痕が頂端部に集積する。

石皿（図Ⅴ-22-30･31　図版 35-30･31）

２点が出土した。30 は扁平、31 は直方体状の亜角礫を素材とする。すり面はいずれも平滑で、片面に形成されている。

加工痕ある礫（図Ⅴ-22-32　図版 35-32）

７点が出土した。32 は扁平な円礫の側端部に連続する剥離痕が観察される。

矢柄研磨器（図Ⅴ-22-33　図版 35-33）

１点が出土した。灰白色の軽石製で、片面に幅の狭い溝状の研磨痕が形成されている。上下は破損している。

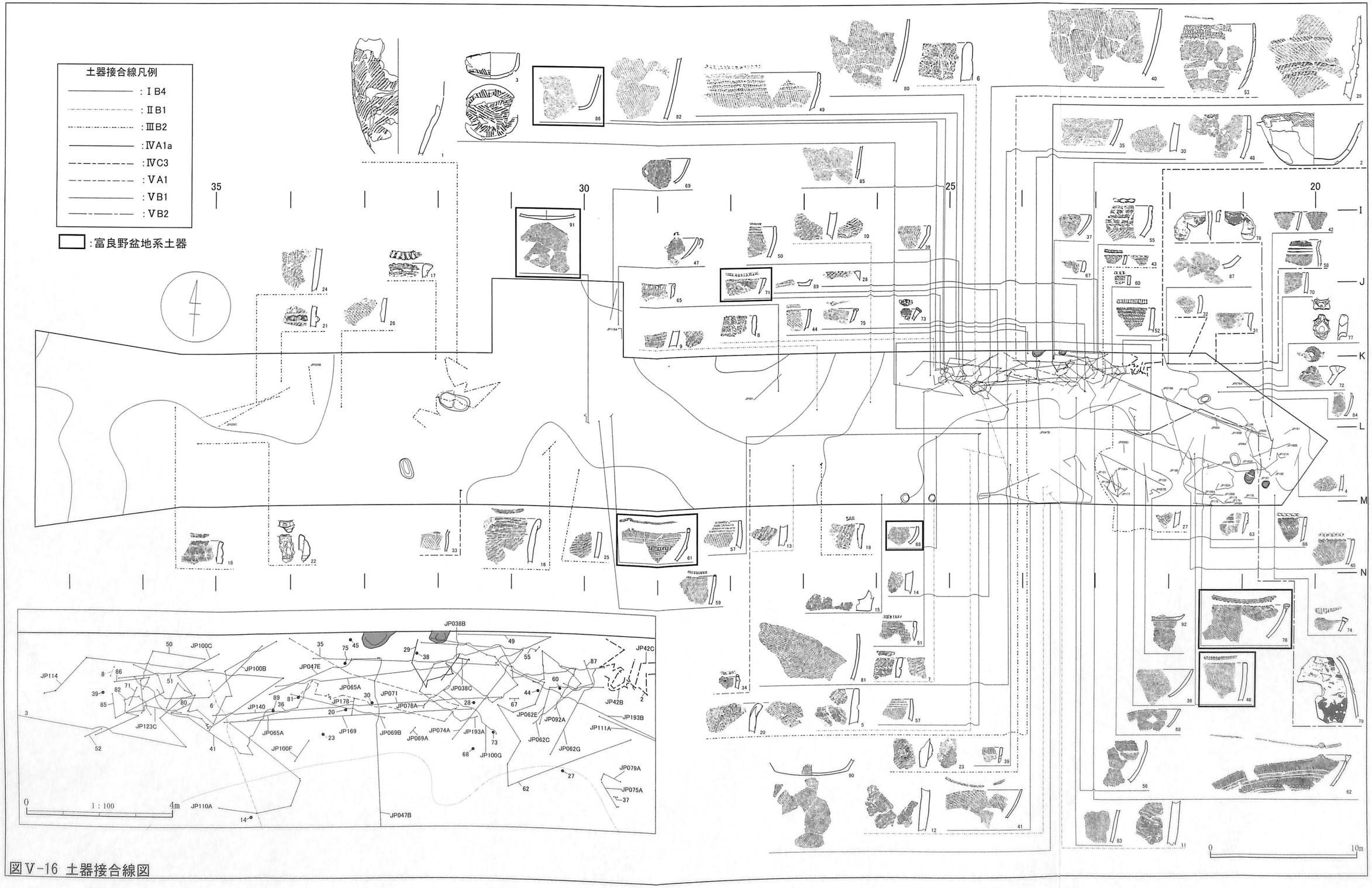
石製品（図Ⅴ-22-34　図版 35-34）

１点が出土した。泥岩製で、上下端に礫面を残すことから扁平な小円礫を素材としている。表裏面を研磨した後、側面の研磨によって整形している。右側面は溝状の研磨による４ヶ所の刻みが施され、波状の突起が作出されている。両面に施された穿孔痕は器体中程で止まっており、未成品と考えられる。

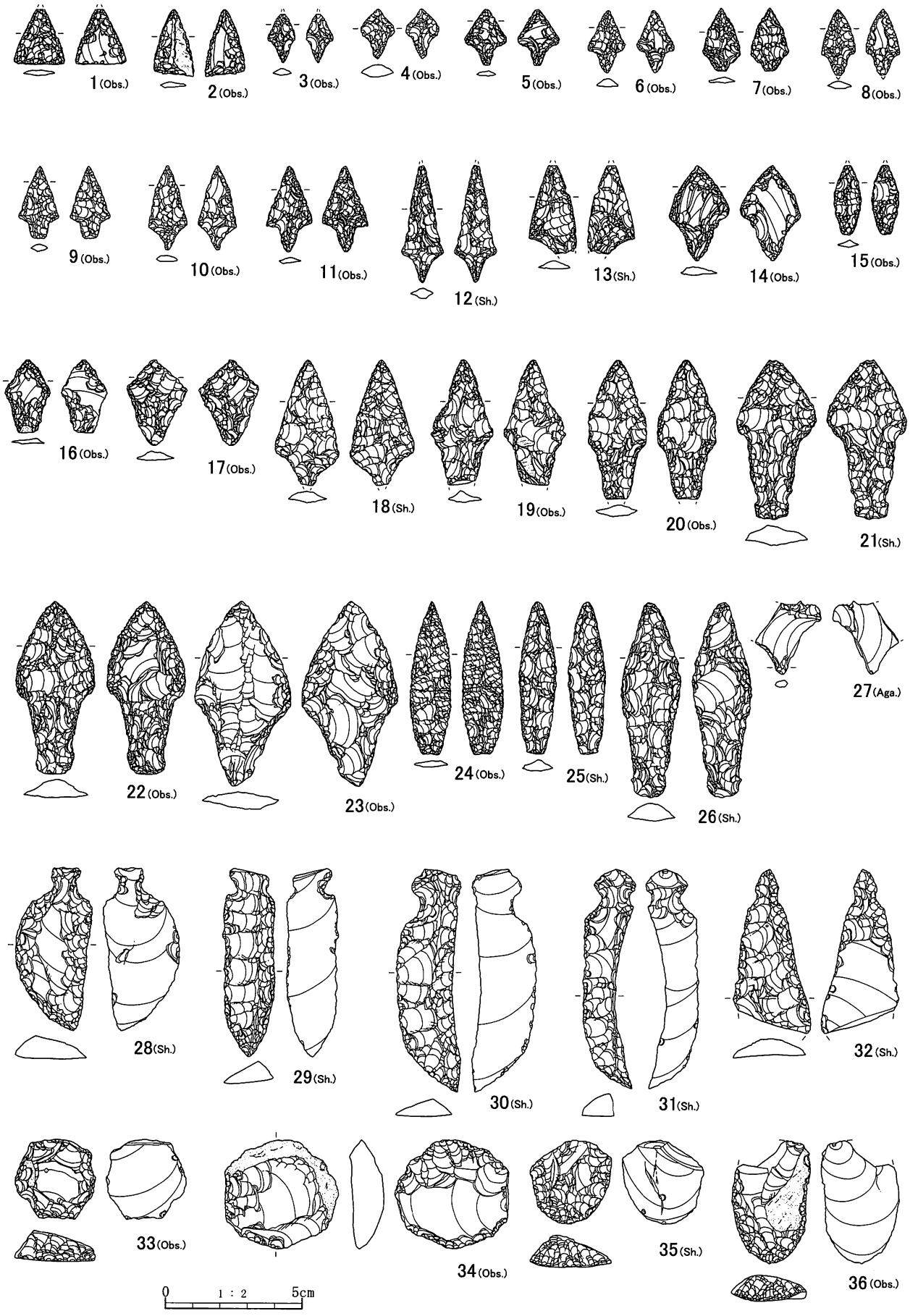
棒状原石（図Ⅴ-22-35～39　カラー４-７-１～５）

10 点（５個体）が出土した。35 は断面三角形でやや幅広、36～39 は断面方形もしくは菱型に近く、細長い形状。縁辺に微細剥離痕が観察されるが、明瞭な二次加工が施されたものはない。礫面の特徴は 37 のみが滑らかな節理面で、他は粗い岩屑面である。色調は内外面ともに黒色である。出土層位はⅤb～Ⅴc 層で、周囲で縄文時代晩期の土器片が多く出土しており、これらに伴うと考えられる。肉眼観察では遠軽町白滝に位置する赤石山の「八号沢の露頭」で採集される棒状原石に特徴が類似する。

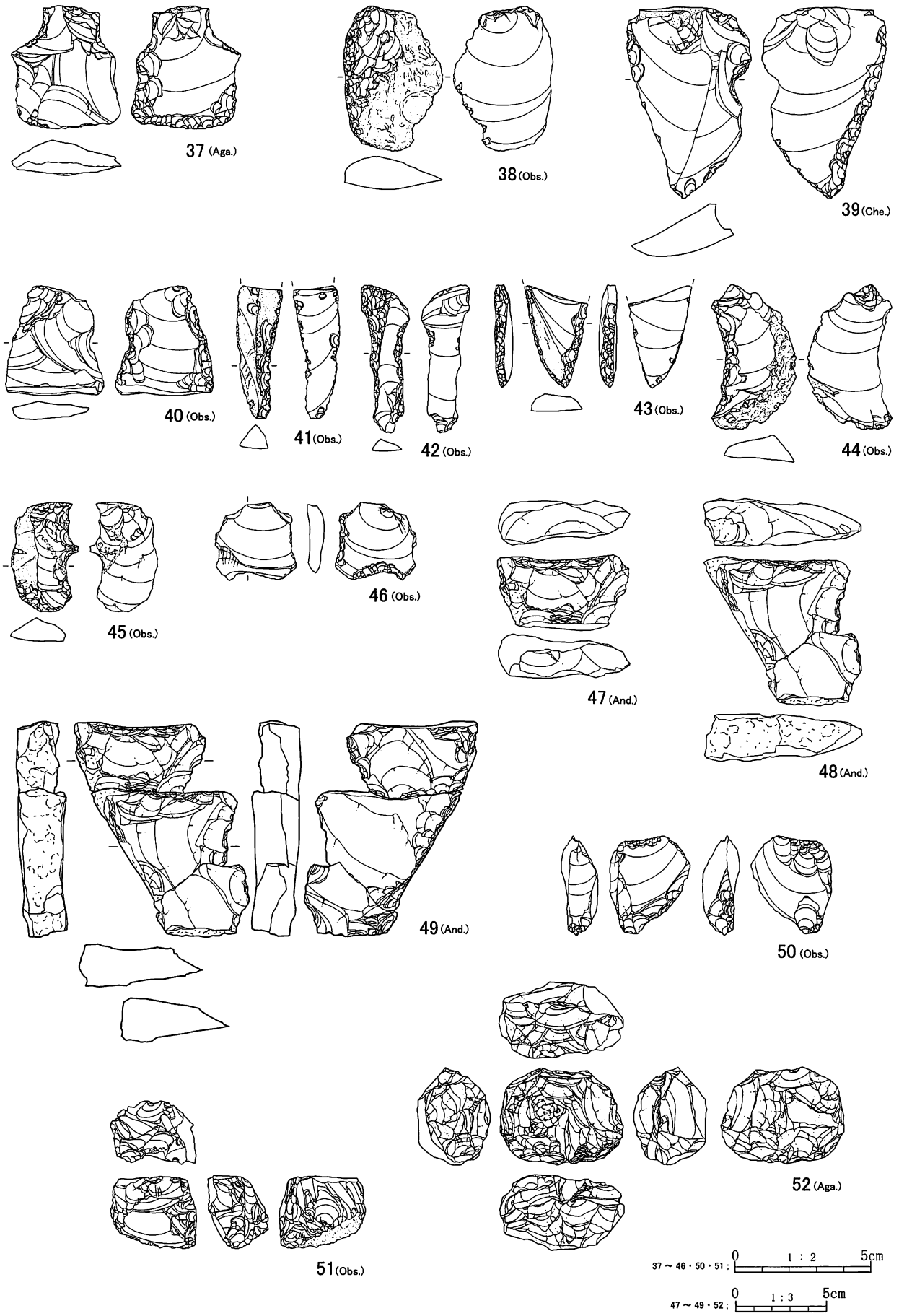
（山田）


土器接合線凡例
：ⅠB4
：ⅡB1
：ⅢB2
：ⅣA1a
：ⅣC3
：ⅤA1
：ⅤB1
：ⅤB2
：富良野盆地系土器
35
30
25
20
I
J
K
L
M
N
0
10m
JP038B
JP100C
JP100B
JP047E
JP065A
JP071
JP078A
JP038C
JP042C
JP042B
JP114
JP123C
JP140
JP178
JP169
JP069B
JP069A
JP074A
JP193A
JP062E
JP092A
JP062C
JP062G
JP193B
JP111A
JP065A
JP100F
JP100G
JP079A
JP075A
JP110A
JP047B
1：100
4m

図Ⅴ-16 土器接合線図



図Ⅴ-17　縄文時代包含層出土剥片石器（1）

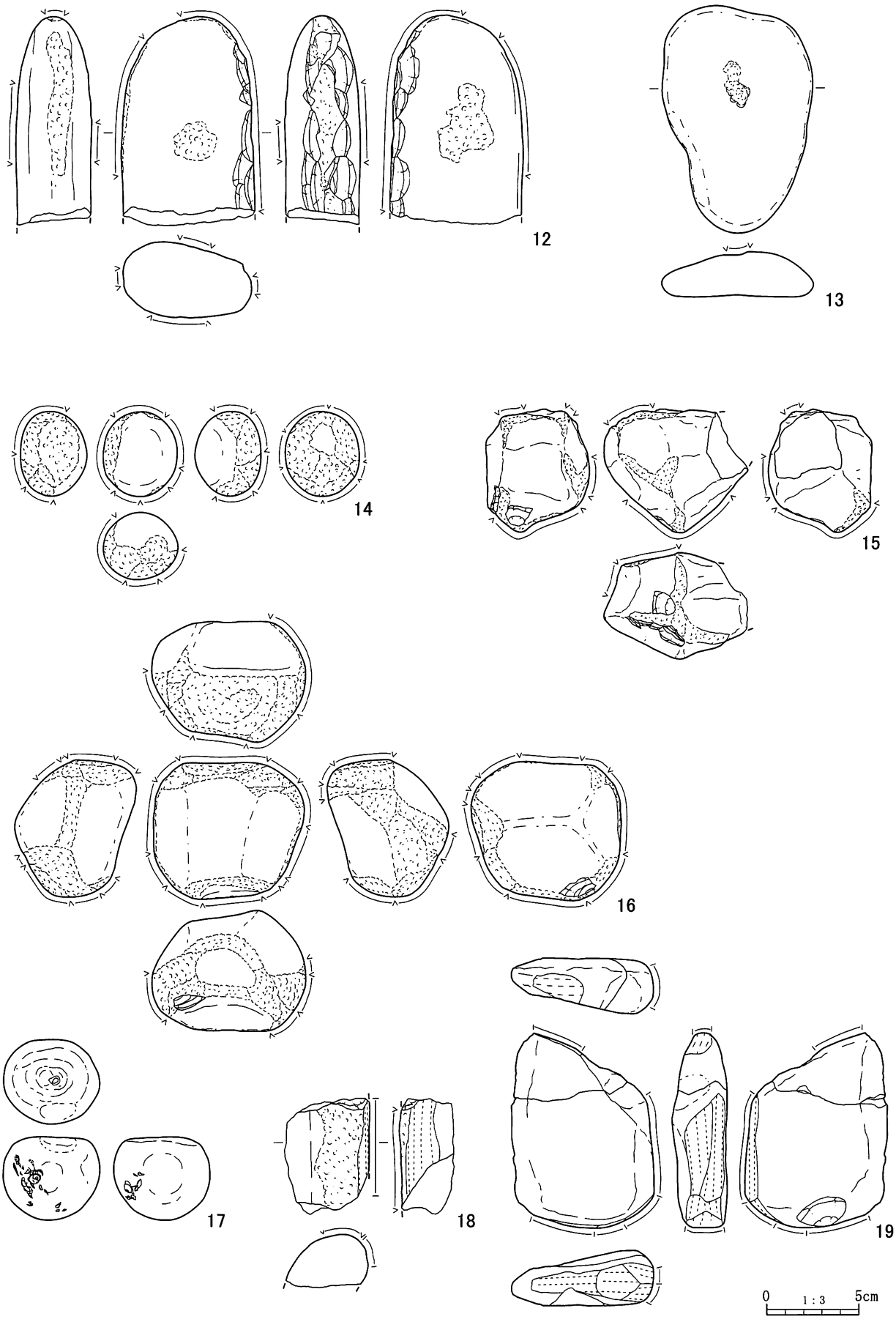


図Ⅴ-18　縄文時代包含層出土剥片石器（2）

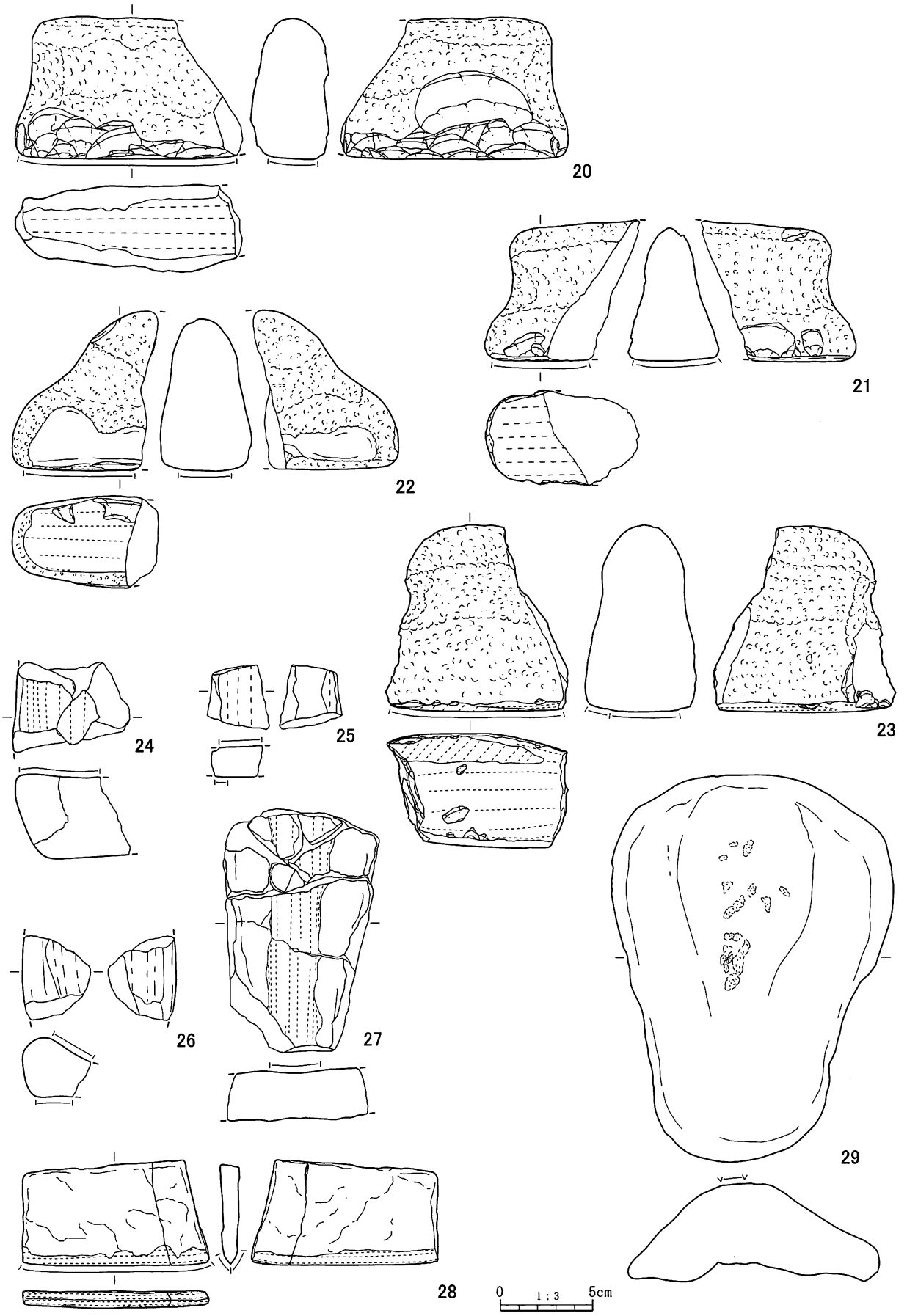
表Ⅴ-15 縄文時代包含層出土剥片石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
V-17-1	32-1	-	L-27	8638	石　鏃	A2	VbL	20.0	18.2	1.7	0.77	Obs.	
V-17-2	32-2	-	K-23	7588	石　鏃	A2	Vc	24.2	14.2	1.8	0.73	Obs.	
V-17-3	32-3	-	M-32	10495	石　鏃	A3	Vc	17.7	10.0	2.9	0.35	Obs.	
V-17-4	32-4	-	K-22	6647	石　鏃	A3	Vc	18.1	11.5	4.7	0.66	Obs.	
V-17-5	32-5	-	L-21	6744	石　鏃	A3	VbM	20.3	15.1	3.0	0.67	Obs.	
V-17-6	32-6	-	K-22	4875	石　鏃	A3	VbU	22.9	13.6	2.4	0.56	Obs.	
V-17-7	32-7	-	K-23	4967	石　鏃	A3	VbU	22.9	13.5	2.7	0.77	Obs.	
V-17-8	32-8	-	L-27	8632	石　鏃	A3	Vc	24.4	12.3	3.7	0.75	Obs.	
V-17-9	32-9	-	L-27	8646	石　鏃	A3	Vc	26.3	14.4	4.5	1.07	Obs.	
V-17-10	32-10	-	L-21	9138	石　鏃	A3	Vc	30.5	13.9	3.2	1.10	Obs.	
V-17-11	32-11	-	L-23	3016	石　鏃	A3	Va	30.9	16.4	3.9	1.30	Obs.	
V-17-12	32-12	-	K-28	6791	石　鏃	A3	VbU	42.5	15.3	4.8	2.03	Sh.	
V-17-13	32-13	-	L-21	10839	石　鏃	A3	Ⅵ	32.0	17.1	3.9	2.21	Sh.	
V-17-14	32-14	-	K-23	2925	石　鏃	A3	Va	33.9	21.8	3.5	2.33	Obs.	
V-17-15	32-15	-	L-29	11153	石　鏃	A3	Ⅵ	25.0	9.7	3.5	0.81	Obs.	
V-17-16	32-16	-	L-32	6092	石　鏃	A4	VbL	26.7	16.4	3.8	1.30	Obs.	
V-17-17	32-17	-	L-33	10794	石　鏃	A4	Vc	31.0	21.9	6.2	2.83	Obs.	
V-17-18	32-18	-	L-26	3860	石　槍	B1	VbU	45.1	23.2	6.4	4.84	Sh.	
V-17-19	32-19	-	L-21	9142	石　槍	B1	Ⅵ	45.4	22.6	7.7	4.85	Obs.	
V-17-20	32-20	-	K-23	7713	石　槍	B1	Vc	50.2	21.1	6.3	5.44	Obs.	
V-17-21	32-21	-	K-26	6777	石　槍	B1	VbL	57.6	28.8	8.1	12.50	Sh.	
V-17-22	32-22	-	L-23	8311	石　槍	B1	Vc	62.8	28.5	9.2	13.20	Obs.	
V-17-23	32-23	-	K-21	11071	石　槍	B1	Ⅵ	67.5	35.1	7.5	14.52	Obs.	
V-17-24	32-24	-	L-29	4066	石　槍	B2	VbU	55.7	14.4	3.1	1.16	Obs.	
V-17-25	32-25	-	K-25	5588	石　槍	B2	VbM	55.1	13.5	6.1	4.38	Sh.	
V-17-26	32-26	-	L-24	9384	石　槍	B2	Vc	70.9	21.9	6.8	10.82	Sh.	
V-17-27	32-27	-	M-20	2483	石　錐	C	Va	26.3	25.6	2.3	1.56	Aga.	
V-17-28	32-28	-	L-21	6747	つまみ付きナイフ	A2	VbM	59.0	26.2	8.2	12.43	Sh.	
V-17-29	32-29	-	K-23	9682	つまみ付きナイフ	A2	Vc	68.0	18.4	6.5	10.35	Sh.	
V-17-30	32-30	-	K-26	10078	つまみ付きナイフ	A2	Vc	82.3	21.0	6.7	12.82	Sh.	
V-17-31	32-31	-	K-23	9731	つまみ付きナイフ	A2	Vc	79.9	14.4	9.1	9.14	Sh.	
V-17-32	32-32	-	K-26	6771	つまみ付きナイフ	A2	VbL	59.3	27.6	5.0	7.82	Sh.	
V-17-33	32-33	-	L-24	5331	スクレイパー	B1	VbL	29.7	29.2	10.6	9.04	Obs.	
V-17-34	32-34	-	L-36	3594	スクレイパー	B1	Va	40.1	41.8	10.3	19.94	Obs.	
V-17-35	32-35	-	L-24	9383	スクレイパー	B2	Vc	30.4	29.8	10.6	10.80	Sh.	
V-17-36	32-36	-	L-23	9807	スクレイパー	B2	Vc	45.4	28.5	7.8	9.26	Obs.	
V-18-37	32-37	-	K-24	9707	スクレイパー	B2	Vc	44.6	38.2	11.5	19.54	Aga.	被熱
V-18-38	33-38	-	L-21	4213	スクレイパー	C1	VbU	53.3	36.0	10.0	18.22	Obs.	
V-18-39	32-39	-	K-24	5746	スクレイパー	C1	VbM	69.6	45.0	19.5	41.28	Che.	
V-18-40	33-40	-	L-21	9155	スクレイパー	C1	Vc	39.6	36.0	8.1	11.18	Obs.	
V-18-41	33-41	-	L-25	3856	スクレイパー	C1	VbU	47.6	16.1	8.8	5.61	Obs.	
V-18-42	33-42	-	K-25	4617	スクレイパー	C1	VbU	54.3	17.4	7.7	4.11	Obs.	
V-18-43	33-43	-	K-24	4851	スクレイパー	C1	VbU	37.3	23.4	5.7	4.91	Obs.	
V-18-44	33-44	-	L-20	6404	スクレイパー	C2	VbM	52.9	27.7	9.3	13.92	Obs.	
V-18-45	33-45	-	K-21	4009	スクレイパー	C3	VbU	39.7	23.1	8.8	7.67	Obs.	
V-18-46	33-46	-	L-21	5123	スクレイパー	C3	VbL	33.0	30.0	5.5	4.74	Obs.	
V-18-47	33-47	-	K-23	6527	スクレイパー	C1	VbM	38.9	72.5	22.7	87.63	And.	2898・2899と接合
V-18-48	33-48	-	K-23	2898	スクレイパー	C1	Va	82.8	75.6	25.3	123.86	And.	2899と接合
V-18-49	33-49	VFT001	K-23	—	スクレイパー	—	—	121.7	75.6	25.3	211.49	And.	
V-18-50	33-50	-	L-22	8895	ピエス・エスキーユ	—	Vc	34.2	29.0	11.4	9.99	Obs.	
V-18-51	33-51	-	K-36	6097	石　核	—	VbL	28.0	30.4	18.0	18.48	Obs.	
V-18-52	33-52	-	K-26	9974	石　核	—	Vc	66.6	50.4	40.4	168.00	Aga.	

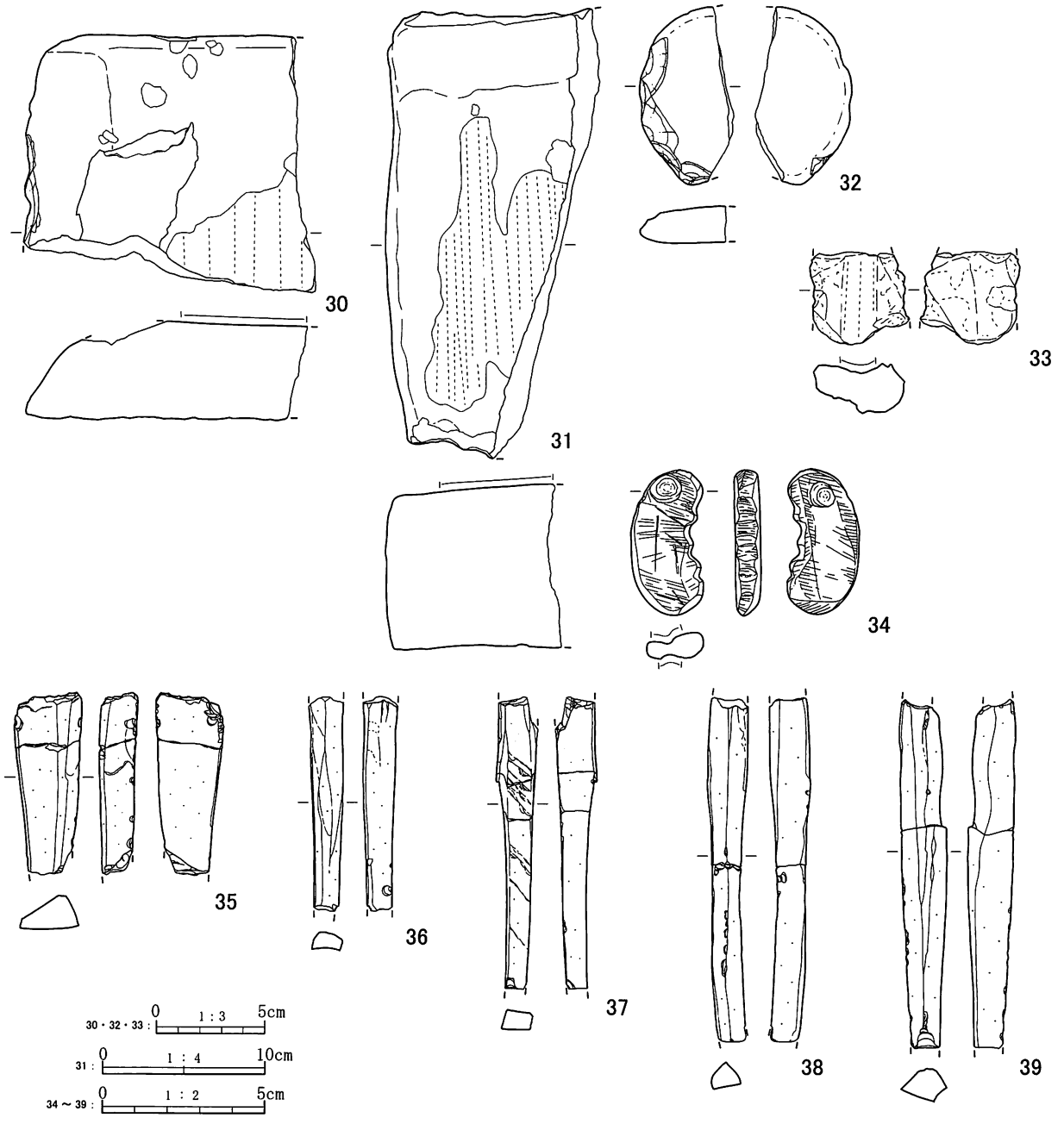
図Ⅴ-19　縄文時代包含層出土礫石器（1）



図Ⅴ-20 縄文時代包含層出土礫石器（2）



図Ⅴ-21　縄文時代包含層出土礫石器（3）



図Ⅴ-22 縄文時代包含層出土礫石器（4）・石製品・棒状原石

表Ⅴ-16　縄文時代包含層出土礫石器･石製品･棒状原石属性表

図版番号	挿図番号	個体名称	グリッド	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	被熱	材質	備考
V-19-1	34-1	-	M-21	7982	石　斧	Ⅰ	Vc	70.4	32.5	14.5	70.2	-	Gr-Mud.	
V-19-2	34-2	VST012	L-29	3334	石　斧	Ⅰ	Va	102.5	45.5	25.8	139.0	-	Gr-Mud.	6806･6807と接合
V-19-3	34-3	-	L-26	8734	石　斧	Ⅰ	Vc	67.4	29.3	9.0	32.9	-	Gr-Mud.	
V-19-4	34-4	-	K-23	7716	石　斧	Ⅰ	Vc	103.8	39.0	17.2	114.1	-	Gr-Mud.	
V-19-5	34-5	-	L-21	2400	石　斧	Ⅰ	Va	94.1	36.0	10.2	66.2	-	Bl-Sch.	
V-19-6	34-6	-	K-25	4620	石　斧	Ⅱ	VbU	106.7	40.5	14.6	107.1	-	Bl-Sch.	
V-19-7	34-7	-	K-23	7717	石　斧	Ⅳ	Vc	146.3	64.8	33.6	456.0	-	Gr-Mud.	
V-19-8	34-8	-	M-21	7972	たたき石	ⅠA1	Vc	160.8	52.8	23.8	273.0	-	Sa.	
V-19-9	34-9	-	L-23	6134	たたき石	ⅠB2	VbL	34.9	42.2	27.5	137.3	-	Sa.	
V-19-10	34-10	-	K-25	3557	たたき石	ⅠB1	VbL	117.9	43.6	32.0	320.0	-	Sa.	
V-19-11	34-11	VST004	K-32	6060	たたき石	ⅠB2	VbL	159.5	51.7	39.3	449.0	-	Sa.	6819と接合
V-20-12	34-12	-	K-24	2974	たたき石	ⅠB3	Va	110.6	71.6	40.3	585.0	-	Gni.	
V-19-13	34-13	-	L-22	8822	たたき石	ⅡA1	VbL	122.6	81.0	22.8	285.0	-	Sa.	
V-20-14	34-14	-	L-21	10844	たたき石	ⅢB	Vc	45.0	40.0	35.6	79.0	-	Sa.	
V-20-15	34-15	-	K-29	10296	たたき石	ⅢB	Vc	72.9	61.5	54.8	365.0	-	Gr-Mud.	
V-20-16	34-16	-	K-24	5752	たたき石	ⅢB	VbM	79.5	78.3	56.3	584.0	-	Gr-Mud.	
V-20-17	34-17	-	K-23	7676	たたき石	ⅢB	Vc	52.5	45.4	46.1	116.9	-	Mud.	
V-20-18	35-18	-	K-25	9724	すり石	Ⅱ	Vc	62.5	44.1	31.0	93.1	-	Sa.	
V-20-19	35-19	VST001	J-30	5410	すり石	ⅢB	VbL	111.1	73.3	28.3	290.0	-	Sa.	10607と接合
V-21-20	35-20	-	L-23	2937	すり石	Ⅳ	Va	75.7	120.7	46.2	601.0	-	Sa.	被熱
V-21-21	35-21	-	K-24	2968	すり石	Ⅳ	Va	87.7	68.5	55.7	394.0	-	And.	
V-21-22	35-22	-	K-25	6491	すり石	Ⅳ	VbL	87.5	69.1	49.1	383.0	-	Sa.	
V-21-23	35-23	-	L-24	10917	すり石	Ⅳ	Ⅵ	98.2	93.3	59.7	760.0	-	Sa.	
V-21-24	35-24	VST003	L-24	9332	砥　石	ⅠA	Vc	45.0	53.8	47.7	154.5	-	Sa.	9341と接合
V-21-25	35-25	-	L-22	8844	砥　石	ⅠB	Vc	34.4	32.5	17.2	26.1	-	Sa.	
V-21-26	35-26	-	L-30	6070	砥　石	ⅠB2	VbL	37.9	35.4	34.7	58.2	-	Sa.	
V-21-27	35-27	-	K-24	9721	砥　石	Ⅳ	Vc	128.6	80.3	27.5	400.0	-	Sa.	7点接合
V-21-28	35-28	VST002	L-23	9777	石　鋸	-	Vc	100.0	56.1	9.0	82.1	-	Sa.	10578と接合
V-21-29	35-29	-	L-36	10471	台　石	Ⅱ	VbL	195.0	154.0	60.5	175.5	-	Sa.	
V-22-30	35-30	-	L-25	9321	石　皿	Ⅰ	Vc	129.6	114.6	45.8	1040.4	-	Sa.	
V-22-31	35-31	-	L-23	8292	石　皿	Ⅰ	Vc	284.0	134.0	106.0	5240.0	-	Sa.	
V-22-32	35-32	-	K-26	3266	加工痕ある礫	Ⅱ	Vc	80.9	43.6	17.0	72.0	-	Sa.	
V-22-33	35-33	-	K-30	4060	軽石製品	-	VbU	43.7	42.1	23.7	13.6	-	Pum.	
V-22-34	35-34	-	K-31	5452	石製品	-	VbL	44.4	21.7	7.9	10.00	-	Sa.	
V-22-35	カラー4-7-1	VS043	L-21	6295	棒状原石	-	Vc	84.2	29.7	16.2	45.2	-	Obs.	10208と接合
V-22-36	カラー4-7-2	-	L-21	9110	棒状原石	-	Vc	98.0	16.6	9.6	17.9	-	Obs.	
V-22-37	カラー4-7-3	VS041	L-21	5120	棒状原石	-	VbU	133.5	17.6	11.4	30.9	-	Obs.	6297･6296と接合
V-22-38	カラー4-7-4	VS040	L-21	6760	棒状原石	-	VbU	156.9	18.6	16.7	48.1	-	Obs.	6761と接合
V-22-39	カラー4-7-5	VS039	L-21	9109	棒状原石	-	Vc	159.4	18.8	14.3	51.6	-	Obs.	9111と接合

表Ⅴ-17 剥片石器器種別グリッド集計表

※遺構・包含層の集計　SC:スクレイパー　BF:両面調整石器　FC:フレイクチップ

グリッド	石鏃	石槍	石錐	つまみ	SC	ピエス	RF	UF	石核	剥片	合計	グリッド	石鏃	石槍	石錐	つまみ	SC	ピエス	RF	UF	石核	剥片	合計
J-21										2	2	J-21										8.45	8.45
J-22	1									4	5	J-22	1.01									6.16	7.17
J-23					2		1	4		28	35	J-23					10.79		1.12	13.20		57.67	82.78
J-24	1		1		2			2		14	20	J-24	0.53		0.39		6.79			11.50		20.05	39.26
J-25										2	2	J-25										3.89	3.89
J-26										1	1	J-26										1.41	1.41
J-29					1					1	2	J-29					11.69					1.38	13.07
J-30										1	1	J-30										1.46	1.46
J-33										1	1	J-33										2.13	2.13
K-20					1			1	1	25	28	K-20					4.29			0.98	5.70	55.26	66.23
K-21	1	2			2		3	1		84	93	K-21	0.74	16.19			46.58		17.33	2.60		128.01	211.45
K-22	2		1		6		3	14		202	228	K-22	1.22		2.07		32.75		9.54	33.39		307.51	386.48
K-23	8	2		2	15	1	8	23	2	127	188	K-23	6.07	24.89		19.49	320.32	5.80	31.39	87.05	50.71	463.41	1009.13
K-24	1	1		1	11	1	2	9	1	124	151	K-24	0.73	11.61		4.10	108.85	8.13	3.92	73.13	45.43	197.94	453.84
K-25	2	3		3	4		2	6	1	41	62	K-25	1.44	18.95		12.19	19.90		18.54	11.68	30.07	80.40	193.17
K-26		4		5	1		2	2	1	34	49	K-26		30.65		34.62	4.10		26.57	13.22	168.00	168.69	445.85
K-27		1								5	6	K-27		2.02								6.94	8.96
K-28	1	1								1	3	K-28	2.03	0.53								6.60	9.16
K-29										24	24	K-29										38.47	38.47
K-30	1				4		3	6	1	15	30	K-30	0.36				28.91		9.96	10.00	10.85	24.34	84.42
K-31					1			2		6	9	K-31					6.26			6.96		9.67	22.89
K-32								2		3	5	K-32								16.38		5.41	21.79
K-33									1	3	4	K-33									18.44	4.02	22.46
K-34							1				1	K-34							2.55				2.55
K-35										1	1	K-35										8.07	8.07
K-36									1	1	2	K-36									18.48	1.14	19.62
L-20	13	5			12	1	11	23	1	491	557	L-20	14.46	13.56			79.02	10.65	46.68	179.82	9.22	939.04	1292.45
L-21	12	2		1	13		10	14		192	244	L-21	29.36	15.30		12.43	125.06		33.58	108.78		693.05	1017.56
L-22	7	3				1	1	7	1	65	85	L-22	4.24	4.09				9.99	7.96	19.40	16.96	147.47	210.11
L-23	4	2		4	4		5	3	1	70	93	L-23	3.10	18.95		24.59	35.53		18.72	14.00	6.50	176.60	297.99
L-24		4		1	4		2	1		78	90	L-24		34.07		2.06	30.00		5.19	2.27		156.65	230.24
L-25	1	4			1			1		19	26	L-25	1.15	8.13			5.61			0.45		30.95	46.29
L-26		1		1			1			19	22	L-26		4.84		7.92			1.10			35.10	48.96
L-27	6	1						4		6	17	L-27	15.08	3.55						12.40		8.54	39.57
L-28								1			1	L-28								2.56			2.56
L-29	2	1						1	1	7	12	L-29	1.52	1.16						5.16	12.32	11.77	31.93
L-30							1				1	L-30							3.69				3.69
L-31	1										1	L-31	0.61										0.61
L-32	3	1									4	L-32	30.91	2.73									33.64
L-33	3	1					2	1		1	8	L-33	6.58	3.45					3.69	9.23		1.50	24.45
L-34							1			2	3	L-34							1.76			1.40	3.16
L-35	1										1	L-35	0.62										0.62
L-36					1		1	1		9	12	L-36					19.94		3.20	3.00		12.28	38.42
M-20	1		1				1			9	12	M-20	1.13		1.56				0.79			15.87	19.35
M-23	2									14	16	M-21	1.57									23.94	25.51
M-22								2		15	17	M-22								4.48		26.19	30.67
M-23							1			5	6	M-23							25.40			8.98	34.38
M-24					1					8	9	M-24					9.33					14.12	23.45
M-25										1	1	M-25										1.28	1.28
M-30										1	1	M-30										2.90	2.90
M-32	1				1						2	M-32	0.35				7.18						7.53
合計	75	39	3	18	87	4	62	131	13	1,762	2,194	合計	124.81	214.67	4.02	117.40	912.90	34.57	272.68	641.64	392.68	3916.11	6631.48

（単位=点）　（単位=g）

表Ⅴ-18　礫石器等器種別グリッド集計表

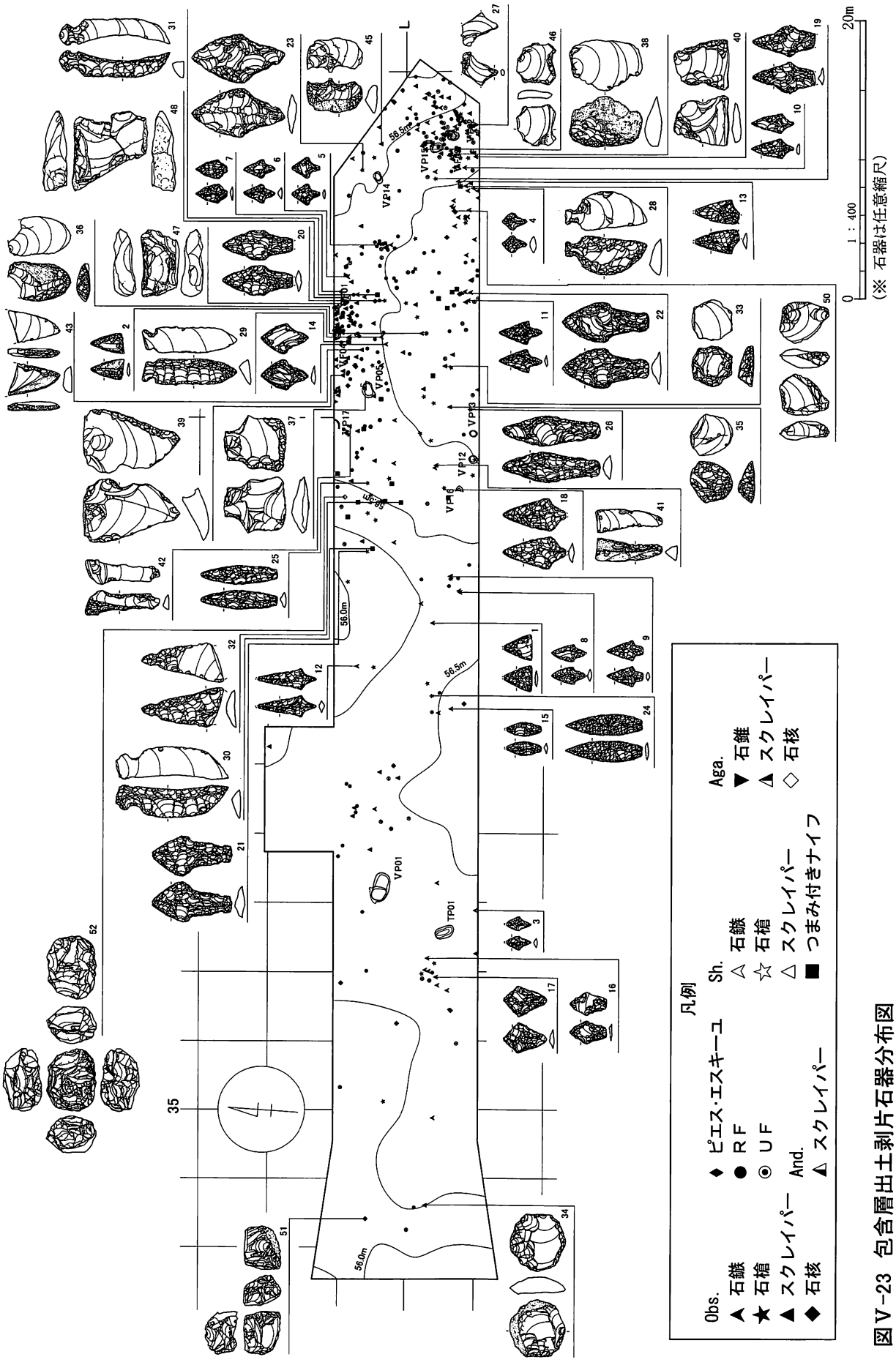
※遺構・包含層の集計

グリッド	石斧	石斧片	たたき石	すり石	砥石	石皿	台石	加工痕ある礫	石鋸	石製品	軽石製品	棒状原石	合計
I-30				1	1								2
J-24					1								1
J-30				1	1								2
J-31						1							1
K-21					1								1
K-22	1	1	1		4		1				1		9
K-23	2	3	4	2	5		1						17
K-24			4	2	4			1					11
K-25	3	1	5	3	1		1						14
K-26	1		7	3	1			2					14
K-27				1	3		1						5
K-28				2									2
K-29			1										1
K-30								1			1		2
K-31		1			1					1			3
K-32			1				1						2
K-35			1										1
K-36		2											2
K-37		1											1
L-20		5	1										6
L-21	2	5	1		1							10	19
L-22		2	3		5								10
L-23	1		1	2		1		2	2		1		10
L-24		2	2	2	4								10
L-25		1	1	1	2								5
L-26	1	1	1		2			1					6
L-27		2		2									4
L-28			2		1								3
L-29	1	2	1										4
L-30		1			1								2
L-32		1											1
L-33		1											1
L-36							1						1
M-21	1		2										3
M-22	1				1								2
M-23					1								1
M-25			1										1
M-32			1										1
合計	14	32	41	22	41	2	6	7	2	1	3	10	181

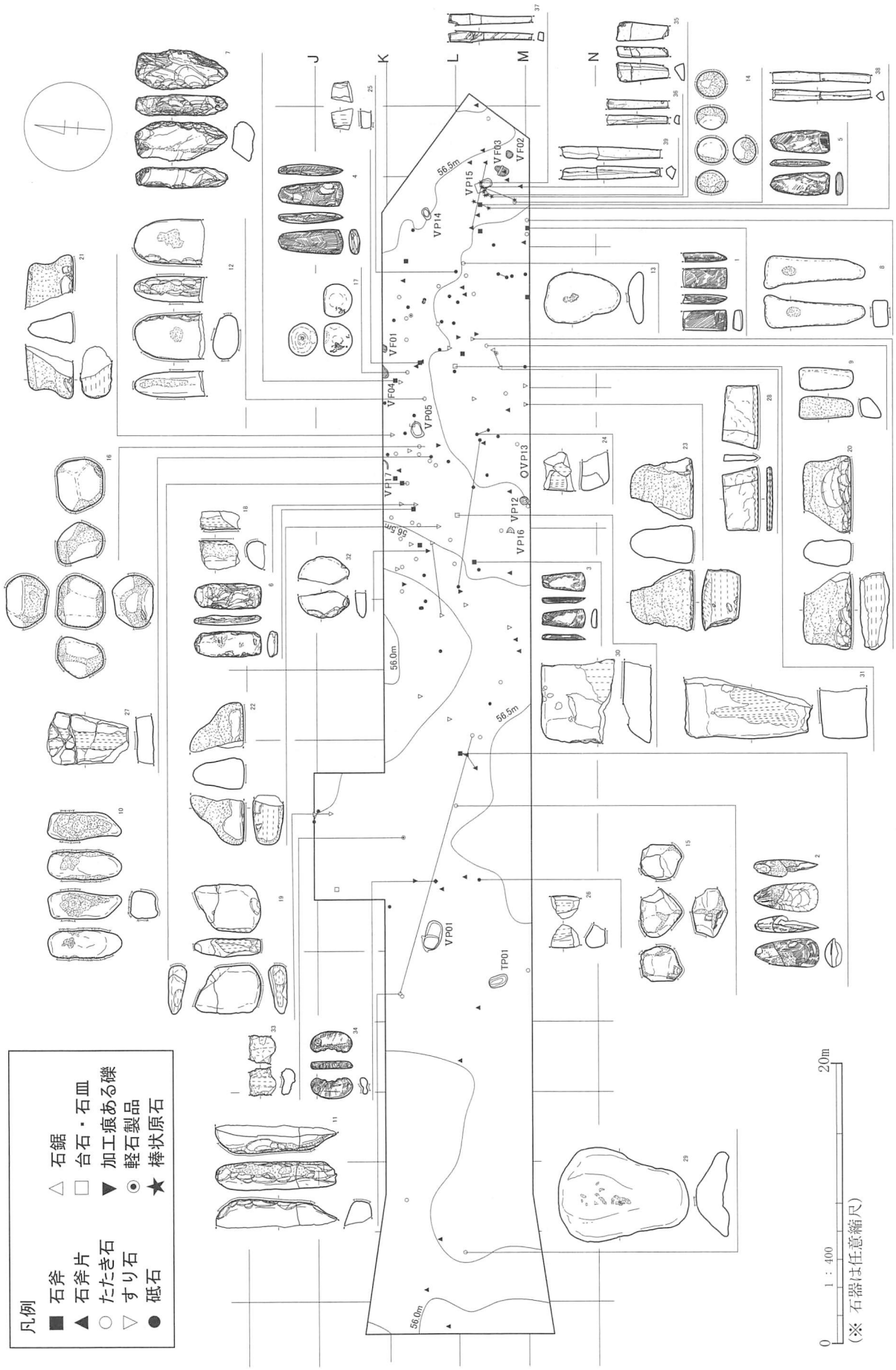
（単位=点）

グリッド	石斧	石斧片	たたき石	すり石	砥石	石皿	台石	加工痕ある礫	石鋸	石製品	軽石製品	棒状原石	合計
I-30				-	-								2.00
J-24					115.3								115.30
J-30				290.0	37.1								327.10
J-31						360.0							360.00
K-21					25.1								25.10
K-22	150.0	2.20	68.4		216.4		410.0				3.3		850.30
K-23	570.0	10.00	707.9	124.0	398.0		270.0						2079.90
K-24			1512.0	396.0	488.3			99.60					2495.90
K-25	366.0	13.70	898.0	492.0	69.9		135.0						1974.60
K-26	121.0		1384.0	390.0	103.9			168.50					2167.40
K-27					218.7		230.0						448.70
K-28				91.7									91.70
K-29			365.0										365.00
K-30								213.00			13.6		226.60
K-31		3.50			11.1					10.0			24.60
K-32			449.0				235.0						684.00
K-35			156.2										156.20
K-36		5.00											5.00
K-37		1.60											1.60
L-20		164.00	159.6										323.60
L-21	119.0	45.70	79.0		8.5							193.7	445.90
L-22		9.90	645.4		165.0								820.30
L-23	49.0		137.3	1201.0		5240.0		139.30	82.1		4.5		6853.20
L-24		9.10	666.0	803.0	423.9			43.18					1945.18
L-25		18.40	1040.0	540.0	77.9								1676.30
L-26	32.9	12.90	93.0		9.4			103.60					251.80
L-27		7.10		216.0									223.10
L-28			603.0		21.5								624.50
L-29	139.0		964.0										1103.00
L-30	2.9				58.2								61.10
L-32		1.41											1.41
L-33		2.60											2.60
L-36							1755.0						1755.00
M-21	70.2		668.0										738.20
M-22	32.4				12.9								45.30
M-23					224.0								224.00
M-25			113.0										113.00
M-32			420.0										420.00
合計	1652.4	307.11	11128.8	4543.7	2685.1	5600.0	3035.0	767.18	82.1	10.0	21.4	193.7	30026.49

（単位=g）



図Ⅴ-23 包含層出土剥片石器分布図

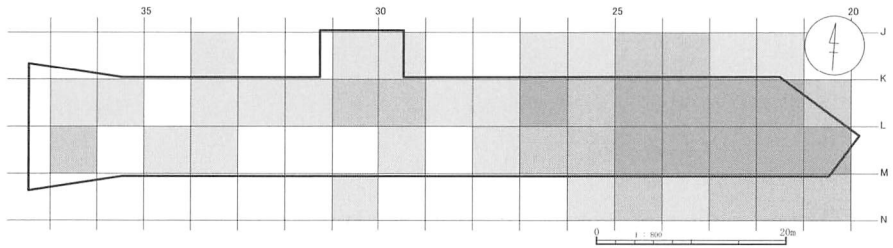


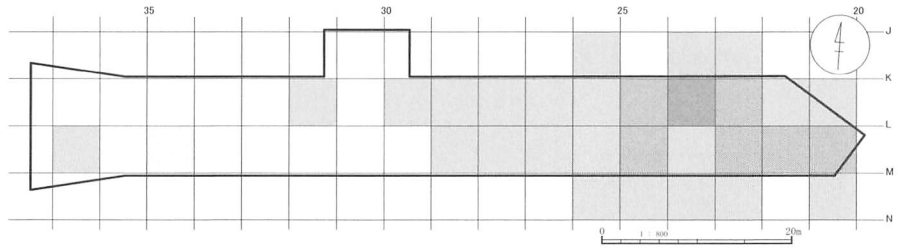
図Ⅴ-24　包含層出土礫石器等分布図

Ⅴ層全体

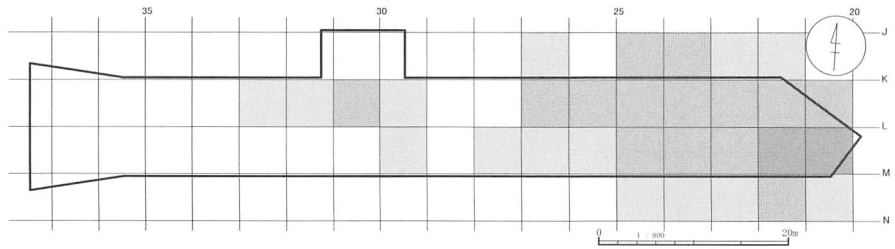
Ⅴa層

※遺構・包含層の集計

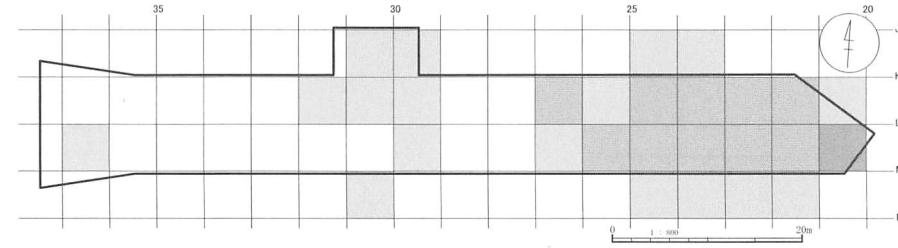




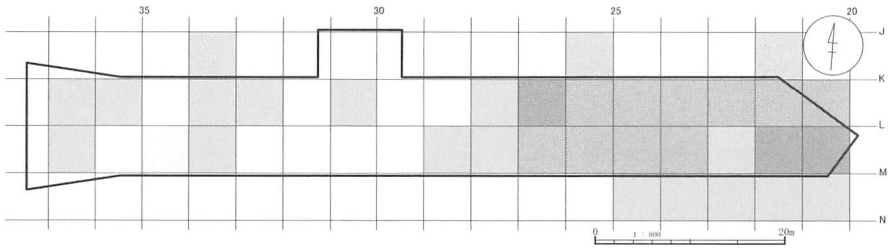
ⅤbU層



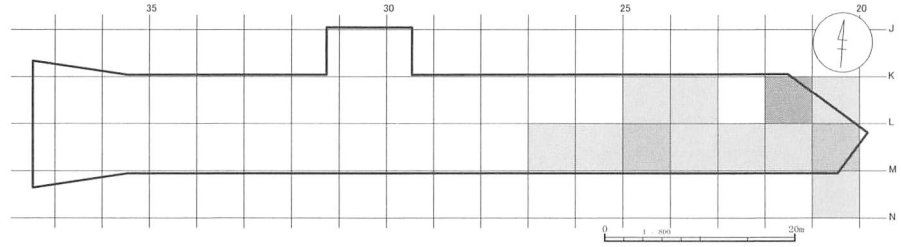
ⅤbL層



Ⅴc層



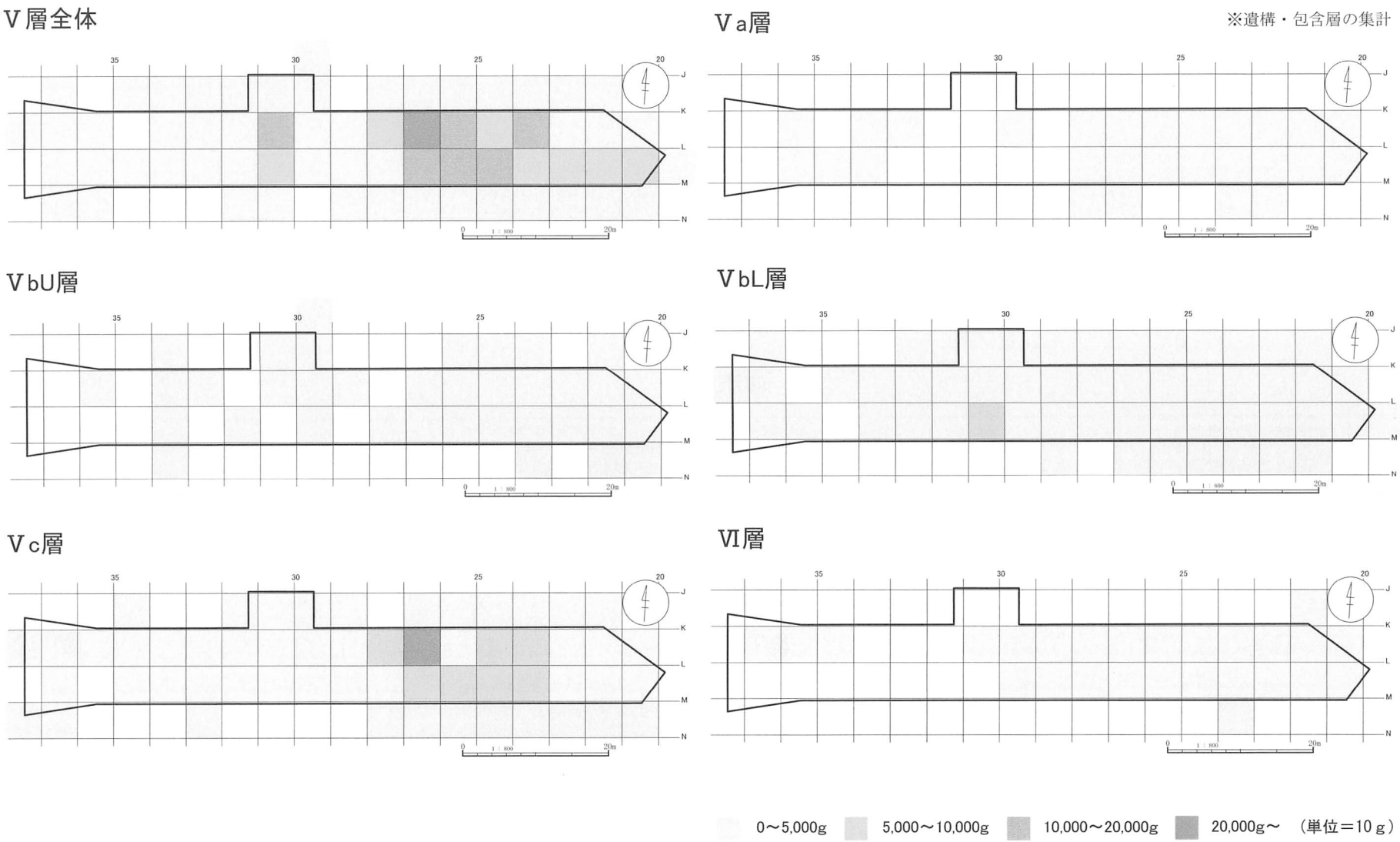
Ⅵ層



1g未満　1g～10g　10g～100g　100g～　（単位＝1ｇ）

図Ⅴ-25　縄文時代層位別剥片重量分布図

※遺構・包含層の集計



図Ⅴ-26　縄文時代層位別礫重量分布図

第Ⅵ章　近現代の調査

近現代の調査については、建物跡１軒、杭跡２基確認している。いずれも覆土にTa-bテフラを多量に含み、他の柱穴と堆積物が異なることから別章で取り扱っている。なお、厳密にはTa-bテフラ降下後の遺構であり、近世前葉以前のアイヌ文化期の構築年代という可能性もある。　（奈良）

第１節 建物跡

建物跡１（図Ⅵ-１）

位　置：K-33･34　規　模：310×260 cm　構　成：推定９本柱（ⅢKP-01～09）

確認・調査：Ta-b火山灰除去後のⅢ層上面で径10 cmほどのTa-bの円形プランを７基検出した。７基はほぼ等間隔で並んでいたことから、建物跡と判断して調査した。建物跡の形状は柱穴の配置から９本柱の「田」の字構成と考えられ、組み合わせをなす他の２基の検出に努めたが、検出には至らなかった。柱穴は９基を検出し、うちⅢKP-02･09、ⅢKP-04･05は近接している。

堆積状態：ⅢKP-01･02･04はTa-bが充填されている。ⅢKP-05は上～中位にTa-b、柱穴先端部付近はⅢ層とTa-bの互層堆積である。

柱穴：直径８～14 cm、確認面からの深さは最大54 cmで、先端部はⅧ層に達する。すべて「打込み」で、覆土はⅣ層がわずかに混ざるⅢc層を主体とし、しまり、粘性ともに弱い。　（山田）

第２節 杭跡

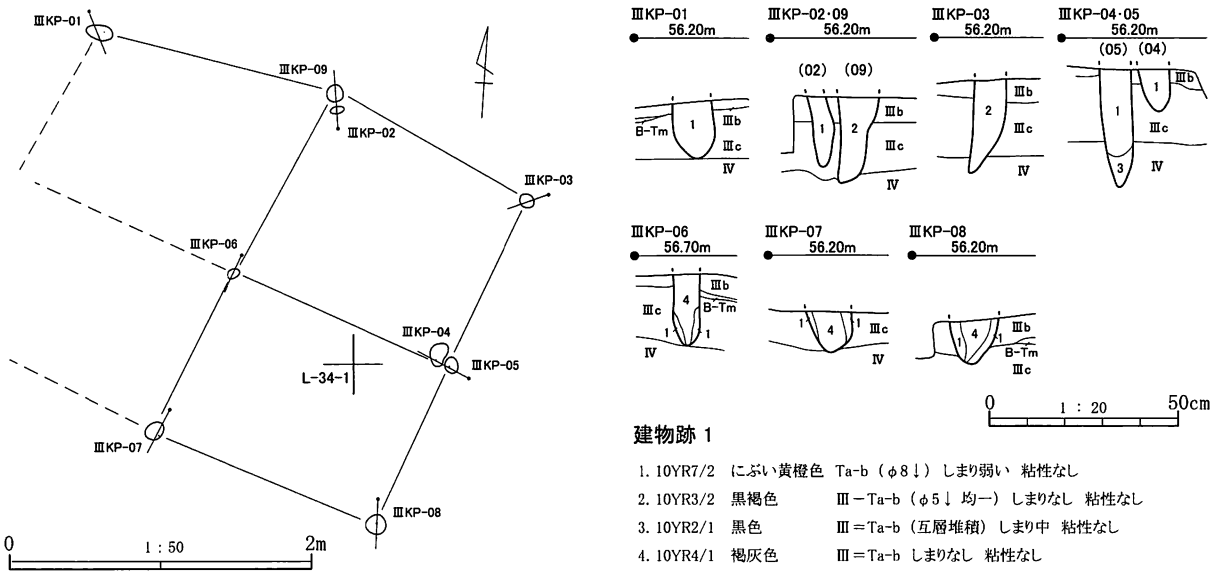
杭跡１〔ⅢKP-26・27〕（図Ⅵ-１　図版19-６・７）

位　置：K-26

確認・調査：Ⅲc～Ⅳ層にかけて遺構の検出作業調査を行っていたところ、K-26区でTa-bテフラを多く含む円形プランを確認した。断面確認を行ったところ、黒色土にTa-bを多く含み、明瞭な立ち上がりが認められたことから柱穴と判断した。周囲に同様のプランは認められず、構成もなさないことから単独の柱穴として扱い、平面、断面の記録をとって調査終了とした。堆積はTa-bテフラとⅢc層が混入し、一部互層堆積をしている。断面では掘方埋土及び柱痕は認められなかった。

（奈良）

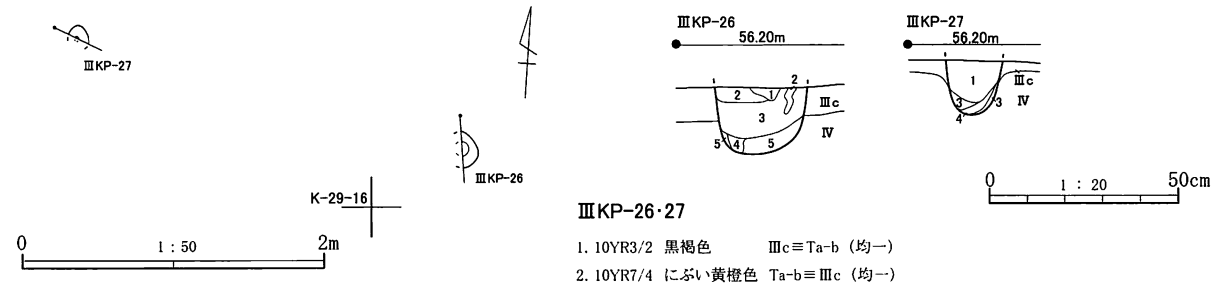
建物跡 1



建物跡 1

1. 10YR7/2　にぶい黄橙色　Ta-b（φ8↓）しまり弱い　粘性なし
2. 10YR3/2　黒褐色　Ⅲ－Ta-b（φ5↓ 均一）しまりなし　粘性なし
3. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＝Ta-b（互層堆積）しまり中　粘性なし
4. 10YR4/1　褐灰色　Ⅲ＝Ta-b しまりなし　粘性なし

杭跡



ⅢKP-26·27

1. 10YR3/2　黒褐色　Ⅲc≡Ta-b（均一）
2. 10YR7/4　にぶい黄橙色　Ta-b≡Ⅲc（均一）
3. 10YR3/2　黒褐色　Ⅲc＝Ta-b（均一）
4. 10YR7/3　にぶい黄橙色　Ta-b
5. 10YR4/4　褐色　Ⅲc＝Ta-c（互層堆積）

図Ⅵ-1　建物跡1・杭跡平面及び断面図

表Ⅵ-1　建物跡1柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
				上端	下端	深さ			
Ⅵ-1	19-2	ⅢKP-01	K-34	10	2	14	1°	打込み	
Ⅵ-1	-	ⅢKP-02	K-33	4	2	18	6°	打込み	
Ⅵ-1	19-3	ⅢKP-03	K-33	8	2	24	9°	打込み	
Ⅵ-1	-	ⅢKP-04	K-33	8	1	11	5°	打込み	
Ⅵ-1	-	ⅢKP-05	K-33	6	1	32	2°	打込み	
Ⅵ-1	-	ⅢKP-06	K-33	7	1	19	0°	打込み	
Ⅵ-1	19-4・5	ⅢKP-07	K-33	12	2	12	5°	打込み	
Ⅵ-1	-	ⅢKP-08	K-33	13	2	12	8°	打込み	
Ⅵ-1	-	ⅢKP-09	K-33	9	2	24	1°	打込み	

表Ⅵ-2　杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
				上端	下端	深さ			
Ⅵ-1	19-6	ⅢKP-26	K-29	24	14	17	0°	掘方	
Ⅵ-1	19-7	ⅢKP-27	K-29	16	5	14	0°	掘方	

第Ⅶ章 まとめ

第1節　総括

今回の発掘調査ではⅢ層から中世アイヌ文化期・擦文文化期・続縄文文化期、Ⅴ層から縄文時代晩期中葉～早期末葉と幅広い時代の遺構・遺物が出土した。アイヌ文化期では平地式住居跡１軒を検出しており、炉跡を被覆する黒色土の厚さから中世アイヌ文化期に帰属すると考えている。中世段階の集落跡は上幌内モイ遺跡、オニキシベ２遺跡、ヲチャラセナイ遺跡の厚真川上流域で確認されていたが、今回の発掘調査により中流域の本遺跡まで集落が点在していたことが明らかとなった。近世段階の様相を示す遺構としては、有珠ｂテフラ下から道跡が１条検出され、コタンもしくは狩猟場へのルートが考えられる。

擦文文化期から続縄文文化期にかけては土器集中８ヶ所、焼土６ヶ所を検出した。遺構・遺物の時期決定については、Ⅲb 層下位から B-Tm 上位を擦文文化期、B-Tm 下位からⅢc 層を続縄文文化期として取り扱った。土器についてはⅢb 層下位から擦文後半期の複段になるものや、口縁部が直線的に開く資料など比較的新しい段階のものが出土している。Ⅲc 層からはナデ整形に OI 突瘤文を廻らす北大式土器が出土している。時期的なものについては微隆起線文の北大Ⅰ式と、口縁部直下に連続した OI 突瘤文が施される北大Ⅲ式相当の土器が出土した。胎土はいずれも rounded な砂礫を中量から少量含み、B-Tm 上層の擦文土器と胎土が異なることから今回の報告では続縄文文化期の章で取り扱ったが、微隆起線文の認められる資料以外は初期の擦文文化期に帰属する可能性が高い。

縄文時代は晩期中葉の美々３式相当が主体を占め、後期後葉・初頭、中期後葉、前期中葉、早期末葉の土器が出土している。晩期中葉の土器は地文縄文及び縄線文、刺突文による文様構成が多く、大洞系と思われる壷形の赤彩土器は僅かに出土するのみであった。搬入品については、厚幌１遺跡でも触れた胎土に石英結晶を多量に含む富良野盆地系土器が認められる。本遺跡の晩期土器において在地系と富良野盆地系に分けて分布図（図Ⅴ-15）を作成したが、点数が全体の６％と少なく分布域にも特徴は認められず、土器の利用については在地系と同じく日常的に利用されていたと考えられる。以下に１号平地式住居跡と北大式土器について若干の考察を述べる。　　（奈良）

第２節　１号平地式住居跡

本遺構は炉跡が２ヶ所並列しており、その周辺に棒状礫が出土していたことから平地式住居跡を想定して調査を行い、最終的に柱穴の確認によって住居跡とした。ここで住居跡の北東側に検出したⅢAS-02（灰集中２）との関係について同時期性の判断が難しいところではあるが、下記の要素から同時期である可能性が高いと考えられる。

- 調査段階で炉跡及び灰集中２に被覆する黒色土の厚さが約４cm とほぼ同じ厚さであることを確認している。
- 住居の炉跡からは灰層が確認されていないため、日常的に掻き出しを行い決められた場所に廃棄している可能性が高い。
- AMS 法年代測定の結果、住居炉跡の HF01 は 13 世紀中葉～14 世紀初頭、HF02 は 13 世紀後半～14 世紀後半、ⅢAS-02 は 13 世紀中葉～14 世紀初頭であった。（第４部第Ⅰ章１節参照）

AMS に関してはサンプルが HF01 のみ炭化材で他は炭化種子を用いている。判定のパーセントは１

σ、２σで確率が低いなどの難点はあるが、判断する指標の一つとして取り扱っている。

近年厚真町内ではアイヌ文化期の平地式住居跡について上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会2007a･2009a)、ニタップナイ遺跡(2009b)と調査、報告が行われ、住居跡の特徴が認められるようになってきた。そこで、両遺跡と幌内７遺跡で検出した住居の規模、長軸方向、推定年代を比較すると、上流域の上幌内モイ遺跡は中世段階から住居跡が確認され、中流域の幌内７遺跡は中世段階が続き、更に下流のニタップナイ遺跡は近世段階のみである。住居跡の時期については上流域が 12c～17c の間に連綿と集落が続いていることに対し、ニタップナイ遺跡では近世段階の住居跡のみが検出されている。幌内７遺跡はちょうど中間地点に位置する形になっている。表Ⅶ-１を年代別に沿って並び替えると表Ⅶ-２になる。表Ⅶ-２を補足すると、上幌内モイ遺跡の住居跡においてⅢH-02よりⅢH-05が古く、ⅢH-07よりⅢH-04が古いことが現場段階で把握されている。以上の事からAMS年代は現場所見と矛盾せず、妥当と考えられる。ニタップナイ遺跡の住居跡については樽前ｂテフラや駒ヶ岳 c2 テフラとの層位関係よりⅡH-01～04が 1667～1694 年、ⅢH-01･02が 1667 年直前であることが判明している。次に住居跡に付属する炉跡については、中世段階は複数個所、近世段階は１ヶ所で統一されており、上幌内モイ遺跡のⅢH-07は１ヶ所のため近世の住居形態に近くなってきている可能性が高い。住居跡の長軸方向は、上幌内モイ遺跡では**中世が南西－北東軸、中世末葉から近世初頭が東－西軸**であり、中世段階の幌内７遺跡の長軸方向である**東－西軸**と異なる。また、ニタップナイ遺跡では**北西－南東軸**でほぼ統一されているが、上幌内モイ遺跡の中世末葉から近世初頭段階の住居跡であるⅢH-01・08と長軸方向が異なる。これらの結果から厚真川流域における住居跡の長軸方向は遺跡の立地によって方向が異なるといえる。住居跡の方位については資料の増加で時期的な変遷か地域的な特徴（文化圏）が明らかになってくると考えられる。　　（奈良）

第３節　北大式土器について

土器が出土する層位はB-Tm下位のⅢc層からで、擦文後半期の土器とは出土層位に明確なレベル差が認められた。今回北大式と報告を行なった土器は、微隆起線文を有するもの(図Ⅳ-６-１～３)、OI突瘤文がないもの(図Ⅳ-５-４　ⅢPB-07)、口縁部にOI突瘤文が連続して施されるものがある。微隆起線文の資料は北大Ⅰ式に分類して間違いないと思われるが、他の資料に関しては指標となるものが連続したOI突瘤文のみであることから北大Ⅰ式に共伴するのか、あるいは北大Ⅱ式、北大Ⅲ式土器であるのかは層位的見解からは難しい。北大式土器が多量に出土した釧路市ノトロ岬遺跡(音別町教育委員会 1984）の資料と比較した結果、北大Ⅲ式と報告されている資料と口唇部の成形、器表面のナデ調整、剥落具合、胎土に円～亜円の砂礫を中量含む点が類似している。口唇部の成形はやや粗雑であるが内側は角状に、外側は隅丸角状に成形されるのが特徴と思われる。ノトロ岬遺跡では北大Ⅲ式とともに縄文が施される北大Ⅱ式も出土しているが、本遺跡では破片資料でも縄文は認められない。ⅢPB-07の甕は胎土に北大式に見られる円～亜円の砂礫を含むが、OI突瘤文が認められず器表面はナデ調整のみである。口唇部の成形も北大Ⅰ式やOI突瘤文をもつ土器とは異なり丸状で、器形はやや球胴状を呈し、底部からの立ち上がりが直線的に外傾する例外的な資料である。本資料については土師器の影響の可能性（大沼忠春氏御教示）もあるが、北大式に分類した資料と胎土が類似することから続縄文文化期で報告を行なった。しかし、こうした特徴を比較すると、微隆起線文を有する土器以外は北大Ⅲ式土器に相当し、初期擦文に分類される可能性が高い。（奈良）

表Ⅶ-1　厚真町アイヌ文化期住居跡一覧表

遺跡名	遺構名	時期	規模cm	炉跡	長軸方向	柱穴	年代測定方法	1σ年代結果	2σ	備考
moy	ⅢH-01	近世	510×430	1	N-96° E	8	AMS	16c中～17c中	AD1450-1640　95.4%	
moy	ⅢH-02	中世	965×440	3	N-50° E	70	AMS	13c後～14c中	AD1290-1420　95.4%	
moy	ⅢH-03	中世	505×400	2	N-43° E	8	AMS	13c後～14c初	AD1250-1400　95.4%	
moy	ⅢH-04	中世	790×465	2	N-49° E	10	AMS	15c前～末	AD1420-1530　81.6%	
moy	ⅢH-05	中世	510×405	2	N-70° E	6	AMS	12c中～13c前	AD1030-1220　95.4%	
moy	ⅢH-06	中世	590×380	2	N-51° E	11	AMS	13c後～14c初	AD1260-1400　95.4%	
moy	ⅢH-07	中世	555×455	1	N-71° E	14	AMS	15c中～16c前	AD1430-1530　67.9%	
moy	ⅢH-08	近世	405×365	1	N-95° E	9	AMS	16c中～17c中	AD1460-1640　95.4%	
moy	ⅢH-09	中世	615×510	2	N-57° E	13	AMS	14c初～中	AD1290-1420　95.4%	
moy	ⅢH-10	中世	(830)	2	N-47° E	—	AMS	12c後～13c中	AD1165-1260　95.4%	
nit	ⅡH-01	近世	918×472	1	N-41° W	20	火山灰	1667～1694	—	Ta-b～Ko-C2
nit	ⅡH-02	近世	—	—	N-59° W	—	火山灰	1667～1694	—	Ta-b～Ko-C2
nit	ⅡH-03	近世	—	—	N-44° W	7	火山灰	1667～1694	—	Ta-b～Ko-C2
nit	ⅡH-04	近世	—	—	N-48° W	4	火山灰	1667～1694	—	Ta-b～Ko-C2
nit	ⅢH-01	近世	(780) ×440	1	N-41° W	21	火山灰	1667年直前	—	Ta-b直下
nit	ⅢH-02	近世	—	—	N-32° W	6	火山灰	1667年直前	—	Ta-b直下
hn7	ⅢH-01	中世	610×410	2	N-90° W	11	AMS	13c後～14c後	AD1299-1370　69.5%	炉跡2より

moy:上幌内モイ遺跡　nit:ニタップナイ遺跡　hn7:幌内7遺跡

表Ⅶ-2　住居跡年代別一覧表

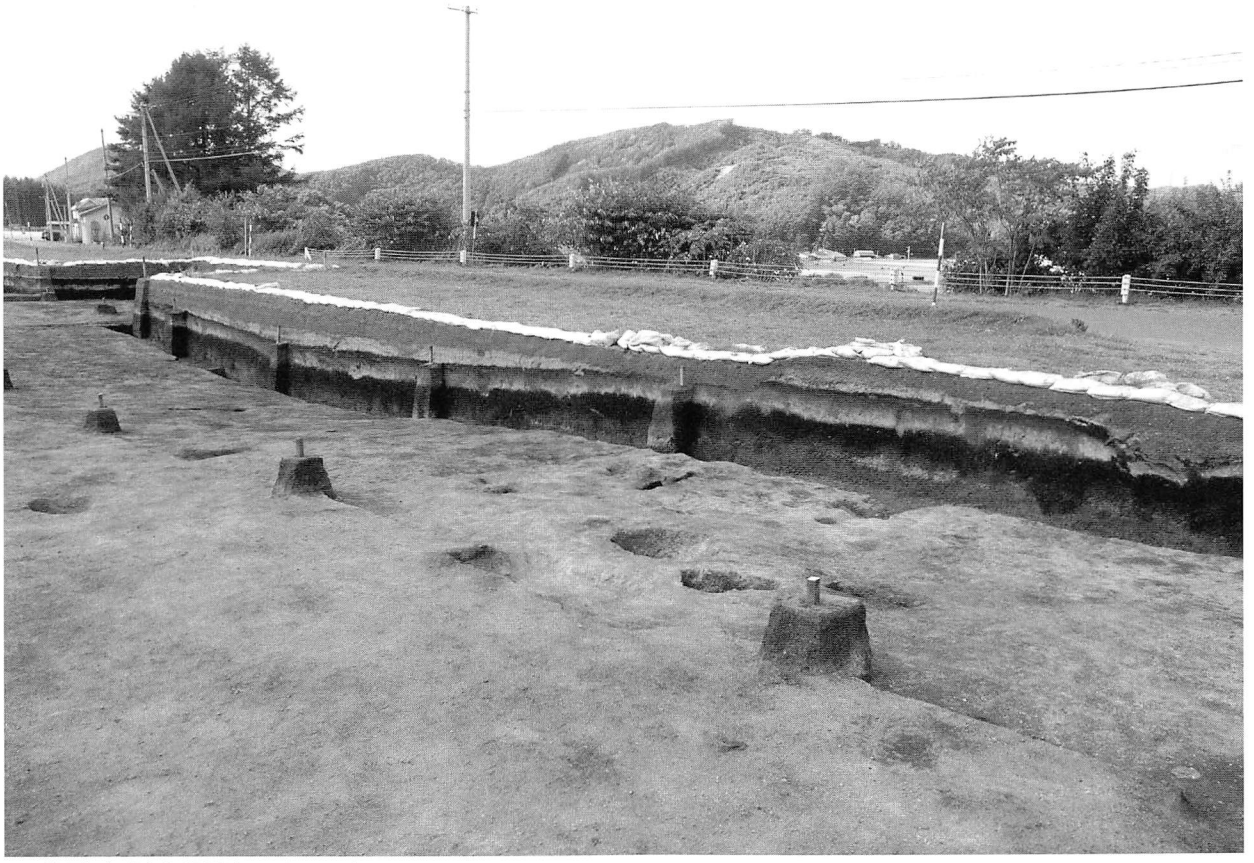
遺構名	AMS年代		遺跡名	推定時期
ⅢH-05	12c中～13c前	(2σ AD1030-1220 95.4%)	moy	中世
	↓			
ⅢH-10	12c後～13c中	(2σ AD1165-1260 95.4%)	moy	
	↓			
ⅢH-03	13c後～14c初	(2σ AD1250-1400 95.4%)	moy	
ⅢH-06	13c後～14c初	(2σ AD1260-1400 95.4%)	moy	
ⅢH-02	13c後～14c中	(2σ AD1290-1420 95.4%)	moy	
ⅢH-01	13c後～14c後	(2σ AD1299-1370 69.5%)	hn7	
	↓			
ⅢH-09	14c初～14c中	(2σ AD1290-1420 95.4%)	moy	
	↓			
ⅢH-04	15c前～末	(2σ AD1420-1530 81.6%)	moy	
	↓			
ⅢH-07	15c中～16c前	(2σ AD1430-1530 67.9%)	moy	
	↓			
ⅢH-01	16c中～17c中	(2σ AD1450-1640 95.4%)	moy	中世末葉～近世初頭
ⅢH-08	16c中～17c中	(2σ AD1460-1640 95.4%)	moy	
	↓			
ⅢH-01	16c中～後	Ta-bテフラ直下	nit	
ⅢH-02	16c中～後	Ta-bテフラ直下	nit	
	↓			
ⅡH-01	16c後～末	Ta-bテフラ～Ko-C2テフラ	nit	
ⅡH-02	16c後～末	Ta-bテフラ～Ko-C2テフラ	nit	
ⅡH-03	16c後～末	Ta-bテフラ～Ko-C2テフラ	nit	
ⅡH-04	16c後～末	Ta-bテフラ～Ko-C2テフラ	nit	

AMSや火山灰の状態から検証した暦年代を時間軸で並べると上記のようになる

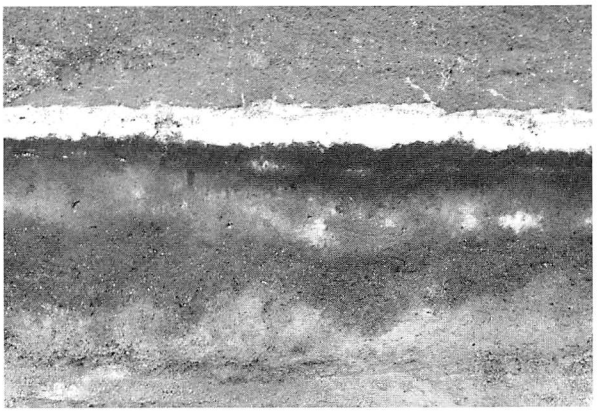
幌内7遺跡（1）

写真図版

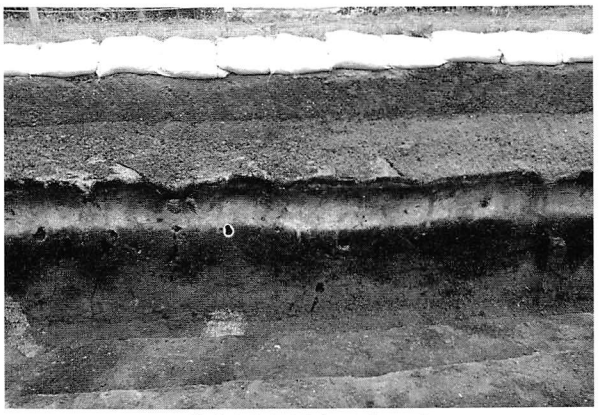
図版 1



1. 北壁東側土層断面（SE→）

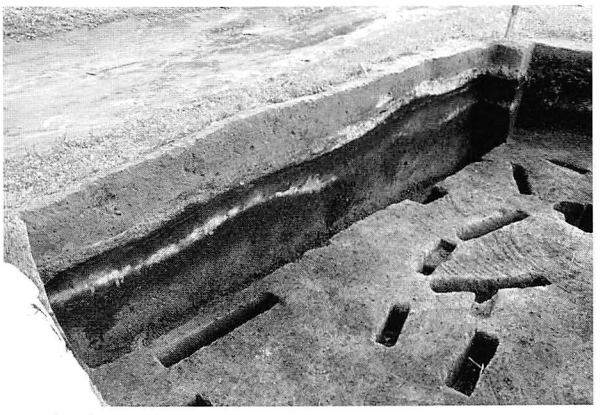


2. 北壁西側土層断面（S→）



3. J-30･31区 北側土層断面（S→）

4. K-29区 北側土層断面（S→）

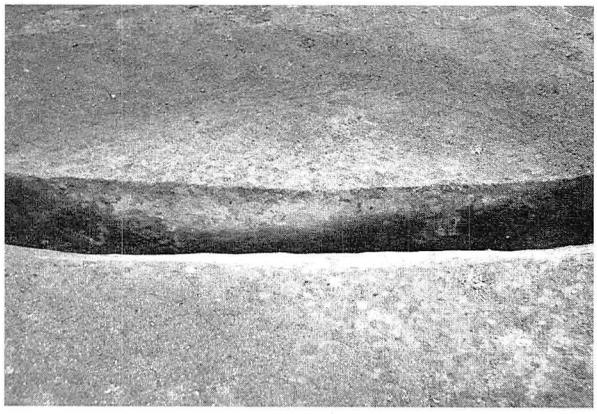


5. 東壁土層断面（NW→）

図版 2

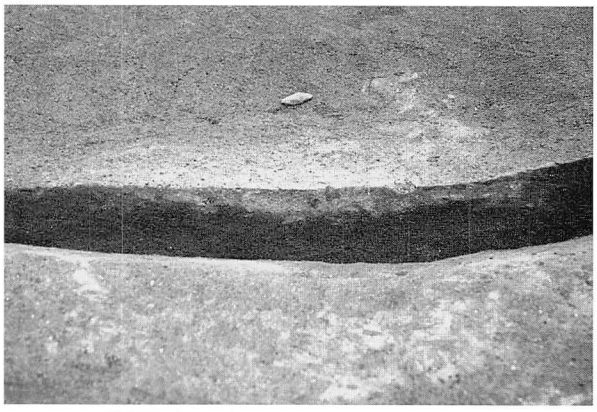
1. ⅢH-01（前）・ⅢAS-02（奥）検出（SW→）

2. HF01検出（SW→）



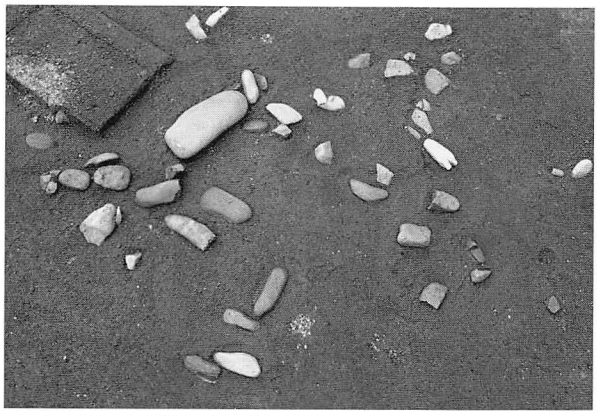
3. HF01断面（S→）

4. HF02検出（SW→）

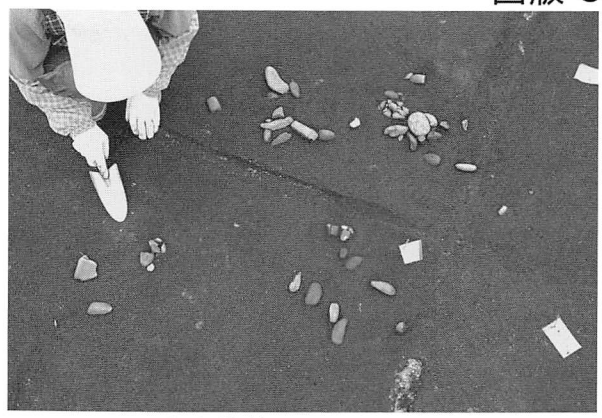


5. HF02断面（S→）

図版 3

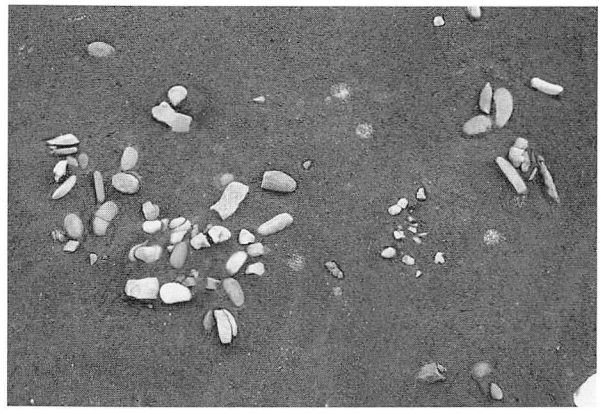


1. ⅢSB-01出土状態（SW→）

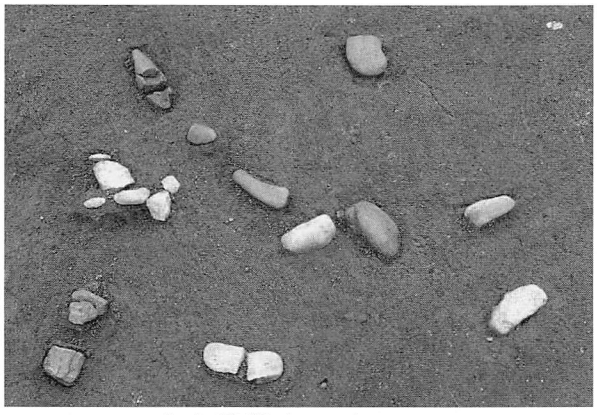


2. ⅢSB-02出土状態（NE→）

3. ⅢSB-03出土状態1（SE→）



4. ⅢSB-03出土状態2（SE→）



5. ⅢSB-04出土状態（NE→）

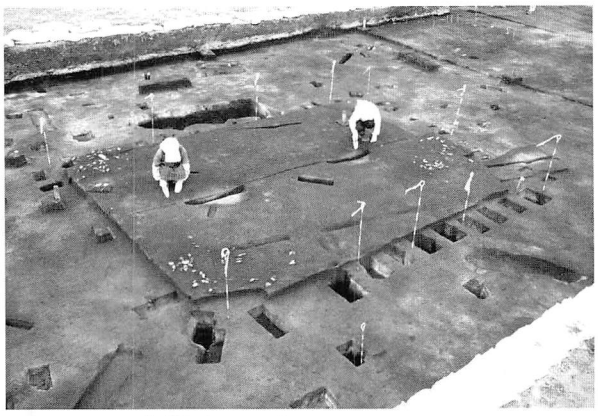
6. ⅢSB-06出土状態（E→）

7. ⅢH-01金属製品出土状態1（SE→）

8. ⅢH-01金属製品出土状態2（SW→）

図版 4

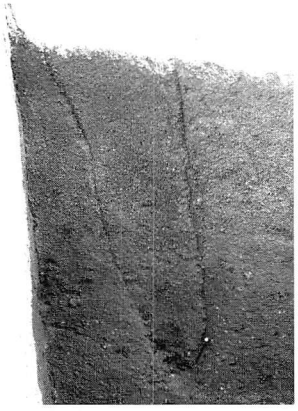
1. ⅢH-01 Ta-c分布範囲断面（SW→）



2. ⅢH-01完掘（SW→）

3. HP01断面（W→）

4. HP05断面（W→）



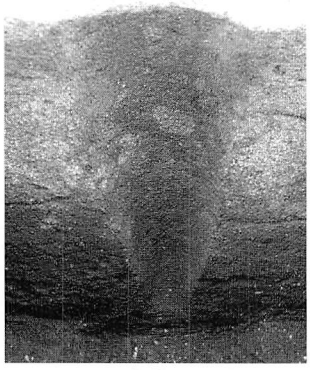
5. HP11断面（W→）

6. HP19断面（W→）

7. HP24断面（W→）

8. HP29断面（W→）

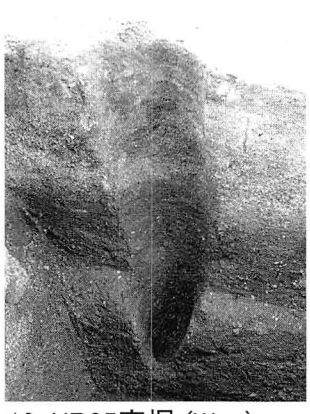
9. HP35断面（W→）



10. HP05完掘（W→）

11. HP11完掘（W→）

12. HP29完掘（W→）



13. HP35完掘（W→）

14. HP36完掘（W→）

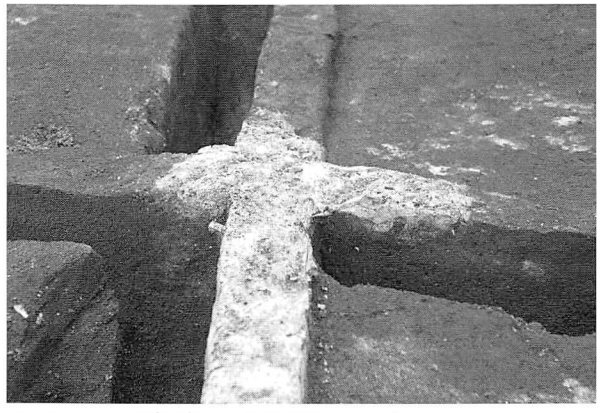
図版 5

1. ⅢAS-02黒色土被覆状態（S→）

2. ⅢAS-02シカ四肢骨出土状態（S→）

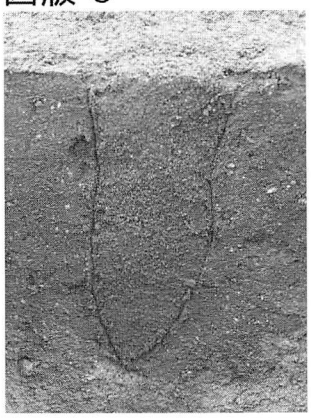
3. ⅢAS-02検出（S→）

4. ⅢAS-02長軸土層断面（S→）



5. ⅢAS-02短軸土層断面（E→）

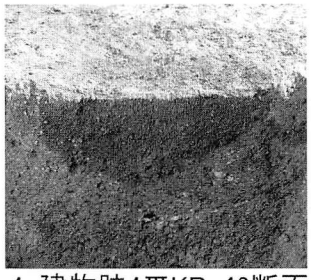
図版 6



1. 建物跡3ⅢKP-37断面（NE→）

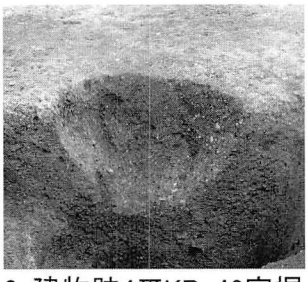
2. 建物跡3ⅢKP-38断面（NE→）

3. 建物跡4完掘（SW→）

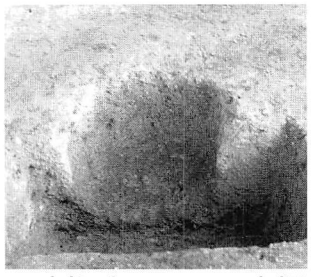


4. 建物跡4ⅢKP-42断面（SW→）

5. 建物跡4ⅢKP-43断面（SW→）

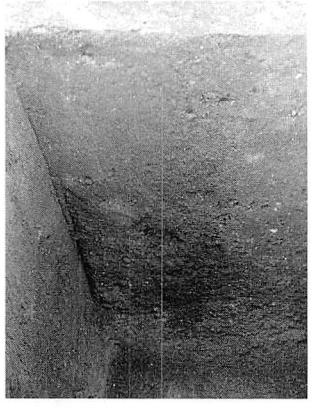


6. 建物跡4ⅢKP-42完掘（SW→）



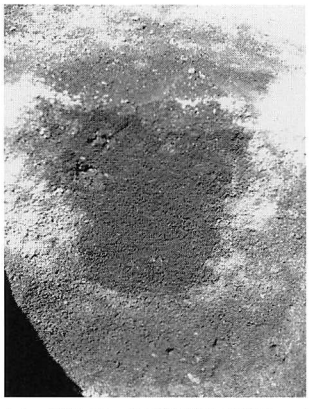
7. 建物跡4ⅢKP-43完掘（SW→）

8. 建物跡5完掘（SE→）



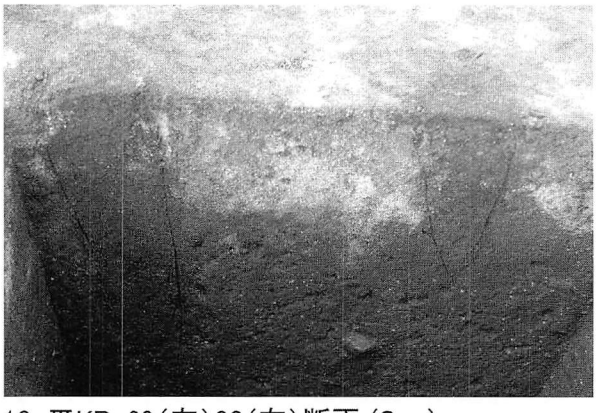
9. 建物跡5ⅢKP-23断面（SE→）

10. 建物跡5ⅢKP-23完掘（SE→）



11. ⅢKP-10断面（NW→）

12. ⅢKP-19断面（E→）

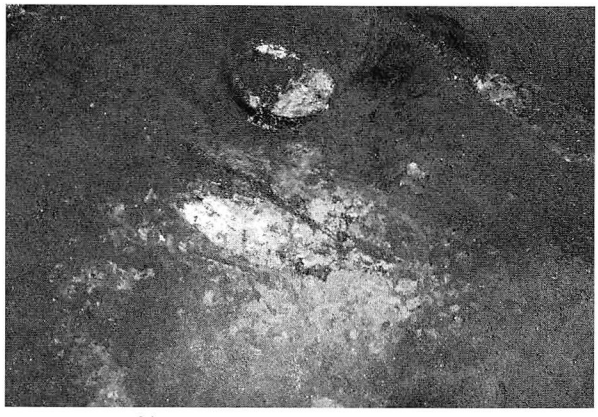


13. ⅢKP-29（左）30（右）断面（S→）

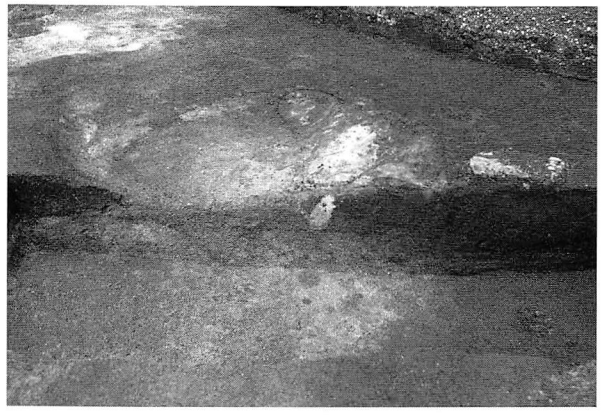
図版 7

1. ⅢF-03検出（N→）

2. ⅢF-03断面（N→）



3. ⅢF-05検出（SW→）

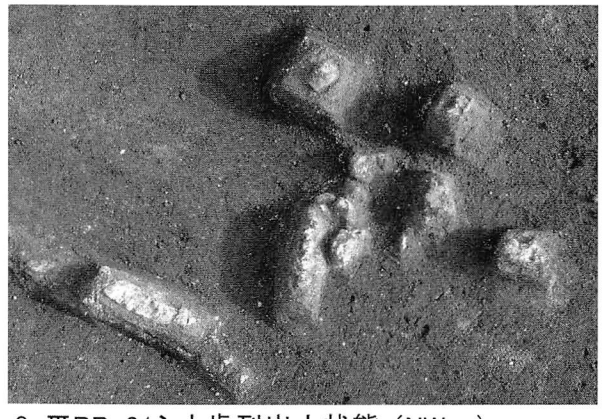


4. ⅢF-05断面（SE→）

5. ⅢSB-05出土状態（SW→）

6. ⅢBB-01出土状態（NW→）

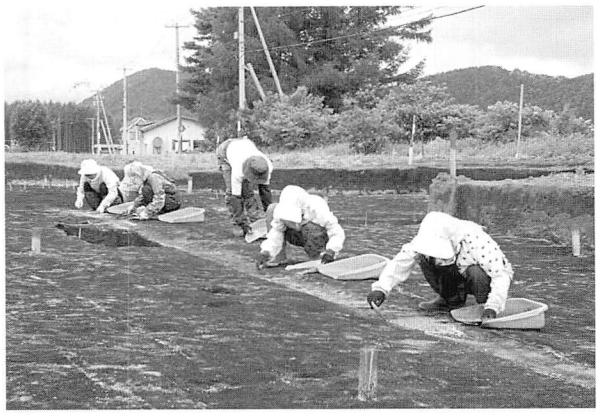
7. ⅢBB-01シカ四肢骨出土状態（NW→）



8. ⅢBB-01シカ歯列出土状態（NW→）

図版 8

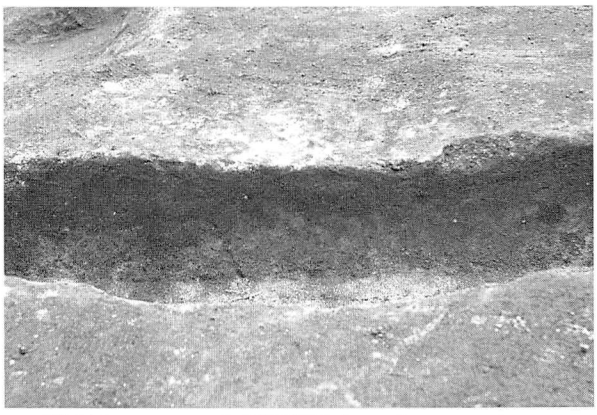
1. 道跡検出（E→）



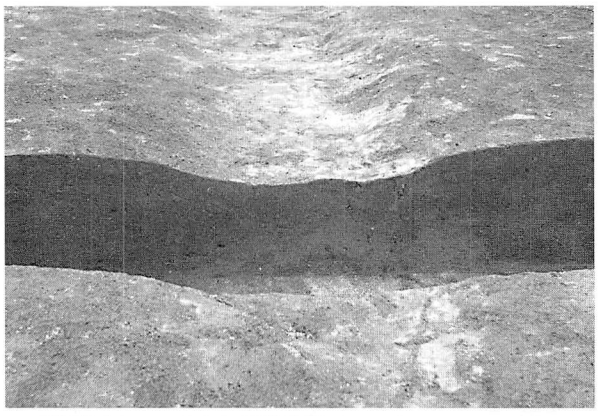
2. 道跡検出状況（SE→）

3. 道跡トレンチ2検出（NW→）

4. 道跡トレンチ4検出（NW→）

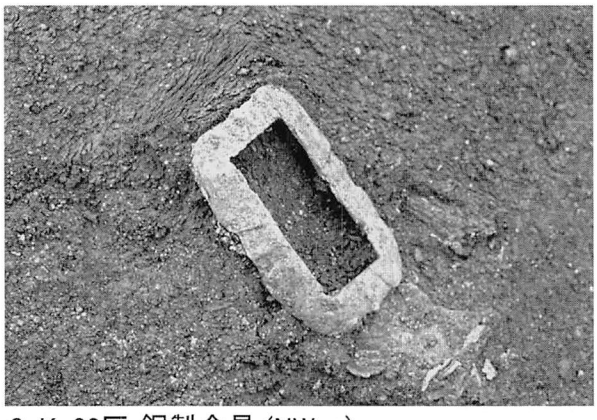


5. 道跡トレンチ2土層断面（W→）



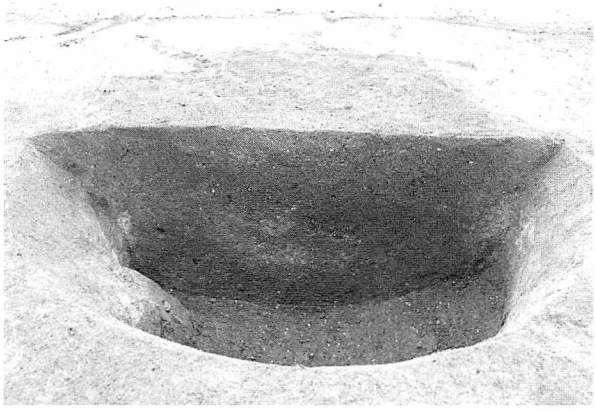
6. 道跡トレンチ4土層断面（W→）

7. K-32区 内耳鉄鍋（SW→）

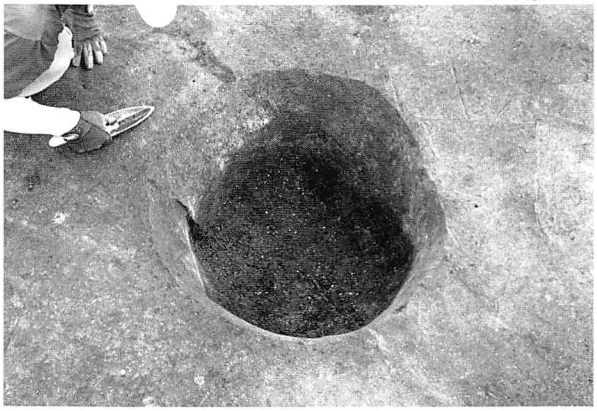


8. K-32区 銅製金具（NW→）

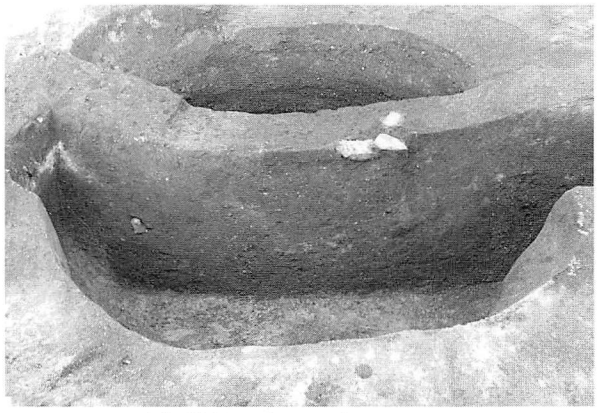
図版 9



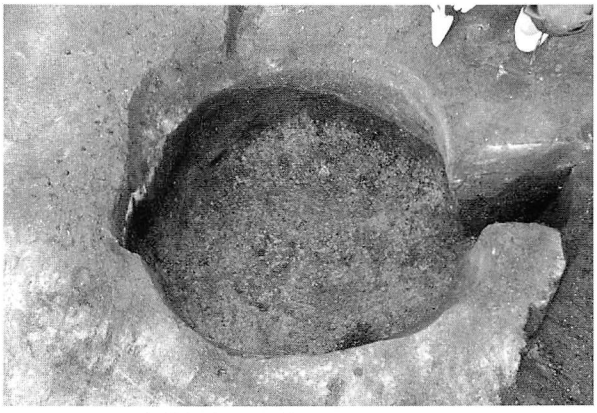
1. ⅢP-01土層断面（E→）



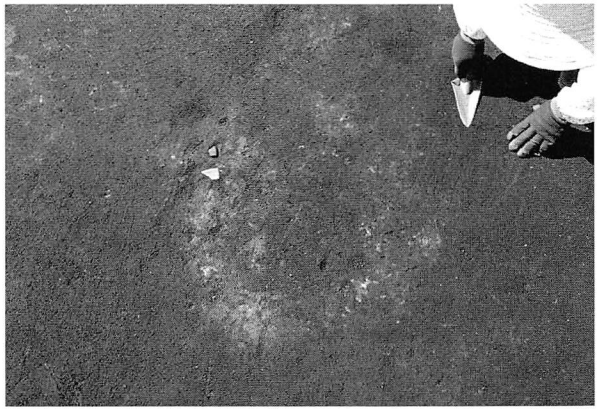
2. ⅢP-01完掘（NE→）



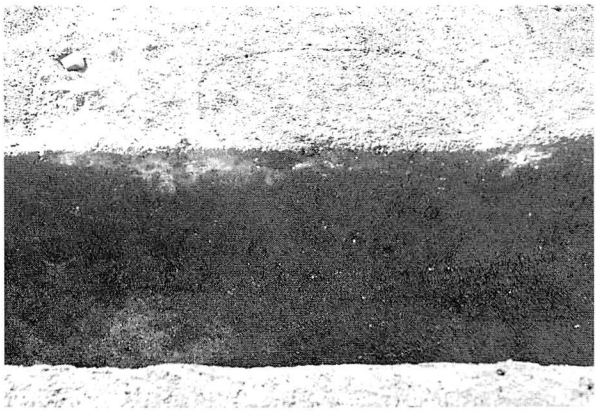
3. ⅢP-02土層断面（SW→）



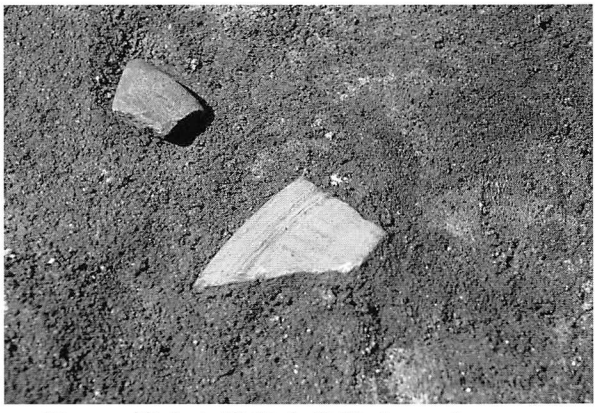
4. ⅢP-02完掘（SW→）



5. ⅢF-06検出（SE→）



6. ⅢF-06断面（SE→）

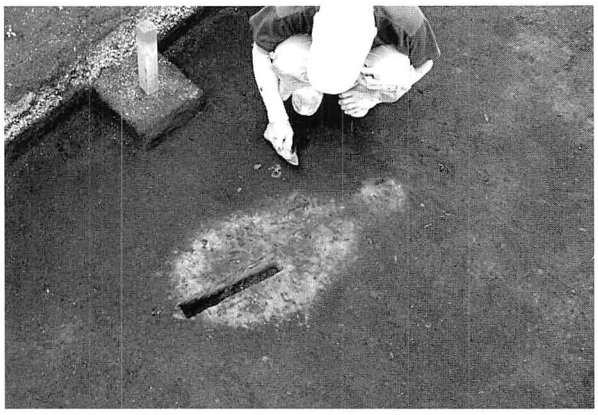


7. ⅢF-06擦文土器出土状態（SE→）

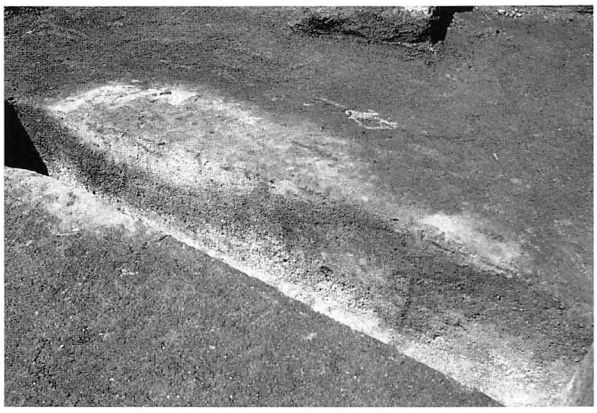
8. ⅢF-07検出（S→）

図版 10

1. ⅢF-07断面（S→）



2. ⅢF-08検出（SW→）



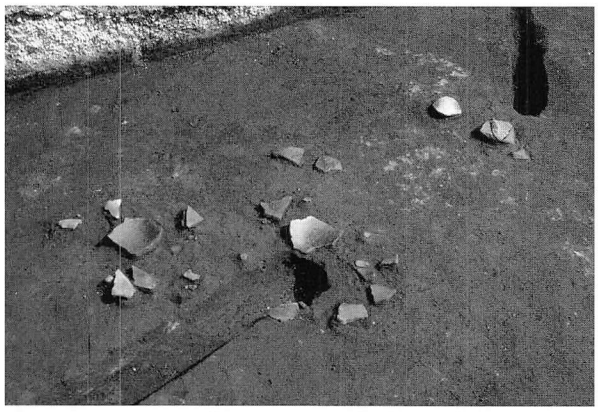
3. ⅢF-08断面（SE→）

4. ⅢPB-01出土状態1（NW→）

5. ⅢPB-01出土状態2（NW→）

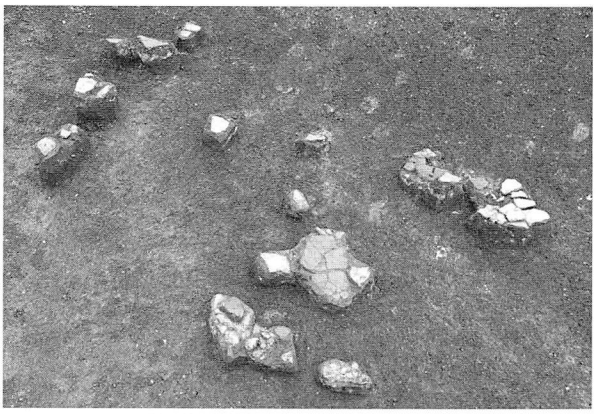
6. ⅢPB-02出土状態1（SE→）

7. ⅢPB-02出土状態2（NE→）

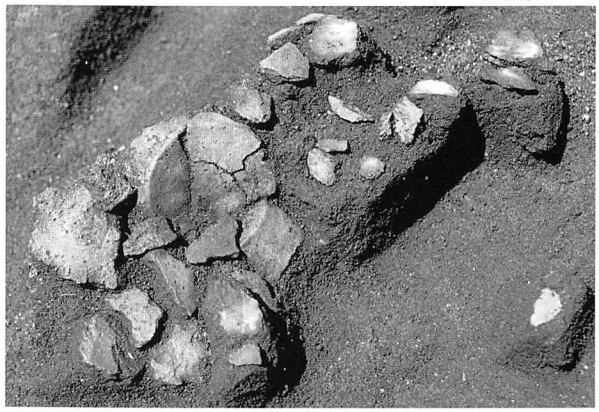


8. ⅢPB-03出土状態（SW→）

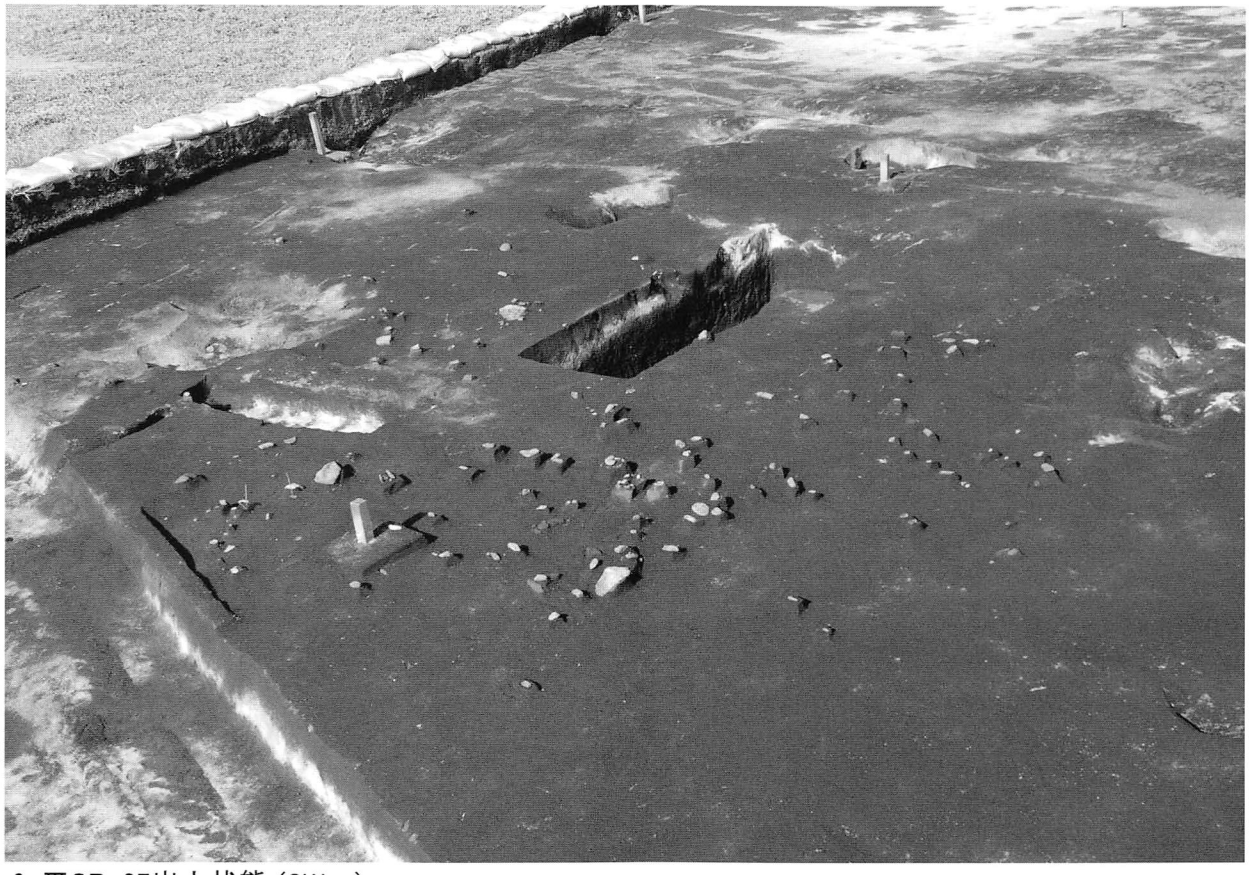
図版 11



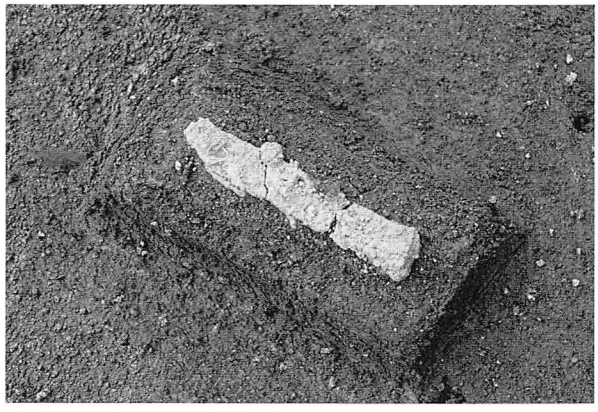
1. ⅢPB-06出土状態（W→）



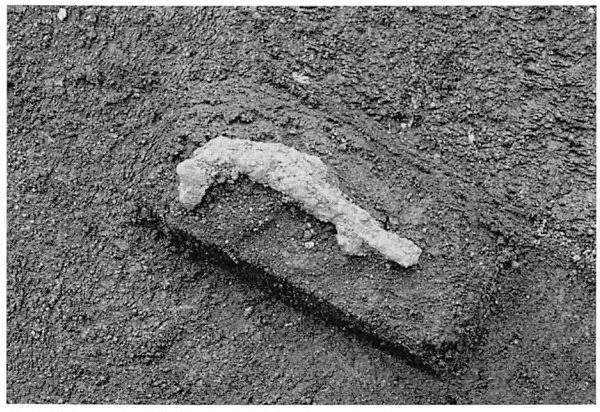
2. ⅢPB-07出土状態（E→）



3. ⅢSB-07出土状態（SW→）



4. ⅢSB-07刀子（E→）



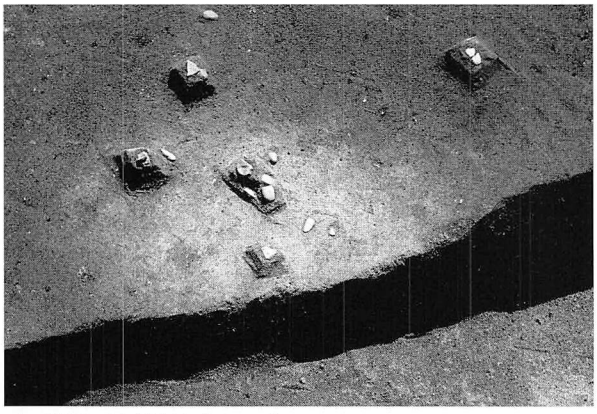
5. ⅢSB-07鉤状鉄製品（E→）

図版 12

1. ⅢSB-08出土状態（E→）

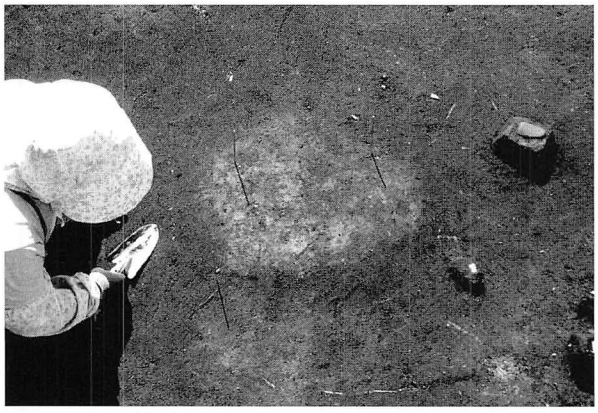
2. J-30区 板状鉄製品（SW→）

3. K-20区 鉄製品（SE→）

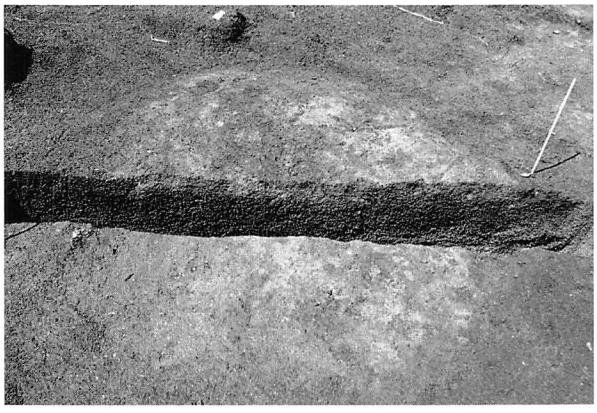


4. ⅢF-09検出（NE→）

5. ⅢF-09断面（W→）



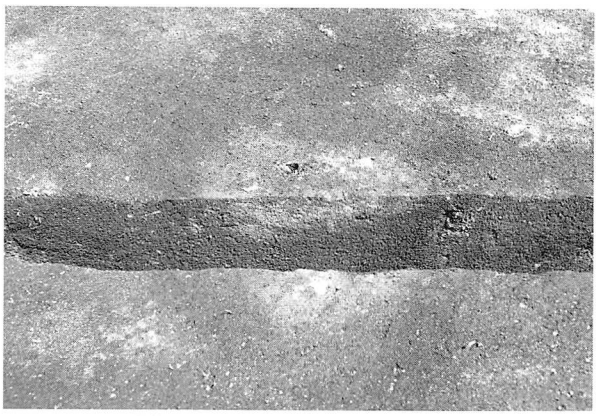
6. ⅢF-10検出（NW→）



7. ⅢF-10断面（E→）

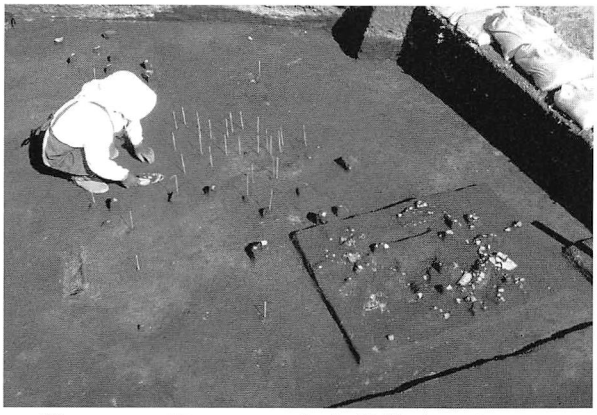
8. ⅢF-11検出（SW→）

図版 13



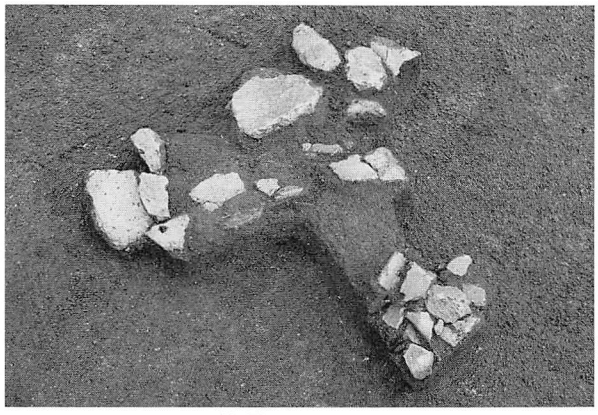
1. ⅢF-11断面（E→）

2. ⅢPB-05出土状態（NW→）



3. ⅢPB-05・ⅢFCB-01出土状態（W→）

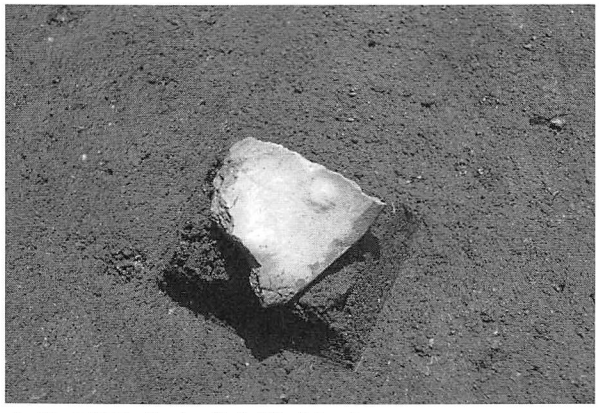
4. ⅢPB-08出土状態1（S→）



5. ⅢPB-08出土状態2（S→）

6. ⅢFCB-02出土状態（N→）

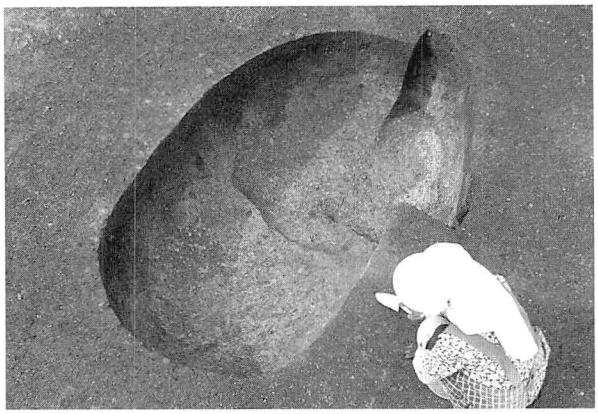
7. K-26区 北大式土器注口部分（S→）



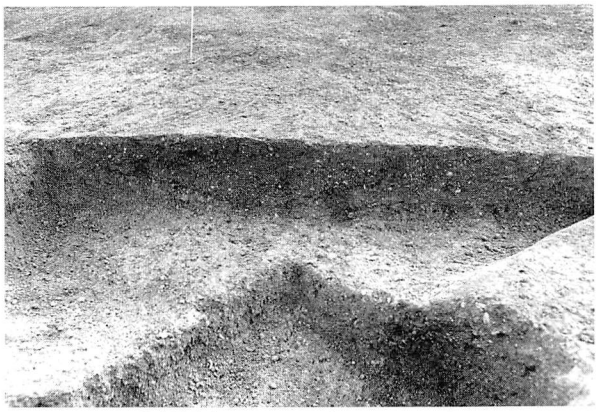
8. K-21区 北大式土器（N→）

図版 14

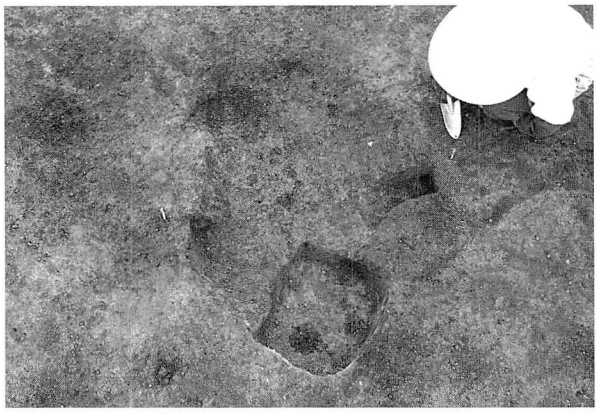
1. ⅤP-01短軸土層断面（E→）



2. ⅤP-01完掘（NE→）

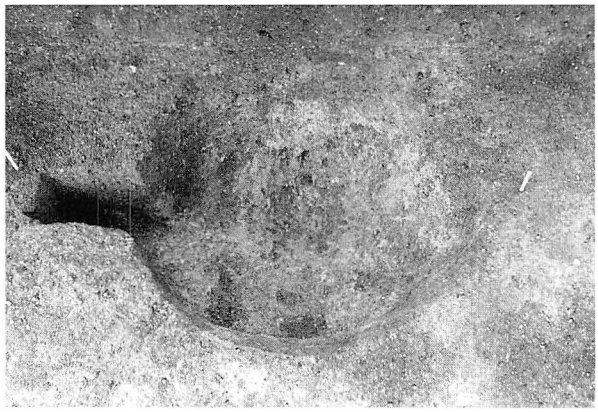


3. ⅤP-05土層断面（NE→）

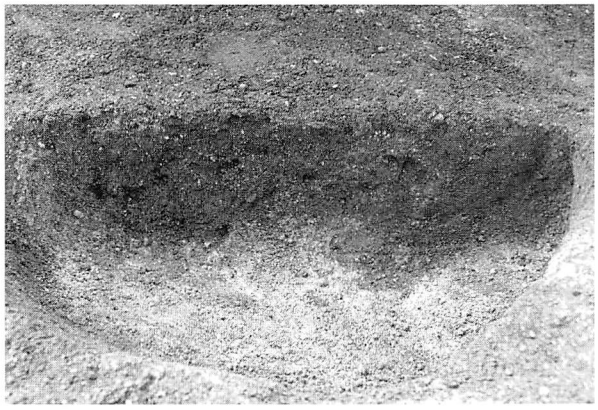


4. ⅤP-05完掘（NE→）

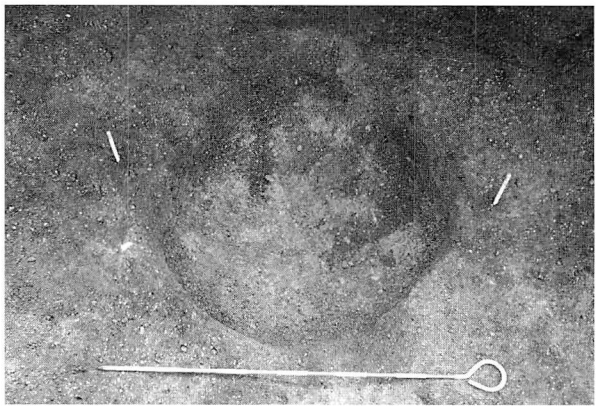
5. ⅤP-12土層断面（N→）



6. ⅤP-12完掘（N→）

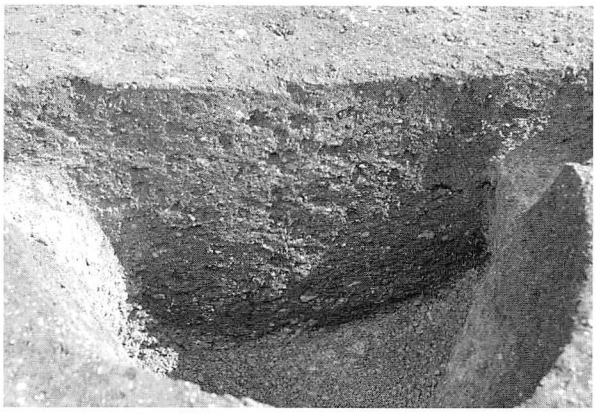


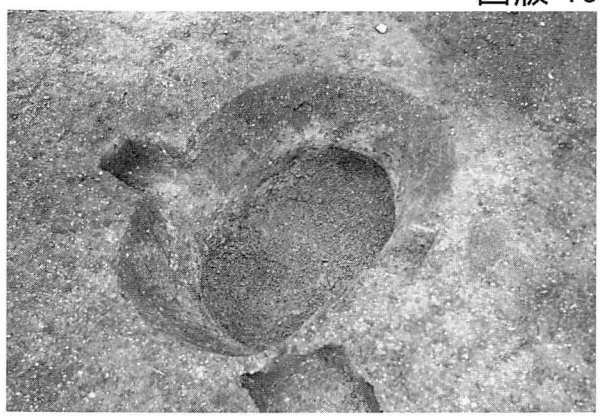
7. ⅤP-13土層断面（N→）



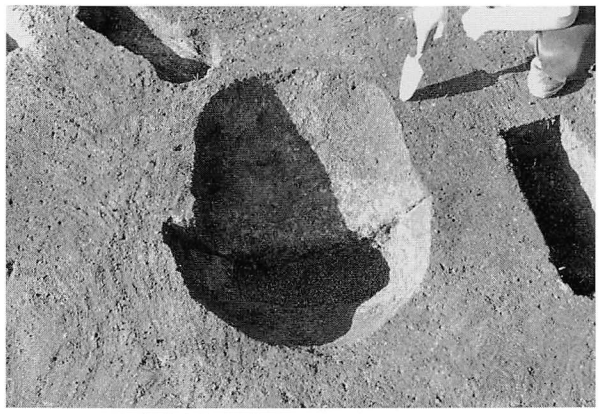
8. ⅤP-13完掘（N→）

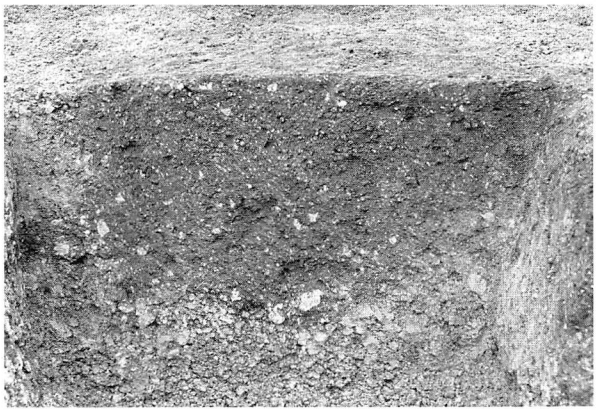
図版 15

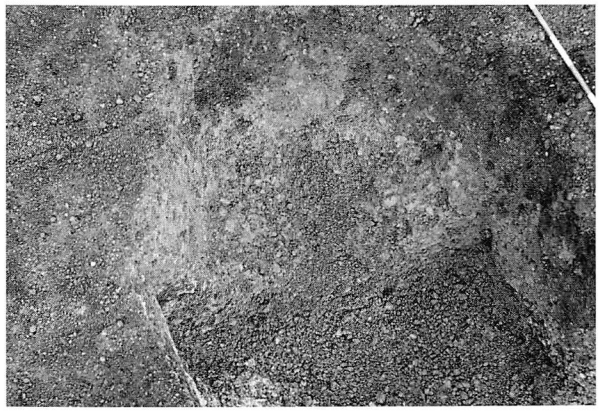

1. ＶP-14土層断面（SW→）


2. ＶP-14完掘（SW→）

3. ＶP-15土層断面（SE→）


4. ＶP-15完掘（S→）


5. ＶP-16土層断面（W→）

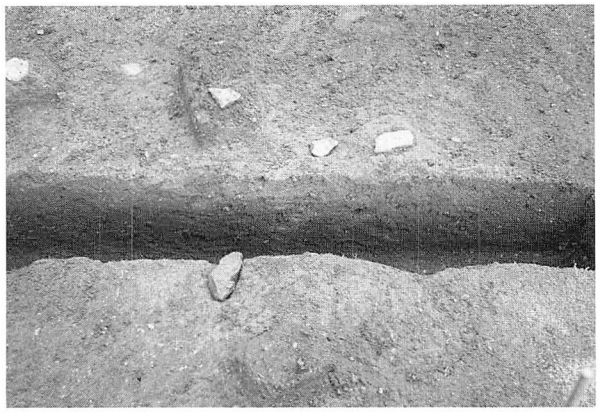

6. ＶP-16完掘（W→）

7. ＶF-01検出（S→）

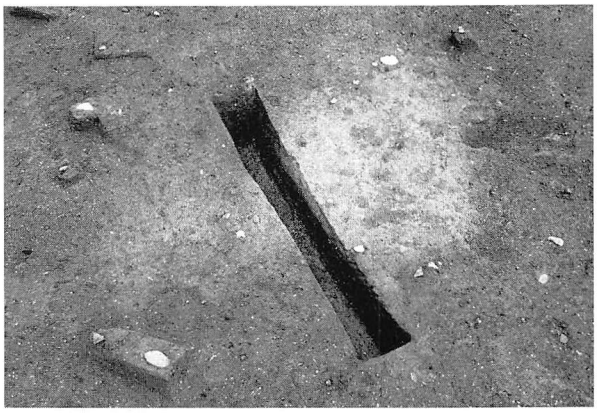
8. ＶF-01断面（S→）

図版 16

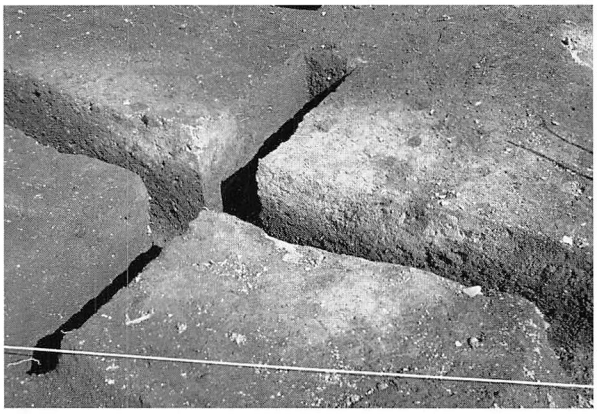
1. ⅤF-02検出（NW→）



2. ⅤF-02断面（NW→）

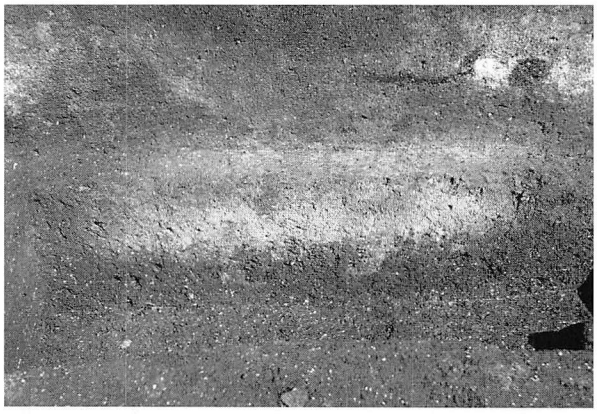


3. ⅤF-03検出（NW→）



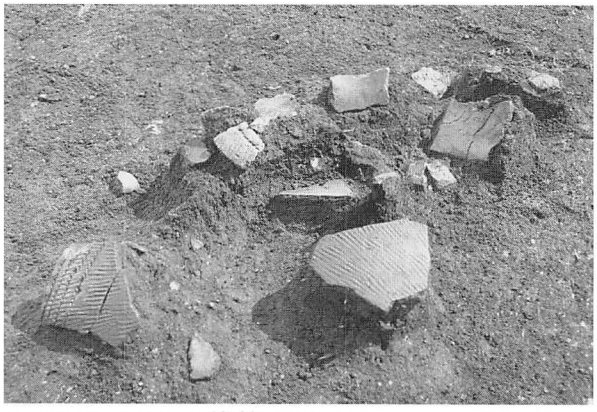
4. ⅤF-03断面（SW→）

5. ⅤF-04検出（SE→）



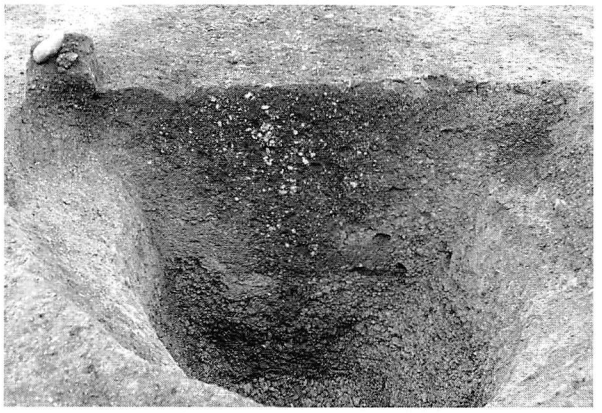
6. ⅤF-04断面（S→）

7. ⅤF-01・04周辺の遺物出土状態（SW→）

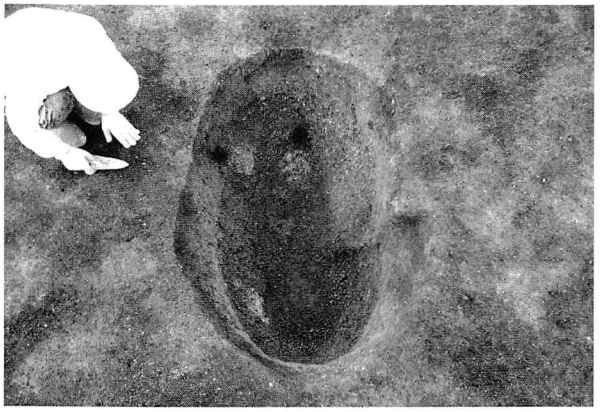


8. ⅤPB-01出土状態（NE→）

図版 17

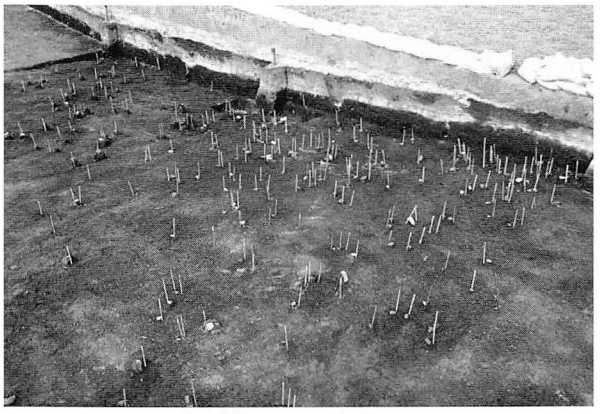


1. TP-01土層断面（S→）



2. TP-01完掘（SW→）

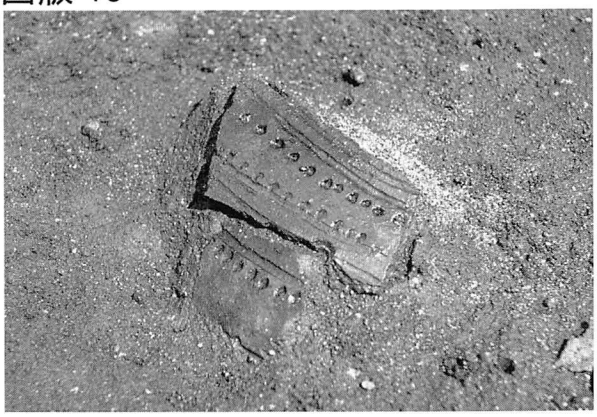
3. 東側晩期遺物出土状態（E→）



4. 26・27区 前期遺物出土状態（SE→）

5. 20～27区 縄文時代晩期遺物出土状態（SW→）

図版 18



1. K-23区 晩期土器（SE→）

2. L-23区 晩期土器（SW→）

3. K-26区 北海道式石冠片（SW→）

4. K-31区 石製品（NW→）

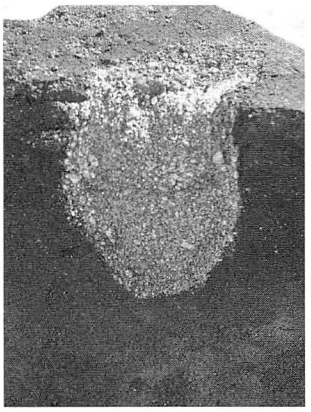
6. 旧石器確認調査土層断面（E→）

5. 縄文時代調査終了（W→）

7. 旧石器確認調査終了（SE→）

図版 19

1. 建物跡1完掘（SE→）

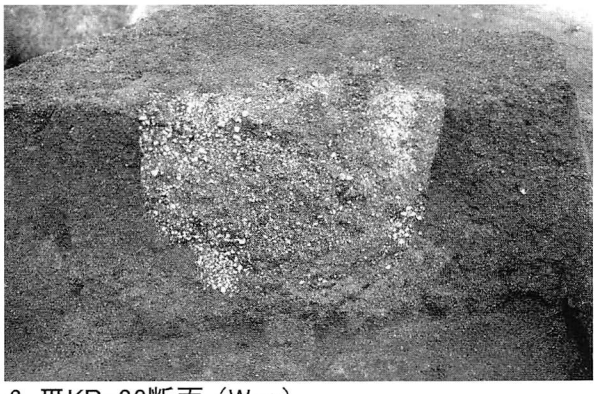


2. 建物跡1 ⅢKP-01
断面（W→）

3. 建物跡1 ⅢKP-03
断面（NW→）

4. 建物跡1 ⅢKP-07
断面（E→）

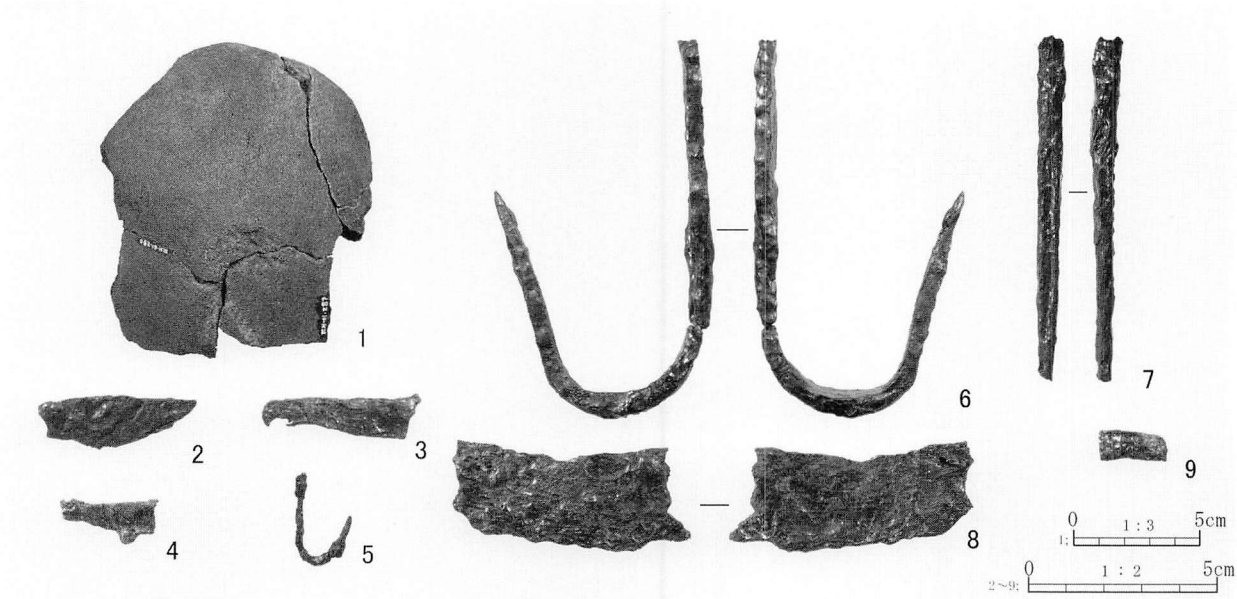
5. 建物跡1 ⅢKP-07
柱痕完掘（E→）



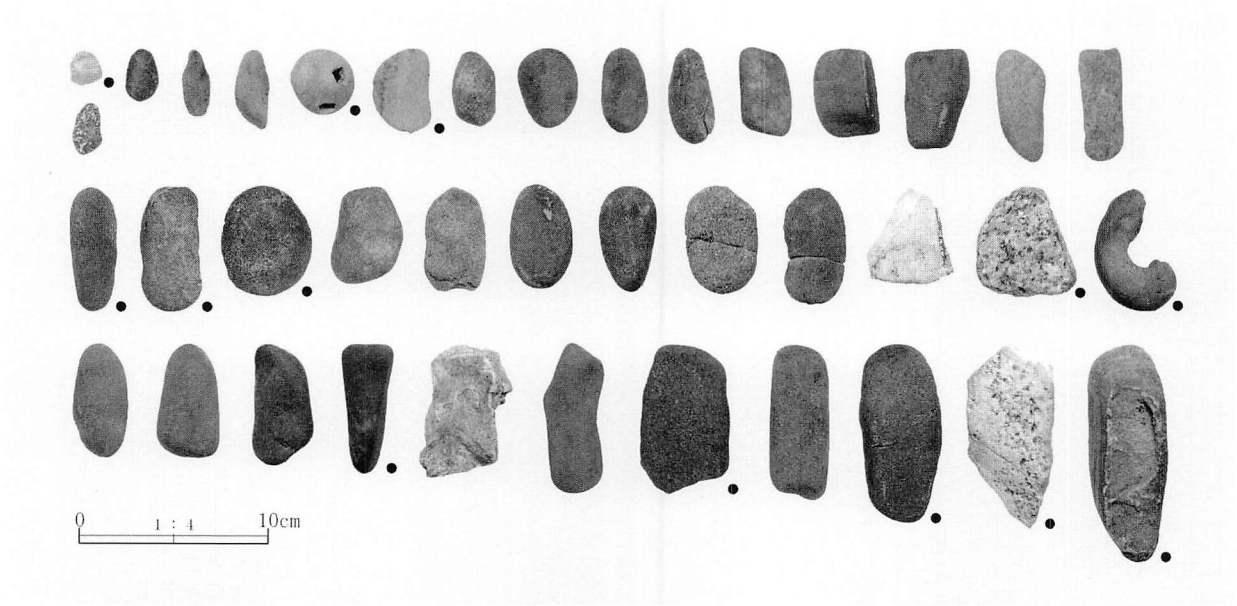
6. ⅢKP-26断面（W→）

7. ⅢKP-27断面（SW→）

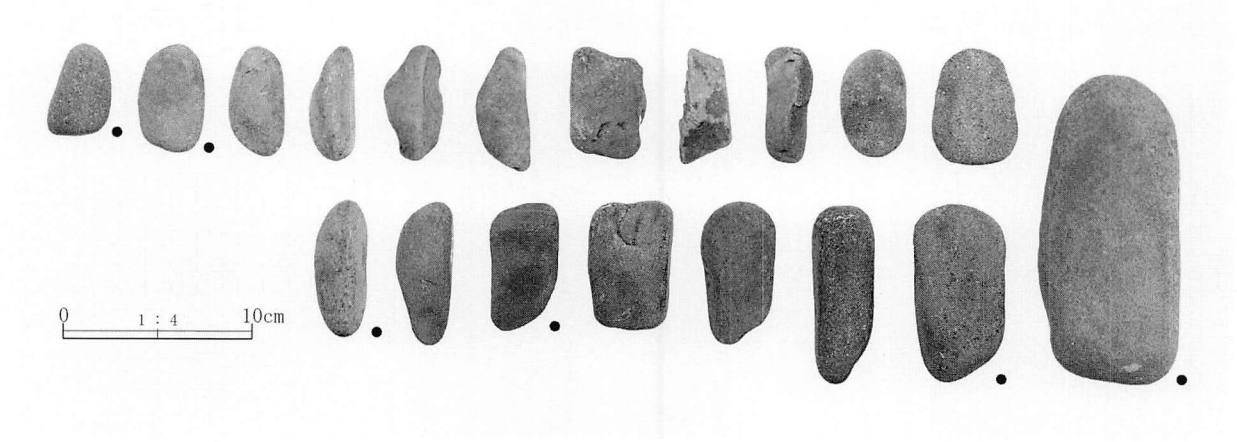
図版 20



1. ⅢH-01出土礫石器金属製品

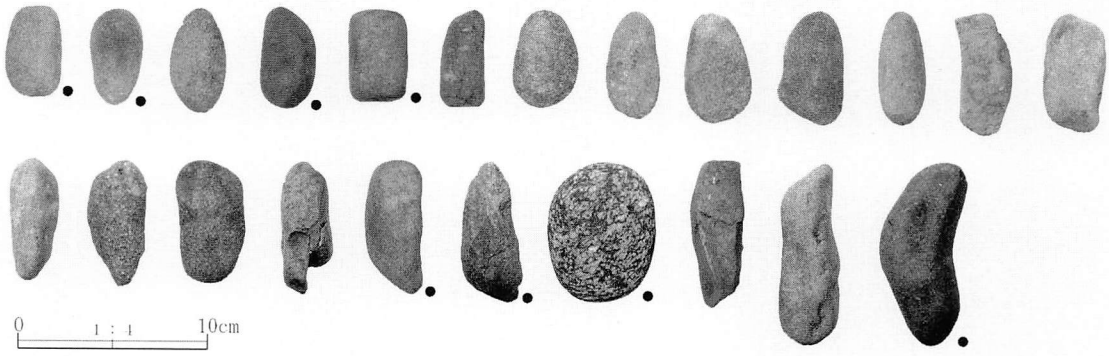


2. ⅢH-01出土礫



3. ⅢSB-01出土礫

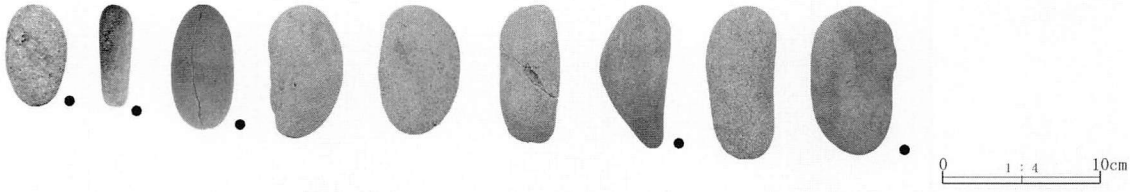
図版 21



1. ⅢSB-02出土礫

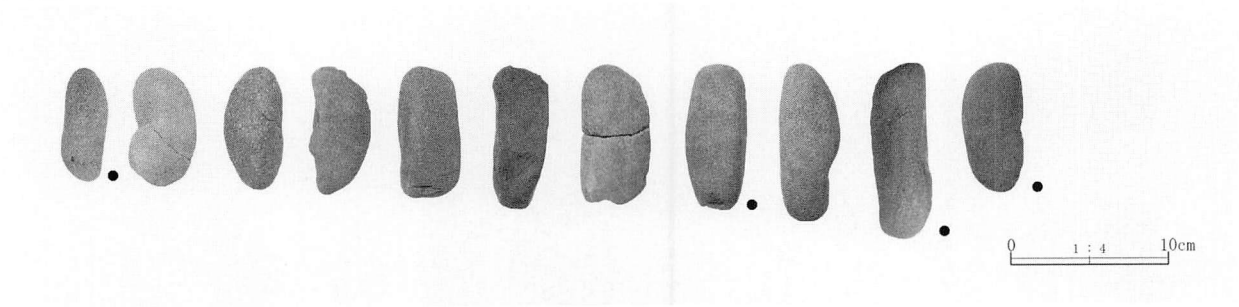
2. ⅢSB-03出土礫

3. ⅢSB-04出土礫

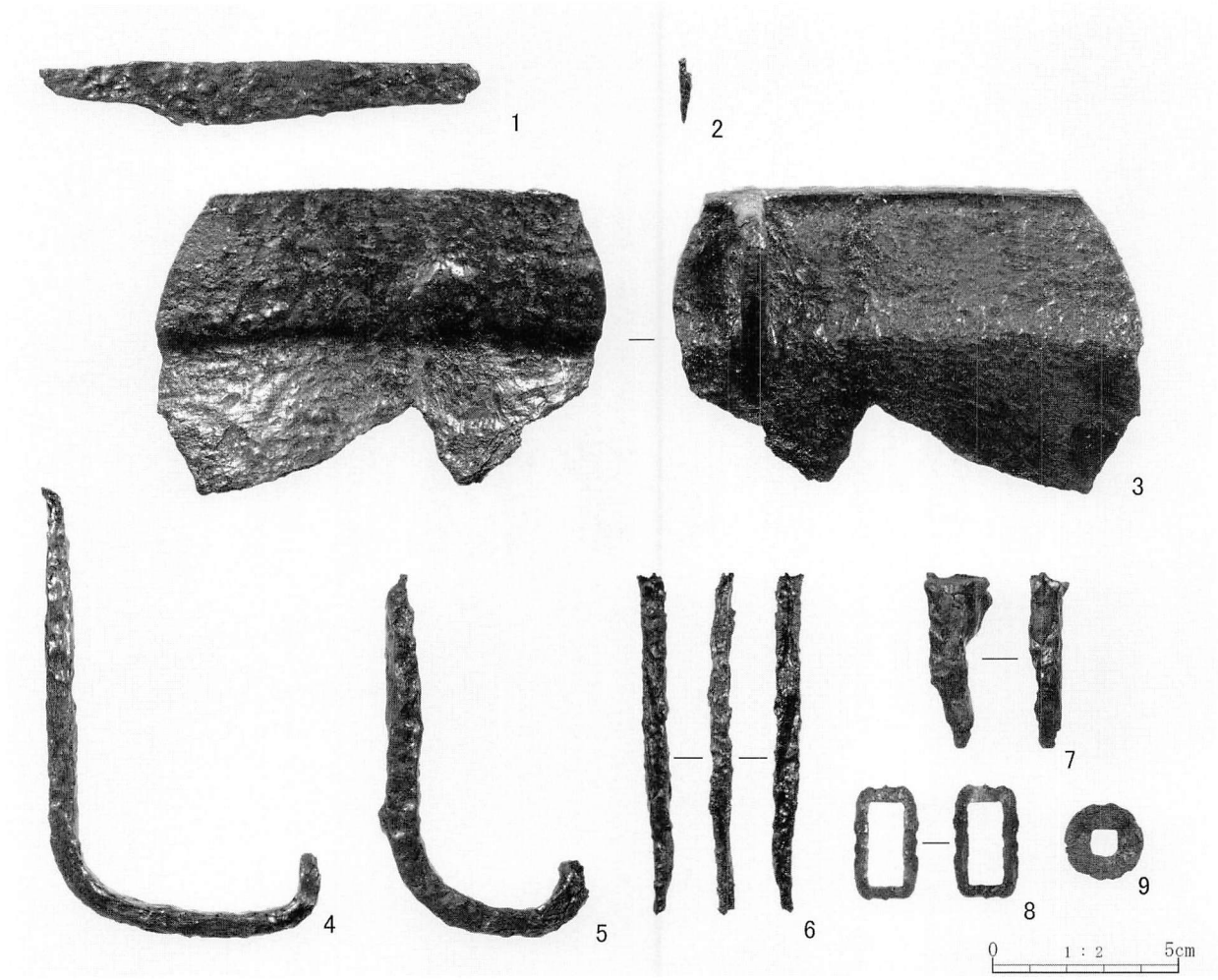


4. ⅢSB-06出土礫

図版 22



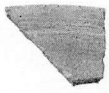
1. ⅢSB-05出土礫



2. アイヌ文化期包含層出土金属製品

図版 23

ⅢF-06



1

ⅢPB-01

2

ⅢPB-03

3a

3b

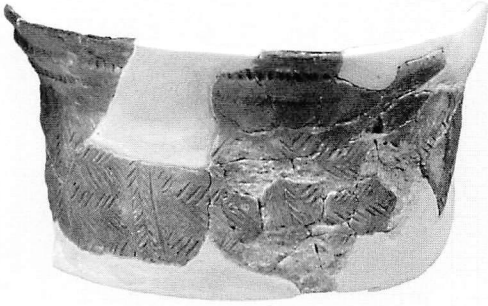
ⅢPB-02・06

4

ⅢPB-02

6

ⅢPB-04



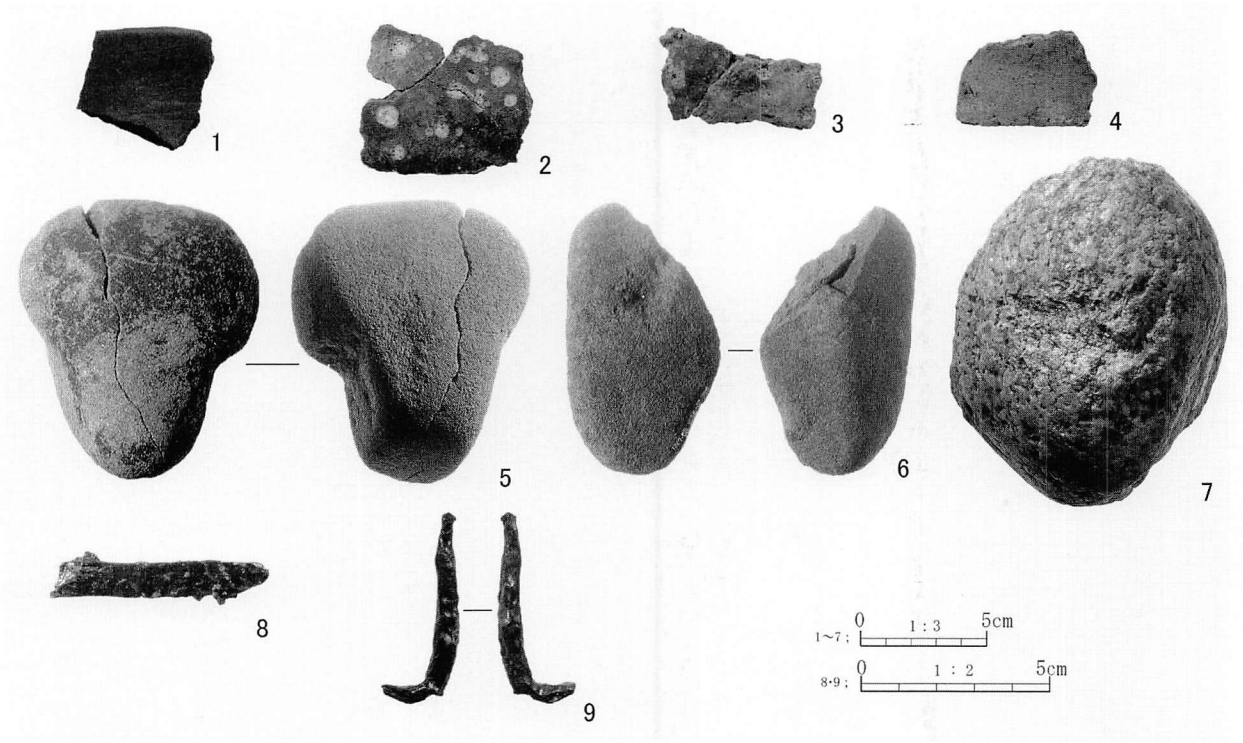
7

5

※3bは任意倍率　0　1：3　5cm

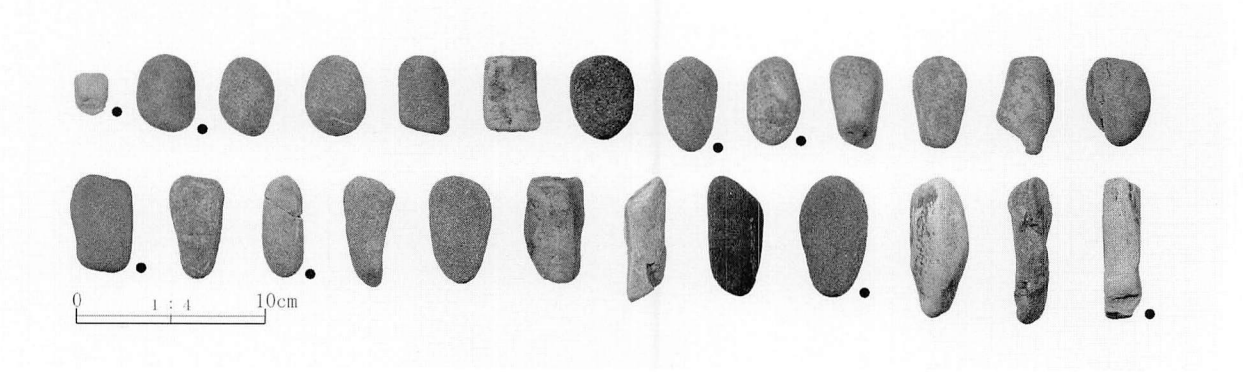
1. ⅢF-06・ⅢPB-01～04・06出土土器

図版 24



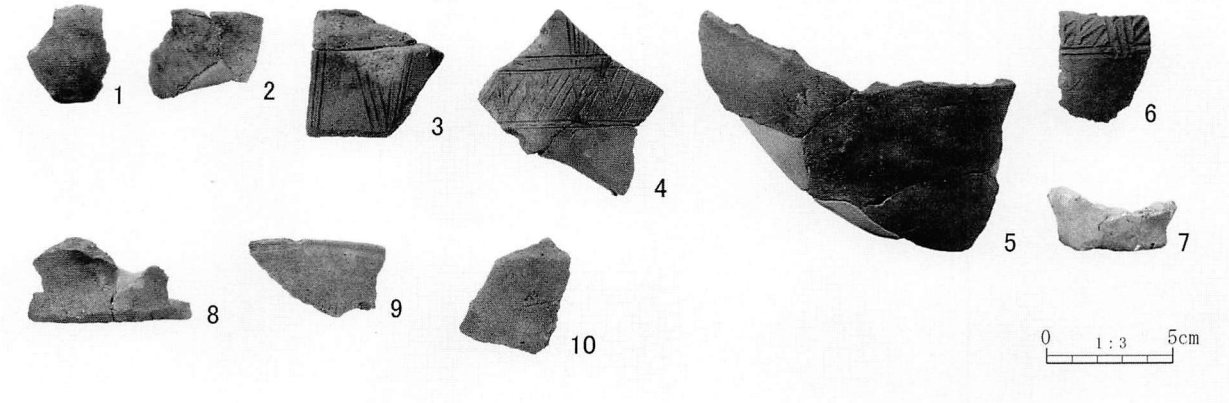
1. ⅢSB-07出土遺物

2. ⅢSB-07出土礫

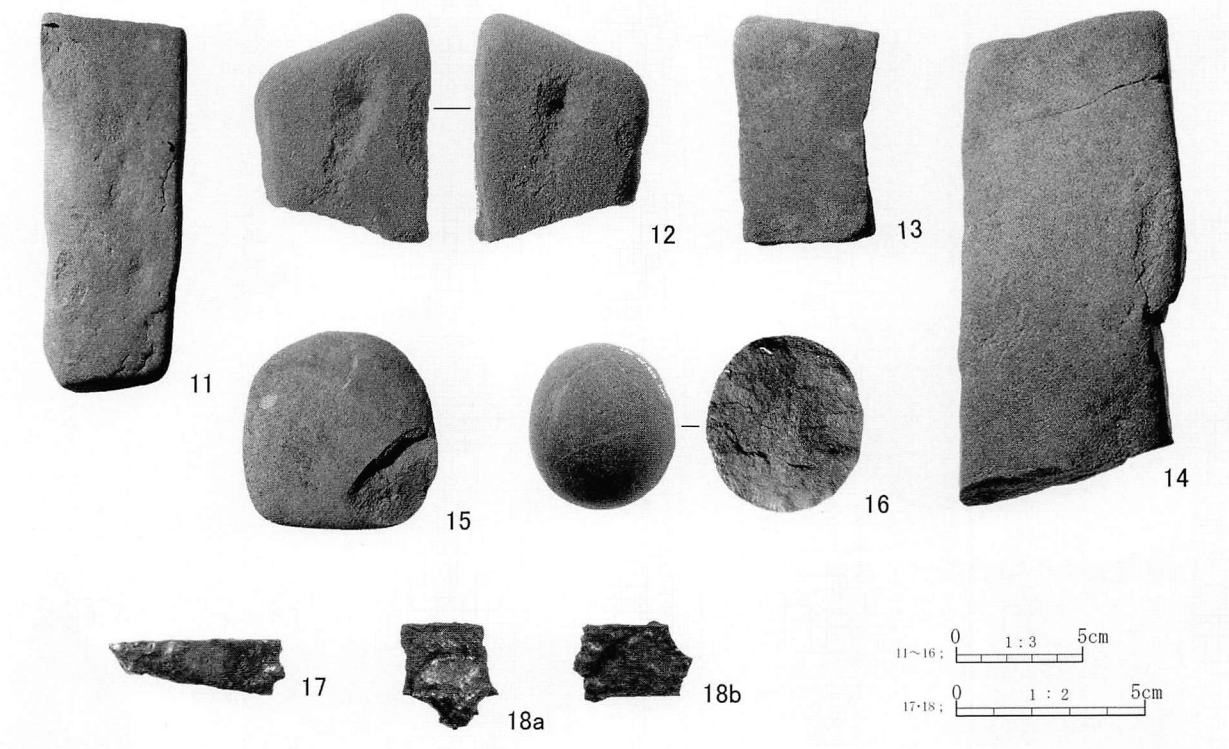


3. ⅢSB-08出土礫

図版 25

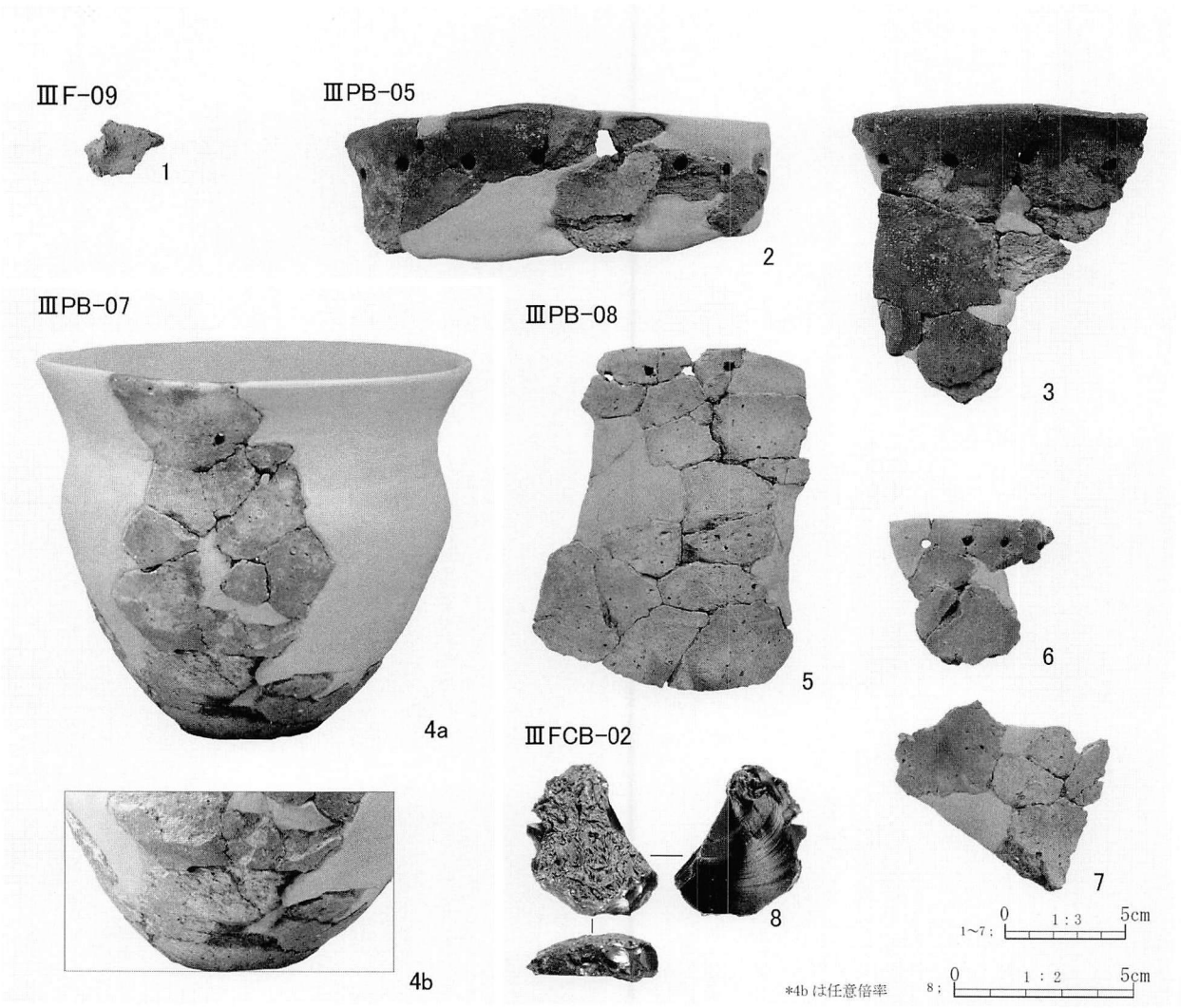


1. 擦文文化期包含層出土土器

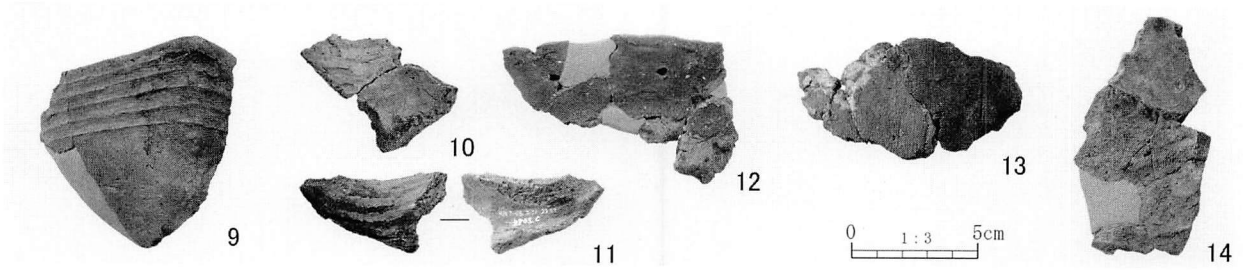


2. 擦文文化期包含層出土石器・金属製品

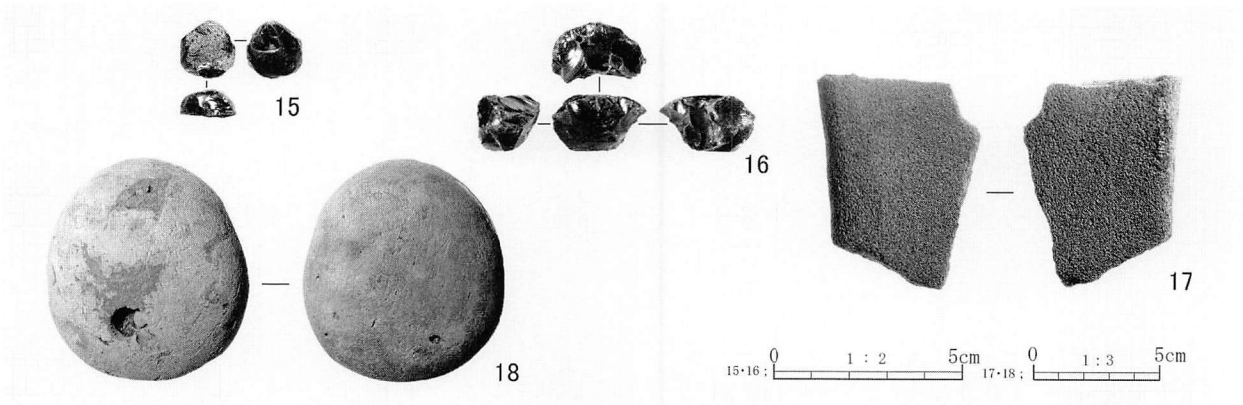
図版 26



1. 続縄文文化期遺構出土遺物

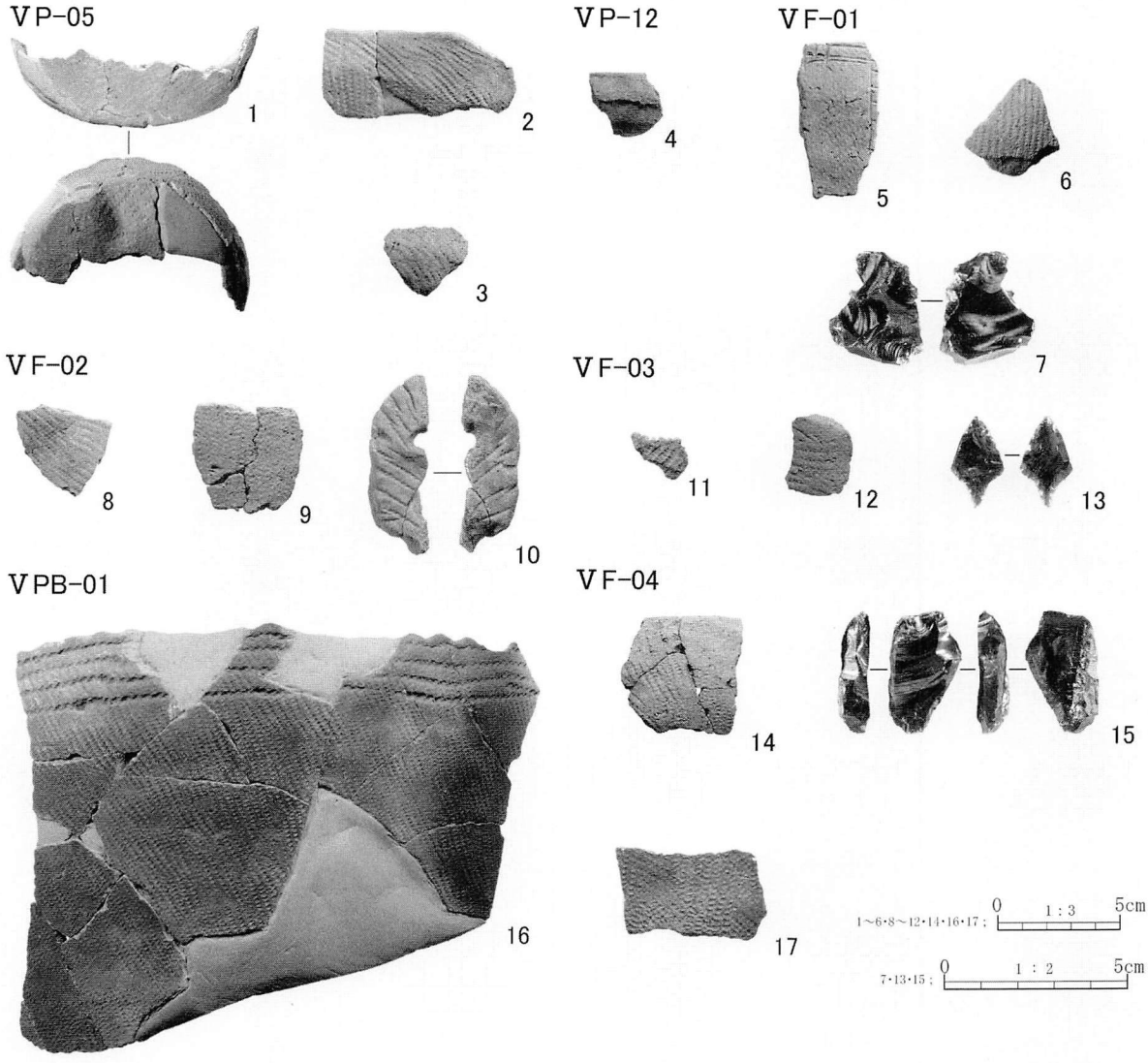


2. 続縄文文化期包含層出土土器



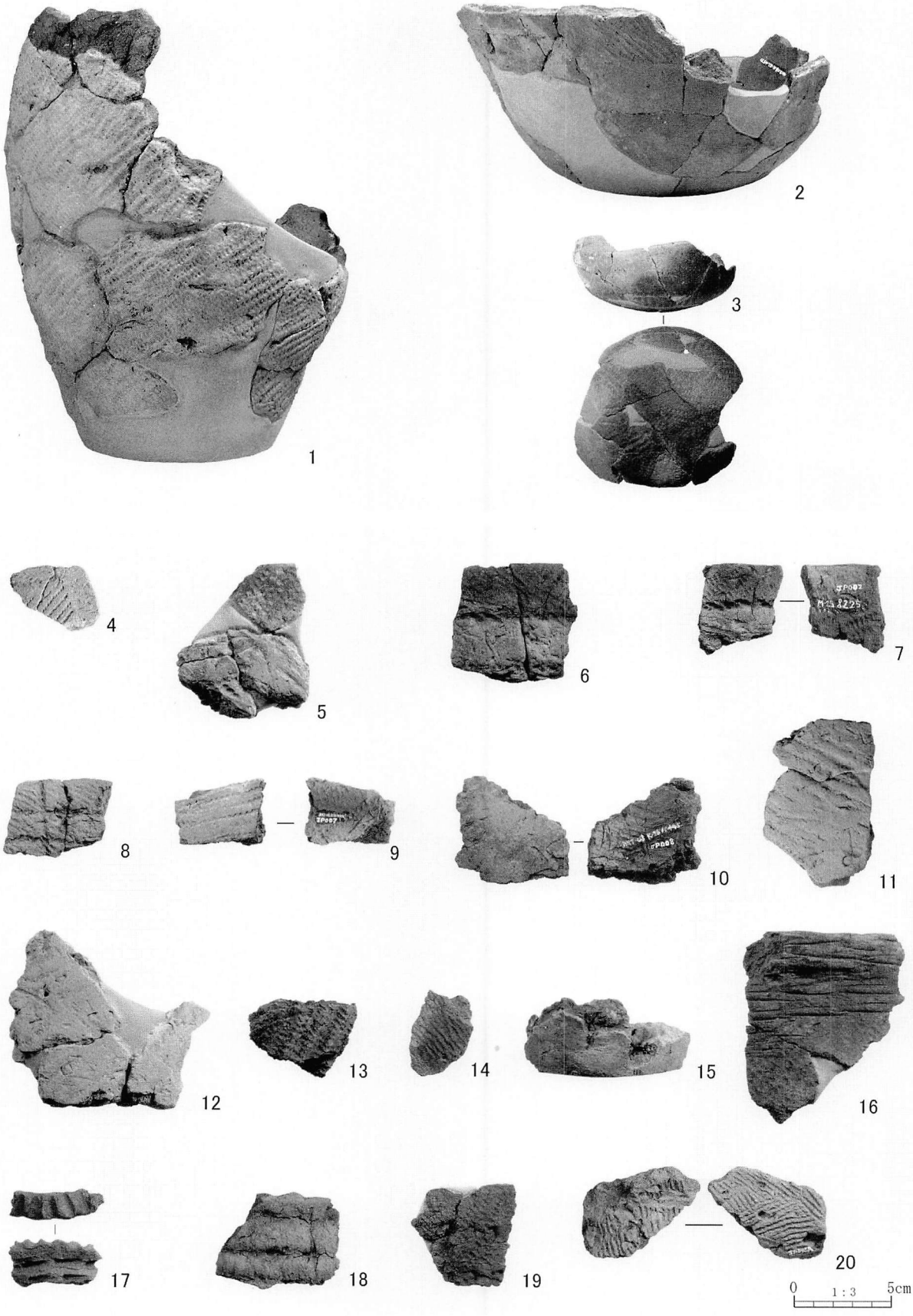
3. 続縄文文化期包含層出土石器

図版 27



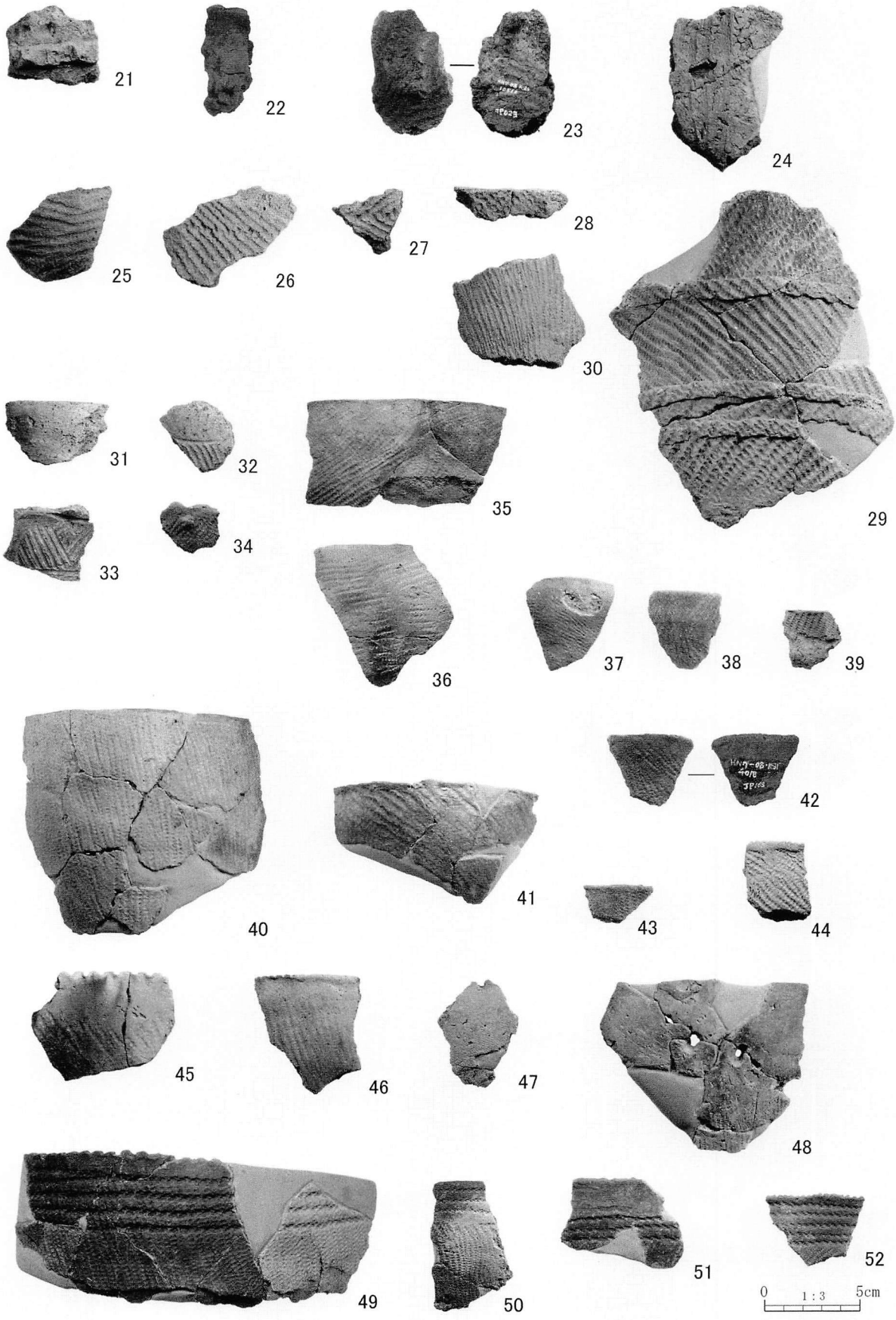
1. VP・VF・VPB出土遺物

図版 28



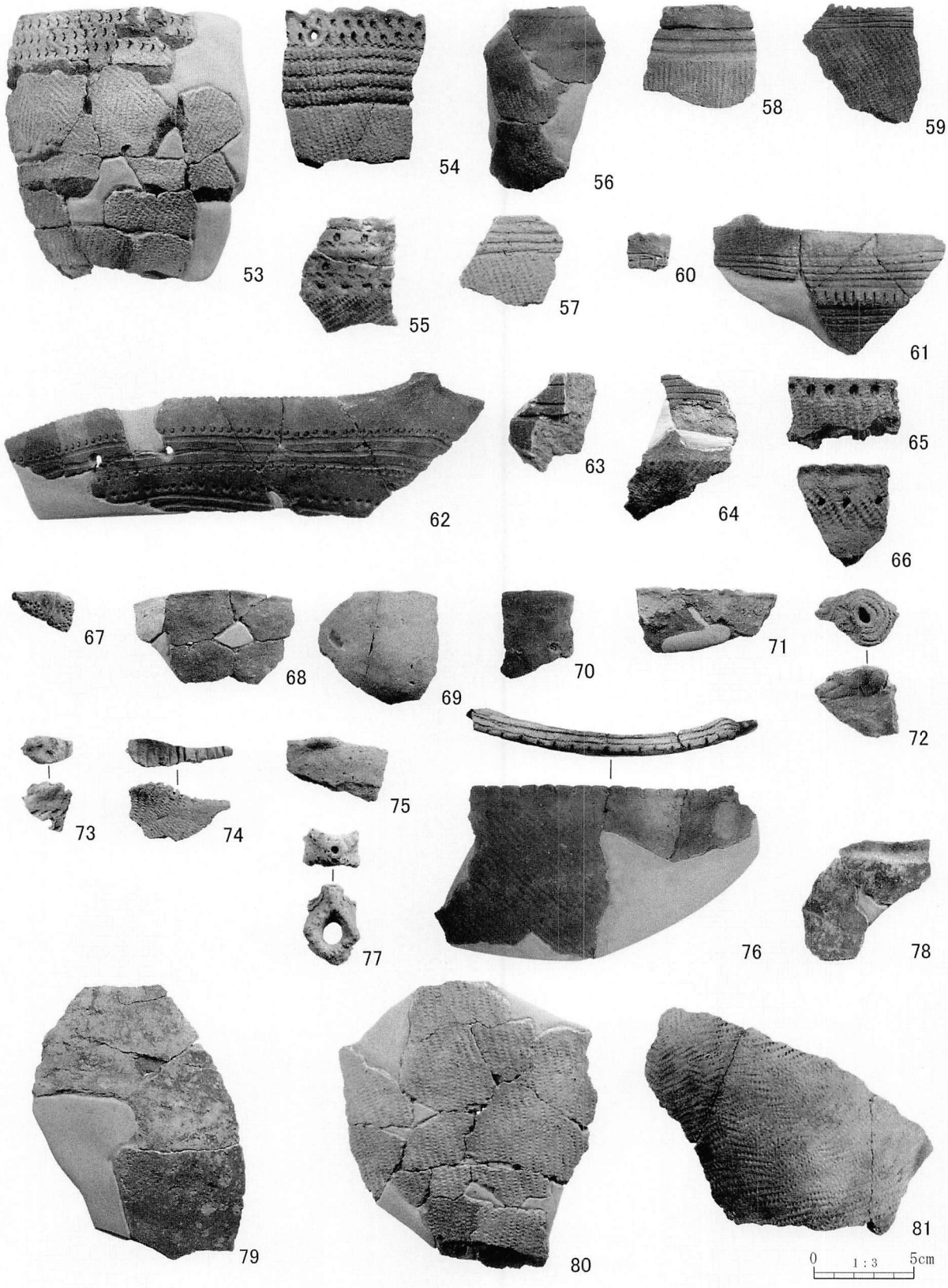
1. 縄文時代包含層出土土器(1)

図版 29



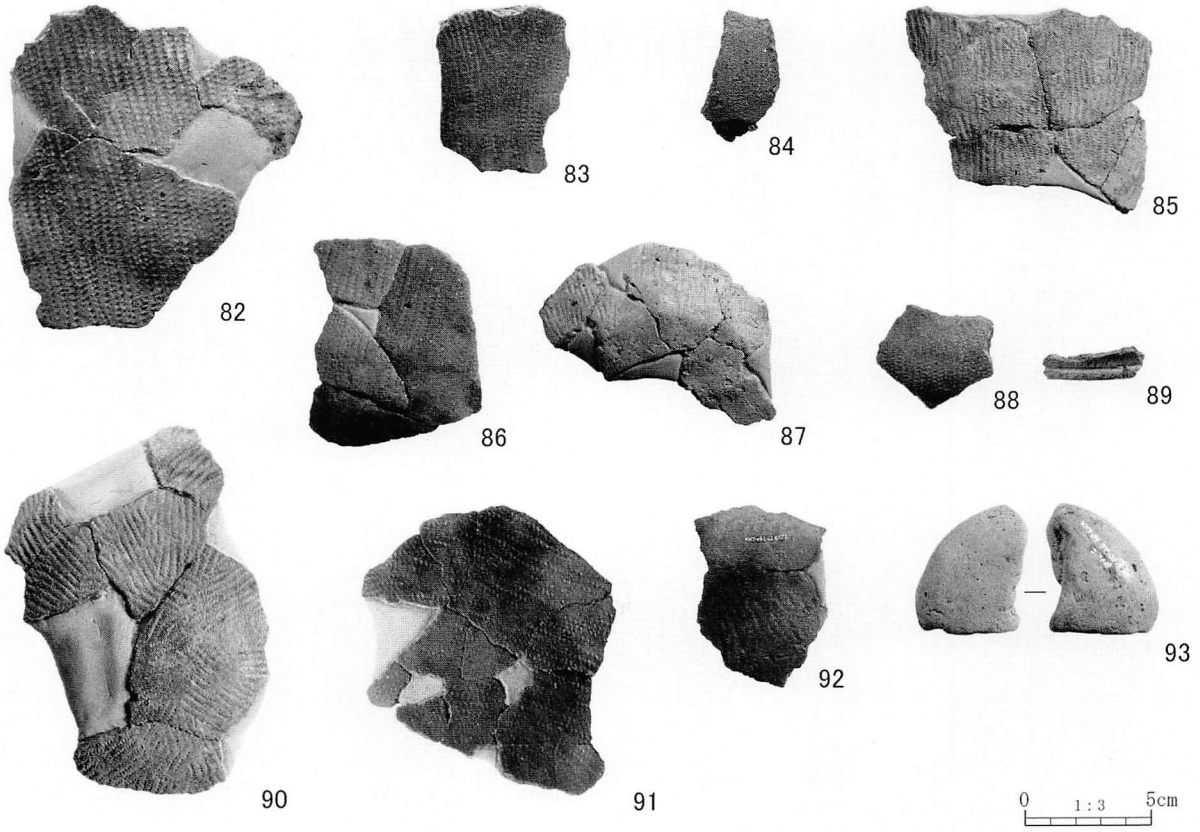
1. 縄文時代包含層出土土器(2)

図版 30



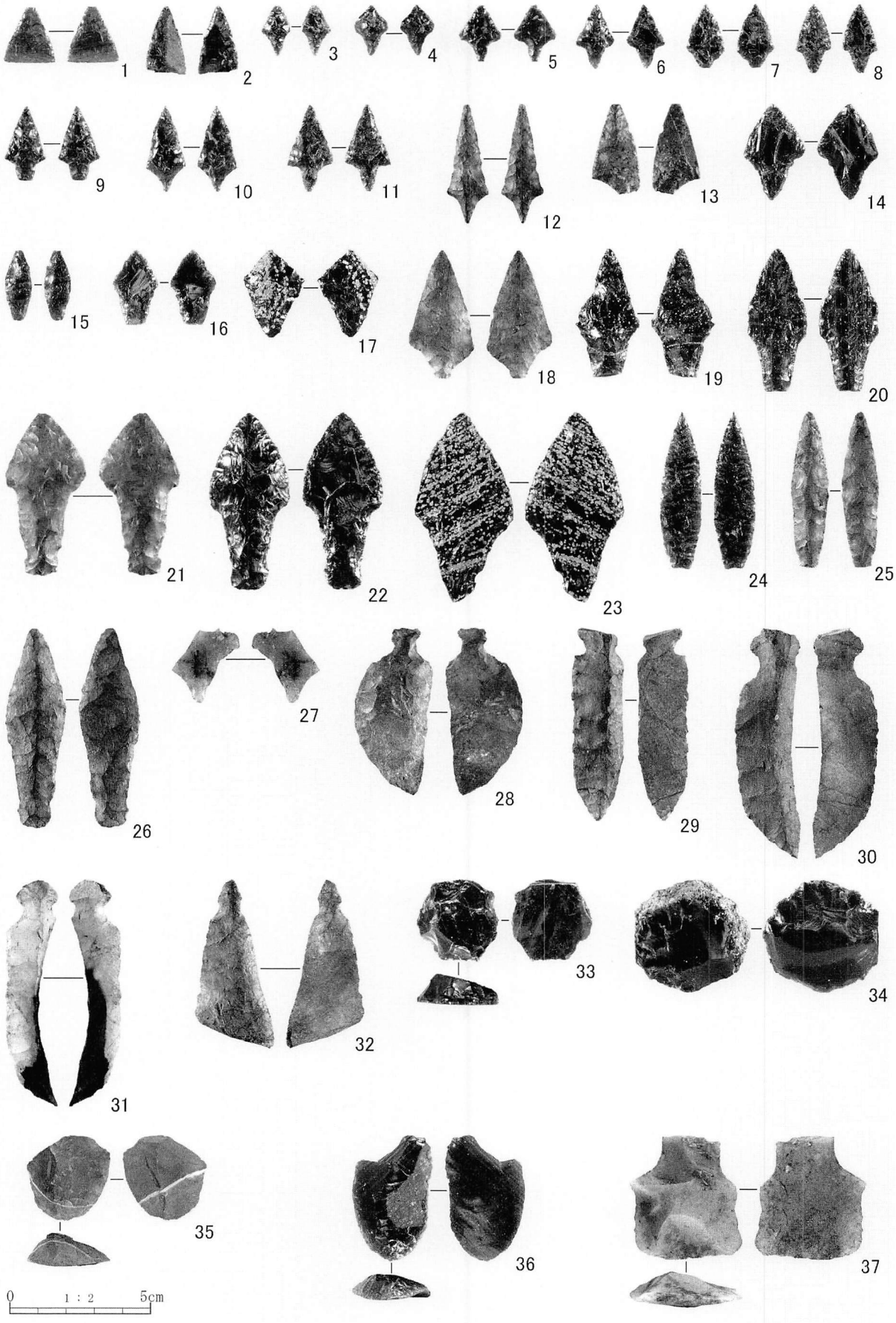
1. 縄文時代包含層出土土器(3)

図版 31



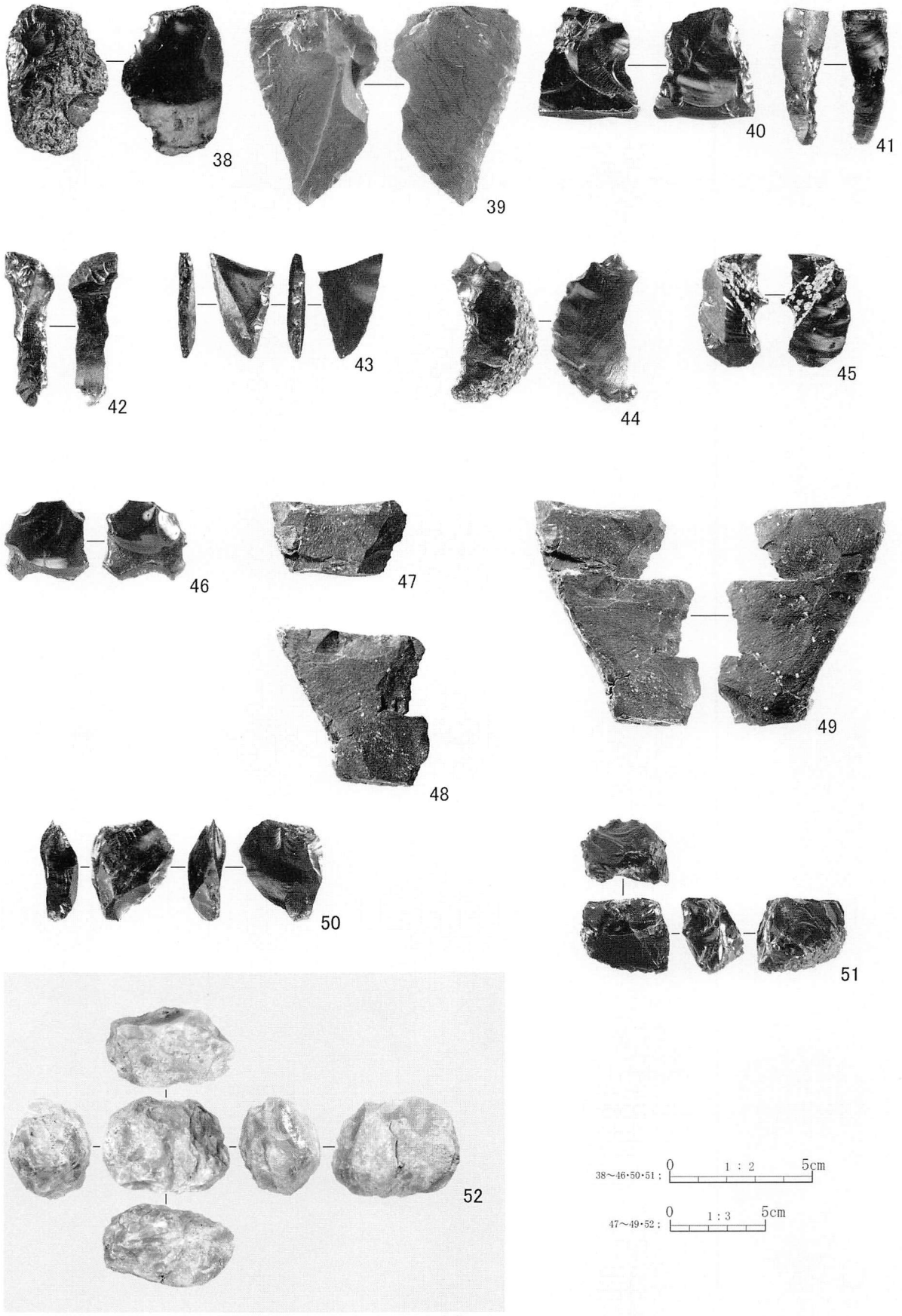
1. 縄文時代包含層出土土器(4)・土製品

図版 32



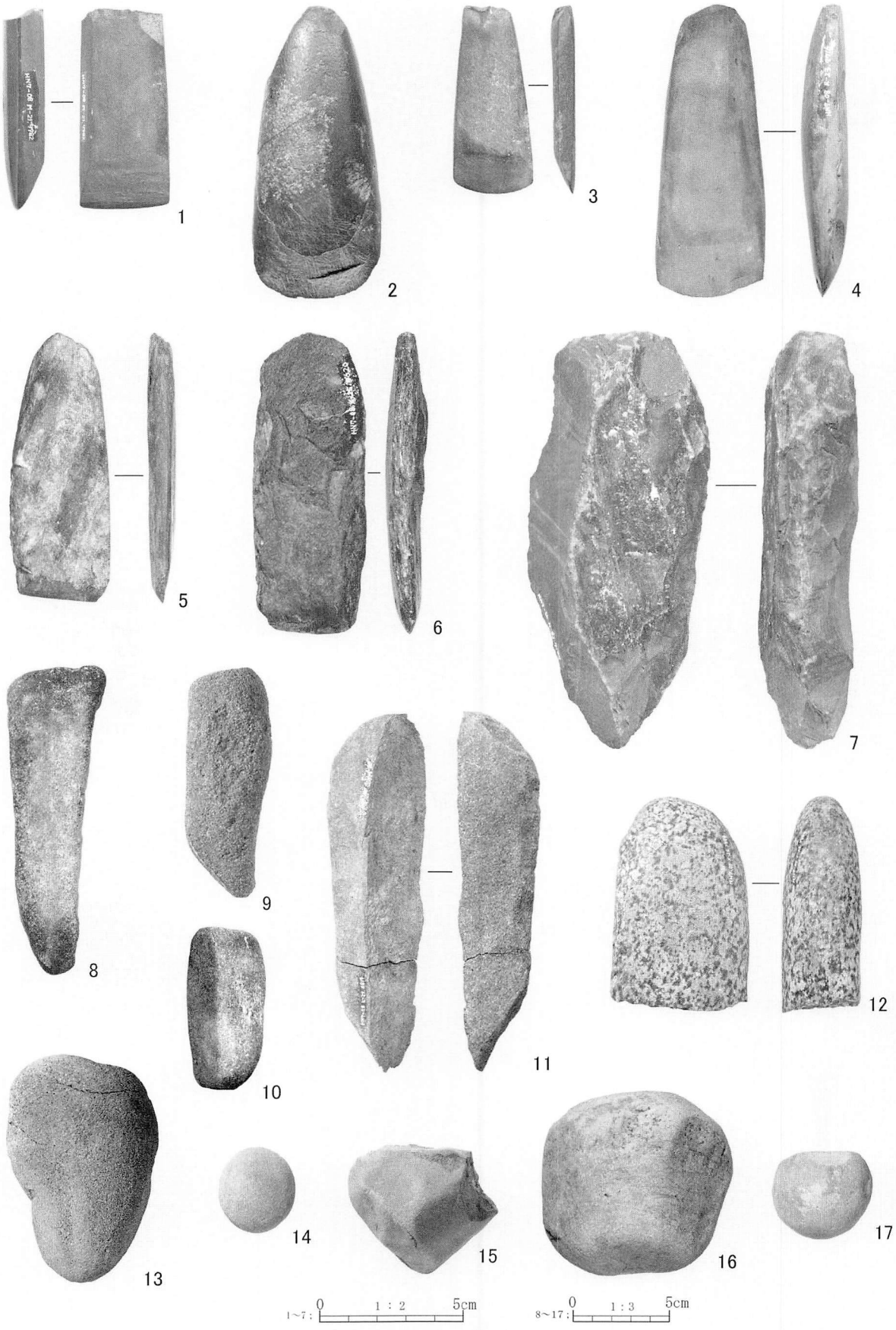
1. 縄文時代包含層出土剥片石器(1)

図版 33



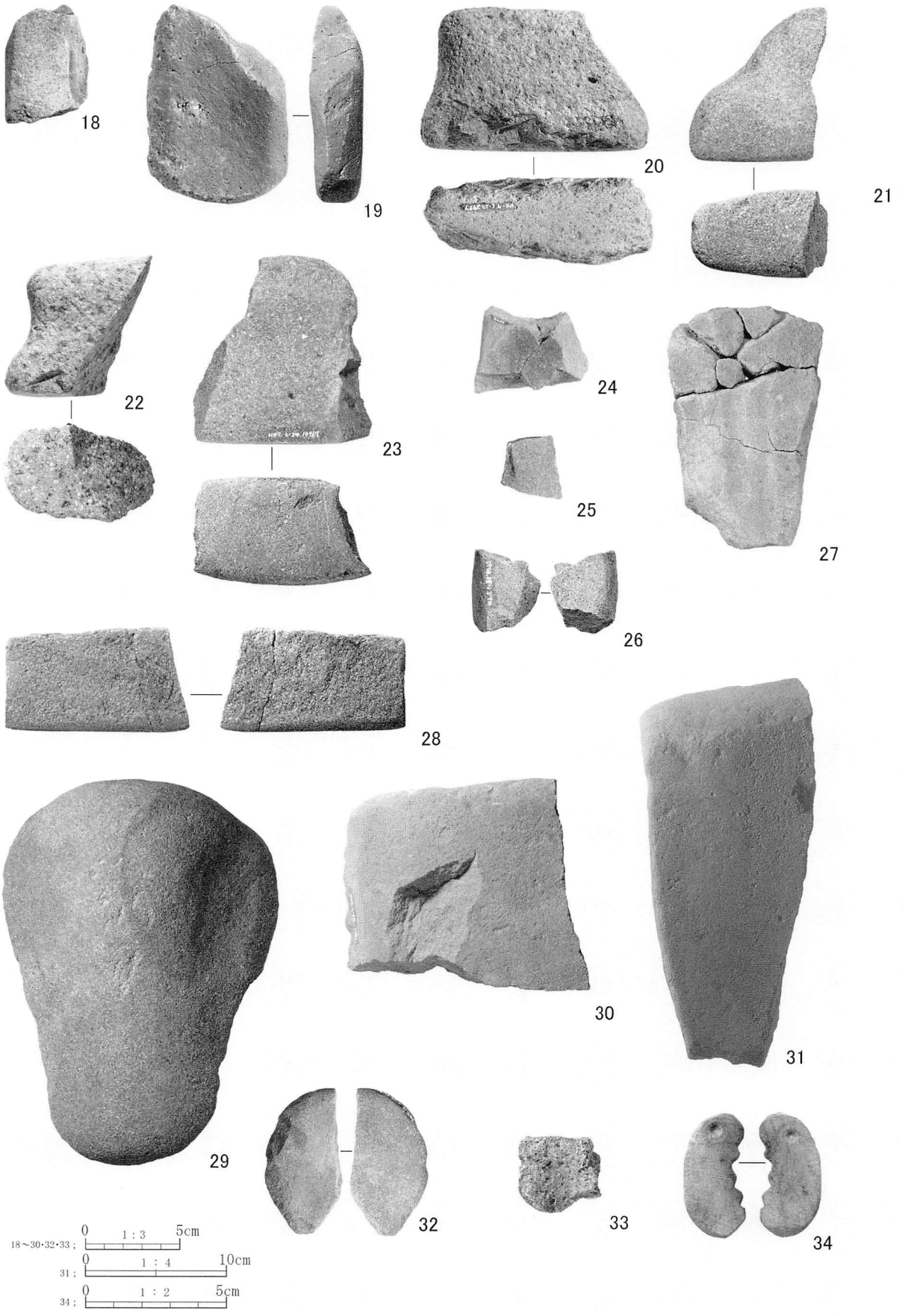
1. 縄文時代包含層出土剥片石器(2)

図版 34



1. 縄文時代包含層出土礫石器(1)

図版 35



1. 縄文時代包含層出土礫石器(2)・石製品

第4部

自然科学的分析

第Ⅰ章　理化学的分析

第1節　厚真町厚幌１遺跡・幌内７遺跡出土資料の放射性炭素年代測定

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

測定対象試料は、北海道厚真町導水路遺跡発掘事業に係る幌内７遺跡と厚幌１遺跡から出土した試料５点である。その内容は、幌内７遺跡のⅢH-01.HF01・ⅢbU 層から出土した炭化物（導水路１：IAAA-81998）、ⅢH-01.HF02・ⅢbU 層から出土した炭化種子（導水路２：IAAA-81999）、ⅢAS-02・ⅢbU 層から出土した炭化種子（導水路３：IAAA-82000）、ⅢF-07・ⅢbL 層から出土した炭化物（導水路４：IAAA-82001）、厚幌１遺跡のVH-03・VbL 層から出土した炭化物（導水路５：IAAA-82002）である。炭化種子はすべてクルミと同定される。

２　測定の意義

遺構・共伴遺物の年代を明らかにする。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

（２）酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

（３）試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で２時間加熱する。

（４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

（５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

（６）グラファイトを内径１mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

４　測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。

（２）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、$\delta^{13}C$ によって補正された値である。^{14}C 年代と誤差は、１桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±1σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

（３）$\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}C/^{12}C$ を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

（４）pMC （percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。

（５）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは２標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv4.0 較正プログラム（Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

６　測定結果

^{14}C 年代は、幌内７遺跡ではⅢH-01.HF01・ⅢbU 層の炭化物が 670±30yrBP、ⅢH-01.HF02・ⅢbU 層の炭化種子が 590±30yrBP、ⅢAS-02・ⅢbU 層の炭化種子が 710±30yrBP、ⅢF-07・ⅢbL 層の炭化物が 960±30yrBP である。厚幌１遺跡ではVH-03・VbL 層から出土した炭化物が 3850±30yrBP である。

試料の炭素含有率は、すべて 60%以上であり、十分な値であった。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と判断される。炭化物は小片であったこともあり、樹木の最外年輪が確認されず、内側の年輪ほど古い年代となる「古木効果」を考慮する必要がある。炭化種子（クルミ）では、種子の成育年を示すと考えられる。

暦年較正年代（1σ）から判断すれば、導水路１～３が 13 世紀末～14 世紀、導水路４が 11 世紀～12 世紀後半、導水路５が縄文時代後期前葉に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と判断される。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-81998	導水路 1	幌内 7 遺跡 ⅢH-01.HF01 ⅢbU	炭化物	AAA	**-25.68 ± 0.37**	**670 ± 30**	**92.03 ± 0.33**
IAAA-81999	導水路 2	幌内 7 遺跡 ⅢH-01.HF02 ⅢbU	炭化種子	AAA	**-26.21 ± 0.30**	**590 ± 30**	**92.88 ± 0.33**
IAAA-82000	導水路 3	幌内 7 遺跡 ⅢAS-02 ⅢbU	炭化種子	AAA	**-27.71 ± 0.34**	**710 ± 30**	**91.52 ± 0.32**
IAAA-82001	導水路 4	幌内 7 遺跡 ⅢF-07 ⅢbL	炭化物	AAA	**-21.99 ± 0.46**	**960 ± 30**	**88.75 ± 0.34**
IAAA-82002	導水路 5	厚幌 1 遺跡 ⅤH-03 ⅤbL	炭化物	AAA	**-26.89 ± 0.45**	**3,850 ± 30**	**61.89 ± 0.26**

[#2577-2578]

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-81998	680 ± 30	91.90 ± 0.32	667 ± 28	1283AD - 1305AD (37.1%) 1365AD - 1384AD (31.1%)	1276AD - 1320AD (51.1%) 1350AD - 1391AD (44.3%)
IAAA-81999	610 ± 30	92.65 ± 0.32	593 ± 28	1313AD - 1358AD (53.3%) 1388AD - 1401AD (14.9%)	1299AD - 1370AD (69.5%) 1380AD - 1411AD (25.9%)
IAAA-82000	760 ± 30	91.01 ± 0.31	711 ± 28	1270AD - 1292AD (68.2%)	1256AD - 1305AD (86.4%) 1364AD - 1385AD (9.0%)
IAAA-82001	910 ± 30	89.30 ± 0.33	958 ± 30	1025AD - 1049AD (22.3%) 1085AD - 1123AD (34.6%) 1138AD - 1151AD (11.3%)	1021AD - 1155AD (95.4%)
IAAA-82002	3,890 ± 30	61.65 ± 0.25	3,854 ± 33	2452BC - 2446BC (2.1%) 2437BC - 2420BC (6.6%) 2405BC - 2378BC (11.9%) 2350BC - 2281BC (37.8%) 2249BC - 2231BC (7.6%) 2219BC - 2213BC (2.1%)	2462BC - 2271BC (78.3%) 2259BC - 2206BC (17.1%)

[参考値]

参考文献

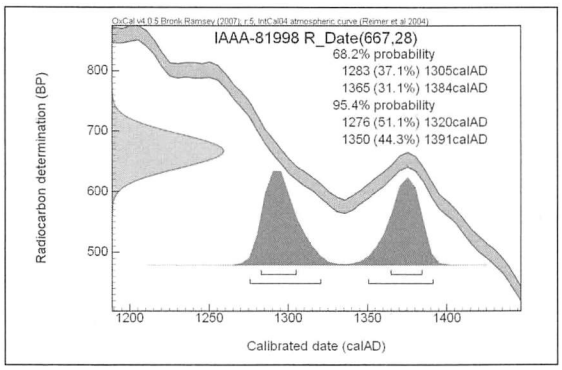
Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

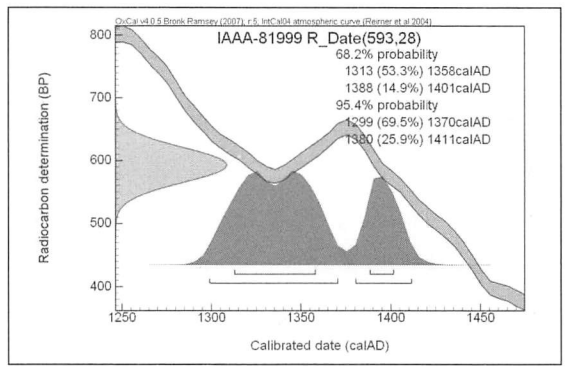
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425-430

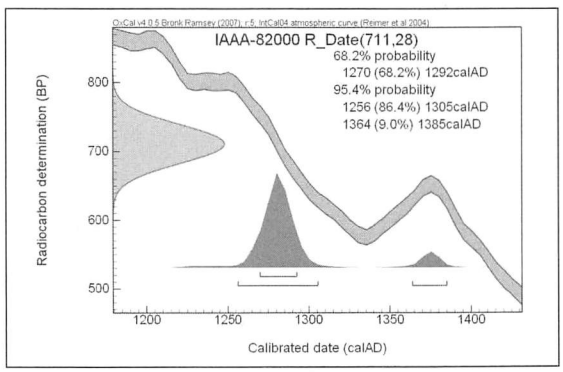
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 (2A), 355-363

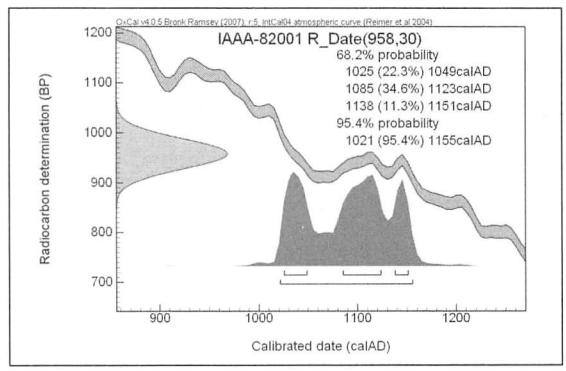
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2A), 381-389

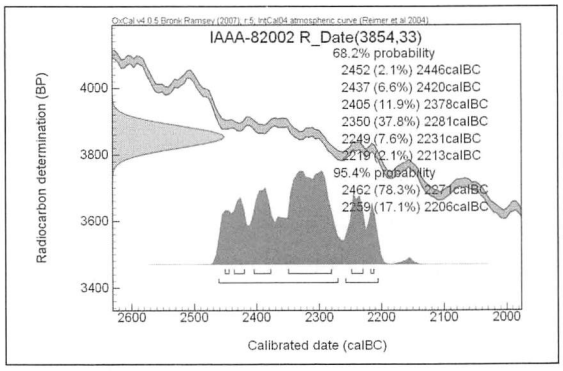
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058











[参考]暦年較正年代グラフ

第Ⅱ章　動植物遺存体同定

第1節　北海道勇払郡厚真町厚幌導水路事業調査遺跡出土の動物遺存体

高橋　理／千歳市埋蔵文化財センター

はじめに

厚幌導水路建設に伴う平成20年度事前調査として厚幌１遺跡、幌内７遺跡が厚真町教育委員会によって発掘調査が行われた。

筆者に分析の機会を与えられた厚真町教育委員会各位に御礼申し上げます。

出土動物

出土した中世アイヌ文化期の動物はシカを主体とし、哺乳類ではネズミ類が加わる。貝類では陸産貝類マイマイ類（？）、魚類のコイ科（ウグイ）、サケ科、サケ属魚類もみられる。

ハンドピックとフローテーションによって時期、遺構ごとの遺物を表１・２に示している。保存状態不良で回収不能であると担当者が判断したものについては、骨の種類や位置、写真のみの記録をとった後に破棄している。

それらは次のように分類、整理される。

条鰭綱　Actinopterygii
　サケ目 Salmoniformes
　　サケ科 Salmonidae
　　サケ属 *Oncorhynchus*
　コイ目 Cypriniformes
　　コイ科 Cyprinidae
　　ウグイ *Tribolodon hakonensis*

哺乳綱 Mammalia
　ネズミ目（齧歯目） Rodentia
　　ネズミ科 Muridae
　クジラ偶蹄目 Cetartiodactyla
　　シカ科 Cervidae
　　ニホンジカ *Cervus nippon*

厚幌１遺跡

厚幌１遺跡では縄文時代前期前葉の土坑墓が１基確認されており、１号土坑墓からサケ属やシカがフローテーション法によって回収された。

幌内７遺跡

ⅢAS-02

ⅢbU 層で検出された中世アイヌ文化期の遺構である。シカが主体となった。ほかにサケ属が少量含まれる。

ⅢBB-01

獣骨集中１で、確認面はⅢc 層であるがⅢb 層起源の黒色土から出土することからアイヌ文化期の遺構と判断されている。やはり主体はシカであった。上顎、下顎歯から２歳から３歳前後の個体が遺跡に持ち込まれていたらしい（大泰司 1980）。

幌内７遺跡では、ほかにアイヌ文化期の平地式住居跡ⅢH-01の炉や屋外炉の焼土から、やはりサケ属やシカが検出されている。擦文文化期や続縄文文化期の炉跡も認められ、コイ科魚類や種不明の哺乳類が少量検出された。この時期の活動にはさほどの隆盛は看取できない。

引用文献

大泰司紀之 1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡時期査定法」『考古学と自然科学』 13, pp. 51-73

表1. 幌内7遺跡 ハンドピック法 動物遺存体同定一覧表

遺 構

時期 遺構種別	遺構名	層位	委託No.	出土動物	部位	LR	数量	備考
中世アイヌ文化期 灰集中	第2号 灰集中 ⅢAS-02	ⅢbU	5	哺乳綱	長管骨	?	1	
			7	哺乳綱	部位不明	-	1	被熱
			8	不明	部位不明	-	1	
			9	哺乳綱	長管骨	-	1	
			10	哺乳綱	長管骨	-	1	
			11	不明	部位不明	-	1	
			12	不明	部位不明	-	1	
			13	シカ	基節骨？	-	1	
			14	哺乳綱	部位不明	-	1	
			15	哺乳綱	部位不明	-	1	
			16	シカ	基節骨	-	1	底側切除？
			18	哺乳綱	長管骨	-	1	
			19	シカ	歯 歯冠破片	-	1	
			20	シカ	歯 歯冠破片	-	1	
			21	シカ	歯 歯冠破片	-	1	
			22	不明	部位不明	-	1	
			23	不明	部位不明	-	1	
			24	哺乳綱	部位不明	-	1	
			25	不明	部位不明	-	1	
			26	シカ	基節骨	-	1	
			27	哺乳綱	部位不明	-	1	
			28	哺乳綱	長管骨	-	1	
			29	シカ	頭蓋骨 上顎先端	-	1	
			30	不明	部位不明	-	1	
			31	哺乳綱	長管骨	-	2	
			32	哺乳綱	部位不明	-	1	
			33	哺乳綱	長管骨	-	1	
			34	哺乳綱	長管骨	-	1	
			35	哺乳綱	長管骨	-	1	
			36	不明	部位不明	-	2	
			37	哺乳綱	部位不明	-	1	37～39は近い場所
			38	哺乳綱	部位不明	-	2	
			39	哺乳綱	部位不明	-	1	
			40	不明	部位不明	-	1	
			41	不明	部位不明	-	1	
			42	不明	部位不明	-	1	
			43	哺乳綱	長管骨	-	1	
			44	不明	部位不明	-	4	
			45	哺乳綱	部位不明	-	1	
			46	哺乳綱	長管骨	-	1	
			47	シカ	脛骨？ 骨幹背側	-	1	
			48	哺乳綱	長管骨	-	1	
			49	哺乳綱	長管骨	-	1	
			50	哺乳綱	長管骨	-	1	
			51	哺乳綱	長管骨	-	1	
			52	哺乳綱	長管骨	-	1	
			53	シカ	基節骨	-	1	背側を金属器で切除
			54	シカ	長管骨 骨幹背側	?	1	骨幹切断痕
			55	哺乳綱	部位不明	-	1	
			56	不明	部位不明	-	1	
			58	哺乳綱	長管骨	-	1	骨幹切断痕
			59	シカ	第二・五指趾 中手・中足骨	-		
			60	不明	部位不明	-	1	
			61	シカ	第二・五指趾 中節骨完形	-	1	
			62	不明	部位不明	-	1	
			63	不明	部位不明	-	1	
			65	不明	部位不明	-	1	
			66	不明	部位不明	-	1	
			67	哺乳綱	部位不明	-	1	
			68	シカ	大腿骨 近位骨幹小転子部	R	1	骨幹切断痕
			69	不明	部位不明	-	2	
			70	哺乳綱	長管骨	-	1	
			71	シカ	基節骨 近位端を欠く	-	1	
			72	不明	部位不明	-	1	
			73	不明	微細片	-	1	
			74	不明	部位不明	-	1	
			75	哺乳綱	長管骨	-	1	
			76	哺乳綱	長管骨	-	1	
			77	シカ	基節骨	-	1	底側・基節骨を金属器により切除
			78	シカ	末節骨 完形	-	1	
			79	シカ	中節骨 完形	-	1	
			80	シカ	第二・五指趾 中手・中足骨	-	1	ほぼ完形
			81	哺乳綱	部位不明	-	3	
			82	哺乳綱	部位不明	-	1	
			93	不明	部位不明	-	1	
			94	不明	部位不明	-	1	
			95	哺乳綱	長管骨	-	1	長く浅いカット1条
			96	哺乳綱	部位不明	-	1	
			97	シカ	第二・五指趾 末節骨完形	-	1	

時期 遺構種別	遺構名	層位	委託No.	出土動物	部位	LR	数量	備考
中世アイヌ文化期 獣骨集中	1号 獣骨集中 ⅢBB-01	Ⅲc	98	不明	部位不明	-	1	
			99	シカ	第二・五指趾 基節骨完形	-	1	
			100	シカ	種子骨 完形	-	1	
			104	哺乳綱	部位不明	-	1	
			119	哺乳綱	部位不明	-	1	
			120	不明	部位不明	-	1	
			121	シカ	下顎臼歯 歯冠	-	3	
			122	不明	部位不明	-	2	
			123	不明	部位不明	-	1	
			124	不明	部位不明	-	2	
			125	シカ	上顎臼歯 PM2～M3	R	5	M3萌出完了より2歳1ヶ月以上
			126	シカ	上顎？臼歯	?	5	
			127	シカ	距骨	?	1	やや小型
			128	シカ	距骨	?	1	小型
			129	哺乳綱	部位不明	-	1	
			130	不明	部位不明	-	1	
			131	哺乳綱	部位不明	-	3	
			132	シカ	距骨	R	1	小型個体
			134	哺乳綱	部位不明	-	2	
			135	哺乳綱	長管骨	-	1	
			136	哺乳綱	部位不明	-	2	
			137	不明	部位不明	-	1	
			138	不明	部位不明	-	2	
			139	不明	部位不明	-	3	
			140	不明	部位不明	-	2	
			141	不明	部位不明	-	1	
			142	シカ	下顎骨 PM1～M1	L	1	W.I.M1:4=2.5歳以下
			143	不明	部位不明	-	1	
			144	哺乳綱	長管骨	-	1	
			145	不明	部位不明	-	1	
			146	哺乳綱	部位不明	-	2	
			147	不明	部位不明	-	1	
			148	シカ	上腕骨 遠位端	L	1	骨幹切断痕
			149	哺乳綱	部位不明	-	4	
			150	シカ	中足骨 近位端底側	R	1	
			151	哺乳綱	長管骨	-	2	
			152	哺乳綱	部位不明	-	1	
			153	哺乳綱	部位不明	-	1	
			154	シカ	上顎臼歯 M1,M2	R	2	
			155	不明	部位不明	-	2	
			156	不明	部位不明	-	1	

※欠番及び廃棄 14点

包含層

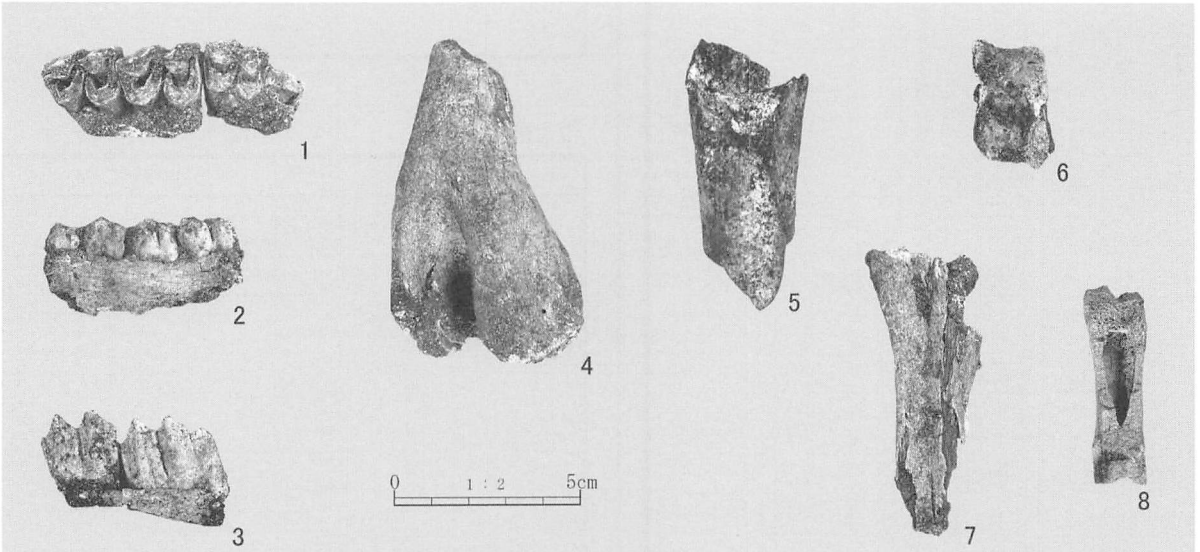
調査区	層位	委託No.	出土動物	部位	LR	数量	備考
J-29	Ⅲbm	118	シカ	臼歯 歯冠破片	-	2	
L-29	Ⅲbu	91	シカ	上顎臼歯 歯冠	-	5	
				下顎臼歯 歯冠破片	-	3	
J-32	ⅢbU	113	シカ	下顎臼歯 M2,M3	R	2	W.I.M2:5,M3:6=3.5歳未満 112と同一個体か
J-31・32	ⅢbU	114	シカ	下顎臼歯 歯冠	-	3	
K-31	ⅢbU	83	シカ	下顎臼歯 歯冠	-	4	
		84			-	1	
		115	哺乳綱	部位不明	-	1	
K-32	Ⅲbu	85	シカ	下顎臼歯 歯冠	-	3	
		90		臼歯 歯冠破片	-	8	
		108		角 角幹分岐部	-	1	109と同一個体分岐
		109			-	1	108と同一個体分岐
		110		角 角幹	-	1	
		112		下顎骨 M1,M2,M3	L	3	W.I.M2:5,M3:6=3.5歳未満
		107	シカ？	角？ 角幹？	-	1	
		111	不明	部位不明	-	1	
	Ⅲbm	117	シカ	臼歯 歯冠破片	-	多数	
L-32	ⅢbU	116	シカ	臼歯 歯冠破片	-	3	
K-33	Ⅲbu	88	シカ	臼歯 歯冠破片	-	1	
		86	哺乳綱	部位不明	-	1	
		87			-	1	
		89			-	1	

表2. 幌内7遺跡・厚幌1遺跡 フローテーション法 動物遺存体同定一覧表

遺跡名	時期 遺構種別	遺構名	層位	FLT No.	出土動物	部位	LR	数量	備考
幌内7遺跡	中世アイヌ文化期 住居跡	1号平地式住居跡 炉跡1 IIIH-01. HF01	IIIbU	32	サケ科	鰓耙	-	1	
				21	サケ属	椎骨 微細片	-	2	
				23	サケ属	椎骨 微細片	-	23	
				32	サケ属	椎骨 微細片	-	2	
				25	サケ科	鰭棘 破片	-	10	
				32	シカ？	歯根	-	1	
		1号平地式住居跡 炉跡2 IIIH-01. HF02	IIIbU	33	魚綱	鰭棘 破片	-	1	
				34	サケ属	椎骨 微細片	-	3	
				-	哺乳綱	部位不明 破片	-	多	
	中世アイヌ文化期 焼土	5号焼土 IIIF-05	IIIbL	35	魚綱	担鰭骨	-	1	
				-	哺乳綱？	部位不明 細片	-	多	灰層
	中世アイヌ文化期 灰集中	2号 灰集中 IIIAS－02	1	56	サケ属	椎骨 微細片	-	1	
			1	54	サケ属	椎骨 微細片	-	8	
			1	55	サケ属	椎骨 微細片	-	2	
			1	54	魚綱	肋骨	-	4	
			1	54	シカ	基節骨 近位端	-	1	金属器により背側切除
			1	57	シカ	臼歯 歯冠破片	-	1	
			1	55	ネズミ類	下顎骨	L	1	
			2	59	マイマイ類？	殻片	-	1	
			2	59	サケ属	椎骨 微細片	-	6	
			2	58	サケ属	椎骨 微細片	-	16	
			2	59	ネズミ類	切歯・臼歯 下顎切歯	-	2	
			2	60	シカ	基節骨 近位端	-	1	金属器により背側切除

遺跡名	時期 遺構種別	遺構名	層位	FLT No.	出土動物	部位	LR	数量	備考
幌内7遺跡	擦文文化期	6号焼土 IIIF－06	IIIbL	36	哺乳綱？	部位不明 細片	-	多	魚類なし
		7号焼土 IIIF－07		37	コイ科	椎骨 微細片	-	5	
				39	魚綱	椎骨 微細片	-	5	
				-	哺乳綱？	部位不明 細片	-	多	
	続縄文文化期	9号焼土 IIIF-09	IIIc	-	哺乳綱？	部位不明 細片	-	多	魚類なし 北大式期
厚幌1遺跡	縄文時代前期	1号 土坑墓 VGP-01	Vc	18	不明	部位不明 微細片	-	1	6層
				19	サケ属	椎骨 微細片	-	5	
				19	シカ	種子骨	-	1	
				19	哺乳綱	部位不明 破片	-	10	微細片

図版 1



1. シカ上顎歯　2. シカ下顎骨1　3. シカ下顎骨2　4. シカ上腕骨　5. シカ大腿骨　6. シカ距骨
7. シカ中足骨　8. シカ基節骨(背側切除)

第2節　北海道勇払郡厚真町厚幌導水路事業調査遺跡出土の炭化種子

1. 厚幌1遺跡出土の植物種子について

札幌国際大学博物館　客員研究員　椿　坂　恭　代

1. 遺跡の概要

厚幌１遺跡は，幌内地区よりさらに山間部へ約3.6kmの厚真川上流域に所在し、厚真川とキウキチ沢の合流点に位置する。

本遺跡は平成14・15年に調査が行われている。今年度は厚真川により近い1,098㎡の発掘調査が行われ、擦文文化期の焼土１ヶ所、縄文時代の竪穴式住居跡１軒、焼土３ヶ所、Ｔピット８基が検出されている。その他の詳細については本文を参照されたい。

2. 扱った資料

扱った資料は、平成20年度に調査を実施した縄文時代の竪穴式住居跡、焼土、土坑墓からと擦文文化期～続縄文文化期の焼土から採取した土壌をフローテーション法で処理し、その後、第１次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。これらの資料を実体顕微鏡で観察し撮影を行なった。検出された植物種子の出土表は第１表に示しておく。

3. 検出された資料

検出された種子は，擦文文化期～続縄文文化期の焼土からブドウ科、ニワトコ属、タラノキ属の３種類と縄文時代前期前葉の１号土坑墓からクルミ属の内果皮が少量得られただけである。これらの資料については図版１に示しておく。

その他に不明２と扱った資料は保存状態が極めて悪いため同定できなかったものである。

4. 若干のコメント

今回、回収された炭化物のほとんどが炭化材で、植物種子の検出は極めて微量であった。調査担当者によると本遺跡の遺構は少なかった事、そして近現代の道路付け替えによる撹乱を受けており、遺跡全体の状態は良くなかったという。

縄文時代の各時期から検出された資料を検討すると、遺跡により炭化植物の出土量に隔たりがあり、その原因は不明である。今後も縄文時代の土壌サンプリングについていろいろな立場から検討していくことが必要であろう。

２. 幌内7遺跡出土の植物種子について

札幌国際大学博物館　客員研究員　　椿　坂　恭　代

１．遺跡の所在と性格

遺跡の名称　：幌内７遺跡（J-13-103）
所　在　地　：北海道勇払郡厚真町字幌内
発掘調査期間　：平成20年7月16日　～　同年10月31日
発掘調査面積　：952㎡
調査担当者　：奈良智法　乾　哲也
遺跡の立地　：幌内７遺跡は、幌内地区の厚真川左岸、標高約56mの河岸段丘上に位置する。
検出遺構　：中世アイヌ文化期の平地式住居跡１軒、建物跡３軒、焼土２ヶ所、灰集中１ヶ所、獣骨集中１ヶ所、集石１ヶ所、道跡１条。擦文文化期の土坑２基、焼土３ヶ所、土器集中６ヶ所、礫集中２ヶ所。続縄文文化期（北大式期）の焼土３ヶ所、土器集中２ヶ所、フレイク・チップ集中２ヶ所。縄文時代の土坑８基、焼土４ヶ所、Ｔピット１基。その他の詳細については本編を参照されたい。

２．扱った資料

分析対象として扱った資料は、中世アイヌ文化期、擦文文化期，続縄文文化期、縄文時代の各遺構から土壌を採取し、フローテーション処理を行い、その後、第１次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子の出土表は第１表に示しておく。

３．各時期から検出された植物種子

ヒエ属 ***Echinochloa*** **Beauv.**（図版１-1a：１号平地住居跡の炉跡１から出土）

中世アイヌ文化期の１号平地式住居跡の炉跡１・２（ⅢH-01.HF01･02）からと３号焼土（ⅢF-03）から合わせて７粒出土。穎果は広楕円形.背面には果長の2/3ほどを占める楕円形の大きな胚がある。その反対側の腹面にはヘラ型状のヘソがある（1993　椿坂）。出土資料は13aに示すようにすべて内・外穎のとれた状態で、栽培型ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabunoとして分類される。計測値はL2.00×W1.70×T1.00（mm）

キビ ***Panicum miliaceum*** **L.**（図版１-2a：１号平地式住居跡の炉跡１から出土）

中世アイヌ文化期の１号平地式住居跡の炉跡１（ⅢH-01.HF01）、３号焼土（ⅢF-03）、灰集中２（ⅢAS-02）からと擦文文化期の７号焼土（ⅢF-07）から合わせて15粒出土。穎果はやや球形または広卵形。背面には果長の1/2ほどの胚があり、その反対側の腹面にはヘラ型状のヘソがある（1993　椿坂）。出土種子は2aに示すようにすべて内・外穎のとれた穎果の状態で出土。計測値はL1.90×W1.70×T1.30（mm）

コムギ ***Triticum aestivum*** **L.**（図版１-3a：３号焼土から出土）

中世アイヌ文化期の３号焼土（ⅢF-03）から１粒出土。果実は短楕円形。腹面には縦溝があり、

背面はほぼ平らで基部にはやや円形の胚がある。出土したコムギは保存状態が悪いので詳細な分類は困難である。計測値はL3.20×W2.35（mm）

マメ科 LEGUMINOSAE（図版１-4a：３号焼土から出土）

中世アイヌ文化期と擦文文化期の遺構から出土。種子は扁平卵形で腹面の下部近くに円形の小さなヘソがある。このような特徴からハギ属 *Lespedeza* Michx.に分類される。ハギ属は形態の類似した種類が多いので詳細な分類は困難である。計測値はL2.10×W2.50×T1.30（mm）

タデ科 POLYGONACEAE（図版１-５：１号平地式住居跡）の炉跡１から出土）

中世アイヌ文化期から出土。痩果は三角状紡錘形。この特徴からタデ属 *Polygonum* L.に分類される。タデ属は形態の類似した種類が多いため詳細な分類は困難である。計測値はL2.10×W1.45（mm）

ニワトコ属 *Sambucus* L.（図版１-6a：３号焼土から出土）

中世アイヌ文化期と擦文～続縄文文化期の遺構から出土。種子は狭楕円形。背面は丸みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L.と判断される。だだし、日本では本州北部から北海道の林中にエゾニワトコ *S. buergeriana* var. *miquelii*（Nakai）Haraが分布するという。計測値はL2.00×W1.05×T0.60（mm）

マタタビ属 *Actinidia* Lindl.（図版１-７：１号平地式住居跡の炉跡２から出土）

中世アイヌ文化期の遺構から出土。種子は長楕円形。種皮には凹点による網目模様がある。この仲間にはマタタビ *Actinidia polygama* Planch. et Maxim.とサルナシ *Actinidia arguta* Planch.があるが、両者の種子は形態と表面組織が極めて良く似ているため分類は困難である。粒形の特徴からはサルナシ *Actinidia argutaPlanch.* であろう。計測値はL2.20×W1.40×T0.90（mm）

キイチゴ属 *Rubus* L.（図版１-８：灰集中２の１層から出土）

中世アイヌ文化期の遺構から出土。種子は半横広卵形。種子の全面に大きな網状の凹凸がある。キイチゴ属は形態と種子表面の構造の類似したものが多いので種までの分類は困難である。計測値はL2.00×W1.30×T1.00（mm）

キハダ属 *Phellodendron* Rupr.（図版１-9a,9b：１号平地住居の炉跡1から出土）

中世アイヌ文化期、擦文文化期から出土。果実は球形で中に５の小核があり、各１個の種子を含む。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr.と判断される。9aの計測値はL6.10×W6.00（mm），9b：L3.70×W2.30×T1.40（mm）

ブドウ科 VITIDACEAE（図版１-10a：灰集中２の１層から出土）

中世アイヌ文化期、擦文文化期、擦文～続縄文文化期の遺構から出土。堅果は広倒卵形、背面は円みがあり倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなし、稜の両側に針形の凹みがある。形態の類似した種子にエビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. lobataがあるが、その分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliatであろう。
計測値はL4.00×W3.10×T2.50（mm）

クマシデ属 *Carpinus* L.（図版１-11：灰集中２の２層から出土）

中世アイヌ文化期の遺構から出土。果実はやや扁平な卵状楕円形でクマシデ属の特徴を示す。北海道ではサワシバ *Carpinus cordata* Blume、アカシデ *Carpinus laxiflora*（Sieb. et Zucc.）Blume.

が分布するが、形態は窮めて類似しており、種までの分類は困難である。計測値はL3.20×W2.00×T1.75（mm）

バラ科 ROSACEAE（図版１-12：３号焼土から出土）

中世アイヌ文化期の遺構から出土。種子は半広楕円形で嘴状に尖る。バラ科種子の特徴を示すが資料の保存状態が悪いので詳細な分類はできなかった。破片のため計測はしていない。

スモモ属*Prunus salicina* Lindl.（図版１-13a：１号平地式住居跡の炉跡２から出土）

中世アイヌ文化期の遺構から出土。核片はやや扁平。側面に沿ってやや深い縦溝があり、核の面は粗面である。これらの特徴からスモモと判断される。破片のため計測はしていない。

コナラ属 *QUERCUS* L.（図版１-14a：包含層から出土）

縄文時代の包含層（K-23区）から出土。いずれも子葉の破片のため詳細な分類は出来なかった。破片のため計測はしていない。

クルミ属 Juglans L.（図版１-15：灰集中２の１層から出土）

中世アイヌ文化期、縄文時代の遺構から出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maximと判断される。いずれも細片のため計測はしていない。

不明１、菌類？（図版１-16a：３号焼土から出土。17a：灰集中２の２層から出土）

資料16a:中世アイヌ文化期の遺構から出土。手元に比較資料がないので分類が出来なかったもの。計測値はL3.60×W2.50×T2.20（mm）。

資料17a:中世アイヌ文化期の遺構から出土。資料は菌類のようであるが、その実態は不明である。計測値はL6.60×W5.60（mm）

その他に保存状態が窮めて悪いため分類できなかった資料を不明２として扱った。

若干のコメント

まず、中世アイヌ文化期からは栽培植物のヒエ、キビが少数と１粒のコムギが確認された。野生植物は草本のマメ科、タデ科と木本類のニワトコ属、マタタビ属、キイチゴ属、キハダ属、ブドウ科、クマシデ属、バラ科、スモモ属、クルミ属が検出された。次に擦文文化期からは少数のキビとキハダ属が、擦文～続縄文文化期の遺構からニワトコ属、タラノキ属、ブドウ科が検出された。そして、縄文時代からは堅果類のコナラ属とクルミ属が少量出土。いずれも集落の周囲に一般的に認められる草本と木本のもので、可食性あるいは利用可能のものが多い。

今回、各時期の遺構から検出された植物種子は少数であった。その中で最も多かったのはキハダ属の果実である。北海道の遺跡からキハダ属が出土するのは縄文時代早期から中・近世アイヌ文化期まで普遍的に検出されており、縄文時代の最も古い出土例は帯広・八千代Ａ遺跡（1990　山田）、中野Ａ遺跡（1992　吉崎）、中野Ｂ遺跡（1996　吉崎・椿坂）などがある。

キハダの利用については、完熟した果実はそのまま生食、また、乾燥させ貯蔵して食用、薬用などの他に、宗教儀礼上にとって重要な素材であったことが民俗例で知られている（1953　知里）。山田悟郎氏は帯広・八千代Ａ遺跡から出土した堅果類の分析の中でアイヌ民俗例による詳細な利用例を述べているので参照していただきたい。

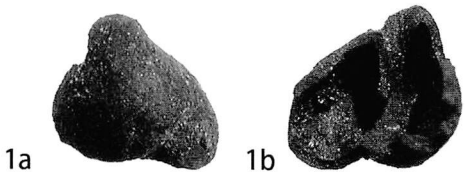
引用文献

椿坂恭代
1993：アワ・ヒエ・キビの同定　吉崎昌一先生還暦記念論集「先史時代と関連科学」261-281
吉崎昌一先生還暦記念　論集刊行会
山田悟郎
1990：八千代遺跡から出土した堅果と果実「帯広・八千代Ａ遺跡」49-57　帯広市埋蔵文化財調査報告　第8冊　帯広市教育委員会
吉崎昌一
1992：中野Ａ遺跡から発掘された縄文時代早期の炭化植物種子「函館市中野Ａ遺跡」269-274
北埋調報79　財団法人 北海道埋蔵文化財センター
吉崎昌一・椿坂恭代
1992・1993：北海道・中野Ｂ遺跡から検出された縄文時代早期の植物種子「函館市中野Ｂ遺跡」304-313
北埋調報97　財団法人 北海道埋蔵文化財センター
知里真志保
1953：「分類アイヌ語辞典」第1巻 植物篇 日本常民文化研究所 彙報第64 日本常民文化研究所刊

第1表　炭化種子一覧表

遺跡名	委託No.	遺構名/グリッド	層位	推定年代	ヒエ属	キビ	コムギ	タデ科	マメ科	キハダ属				ブドウ科		キイチゴ属	マタタビ属	ニワトコ属	タラノキ属	クマシデ属	バラ科	スモモ属	コナラ属	クルミ属	不明堅果	不明1	不明2	不明菌類
					粒	粒	粒	粒	粒	果実(片)	(g)	種子(粒)	(片)	粒	片	粒	粒	粒	粒	粒	片	片	片	g	片	粒	片	片
厚幌1遺跡 08	1	VH-03	VbL	縄文時代後期初頭																							1	
	2	VH-03 HF01	4層	縄文時代後期初頭																							8	
	3	ⅢF-08	Ⅲc	擦文～続縄文											1			1	1								11	
	4	VF-18	Vc	縄文時代																							1	
	5	VGP-01	Vc	縄文時代前期前葉																							2	
	6	VGP-01	Vc																					0.049	2		3	
幌内7遺跡 08	7	ⅢH-01.HF01	ⅢbU	中世アイヌ文化期	3	11		3	1	7	0.232	10	12		6			1				11					9	
	8	ⅢH-01.HF02	ⅢbU	中世アイヌ文化期	2					4	0.300	8	14		2		1					4				1		1
	9	ⅢF-03	ⅢbU	中世アイヌ文化期	2	1	1	1	6						1			38			4			0.098		2	16	
	10	ⅢF-05	ⅢbL	中世アイヌ文化期																								2
	11	ⅢF-06	ⅢbL	擦文文化期											1												2	
	12	ⅢF-07	ⅢbL	擦文文化期		2			1			1															8	
	13	ⅢF-09	Ⅲc	続縄文化期																						2		
	14	ⅢKP-23	Ⅲ	中世アイヌ文化期					2																		5	
	15	ⅢKP-25	Ⅲ	中世アイヌ文化期						1																		
	16	ⅢAS-02	1層	中世アイヌ文化期		1		1						1	2	1		1						4.098			23	
	17	ⅢAS-02	2層									1			4			1		1	2			0.370		4	13	1
	18	ⅢH-01.HF01	1層	中世アイヌ文化期						1																		
	19									1																		
	20									1																		
	21									1																		
	22	ⅢH-01.HF02	1層	中世アイヌ文化期																							1	
	23									1			2															
	24												4								1							
	25									1																		
	26									2																		
	27									1			2															
	28																					9						
	29									1																		
	30									1																		
	31									1																		
	32																					1						
	33	ⅢH-01	ⅢbU	中世アイヌ文化期																							5	
	34																					2						
	35																										6	
	36	K-31区	ⅢbU	中世アイヌ文化期																							1	
	37	J-24区	Va	縄文時代																				0.009				
	38	K-24区	VbL	縄文時代																				0.066				
	39	K-23区	VbU	縄文時代																			1					

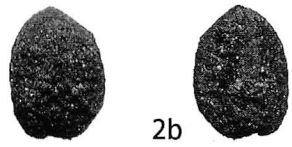
図版 1　厚幌1遺跡



1a　1b

ブドウ科　　内面

擦文～続縄文の8号焼土から出土



2a　2b

ニワトコ属背面　　腹面

擦文～続縄文の8号焼土から出土

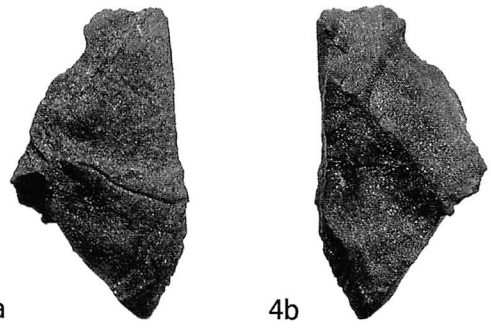
L1.80×W1.30×T0.70(mm)

3

タラノキ属

擦文～続縄文の8号焼土から出土

L1.60×W1.00×T0.60(mm)



4a　4b

クルミ内果皮片　　内面

縄文時代前期前葉の1号土坑墓から出土

図版２　幌内7遺跡

1a
1b
1c
2a
2b
2c
ヒエ属背面
腹面
側面
キビ背面
腹面
側面
3a
3b
4a
4b
5
6a
6b
コムギ?背面
腹面
マメ科腹面
側面
タデ科
ニワトコ属背面
腹面
7
8
9a
9b
10a
10b
マタタビ属
キイチゴ属
キハダ属果実
キハダ属種子
ブドウ科背面
腹面
11
12
13a
13b
14a
14b
クマシデ属
バラ科
スモモ核片
内面
コナラ属子葉
内面
15
16a
16b
17a
17b
クルミ属内果皮片
不明1
側面
菌類?
内面

引用・参考文献

赤石慎三　1986　「道央部における縄文晩期後半の土器群について」『郷土の研究５』苫小牧郷土文化研究会

阿寒町教育委員会　1963　『北海道阿寒町布伏内シュンクシタカラ遺跡発掘調査報告書』

旭川市教育委員会　1991　『末広７遺跡』

厚真町　1986　『厚真町史』

厚真町　1998　『増補　厚真町史』

厚真町教育委員会　2002a　『鯉沼２遺跡』

厚真町教育委員会　2002b　『豊川１遺跡』

厚真町教育委員会　2004　『厚幌１遺跡』

厚真町教育委員会　2005　『鯉沼３遺跡』

厚真町教育委員会　2006a　『上幌内モイ遺跡（1)』

厚真町教育委員会　2006b　『鯉沼３遺跡（2)』

厚真町教育委員会　2007a　『上幌内モイ遺跡（2)』

厚真町教育委員会　2007b　『鯉沼３遺跡（3)』

厚真町教育委員会　2009a　『上幌内モイ遺跡（3)』

厚真町教育委員会　2009b　『ニタップナイ遺跡（1)』

厚真町幌内自治会　1997　『開基百年 幌内のあゆみ』

厚真村　1956　『厚真村史』

厚真村郷土研究会　1956　『厚真村古代史』

石狩町教育委員会　1975　『Ｗａｋｋａｏｉ－石狩・八幡町遺跡ワッカオイ地点調査報告書－』

出穂雅実　2006　「第Ⅲ章第２節 ジオアーケオロジー」『上幌内モイ遺跡（1)』厚真町教育委員会

井上　巌　2006　「第Ⅳ章第４節 上幌内モイ遺跡出土土器の胎土分析」『上幌内モイ遺跡（1)』厚真町教育委員会

恵庭市教育委員会　1997　『茂漁５遺跡』

大泉博嗣　1987　「第２章第２節 遺構の分類」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』苫小牧市教育委員会

小疇 尚・小野有五 他　2003　『日本の地形２　北海道』東京大学出版会

上野秀一　1974　「第３節 土器群について」『Ｎ126 遺跡』札幌市教育委員会

音別町教育委員会　1984　『ノトロ岬』

亀井喜久太郎　1956　「厚真出土の土偶」『先史時代３』　先史学同好会

北見市教育委員会　1978　『北見市中ノ島遺跡発掘調査報告書』

北見市教育委員会　1986　『中ノ島遺跡Ⅱ』

合地信生　2009　「第Ⅶ章第９節 厚真町上幌内モイ遺跡出土縄文土器の胎土分析」『上幌内モイ遺跡（3)』厚真町教育委員会

静内町教育委員会　1985　『静内町清水丘における考古学的調査』

早田 勉　2006　「第Ⅳ章第１節 上幌内モイ遺跡後期更新統の層序とテフラ」『上幌内モイ遺跡（1)』厚真町教育委員会

高橋 理　2004　「第Ⅴ章第２節　北海道勇払郡厚幌１遺跡の動物遺存体」『厚幌１遺跡』厚真町教育委員会

田近 淳・大津 直・八幡正弘　2004　「第Ⅴ章第５節 厚幌１遺跡の地すべり堆積物」『厚幌１遺跡』厚真町教育委員会

千歳市教育委員会　1986　『梅川３遺跡における考古学的調査』

千歳市教育委員会　2002　『梅川４遺跡における考古学的調査』

苫小牧市教育委員会　1996　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』

苫小牧市教育委員会　1987　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』

苫小牧市教育委員会　1990　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』

苫小牧市教育委員会　1993　『美沢 11 遺跡』

苫小牧市教育委員会　2002　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅶ』

三石町教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1988　『ショップ遺跡』

野澤 謙庵　1692　「蝦夷記」『續々群書類從第九』 國書図書刊行会

花岡正光　2004　「第Ⅴ章第４節　厚幌１遺跡の完新世テフラについて」『厚幌１遺跡』厚真町教育委員会

ﾊﾟﾘﾉ･ｻｰｳﾞｪｲ株式会社　2004　「第Ⅴ章第６節 厚幌１遺跡出土の炭化種子放射性炭素年代測定」『厚幌１遺跡』厚真町教育委員会

平取町遺跡調査会　1989　『イルエカシ遺跡』

平取町遺跡調査会　1990　『額平川２遺跡』

平取町教育委員会　1996　『カンカン２遺跡』

平取町教育委員会　1999　『平取町旧平取小学校植物園遺跡』

富良野市教育委員会　1996　『無頭川遺跡Ⅲ』

（財）北海道埋蔵文化財センター　1981　「Ⅲ 社台１遺跡」『社台１遺跡・虎杖浜４遺跡・千歳４遺跡・富岸遺跡』北埋調報１

（財）北海道埋蔵文化財センター　1983　『千歳市ママチ遺跡』北埋調報９

（財）北海道埋蔵文化財センター　1986　『ユオイチャシ跡･ポロモイチャシ跡･二風谷遺跡』北埋調報 26

（財）北海道埋蔵文化財センター　1987　『千歳市ママチ遺跡Ⅲ（本文編）』北埋調報 36

（財）北海道埋蔵文化財センター　1989　『小樽市忍路土場・忍路５遺跡』北埋調報 53

（財）北海道埋蔵文化財センター　1992　『美沢川流域の遺跡群 XV（第１分冊）』　北埋調報 77

（財）北海道埋蔵文化財センター　1997　『美々・美沢－新千歳空港の遺構と遺物－』

（財）北海道埋蔵文化財センター　1998　『千歳市キウス５遺跡（5）　A-2 地区（第２分冊）』北埋調報 125

（財）北海道埋蔵文化財センター　2003　『厚真町浜厚真３遺跡』北埋調報 186

（財）北海道埋蔵文化財センター　2006　『早来町大町２遺跡』北埋調報 228

（財）北海道埋蔵文化財センター　2008　『むかわ町穂別Ｄ遺跡』北埋調報 259

益富 壽之助　1987　『原色岩石図鑑』（全改訂新版）　保育社

松浦武四郎・吉田常吉　1962　『蝦夷日誌 上　東蝦夷日誌』時事通信社

松浦武四郎・秋葉実・高倉信一郎　1985　『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中　北海道出版企画センター

松野久也･石田正夫　1960　『１:50,000 地質図幅説明書　早来』北海道開発庁

蓑島栄紀　2005　「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部･日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究（胆振･日高Ⅰ）』苫小牧駒澤大学環太平洋･アイヌ文化研究所

吉崎昌一･椿坂恭代　2004　「第Ⅴ章第１節　北海道勇払郡厚幌１遺跡の植物種子」『厚幌１遺跡』厚真町教育委員会

報告書抄録

ふりがな	あつまちょう あっぽろ1いせき(1)・ほろない7いせき(1)
書名	厚真町 厚幌1遺跡(1)・ 幌内7遺跡(1)
副書名	国営土地改良事業勇払東部(二期)地区厚幌導水路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	2
編著者名	乾 哲也・奈良智法 ・山田和史
編集機関	厚真町教育委員会
所在地	〒059-1601 勇払郡厚真町京町165番地の1
発行機関	厚真町教育委員会
発行年月日	2010年 3月
ふりがな	あっぽろ1いせき、ほろない7いせき
収録遺跡	厚幌1遺跡、幌内7遺跡
所在地	厚幌1遺跡 : 勇払郡厚真町字幌内487-1
	幌内7遺跡 : 勇払郡厚真町字幌内949-1・7
市町村コード	01581
遺跡番号	厚幌1遺跡 : 25 幌内7遺跡 : 103
北緯	厚幌1遺跡 : 42° 45′ 48″
	幌内7遺跡 : 42° 45′ 6″
東経	厚幌1遺跡 : 148° 59′ 20″
	幌内7遺跡 : 141° 57′ 59″
調査期間	2008 年 5 月 8 日 ～ 2008 年 10 月 31 日
調査面積	厚幌1遺跡 : 1,098㎡ (うち371㎡は工事立会)
	幌内7遺跡 : 952㎡
調査原因	厚幌導水路建設工事
種別	集落跡
主な時代	厚幌1遺跡 擦文文化期、続縄文文化期、縄文時代前期・中期・後期。
	幌内7遺跡 中世アイヌ文化期、擦文文化期、続縄文文化期、縄文時代前期・中期・後期・晩期。
主な遺構	厚幌1遺跡 擦文文化期:焼土1ヶ所。 続縄文文化期:土器集中1ヶ所。縄文時代:竪穴住居跡1軒、住居様遺構1基、焼土3ヶ所、土坑墓1基、Tピット8基、土器集中2ヶ所、フレイクチップ集中2ヶ所。
	幌内7遺跡 アイヌ文化期:中世平地式住居跡1軒、建物跡3軒、焼土2ヶ所、灰集中1ヶ所、礫集中1ヶ所、獣骨集中1ヶ所。擦文文化期:土坑2基、焼土3ヶ所、土器集中6ヶ所、礫集中2ヶ所。続縄文文化期:焼土3ヶ所、土器集中2ヶ所、フレイク・チップ集中2ヶ所。縄文時代:土坑6基、焼土4ヶ所。
主な遺物	厚幌1遺跡 静内中野式・柏木川式・北筒式・余市式土器、石器、剥片類、石製品、礫。
	幌内7遺跡 鉤状鉄製品、内耳鉄鍋片、擦文土器、北大式土器、縄文晩期中葉土器、石器、剥片類、棒状原石、礫。

要約

厚幌1遺跡では縄文時代において床面及びベンチ上に余市式土器を伴う住居跡を検出した。住居跡内には石組炉と先端部にピットが構築され、ベンチ構造をもつ住居形態が当該期に認められることが判明した。また、平成14・15年の発掘調査で確認されていた地すべり堆積物について、縄文時代中期末葉の北筒式期以降の堆積物であることが判明した。幌内7遺跡では中世アイヌ文化期の平地式住居跡と灰集中の関係が挙げられる。住居の炉跡からは灰層が殆ど検出されず、住居北東側にシカの獣骨を多量に伴う灰集中が確認された。炉跡及び灰層を被覆する黒色土はほぼ同じ層厚であり、同時期と考えられる。また、本遺跡からは厚真町で初めてまとまった状態で北大式土器が出土した。

厚真町　厚幌１遺跡（2）・幌内７遺跡（1）
－厚幌導水路建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書２－

発　行　日　　平成22年３月１日
編集・発行　　厚真町教育委員会
〒059-1601　北海道勇払郡厚真町京町165番地の１
TEL 0145-27-2495　　FAX 0145-27-3178
印　　刷　　ひまわり印刷株式会社
北海道苫小牧市永福町２丁目１－２
TEL 0144-74-4500